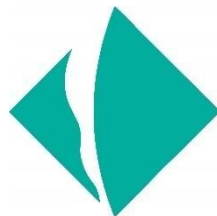


第 1 2 回八千代市市民意識調査

報告書

令和 6 年 3 月



八千代市

はじめに

本市では、まちづくりを進めていく上での総合的な行政運営の指針となる第5次総合計画（基本構想，基本計画，実施計画）を令和3年度からスタートさせ，前期基本計画（令和3年度～6年度）に基づいて諸施策を展開，推進してまいりました。

このたび実施いたしました「第12回八千代市市民意識調査」は，令和7年2月策定予定の後期基本計画（令和7年度～令和10年度）に，市民の皆様のご意見やご要望を反映させていくとともに，日常の行政運営の基礎資料として活用させていただくことを目的に行いました。

本調査は昭和47年から継続的に実施され，今回で第12回目となり，前期基本計画で設定した指標のうち，定性的な満足度調査も併せて行い，市民の皆様の市政に対する貴重なご意見やご提言を伺うことができました。

本報告書は，調査の回答内容，分析結果を収録したものです。本市の将来都市像の実現に向けて，貴重な資料として十分活用を図ってまいります。

最後に，この調査の実施にあたりまして，ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

令和6年3月

八千代市長 服部友則

【目次】

I	調査実施の概要	1
1	調査目的	1
2	調査の概要	1
3	調査内容（市内在住者調査のみ）	2
4	居住地区区分	4
5	回収結果	5
6	報告書の見方	5
7	標本誤差	8
II	調査回答者の属性	11
	【市内在住者調査】	11
1	性別	11
2	年齢	11
3	家族構成	11
4	職業	12
5	住居形態	12
6	居住地	13
	【市外在住市内在勤者調査】	14
1	性別	14
2	年齢	14
3	職業	14
4	居住地	15
5	通勤手段	15
III	単純集計結果	19
	【市内在住者調査 単純集計結果】	19
	【市外在住市内在勤者調査 単純集計結果】	39
IV	調査結果の要約	45
	【市内在住者調査】	45
1	八千代市のイメージについて	45
2	定住意向について	45
3	「地域との関わり合い」について	45
4	「行政サービスの在り方」について	46
5	八千代市が力を入れて取り組むべき施策の分野について	46
6	高齢社会について	46
7	環境問題について	47
8	交通について	47
9	安心で安全なまちづくりについて	47
10	都市基盤の整備について	47

11	情報の提供について.....	48
12	多文化共生について.....	48
13	生涯学習や文化活動，スポーツ活動について.....	48
14	SDGs に関することについて.....	49
15	八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度について.....	49
16	前期基本計画における指標について.....	51
	【市外在住市内在勤者調査】.....	54
1	八千代市のイメージについて.....	54
2	八千代市の魅力について.....	54
3	八千代市が力を入れて取り組むべき施策について.....	54
4	市内の施設等の利用について.....	54
V	調査結果の分析－市内在住者調査－.....	57
1	八千代市のイメージについて.....	57
	（1）市のイメージ.....	57
2	定住意向について.....	59
	（1）市への愛着心.....	59
	（2）居住継続意識.....	61
3	「地域との関わり合い」について.....	67
	（1）自治会への加入状況.....	67
	（2）自治会の必要性.....	71
4	「行政サービスの在り方」について.....	75
	（1）市民と市役所の関係.....	75
	（2）市民参加の条件整備.....	92
5	八千代市が力を入れて取り組むべき施策について.....	94
	（1）市が力を入れて取り組むべき施策の分野.....	94
6	高齢社会について.....	96
	（1）高齢者が安心して暮らしていくために大切なこと.....	96
7	環境問題について.....	98
	（1）関心のある環境問題.....	98
	（2）環境への取組の期待.....	100
8	交通について.....	102
	（1）交通バリアフリーの優先策.....	102
9	安心で安全なまちづくりについて.....	104
	（1）安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこと.....	104
10	都市基盤の整備について.....	106
	（1）取り組むべき都市基盤の整備.....	106
11	情報の提供について.....	108
	（1）市行政情報の入手方法.....	108
	（2）情報施策への希望.....	110

(3) 充実すべき情報提供内容	112
12 多文化共生について.....	114
(1) 多文化共生の施策	114
13 生涯学習や文化活動, スポーツ活動について.....	116
(1) 生涯学習・文化活動, スポーツ活動の有無	116
14 SDGs に関することについて.....	130
(1) SDGs の認知度	130
(2) SDGs の関心度	132
(3) SDGs が推進されるべきだと思うか	134
15 八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度について.....	136
(1) 施策の重要度・満足度	136
(2) 重要度・満足度の属性別比較	144
(3) 重要度と満足度の関係	148
16 前期基本計画における指標について.....	153
《ともに支え合い健やかでいきいきと過ごせるまちづくり》	153
《豊かな心と文化を育むまちづくり》	165
《安心・安全に暮らせるまちづくり》	167
《快適で環境にやさしいまちづくり》	169
《計画の推進のために》	185
17 八千代市の強み・課題や将来像について.....	201
(1) 八千代市(地域)の強み(自慢できるところ)	201
(2) 八千代市(地域)の課題	203
(3) 八千代市(地域)の将来像	205
18 自由回答.....	207
VI 調査結果の分析ー市外在住市内在勤者調査ー.....	211
1 八千代市のイメージについて.....	211
(1) 市のイメージ	211
2 八千代市の魅力について.....	213
(1) 市の魅力	213
(2) 魅力的なまちになるための方向性	215
3 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について.....	217
(1) 八千代市が力を入れて取り組むべき施策	217
4 市内の施設等の利用について.....	220
(1) 市内施設等の利用の有無	220
5 自由回答.....	228
(1) 八千代市の良い, 充実していると感じるところ	228
(2) 八千代市の良くない, 足りないと感じるところ	229

I 調査実施の概要

I 調査実施の概要

1 調査目的

八千代市第5次総合計画後期基本計画の策定にあたり、市民の市政やまちづくりに関する意識・意向を広く把握し、計画に反映させるとともに、今後の市政運営や政策立案の基礎資料とすることを目的として実施したものである。

2 調査の概要

- (1) 調査地域 八千代市内全域
- (2) 調査対象 ①八千代市に在住する満18歳以上の男女（以下、市内在住者調査）
②八千代市外から市内に在勤する満18歳以上の男女（以下、市外在住市内在勤者調査）
- (3) 配布数と調査方法

①市内在住者調査	配布数	3,500人を住民基本台帳から無作為 ^{※1} に抽出し、3,486人を調査対象とした。
	調査方法	郵送・Web併用法（郵送配布－郵送・Web回収）
②市外在住市内在勤者調査	配布数	500人
	調査方法	郵送・Web併用法（企業に持参－郵送・Web回収）

※1：市内在住の18歳以上を対象に層化抽出法により抽出した。層化は性別、年齢別、7地域別で行い、市全体に対する割合に比例するように抽出した（14通が宛先不明のため、返還された。）。

- (4) 調査期間 令和5年9月11日（月） ～ 9月29日（金）

3 調査内容（市内在住者調査のみ）

調査項目		新規項目(○)
1	八千代市のイメージについて	
	（1）市のイメージ	
2	定住意向について	
	（1）市への愛着心	
	（2）居住継続意識	
	（2-1）居住継続の理由	
	（2-2）転居希望の理由	
3	「地域との関わり合い」について	
	（1）自治会への加入状況	
	（1-1）自治会に加入しない理由	
	（2）自治会の必要性	
	（2-1）自治会が必要だと思う理由	
4	「行政サービスの在り方」について	
	（1）市民と市役所の関係	
	（2）市民参加の条件整備	
5	八千代市が力を入れて取り組むべき施策について	
	（1）市が力を入れて取り組むべき施策の分野	
6	高齢社会について	
	（1）高齢者が安心して暮らしていくために、大切なこと	
7	環境問題について	
	（1）関心のある環境問題	
	（2）環境への取組の期待	
8	交通について	
	（1）交通バリアフリーの優先策	
9	安心で安全なまちづくりについて	
	（1）安心で安全なまちづくりを進める上で取り組むべきこと	
10	都市基盤の整備について	○
	（1）市民の生活環境の向上に向けて取り組むべきこと	○
11	情報の提供について	
	（1）市行政情報の入手方法	
	（2）情報施策への希望	
	（3）充実すべき情報提供内容	
12	多文化共生について	
	（1）多文化共生の施策	
13	生涯学習や文化活動，スポーツ活動について	
	（1）生涯学習や文化活動，スポーツ活動の有無	
	（1-1）生涯学習や文化活動，スポーツ活動の場所	
	（1-2）生涯学習・文化活動推進に必要なこと	
	（1-3）スポーツ活動推進に必要なこと	
	（1-4）スポーツ活動の頻度	
	（1-5）生涯学習や文化活動，スポーツ活動を行っていない理由	
14	SDGsに関することについて	○
	（1）SDGsの認知度	○
	（2）SDGsの関心度	○
	（3）SDGsの推進について	○

調査項目		新規項目(○)
15	八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度について	
	(1) 施策の重要度	
	(2) 施策の満足度	
16	前期基本計画における指標について	
	(1) 子育てしやすいまち	
	(2) ボランティア・地域活動の参加状況	
	(3) 高齢者福祉サービスの充実	
	(4) 健康状態	
	(5) 健康診断や人間ドックの受診状況	
	(6) 地域医療体制の整備状況	
	(7) 生涯学習情報の得やすさ	
	(8) 消費生活センター	
	(9) 土地利用について	
	(10) 緑豊かなまち	
	(11) 鉄道の利用しやすさ	
	(12) バスの利用しやすさ	
	(13) 市内・市外間の移動のしやすさ	
	(14) 交通弱者にやさしい交通環境	
	(15) 道路状況	
	(16) まちのきれいさ	
	(17) 行政情報の提供状況	
	(18) 市政に対する意見・要望	
	(19) 多様な生き方・働き方	
	(20) 国際交流・協力	
	(21) 新川周辺の活性化	
	(22) 居住希望	
	(23) 行政経営	
	(24) 公共施設の設備・管理	
17	地域の強み・課題や将来像	
	(1) 八千代市(地域)の強み	○
	(2) 八千代市(地域)の課題	
	(3) 八千代市(地域)の将来像	
18	自由回答	
19	回答者の属性	
	(1) 性別	
	(2) 年齢	
	(3) 家族構成	
	(4) 職業	
	(5) 住居形態	
	(6) 居住地	

4 居住地区区分

市民意識の地域別の特性を把握するため、居住地区の区分を行っている。調査では以下の15地区に分けて、居住地の回答を求めている。

[居住地区区分と該当町丁目・街区]

	居住地区区分	該当町丁目・街区
1	大和田地区	大和田・萱田・萱田町
2	ゆりのき台地区	ゆりのき台1丁目～8丁目
3	大和田新田（A）地区	大和田新田下区等，萱田中学校又は大和田中学校の学区の範囲内にある大和田新田地区
4	大和田新田（B）地区	大和田新田上区等，高津中学校又は東高津中学校の学区の範囲内にある大和田新田地区
5	高津地区	高津・高津東1丁目～4丁目
6	緑が丘地区	緑が丘1丁目～5丁目・緑が丘西1丁目～8丁目
7	八千代台東南地区	八千代台東1丁目～6丁目・八千代台南1丁目～3丁目
8	八千代台西北地区	八千代台西1丁目～10丁目・八千代台北1丁目～17丁目
9	勝田台地区	勝田台1丁目～7丁目・勝田・勝田台南1丁目～3丁目
10	村上地区	村上・村上南1丁目～5丁目・下市場1丁目～2丁目・上高野・勝田台北1丁目～3丁目
11	阿蘇地区	米本・神野・保品・下高野・堀の内
12	睦地区	桑納・麦丸・桑橋・吉橋・島田・神久保・小池・真木野・佐山・平戸・島田台・尾崎・大学町1丁目～6丁目
13	米本団地地区	米本団地1街区～5街区
14	高津団地地区	高津団地1街区～7街区
15	村上団地地区	村上団地1街区～3街区

5 回収結果

(1) 全体

配布数 (人)	有効回収数 (人)	有効回収率 (%)
3,486	1,149 (郵送：941, WEB：208)	33.0

(2) 居住地別

居住地名	配布数 (人)			有効回収数 (人)					有効回収率 (%)
	男性	女性	合計	男性	女性	答えたくない・わからない	無回答	合計	
大和田地区	150	160	310	44	56	1	-	101	32.6
ゆりのき台地区	113	89	202	39	35	4	-	78	38.6
大和田新田(A)地区	153	183	336	42	55	4	-	101	30.1
大和田新田(B)地区	122	120	242	45	32	1	-	78	32.2
高津地区	80	92	172	21	25	1	-	47	27.3
緑が丘地区	155	163	318	54	57	6	-	117	36.8
八千代台東南地区	126	130	256	37	45	1	1	84	32.8
八千代台西北地区	164	185	349	44	73	4	-	121	34.7
勝田台地区	134	149	283	46	60	2	-	108	38.2
村上地区	223	232	455	71	83	7	-	161	35.4
阿蘇地区	45	40	85	7	11	2	-	20	23.5
睦地区	65	63	128	19	21	1	-	41	32.0
米本団地地区	45	46	91	11	10	-	-	21	23.1
高津団地地区	63	72	135	7	13	-	-	20	14.8
村上団地地区	62	62	124	10	17	-	-	27	21.8
無回答				3	3	1	17	24	
合計	1,700	1,786	3,486	500	596	35	18	1,149	33.0

6 報告書の見方

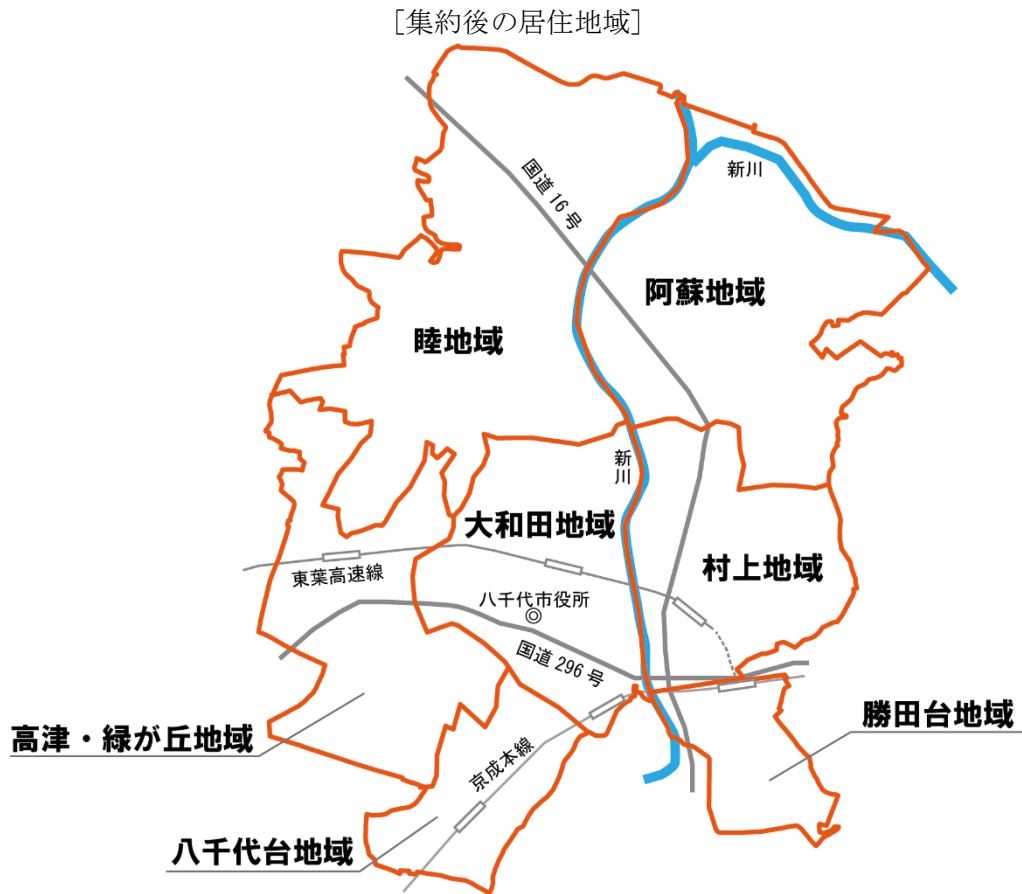
- (1) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示している。従って、表示数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、回答者数全体を100%として算出しているため、複数回答の設問は、各選択肢の比率を合計すると100%を超えることになる。
- (3) 基数となるべき実数は(n)として表示している。各選択肢の回答比率は基数を100%として算出したものである。
- (4) 統計数値を考察するにあたっては、表現をおおむね以下の通りにしている。

例	表現
17.0 ~ 19.9 %	約2割
20.0 ~ 20.9 %	2割

21.0 ～ 22.9 %	2割を超える
23.0 ～ 26.9 %	2割台半ば
27.0 ～ 29.9 %	約3割

- (5) 本文中で百分率の比較をする際には、ポイント（小数点以下第1位を四捨五入している）と表記している。
- (6) 本文中や図表中の選択肢の表記は、場合により語句を短縮・簡略化して表示する場合がある。
- (7) 図表中で、比率が小さい選択肢については、数値の表記を省略している場合がある。
- (8) 集計は、各設問について、単純集計と、回答者の属性（性別や年齢など）別のクロス集計を行っており、設問ごとに属性を選定の上、報告書上にとりあげて示している。
- (9) クロス集計の図表では、側面に示す属性項目（性別や年齢など）に無回答の人は表示していない。
- (10) 居住地域別のクロス集計では、以下のような7地域に集約し、分析の軸としている。

居住地区区分		集約後の居住地域
大和田地区	┌ ├───▶ └	大和田地域
ゆりのき台地区		
大和田新田(A)地区		
大和田新田(B)地区	┌ ├───▶ └	高津・緑が丘地域
高津地区		
緑が丘地区		
高津団地地区		
八千代台東南地区	┌ ├───▶ └	八千代台地域
八千代台西北地区		
勝田台地区	┌───▶	勝田台地域
村上地区	┌ ├───▶ └	村上地域
村上団地地区		
阿蘇地区	┌ ├───▶ └	阿蘇地域
米本団地地区		
睦地区	┌───▶	睦地域



(11) 設問間クロス集計において、分析結果をわかりやすくするため、以下のように集約して分析の軸としている。

i) 市への愛着心別

選択肢名		集約後の選択肢名
愛着がある	→	“愛着がある”
どちらかといえば愛着がある		
どちらかといえば愛着がない	→	“愛着がない”
愛着がない		
わからない	→	わからない

ii) 居住継続意識別

選択肢名		集約後の選択肢名
ずっと住み続けたい	→	“居住継続”
当分の間住み続けたい		
いずれは、市外に住みたい	→	“転居希望”
すぐにでも市外に移りたい		
わからない	→	わからない

7 標本誤差

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数（ n ）、②回答数の比率（ p ）によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団数(八千代市の18歳以上人口)
 n = 比率算出の基数(回答者数)
 p = 回答の比率(%)

今回の調査結果の標本誤差は下記のようなになる。

回答比率(P) n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
1,149	±1.73%	±2.31%	±2.65%	±2.83%	±2.89%
1,000	±1.86%	±2.48%	±2.84%	±3.04%	±3.10%
800	±2.08%	±2.77%	±3.18%	±3.39%	±3.46%
600	±2.40%	±3.20%	±3.67%	±3.92%	±4.00%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%
200	±4.16%	±5.54%	±6.35%	±6.79%	±6.93%
150	±4.80%	±6.40%	±7.33%	±7.84%	±8.00%
100	±5.88%	±7.84%	±8.98%	±9.60%	±9.80%

※ 上表は $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は95%である。

注/この表の見方

標本誤差とは・・・今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査においては、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答数が1,149であり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.83%以内（57.17～62.83%）である」とみることができる。

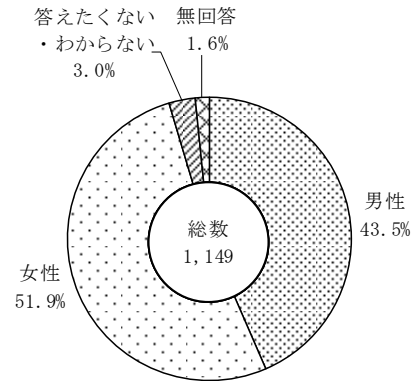
Ⅱ 調査回答者の属性

II 調査回答者の属性

【市内在住者調査】

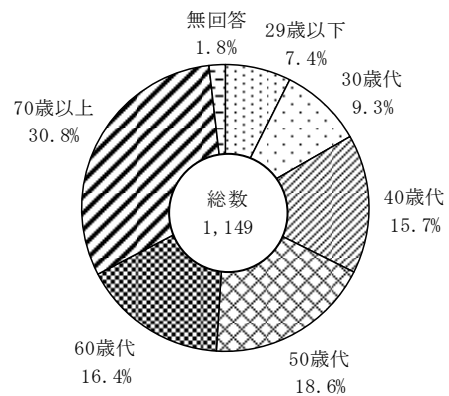
1 性別

項目名	基数	構成比
男性	500	43.5%
女性	596	51.9%
答えたくない・わからない	35	3.0%
無回答	18	1.6%
全体	1,149	100.0



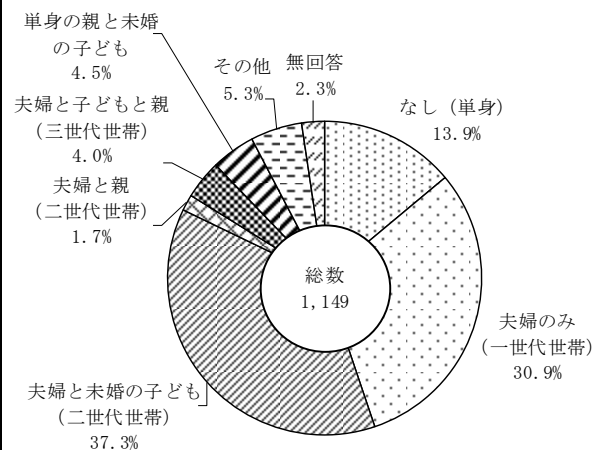
2 年齢

項目名	基数	構成比
29歳以下	85	7.4%
30歳代	107	9.3%
40歳代	180	15.7%
50歳代	214	18.6%
60歳代	188	16.4%
70歳以上	354	30.8%
無回答	21	1.8%
全体	1,149	100.0



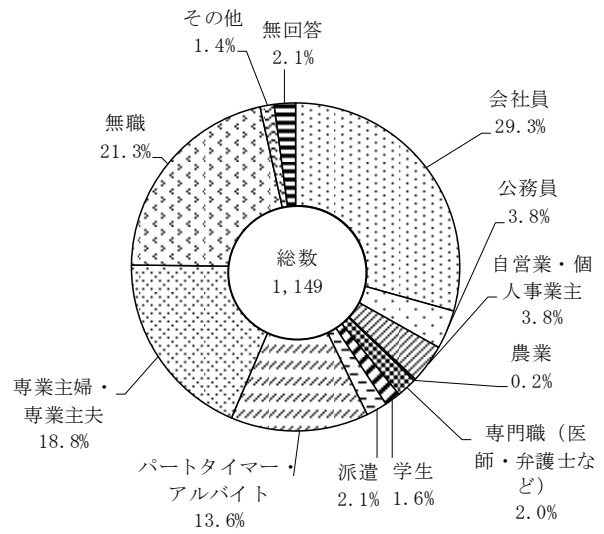
3 家族構成

項目名	基数	構成比
なし(単身)	160	13.9%
夫婦のみ(一世代世帯)	355	30.9%
夫婦と未婚の子ども(二世世代世帯)	429	37.3%
夫婦と親(二世世代世帯)	19	1.7%
夫婦と子どもと親(三世世代世帯)	46	4.0%
単身の親と未婚の子ども	52	4.5%
その他	61	5.3%
無回答	27	2.3%
全体	1,149	100.0



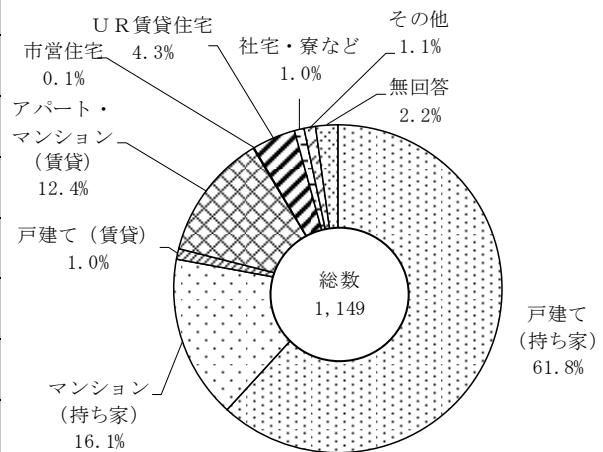
4 職業

項目名	基数	構成比
会社員	337	29.3%
公務員	44	3.8%
自営業・個人事業主	44	3.8%
農業	2	0.2%
専門職(医師・弁護士など)	23	2.0%
学生	18	1.6%
派遣	24	2.1%
パートタイマー・アルバイト	156	13.6%
専業主婦・専業主夫	216	18.8%
無職	245	21.3%
その他	16	1.4%
無回答	24	2.1%
全体	1,149	100.0



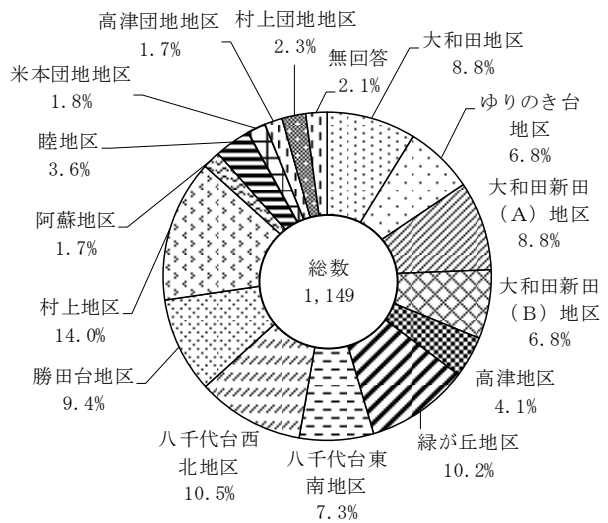
5 住居形態

項目名	基数	構成比
戸建て(持ち家)	710	61.8%
マンション(持ち家)	185	16.1%
戸建て(賃貸)	12	1.0%
アパート・マンション(賃貸)	143	12.4%
市営住宅	1	0.1%
UR賃貸住宅	49	4.3%
社宅・寮など	11	1.0%
その他	13	1.1%
無回答	25	2.2%
全体	1,149	100.0



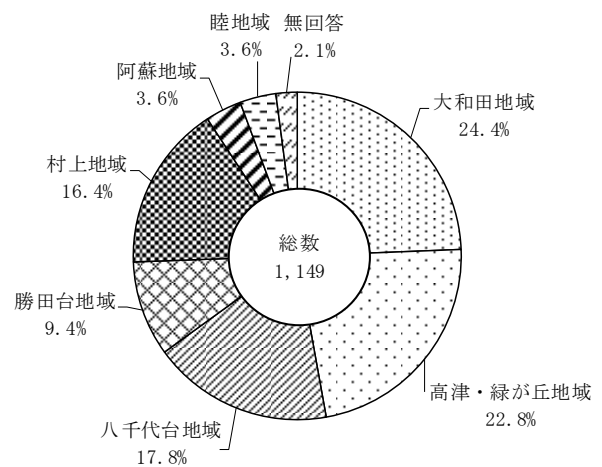
6 居住地

項目名	基数	構成比
大和田地区	101	8.8%
ゆりのき台地区	78	6.8%
大和田新田(A)地区	101	8.8%
大和田新田(B)地区	78	6.8%
高津地区	47	4.1%
緑が丘地区	117	10.2%
八千代台東南地区	84	7.3%
八千代台西北地区	121	10.5%
勝田台地区	108	9.4%
村上地区	161	14.0%
阿蘇地区	20	1.7%
睦地区	41	3.6%
米本団地地区	21	1.8%
高津団地地区	20	1.7%
村上団地地区	27	2.3%
無回答	24	2.1%
全体	1,149	100.0



(集約後の居住地域)

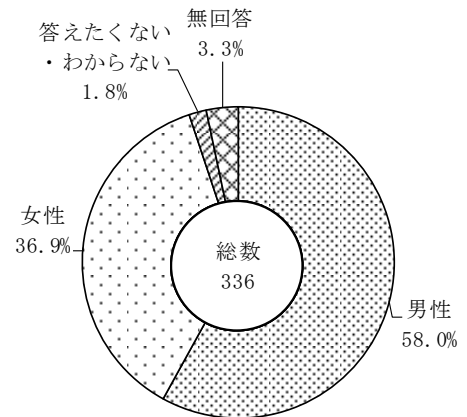
項目名	基数	構成比
大和田地域	280	24.4%
高津・緑が丘地域	262	22.8%
八千代台地域	205	17.8%
勝田台地域	108	9.4%
村上地域	188	16.4%
阿蘇地域	41	3.6%
睦地域	41	3.6%
無回答	24	2.1%
全体	1,149	100.0



【市外在住市内在勤者調査】

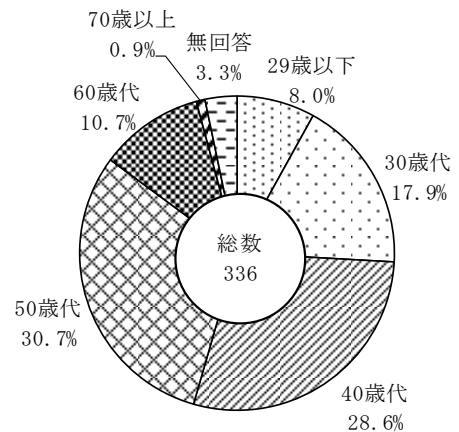
1 性別

項目名	基数	構成比
男性	195	58.0%
女性	124	36.9%
答えたくない・わからない	6	1.8%
無回答	11	3.3%
全体	336	100.0



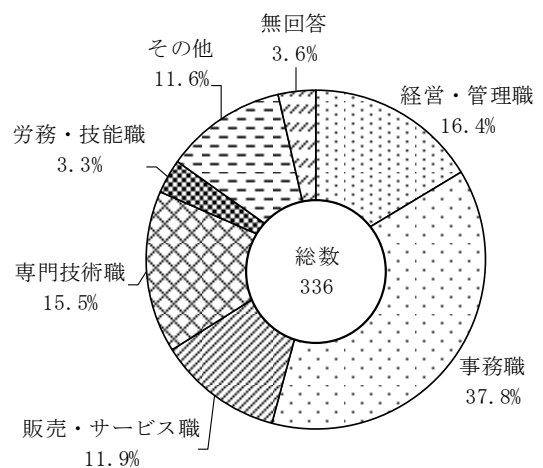
2 年齢

項目名	基数	構成比
29歳以下	27	8.0%
30歳代	60	17.9%
40歳代	96	28.6%
50歳代	103	30.7%
60歳代	36	10.7%
70歳以上	3	0.9%
無回答	11	3.3%
全体	336	100.0



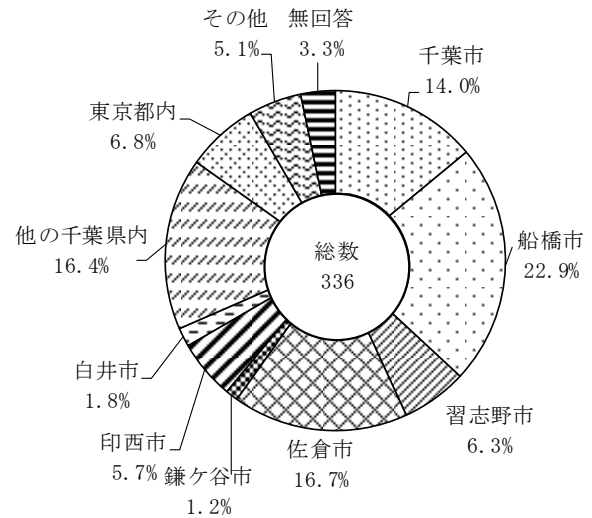
3 職業

項目名	基数	構成比
経営・管理職	55	16.4%
事務職	127	37.8%
販売・サービス職	40	11.9%
専門技術職	52	15.5%
労務・技能職	11	3.3%
その他	39	11.6%
無回答	12	3.6%
全体	336	100.0



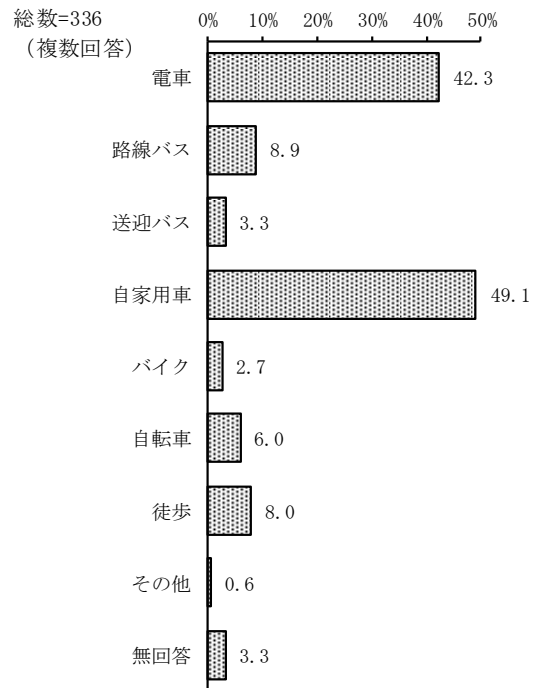
4 居住地

項目名	基数	構成比
千葉市	47	14.0%
船橋市	77	22.9%
習志野市	21	6.3%
佐倉市	56	16.7%
鎌ヶ谷市	4	1.2%
印西市	19	5.7%
白井市	6	1.8%
他の千葉県内	55	16.4%
東京都内	23	6.8%
その他	17	5.1%
無回答	11	3.3%
全体	336	100.0



5 通勤手段

項目名	基数	構成比
電車	142	42.3%
路線バス	30	8.9%
送迎バス	11	3.3%
自家用車	165	49.1%
バイク	9	2.7%
自転車	20	6.0%
徒歩	27	8.0%
その他	2	0.6%
無回答	11	3.3%
全体	336	100.0



※全体数は回答者の総数とし、構成比は回答者数に対する回答数の比率としている。

Ⅲ 单纯集計結果

Ⅲ 単純集計結果

【市内在住者調査 単純集計結果】

八千代市のイメージについてお尋ねします

問1 八千代市にどのようなイメージをお持ちですか。最もあてはまるものをお選びください。
(○は1つ)

1	生活に便利な都市	32.6 %	2	安心して暮らせる都市	25.6 %
3	自然が豊かな都市	25.8 %	4	街並みが美しい都市	0.9 %
5	文化的な都市	0.4 %	6	温もりを感じられる都市	2.6 %
7	活気のある都市	0.2 %	8	市民が活躍している都市	0.6 %
9	その他 ()	8.2 %		(無回答)	3.1 %

定住意向についてお尋ねします

問2 八千代市に愛着を持っていますか。(○は1つ)

1	愛着がある	31.2 %	2	どちらかといえば愛着がある	49.5 %
3	どちらかといえば愛着がない	8.2 %	4	愛着がない	3.3 %
5	わからない	7.3 %		(無回答)	0.5 %

問3 今後も八千代市に住み続けたいとお考えですか。(○は1つ)

1	ずっと住み続けたい	→	(問3-1へ)	43.6 %
2	当分の間住み続けたい	→		37.7 %
3	いずれは、市外に住みたい	→	(問3-2へ)	10.1 %
4	すぐにでも市外に移りたい	→		0.6 %
5	わからない			6.4 %
	(無回答)			1.6 %

(問3で「1 ずっと住みたい」「2 当分の間住みたい」とお答えの方にお尋ねします)

問3-1 住みたいと思う理由を次の中から選んでください。(○は3つまで)

1	通勤・通学に便利だから	27.5 %
2	福祉の施設・制度が充実しているから	2.1 %
3	医療の施設・体制が充実しているから	5.0 %
4	子育て支援の施設・制度が充実しているから	0.5 %
5	公民館, 図書館, 市民会館などの社会教育・文化施設が充実しているから	5.2 %
6	スポーツ・レクリエーション施設が充実しているから	2.0 %
7	道路が十分に整備されているから	1.9 %
8	下水道が十分に整備されているから	3.4 %
9	自然環境が豊かだから	16.8 %
10	長年住み慣れており愛着があるから	38.7 %
11	自分の家・土地があるから	59.2 %
12	教育・文化の程度が高いから	0.2 %
13	買い物など日常生活が便利だから	37.8 %
14	治安が良いから	7.7 %
15	近所との人間関係が良好だから	8.7 %
16	自然災害が比較的少ないから	31.3 %
17	市役所のサービス窓口が充実しているから	0.5 %
18	やりたいことがあるから	1.2 %
19	市内に家族・親族が住んでいるから	12.6 %
20	消防・救急・救助体制が充実しているから	1.0 %
21	その他 ()	1.9 %
	(無回答)	0.4 %

(問3で「3 いずれは、市外に住みたい」「4 すぐにでも市外に移りたい」とお答えの方にお尋ねします)

問3-2 転出したいと思う理由は何ですか。(〇は3つまで)

1	通勤・通学に不便だから	34.1 %
2	福祉の施設・制度が十分ではないから	19.5 %
3	医療の施設・体制が十分ではないから	26.0 %
4	子育て支援の施設・制度が十分ではないから	10.6 %
5	公民館，図書館，市民会館などの社会教育・文化施設が十分ではないから	8.1 %
6	スポーツ・レクリエーション施設が十分ではないから	4.9 %
7	道路の整備が十分ではないから	25.2 %
8	下水道の整備が十分ではないから	5.7 %
9	自然が少ないから	1.6 %
10	将来は故郷に帰りたいから	13.8 %
11	教育・文化の程度が低いから	8.9 %
12	買い物など日常生活に不便だから	23.6 %
13	治安が悪いから	4.9 %
14	近所との人間関係がうまくいっていないから	2.4 %
15	自然災害に弱い地域があるから	1.6 %
16	市役所のサービス窓口が十分でないから	4.9 %
17	やりたいことがないから	11.4 %
18	市外に家族・親族が住んでいるから	19.5 %
19	消防・救急・救助体制が十分でないから	1.6 %
20	その他 ()	20.3 %
	(無回答)	0.0 %

「地域との関わり合い」についてお尋ねします

問4 自治会に加入していますか。(○は1つ)

1 加入している		64.6 %
2 加入していない	—————▶ (問4-1へ)	28.2 %
3 わからない		6.4 %
(無回答)		0.9 %

(問4で「2 加入していない」とお答えの方にお伺いします)

問4-1 自治会に加入しない理由は何ですか。最もあてはまるものをお選びください。

(○は1つ)

1 自治会の必要性を感じないから		11.7 %
2 当番などを負担に感じるから		12.0 %
3 近所付き合いがわずらわしいから		4.3 %
4 自治会費などの金銭的な負担をしたくないから		3.1 %
5 自治会加入のメリットを感じないから		12.0 %
6 自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから		15.7 %
7 地域に関心がないから		0.9 %
8 自分が住んでいるところに自治会がないから		25.3 %
9 その他 ()		12.3 %
(無回答)		2.5 %

問5 自治会はあった方がよいと思いますか。(○は1つ)

1 あった方がよい	—————▶ (問5-1へ)	29.5 %
2 どちらかといえばあった方がよい	—————	32.2 %
3 どちらかといえば必要ない		13.6 %
4 必要ない		8.2 %
5 わからない		14.2 %
(無回答)		2.3 %

(問5で「1 あった方がよい」「2 どちらかといえばあった方がよい」とお答えの方にお尋ねします)

問5-1 なぜ自治会はあった方がよいと思いますか。最もあてはまるものをお選びください。

(○は1つ)

1 地域の親睦・交流に必要だから		26.8 %
2 防犯・防災活動など生命や財産を守るために必要だから		35.5 %
3 環境美化など生活環境の維持・向上のために必要だから		19.5 %
4 地域や市役所などからの文書の回覧ができるから		9.0 %
5 住民が団結して市に陳情や要望を出すことができるから		4.9 %
6 その他 ()		1.1 %
(無回答)		3.1 %

「行政サービスの在り方」についてお尋ねします

問6 次のような仕事について、市民か市役所のどちらが中心になって行うべきだと思いますか。

(○は1つずつ)

(※「市民」には「市民」個人だけではなく、自治会などのコミュニティ組織を含みます。)

	市民中心	市民中心 どちらかという と	市役所中心 どちらかという と	市役所中心	無回答
(数値の単位は%)					
(1) 家の前の道路の掃除	45.1	36.0	8.9	6.5	3.5
(2) 家の近くの公園の草取りなど	5.6	19.9	39.9	31.1	3.5
(3) 登下校時の子どもの見守り	30.3	54.7	8.1	3.1	3.7
(4) 近所の一人暮らしの高齢者の話し相手	8.5	32.2	38.1	16.4	4.8
(5) ごみ減量化やリサイクルの推進	8.6	14.9	31.0	41.8	3.7
(6) 防犯・防災に関する取組	3.5	16.9	37.1	38.3	4.3
(7) 緑化活動の推進	1.9	8.0	38.5	47.2	4.4
(8) 地域のイベントの運営	8.6	37.6	29.1	20.9	3.8

問7 市では、今後、市民と一体となって課題を解決していきたいと考えています。そのためには市はどのようなことを行う必要があると思いますか。(○は2つまで)

1 市が行っている施策や事業内容のPR	29.1 %
2 情報公開(制度)の充実	21.1 %
3 市民の立場から見て、市の抱えている課題を市民が理解しやすい仕組みをつくる	47.4 %
4 市長と直接対話できる機会の増	5.6 %
5 市民活動を活発化させるための場所、情報、資金の提供	21.0 %
6 市の政策形成過程への市民参画(審議会委員の公募、パブリックコメント※、市民参加型のフォーラムやワークショップ※の開催など)の充実	11.5 %
7 インターネットを利用した市と市民の間の双方向型情報サービスの展開	15.6 %
8 オンライン申請やキャッシュレス決済などの行政サービスのデジタル化	15.4 %
9 SDGs※の達成に向けて、市民と一体となった取組及び普及・啓発	7.7 %
10 その他()	3.0 %
11 わからない	4.7 %
(無回答)	1.2 %

※パブリックコメント：公的な機関が条例あるいは計画などを制定しようとするときに、広く公(パブリック)に意見・情報・改善案(コメント)などを求める手続

※ワークショップ：参加者が対等な立場で自由に発言し合う形式のグループ討議。新たな意見や課題の発掘のために行う場合や課題解決策を絞り込んだり、合意形成の一環で行う場合などがある

※SDGs(持続可能な開発目標)：世界の諸問題を根本的に解決し、すべての人たちにとってより良い世界をつくるために設定された世界共通の17の目標

八千代市が力を入れて取り組むべき施策についてお尋ねします

問8 今後、力を入れて取り組むべき施策の分野は何だと思えますか。(〇は3つまで)

1 高齢者	48.4 %	2 環境問題	11.4 %
3 障害者(児)	5.9 %	4 道路	22.3 %
5 下水道	4.1 %	6 子育て支援	30.0 %
7 学校教育	13.7 %	8 市民の健康	11.8 %
9 観光振興	3.9 %	10 産業(商業・工業・農業)	10.9 %
11 生涯学習・文化・スポーツ	8.1 %	12 移住・定住の促進	4.4 %
13 男女共同参画	0.3 %	14 ダイバーシティ※	3.7 %
15 公共交通	23.6 %	16 住環境	9.9 %
17 防災・防犯	22.3 %	18 生活困窮者※	8.5 %
19 公共施設の更新(老朽化対応・耐震化)	15.4 %	20 市民のまちづくりへの参加	4.4 %
21 多文化共生	1.0 %	22 行政サービスのデジタル化	8.0 %
23 その他()	3.0 %	24 わからない	1.2 %
(無回答)	0.9 %		

※ダイバーシティ：人種・年齢・性別・国籍・宗教など、異なる属性を持つ人材の多様性を認め、活用する考え方
 ※生活困窮者：離職や病気、社会的孤立(ひきこもり)などにより、経済的に困窮している者あるいはおそれのある者への支援や子どもの貧困対策等

高齢社会についてお尋ねします

問9 高齢者が安心して暮らしていくには、今後どのようなことが大切だと思いますか。

(〇は3つまで)

1 介護が必要になったときのための介護保険サービスや福祉サービスの充実	60.7 %
2 病気にかかったときのための医療体制の充実	30.7 %
3 医療保険や介護保険の制度の充実	20.2 %
4 病気にかからないよう、保健指導や健康診断などの充実	10.1 %
5 老人ホームなど高齢者福祉施設の充実	26.5 %
6 高齢者でも暮らしやすい住まいの充実	18.1 %
7 老後の生活を支える安心で歩きやすい道路や公共施設の整備	17.6 %
8 文化・スポーツ活動、老人クラブへの参加など生きがいをもつこと	11.0 %
9 働く場の確保	17.1 %
10 声掛けや安否確認など、地域で高齢者を見守る体制づくり	19.1 %
11 高齢者の財産管理制度の充実	2.5 %
12 自治会や社会福祉協議会の支会など、コミュニティ・福祉活動の充実	5.6 %
13 使いやすい移動手段の確保	29.8 %
14 高齢者に配慮した行政サービスのデジタル化(情報格差の解消)	8.8 %
15 その他()	2.4 %
16 わからない	1.3 %
(無回答)	0.5 %

環境問題についてお尋ねします

問 10 関心を持っている環境問題は何ですか。(〇はいくつでも)

1	大気汚染	25.2 %
2	印旛沼や新川などの水質汚濁	28.9 %
3	ダイオキシン類, 環境ホルモンなどの化学物質による環境汚染	13.4 %
4	騒音・振動	19.2 %
5	悪臭	9.7 %
6	地下水汚染	12.9 %
7	土壌汚染 (放射性物質によるものを除く)	5.2 %
8	地盤沈下	7.0 %
9	ごみの減量・リサイクル	39.3 %
10	廃棄物の不法投棄	29.5 %
11	身近な自然環境の減少	19.8 %
12	エネルギーの有効利用・省エネルギー	20.1 %
13	地球温暖化	58.8 %
14	脱炭素化	10.9 %
15	生物多様性の保全	5.6 %
16	谷津・里山の保全	11.4 %
17	放射性物質による汚染や放射性廃棄物の保管・最終処分	12.8 %
18	野生鳥獣などによる被害	10.7 %
19	特定外来生物	12.4 %
20	気候変動	44.5 %
21	その他 ()	1.6 %
22	特にない	3.2 %
	(無回答)	0.7 %

問11 環境に対する市の取組として何を期待しますか。(〇は3つまで)

1	環境保全計画等長期ビジョンの策定	17.0 %
2	規制法令の整備・強化	11.8 %
3	環境監視体制の整備・充実	16.6 %
4	自然環境保全対策の整備・充実	18.2 %
5	ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実	36.3 %
6	ごみの分別やリサイクルの推進	20.5 %
7	環境情報の提供(環境問題に関する測定結果の公表等, 放射性物質によるものを除く)	5.8 %
8	生物多様性の保全	3.9 %
9	谷津・里山の保全	9.1 %
10	特定外来生物への対応	7.7 %
11	環境教育・学習の充実	11.0 %
12	座談会, シンポジウム等イベントの開催	1.7 %
13	NPO等, 環境活動団体への連携	3.1 %
14	新たな環境問題に対応できる組織づくり	8.9 %
15	地球温暖化対策の推進	28.5 %
16	脱炭素化の推進	4.9 %
17	気候変動への適応策	18.7 %
18	エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及支援など	12.8 %
19	空間放射線量の測定・公表や放射性廃棄物の安全な保管	3.1 %
20	その他 ()	2.0 %
21	わからない	5.8 %
	(無回答)	1.6 %

交通についてお尋ねします

問12 交通バリアフリー※化で優先的に取り組む対策は何だと思えますか。(〇は3つまで)

1	鉄道駅へのエレベーターの設置	29.2 %
2	鉄道駅へのエスカレーターの設置	22.4 %
3	ノンステップ(低床)バスの導入	21.1 %
4	車いす対応型タクシーの導入	17.4 %
5	視覚障害者誘導用ブロックの整備	9.9 %
6	歩道の改良(段差や勾配の解消・拡幅など)	67.3 %
7	歩道が未整備の道路の解消(歩道の設置)	56.4 %
8	音響信号機など障害者や高齢者などに対応した信号機の設置	16.4 %
9	案内サイン(多言語表記を含む)の設置	4.7 %
10	その他 ()	2.8 %
11	わからない	2.3 %
	(無回答)	1.2 %

※バリアフリー：障害者や高齢者等が社会生活をしやすいように物理的・社会的・心理的な障壁(バリア)を取り除くこと

安心で安全なまちづくりについてお尋ねします

問 13 安心で安全なまちづくりを進める上で取り組むべきことは何だと思えますか。

(○は3つまで)

1	災害時におけるライフラインの確保	64.1 %
2	防災倉庫等災害関連施設の整備 (備蓄含む)	17.7 %
3	消防・救急体制の整備	22.9 %
4	防災訓練の実施	2.7 %
5	市民の防災意識の高揚 (家具の転倒防止や家庭での備蓄)	7.7 %
6	防災無線や防災情報メール等の情報伝達手段の整備	12.7 %
7	自主防災組織など共助の担い手となる組織の結成・育成	6.2 %
8	建築物の耐震化の促進	12.4 %
9	犯罪情報の提供	12.7 %
10	地域防犯活動の推進	8.0 %
11	防犯施設の整備 (防犯灯, 防犯カメラ等)	33.5 %
12	通学路の安全確保	17.1 %
13	ゴミ屋敷対策の強化	7.1 %
14	空き家対策の強化	21.8 %
15	市民の防犯意識の高揚	3.7 %
16	救命講習の実施	2.4 %
17	水害対策 (河川の改修, 下水道の整備)	12.6 %
18	行政サービスをデジタル化する際のセキュリティ対策	5.7 %
19	その他 ()	0.8 %
20	わからない (無回答)	1.1 % 1.2 %

都市基盤の整備についてお尋ねします

問 14 市民の生活環境の向上に向けて取り組むべき都市基盤の整備は何だと思えますか。

(○は3つまで)

1	幹線道路の整備	26.3 %
2	身近な生活道路の整備	46.6 %
3	未利用地の有効活用	18.2 %
4	駐車場・駐輪場の整備	11.0 %
5	駅周辺の活性化	32.8 %
6	良好な住環境の維持・保全	28.8 %
7	居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成	28.0 %
8	スマートシティ※化の推進	11.6 %
9	土地利用に係る制限の見直し (規制強化)	2.3 %
10	土地利用に係る制限の見直し (規制緩和)	3.7 %
11	市内各所のバリアフリー対策	16.3 %
12	歩いて行ける範囲に生活に必要な施設の集約	31.1 %
13	その他 ()	2.3 %
14	わからない (無回答)	1.7 % 1.6 %

※スマートシティ：ICT (情報通信技術) 等の新技術を活用しつつ、マネジメントの高度化により、都市や地域の抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域

情報の提供についてお尋ねします

問 15 市の事業やイベントなどの情報をどのような手段で入手していますか。(〇は3つまで)

1 広報やちよ	71.2 %	2 市役所や公共施設の掲示版	16.8 %
3 友人・知人などからの口コミ	23.1 %	4 市が発行するリーフレット等	8.2 %
5 市のホームページ	23.8 %	6 市のイベント情報メール	8.2 %
7 市のSNS全般(ツイッター【現・X】やLINE等)	8.6 %	8 ココシルやちよ※・PIAZZA※等のアプリ	0.6 %
9 市長との対話や市の会議等	0.1 %	10 自治会の回覧板	33.0 %
11 市公式YouTubeチャンネル「千葉八千代」	1.2 %	12 その他 ()	3.9 %
(無回答)	1.2 %		

※ココシルやちよ：八千代市の観光スポットやイベント・グルメ等の情報が掲載されたアプリ

※PIAZZA：行政サービスや地域イベントなどの情報を発信する SNS アプリ

問 16 今後、市に取り組んでほしい情報提供に関する施策は何ですか。(〇は3つまで)

1 広報やちよの配布の充実	41.9 %	2 冊子やパンフレットの掲載情報の充実	20.4 %
3 公共施設の電子掲示版の充実	15.6 %	4 インターネット(ホームページ)やSNS全般による情報の充実	43.4 %
5 携帯電話への情報提供の充実(情報メールの配信等)	27.2 %	6 オープンデータ※の充実	15.6 %
7 その他 ()	1.6 %	8 特にない	11.1 %
(無回答)	1.8 %		

※オープンデータ：インターネットなどを通じて、一定のルールのもと、誰でも自由に入手し利用・再配布できるデータの総称

問 17 今後、市が提供する情報で充実すべき内容は何ですか。(〇は3つまで)

1 市の魅力	19.8 %	2 多言語による情報提供	7.0 %
3 消費生活情報	24.7 %	4 自治会	4.6 %
5 市の財政状況	14.7 %	6 防災・防犯	34.6 %
7 介護サービス	34.0 %	8 福祉サービス	31.1 %
9 観光情報	9.0 %	10 子育て	21.5 %
11 環境状況の情報	13.3 %	12 生涯学習など市民の学び	14.4 %
13 イベント情報	18.5 %	14 男女共同参画	1.0 %
15 その他 ()	1.3 %	16 特にない	4.1 %
(無回答)	0.7 %		

多文化共生についてお尋ねします

問18 八千代市は、アメリカ合衆国テキサス州タイラー市と国際姉妹都市提携、タイ王国バンコク都と友好都市提携をしています。また、市内に住む外国人は増加しており、令和5年7月末現在、7,000人を超えています。このことを踏まえて、今後、市としてどのような施策を行っていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

1	外国人のための相談窓口の設置	47.7 %
2	外国人向けの表示、案内などの整備	29.3 %
3	外国語による生活情報の提供	25.7 %
4	外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供	28.2 %
5	国際理解を深めるための講座や講演会の開催	7.7 %
6	国際姉妹都市交流など市民レベルでの交流の推進	8.9 %
7	外国人との交流機会の提供	18.0 %
8	留学生・研修生などの派遣・受入の推進	8.3 %
9	市職員への外国人の積極的採用	9.5 %
10	市民への外国語学習機会の充実	9.4 %
11	国際協力事業の推進	5.2 %
12	通訳・翻訳機等の言語支援の充実	17.1 %
13	その他 ()	3.2 %
14	特にする必要はない (無回答)	7.6 % 3.0 %

生涯学習や文化活動、スポーツ活動についてお尋ねします

問19 仕事や学業以外で趣味や教養、自己の能力を高めるための学習時間(スポーツ活動を含む)をとっていますか。(〇は1つずつ)

(1) 生涯学習・文化活動	1	とっている	2	とっていない	(無回答)
		31.6%		65.4%	3.0%
(2) スポーツ活動	1	とっている	2	とっていない	(無回答)
		35.2%		61.9%	2.9%

(問19で(1)か(2)のどちらか1つでも「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問19-1 生涯学習や文化活動、スポーツ活動をするために利用している場所はどのようなところですか。(〇はいくつでも)

1	公民館や図書館など公共の社会教育施設	35.4 %	2	市民体育館や野球場など公共のスポーツ施設	19.8 %
3	学校開放の体育館やグラウンド	4.4 %	4	公園や遊歩道など	25.4 %
5	民間のカルチャーセンター	7.8 %	6	民間のスポーツクラブ	27.9 %
7	自宅	33.8 %	8	民間の教育機関	3.8 %
9	その他 ()	7.3 %		(無回答)	0.9 %

(問19の(1)で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問19-2 生涯学習・文化活動の推進のために、市はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇は3つまで)

1	講座など無料での学習機会を増やす	35.5 %
2	自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する	39.9 %
3	講師バンクの整備・公開(有料の講師を含む)	9.1 %
4	学習会・講座などの開催情報の提供(民間主催でも市の後援事業等は含む)	33.6 %
5	市の施設のバリアフリー化(エレベーターの設置等)	9.4 %
6	老朽化した市の施設の改修・建替え(施設の複合化も含む。バリアフリー化は除く)	20.9 %
7	老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実(バリアフリー化は除く)	13.5 %
8	無料駐車場を増やす	22.6 %
9	有料駐車場の増設・充実	3.3 %
10	施設利用予約・支払・継続更新の手続の簡略化	15.4 %
11	民間のサービス利用に対する補助	14.9 %
12	託児・保育サービスの提供	11.6 %
13	市内の就業者の学び直し(リスキリング)に関する支援	7.2 %
14	その他() (無回答)	3.6 % 3.3 %

(問19の(2)で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問19-3 スポーツ活動の推進のために市はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。

(〇は3つまで)

1	講習など無料での学習機会を増やす	28.1 %
2	自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する	24.0 %
3	講師バンクの整備・公開(有料の講師を含む)	5.7 %
4	学習会・講習などの開催情報の提供(民間主催でも市の後援事業等は含む)	19.5 %
5	市の施設のバリアフリー化(エレベーターの設置等)	7.4 %
6	老朽化した市の施設の改修・建替え(施設の複合化も含む。バリアフリー化は除く)	24.0 %
7	老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実(バリアフリー化は除く)	15.6 %
8	無料駐車場を増やす	29.4 %
9	有料駐車場の増設・充実	3.7 %
10	施設利用予約・支払・継続更新の手続の簡略化	18.0 %
11	民間のサービス利用に対する補助	19.5 %
12	無料施設の一部(学校開放体育館等)での一部自己負担の導入(有料の体育館を使っている方との公平性の確保, 電気代の財源の一部として)	6.9 %
13	託児・保育サービスの提供	5.9 %
14	その他() (無回答)	4.7 % 6.4 %

(問19の(2)で「1 とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問19-4 1週間のうち、30分以上のスポーツ活動を何回ぐらい行っていますか。(○は1つ)

1	1回	32.8 %	2	2回	25.4 %
3	3回以上 (無回答)	36.3 % 2.5 %	4	その他 ()	3.0 %

(問19で(1)か(2)のどちらか1つでも「2 とっていない」とお答えの方にお尋ねします)

問19-5 生涯学習や文化活動、スポーツ活動を行っていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1	仕事や家事、学業が忙しくて時間がない	35.3 %
2	家族や職場など周囲の理解が得られない	1.2 %
3	子どもや親などを世話してくれる人がいない	5.0 %
4	適当な指導者がいない	3.8 %
5	身近なところに施設や教室などが無い	15.8 %
6	自分の希望に合う内容の講座や教室などが無い	18.0 %
7	自分の参加できる日時に開催される講座や教室などが無い	11.4 %
8	一緒に学習や活動する仲間がいない	9.3 %
9	必要な情報がなかなか入手できない	13.0 %
10	費用がかかる	18.7 %
11	きっかけがつかめない	24.0 %
12	生涯学習(スポーツ活動を含む)に興味がない(好きではない)	7.1 %
13	その他 () (無回答)	4.0 % 24.4 %

SDGsに関することについてお尋ねします

問20 あなたはSDGsについてご存じですか。(○は1つ)

1	内容まで含めて知っている	53.4 %
2	内容はわからないが名前は聞いたことがある	32.1 %
3	知らない(名前も聞いたことがない)	11.8 %
	(無回答)	2.7 %

問21 あなたはSDGsについて現在関心がありますか。(○は1つ)

1	非常に関心がある	12.6 %	2	やや関心がある	51.1 %
3	あまり関心がない	23.5 %	4	全く関心がない	7.9 %
	(無回答)	4.9 %			

問22 八千代市内(市役所、市内企業等)でSDGsが推進されるべきだと思いますか。(○は1つ)

1	とてもそう思う	23.7 %	2	まあそう思う	44.6 %
3	あまりそう思わない	8.4 %	4	全くそう思わない	3.3 %
5	わからない	16.0 %		(無回答)	4.0 %

八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度についてお尋ねします

問23 下の表に示した各項目について、あなたの生活にとってどのくらい重要だと思いますか。また、どのくらい満足していますか。あてはまるものを1つずつ選び、重要度、満足度のそれぞれの番号に○印をつけてください。

(%)

	重要度					
	重要である	やや重要である	普通	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
《ともに支え合い健やかでいきいきと過ごせるまちづくり》						
(1) 病気の早期発見・予防体制の整備	65.4	16.0	14.7	0.4	0.8	2.6
(2) 地域の医療体制の充実	70.1	14.0	12.8	0.0	0.2	2.9
(3) 救急医療体制の充実	71.9	12.5	11.7	0.1	0.3	3.6
(4) 子育てを支援するサービス体制の充実	48.7	20.5	21.8	1.7	2.1	5.3
(5) ひとり親家庭を支援するサービス体制の充実	38.8	23.4	26.3	2.4	3.2	5.8
(6) 高齢者福祉サービスの充実	48.2	26.4	18.3	1.6	1.7	3.8
(7) 障害者の自立を支援するサービス体制の充実	41.8	24.5	24.4	2.0	1.7	5.7

満足度					
満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
7.7	19.4	57.9	7.5	2.6	5.0
7.2	14.6	45.8	17.4	9.9	5.0
8.4	14.6	51.1	12.4	7.1	6.4
3.2	6.7	65.0	10.7	4.7	9.7
2.3	4.6	70.9	9.7	2.2	10.3
3.5	7.0	66.1	12.0	3.8	7.6
2.4	5.0	70.6	8.9	2.7	10.4

《豊かな心と文化を育むまちづくり》

(8) 小中学校の施設・設備の充実	43.7	22.0	24.7	2.1	1.7	5.7
(9) 図書館、公民館、博物館、文化伝承館などの社会教育施設の充実	30.5	30.7	30.9	2.8	1.3	3.8
(10) スポーツ、レクリエーション施設の充実	21.1	30.5	37.9	4.1	2.1	4.3
(11) コミュニティづくりのための施設の充実	16.1	26.0	42.9	7.0	2.6	5.4
(12) 性別に捉われず、心豊かに暮らすこと	29.7	21.7	36.6	3.7	3.3	5.0
(13) 地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実	17.4	25.2	43.9	5.4	2.6	5.5

3.7	9.5	58.7	12.4	5.9	9.7
5.6	15.8	56.1	11.3	4.1	7.0
3.6	10.0	62.7	12.2	3.7	7.8
2.5	6.8	70.5	9.1	2.9	8.2
3.2	7.3	73.2	6.1	1.9	8.3
2.8	5.8	71.8	9.2	1.9	8.4

	重要度					
	重要である	やや重要である	普通	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
《安心・安全に暮らせるまちづくり》						
(14) 災害に強い安全なまちづくり	72.9	14.2	8.4	0.1	0.3	4.1
(15) 火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実	66.5	18.4	11.2	0.1	0.3	3.6
(16) 市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制の整備	61.9	22.5	11.7	0.1	0.3	3.5
(17) 犯罪が少なく安心して暮らせるまち	72.9	15.0	7.8	0.1	0.3	3.9
(18) 安全に通行するための交通安全施設の充実	59.9	22.2	13.6	0.3	0.5	3.5
(19) 消費者の保護対策の充実	37.7	25.1	29.3	2.1	0.4	5.4
(20) 公共下水道の整備	56.0	22.6	17.1	0.2	0.3	3.7
(21) 安全でおいしい水道水の安定的な供給	69.5	16.9	9.9	0.2	0.3	3.3

満足度					
満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
4.1	13.8	59.8	11.9	2.3	8.1
4.6	14.8	63.4	8.3	1.4	7.6
4.3	14.0	62.0	10.5	2.1	7.1
4.3	16.7	58.4	10.6	2.4	7.6
3.0	9.6	56.3	15.8	7.7	7.5
2.3	6.6	73.1	7.0	2.3	8.8
8.6	17.8	56.7	6.8	3.0	7.0
12.9	21.9	48.3	6.8	3.0	7.1

《快適で環境にやさしいまちづくり》

(22) 鉄道・バス路線などの公共交通網の整備	59.7	24.5	11.6	0.3	0.3	3.5
(23) 渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備	46.7	27.5	19.3	1.4	0.6	4.4
(24) 既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備	45.7	29.8	19.4	0.7	0.3	4.1
(25) 市の計画的な土地利用の誘導による無秩序な開発の防止	40.2	28.2	24.0	1.0	0.5	6.0
(26) 街路樹の整備などによる緑あるまちの形成	33.8	31.2	27.9	2.4	1.0	3.7
(27) 地域特性に応じた良好な都市景観の形成	29.2	28.0	34.5	2.9	0.5	5.0
(28) 利便性、安全性、快適性に富んだ良好な市街地の形成	44.7	28.6	21.0	0.5	0.3	4.8
(29) 障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないこと	49.8	27.4	16.3	1.1	0.5	4.9
(30) 公園や緑地などの整備	34.8	31.5	28.1	1.4	0.4	3.7
(31) 移住・定住の促進	19.4	22.1	43.6	6.6	2.4	5.8
(32) 大気汚染・水質汚濁・騒音・振動などのない快適な生活環境	48.5	28.2	19.0	0.5	0.1	3.7
(33) 緑や水辺などの自然環境の保全	37.4	31.8	25.8	0.9	0.2	3.9
(34) 脱炭素社会の実現に向けた取組	29.4	28.5	32.0	3.4	1.9	4.8
(35) いろいろな人達が協力して環境に配慮したまちづくりの実施	25.6	30.5	34.5	3.4	0.9	5.1
(36) リサイクルを含めたごみ処理体制の充実	37.7	34.9	22.3	0.9	0.4	3.8

5.1	16.2	40.5	22.2	10.2	5.8
1.7	6.4	46.7	22.3	15.8	7.0
2.2	6.4	54.2	21.8	8.5	6.9
2.2	5.1	66.7	12.4	4.8	8.9
4.5	14.7	61.1	10.0	3.0	6.7
3.1	9.7	67.4	9.1	3.3	7.4
2.7	11.1	59.8	14.4	4.6	7.3
2.2	6.2	57.4	20.5	6.3	7.5
3.7	16.3	55.2	13.8	4.5	6.4
2.0	5.3	75.7	6.4	2.3	8.4
3.3	10.2	67.0	9.5	3.2	6.8
3.5	14.1	64.7	8.6	2.3	6.9
2.1	4.5	74.2	7.9	2.8	8.4
2.3	5.2	75.4	7.6	1.4	8.1
3.9	12.4	65.5	9.0	2.0	7.1

(37) 市民・事業者・市の連携のもと、地域ぐるみの清掃活動などの実施	24.1	27.9	38.3	3.6	1.4	4.8
-------------------------------------	------	------	------	-----	-----	-----

3.2	7.2	73.2	6.6	2.2	7.6
-----	-----	------	-----	-----	-----

	重要度					
	重要である	やや重要である	普通	あまり重要ではない	重要ではない	無回答
《産業が元気なまちづくり》						
(38) 生産性の高い都市型農業の振興	30.0	29.5	31.5	3.0	0.8	5.2
(39) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備	18.0	24.2	44.4	6.4	2.1	4.9
(40) 新鮮な市内産農産物の安定的な供給	35.7	31.5	26.2	1.7	0.3	4.6
(41) 地域に買い物に行きたいと思う商店・商店街の存続	42.8	29.6	21.0	1.7	0.6	4.3
(42) 市内の既存工業の活性化	24.9	29.9	36.5	2.3	1.2	5.2
(43) 就業希望者に対する職業相談などの支援業務の充実	29.7	29.2	32.8	1.7	0.8	5.9
(44) ふるさと親子祭による、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化	23.5	26.4	37.8	4.7	2.8	4.9
(45) 市のイメージ・認知向上の活動	28.5	26.2	35.0	3.1	2.2	5.0

満足度					
満足	やや満足	普通	やや不満	不満	無回答
2.8	6.4	71.1	7.9	3.0	8.8
2.6	9.2	69.5	9.0	1.3	8.4
4.3	15.7	61.8	8.4	2.0	7.9
3.7	11.3	54.5	16.4	7.0	7.0
2.4	5.7	73.6	7.7	2.3	8.3
2.2	3.6	72.8	10.2	2.3	9.0
4.6	11.6	67.3	7.0	1.6	8.0
2.8	6.7	66.9	11.5	4.4	7.7

前期基本計画における指標についてお尋ねします

問24 下の表に示した各項目について、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

(%)

《ともに支え合い健やかでいきいきと過ごせるまちづくり》				
(1)子育てしやすいまちと感じていますか。	1 感じる	5.7	2 どちらかというと感じる	36.4
	3 どちらかというと感じない	19.8	4 感じない	7.5
	5 わからない	27.9	(無回答)	2.7
(2)ボランティアや地域活動に参加していますか。	1 参加している	17.5	2 参加していない	80.5
	(無回答)	2.0		
(3)高齢者福祉サービスが充実していると感じますか。	1 感じる	2.6	2 どちらかというと感じる	19.4
	3 どちらかというと感じない	26.9	4 感じない	7.9
	5 わからない	41.3	(無回答)	1.8
(4)自分が健康だと感じていますか。	1 感じる	23.8	2 どちらかというと感じる	47.3
	3 どちらかというと感じない	15.8	4 感じない	8.5
	5 わからない	2.8	(無回答)	1.7
(5)定期的に健康診断・健康診査や人間ドックを受けていますか。	1 定期的に受けている	66.9	2 不定期だが受けている	18.9
	3 受けていない	12.7	(無回答)	1.5
(6)地域医療体制が整っていると感じていますか。	1 感じる	8.4	2 どちらかというと感じる	38.6
	3 どちらかというと感じない	25.7	4 感じない	11.9
	5 わからない	13.6	(無回答)	1.8

《豊かな心と文化を育むまちづくり》				
(7)生涯学習情報が得られやすいと感じていますか。	1 感じる	3.1	2 どちらかというと感じる	17.7
	3 どちらかというと感じない	33.1	4 感じない	15.7
	5 わからない	28.7	(無回答)	1.7

《安心・安全に暮らせるまちづくり》				
(8)消費生活センターが身近な消費生活相談窓口であることを知っていますか。	1 知っている	35.2	2 知らない	63.3
	(無回答)	1.5		

《快適で環境にやさしいまちづくり》						
(9)地域の特性を活かした土地利用が図られていると感じますか。	1	感じる	1.8	2	どちらかというと感じる	13.7
	3	どちらかというと感じない	32.8	4	感じない	17.0
	5	わからない	32.5		(無回答)	2.3
(10)緑豊かなまちと感じていますか。	1	感じる	18.8	2	どちらかというと感じる	54.2
	3	どちらかというと感じない	15.2	4	感じない	5.0
	5	わからない	5.4		(無回答)	1.4
(11)鉄道が利用しやすいと感じていますか。	1	感じる	23.2	2	どちらかというと感じる	41.3
	3	どちらかというと感じない	16.3	4	感じない	15.8
	5	わからない	2.3		(無回答)	1.2
(12)市内のバスが利用しやすいと感じていますか。	1	感じる	8.2	2	どちらかというと感じる	27.2
	3	どちらかというと感じない	30.2	4	感じない	20.5
	5	わからない	12.8		(無回答)	1.1
(13)市内・市外間の移動がしやすいと感じていますか。	1	感じる	11.0	2	どちらかというと感じる	32.6
	3	どちらかというと感じない	27.4	4	感じない	20.8
	5	わからない	6.3		(無回答)	1.9
(14)交通弱者にやさしい交通環境と感じていますか。	1	感じる	2.1	2	どちらかというと感じる	14.5
	3	どちらかというと感じない	38.5	4	感じない	27.7
	5	わからない	15.8		(無回答)	1.4
(15)道路状況が整っていると感じていますか。	1	感じる	5.0	2	どちらかというと感じる	25.4
	3	どちらかというと感じない	31.2	4	感じない	29.9
	5	わからない	6.9		(無回答)	1.7
(16)まちにごみがなくきれいだと感じていますか。	1	感じる	12.0	2	どちらかというと感じる	52.6
	3	どちらかというと感じない	19.0	4	感じない	10.9
	5	わからない	4.4		(無回答)	1.2

＜計画の推進のために＞						
(17)市民が知りたい行政情報が十分に提供されていると感じていますか。	1	感じる	2.7	2	どちらかというと感じる	20.6
	3	どちらかというと感じない	40.2	4	感じない	14.2
	5	わからない	20.7		(無回答)	1.6
(18)市政に対する意見や要望を伝える機会と手段が整えられていると感じていますか。	1	感じる	1.3	2	どちらかというと感じる	11.5
	3	どちらかというと感じない	36.3	4	感じない	22.1
	5	わからない	26.5		(無回答)	2.3
(19)性別にとらわれず多様な生き方・働き方を選択できると感じていますか。	1	感じる	4.1	2	どちらかというと感じる	14.1
	3	どちらかというと感じない	26.4	4	感じない	11.1
	5	わからない	41.9		(無回答)	2.4
(20)国際交流・協力に関する活動を行ってみたい、参加してみたいと思いますか。	1	思う	7.1	2	どちらかというと思う	20.7
	3	どちらかというと思わない	23.9	4	思わない	29.9
	5	わからない	15.7		(無回答)	2.6
(21)新川周辺が活性化していると感じていますか。	1	感じる	3.9	2	どちらかというと感じる	23.7
	3	どちらかというと感じない	28.5	4	感じない	19.8
	5	わからない	21.8		(無回答)	2.3
(22)今後も八千代市に住み続けたいと考えていますか。	1	考えている	36.9	2	どちらかというと考えている	38.2
	3	どちらかというと考えていない	8.1	4	考えていない	3.7
	5	わからない	11.2		(無回答)	1.8
(23)行政が自らの責任と判断に基づき行政経営が行われていると感じていますか。	1	感じる	2.5	2	どちらかというと感じる	19.5
	3	どちらかというと感じない	23.9	4	感じない	10.9
	5	わからない	40.9		(無回答)	2.3
(24)公共施設のサービス、また、設備や管理が適切と感じていますか。	1	感じる	4.9	2	どちらかというと感じる	32.7
	3	どちらかというと感じない	25.8	4	感じない	9.9
	5	わからない	23.9		(無回答)	2.7

八千代市についてお尋ねします

八千代市における、地域の強み・課題やあなたが考える地域の将来像についてご自由にご記入ください。

《八千代市（地域）の強み（自慢できるところ）》

《八千代市（地域）の課題》

《八千代市（地域）の将来像》

- ◆ 市へのご意見やご要望，まちづくりについてのアイデア等があればご自由にご記入ください。

【市外在住市内在勤者調査 単純集計結果】

八千代市のイメージについてお尋ねします

問1 八千代市にどのようなイメージをお持ちですか。最もあてはまるものをお選びください。

(○は1つ)

1	生活に便利な都市	25.0 %	2	安心して暮らせる都市	7.4 %
3	自然が豊かな都市	32.7 %	4	街並みが美しい都市	2.7 %
5	文化的な都市	1.2 %	6	温もりを感じられる都市	4.5 %
7	活気のある都市	4.5 %	8	市民が活躍している都市	1.8 %
9	その他 ()	14.3 %		(無回答)	6.0 %

八千代市の魅力についてお尋ねします

問2 八千代市は住んでみたくなる魅力的なまちだと思いますか。(○は1つ)

1	そう思う	19.9 %	2	そう思わない	25.6 %
3	どちらともいえない	53.9 %	4	(無回答)	0.6 %

問3 八千代市が住んでみたくなる魅力的なまちになるために、どのような方向へ発展したらよいと思いますか。(○は3つまで)

1	商工業が発展したまち	30.4 %
2	近代的農業と住宅が調和したまち	6.8 %
3	居住環境の整備されたまち	44.3 %
4	医療や福祉の充実したまち	39.9 %
5	自然環境を生かしたレクリエーションが楽しめるまち	7.1 %
6	芸術・文化活動の活発なまち	6.8 %
7	スポーツの盛んな活気のあるまち	11.0 %
8	水と緑に親しめるまち	14.6 %
9	災害に強いまち	34.5 %
10	国際感覚が豊かなまち	2.7 %
11	教育環境の充実したまち	8.6 %
12	子育てと仕事が両立できる環境があるまち	26.2 %
13	市民もまちづくりに参加できるまち	2.7 %
14	行政のデジタル化が進んだ便利なまち	7.1 %
15	地球温暖化への対応など環境に配慮したまち	3.9 %
16	誰もが性別を意識することなく活躍できるまち	1.5 %
17	その他 ()	8.9 %
	(無回答)	0.6 %

八千代市が力を入れて取り組むべき施策についてお尋ねします

問4 今後、八千代市が力を入れて取り組むべき施策の分野は何だと思えますか。(○は3つまで)

1 高齢者	25.3 %	2 環境問題	11.3 %
3 障害者(児)	3.3 %	4 道路	42.6 %
5 下水道	4.2 %	6 子育て支援	24.4 %
7 学校教育	7.7 %	8 市民の健康	3.6 %
9 観光振興	9.2 %	10 産業(商業・工業・農業)	15.8 %
11 生涯学習・文化・スポーツ	7.4 %	12 移住・定住の促進	8.6 %
13 男女共同参画	0.6 %	14 ダイバーシティ※	3.9 %
15 公共交通	29.2 %	16 住環境	10.7 %
17 防災・防犯	19.3 %	18 生活困窮者※	3.3 %
19 公共施設の更新(老朽化対応・耐震化)	10.4 %	20 市民のまちづくりへの参加	1.2 %
21 多文化共生	1.8 %	22 行政サービスのデジタル化	3.3 %
23 その他	1.5 %	24 わからない	4.5 %
(無回答)	0.9 %		

※ダイバーシティ：人種・年齢・性別・国籍・宗教など、異なる属性を持つ人材の多様性を認め、活用する考え方
 ※生活困窮者：離職や病気、社会的孤立(ひきこもり)などにより、経済的に困窮している者あるいはおそれのある者への支援や子どもの貧困対策等

市内の施設等の利用についてお尋ねします

問5 帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設はありますか。(○は1つ)

1 ある---(問5-1, 5-2へ)	45.8 %	2 ない---(問5-3へ)	49.7 %
(無回答)	4.5 %		

(問5で「1 ある」とお答えの方にお尋ねします。)

問5-1 立ち寄られる場所はどこなところですか。(○は3つまで)

1 公民館や図書館など公共の社会教育施設	13.0 %
2 市民体育館など公共のスポーツ施設	5.8 %
3 民間のスポーツクラブ	1.9 %
4 民間のカルチャーセンター	0.6 %
5 映画館やボウリング場、パチンコ店など娯楽施設	18.2 %
6 ショッピングセンター	80.5 %
7 飲食店	54.5 %
8 その他()	5.2 %
(無回答)	0.0 %

問5-2 立ち寄る回数ほどのくらいですか。(問5-1のうち、頻度が一番多いものに○を1つ)

1 年に数回程度	13.6 %	2 月に1~2回程度	40.3 %
3 月に3~4回程度	26.0 %	4 週に3~4回程度	17.5 %
5 週に5回以上	1.3 %	(無回答)	1.3 %

問5-3 どういった施設があれば、立ち寄りしたいと思いますか。(〇は3つまで)

1	商業施設・小売店	25.3 %
2	飲食店(カフェを含む)	31.3 %
3	ショッピングセンター・デパート	37.8 %
4	直売(農産物・工場等)施設	12.8 %
5	娯楽・遊戯施設	12.8 %
6	温浴・健康施設	18.5 %
7	文化施設	7.4 %
8	学習活動等施設(図書館含む)	3.6 %
9	スポーツ施設	9.2 %
10	レジャー・レクリエーション施設	8.0 %
11	医療・保健施設	4.8 %
12	子どもの遊び場施設	3.6 %
13	公園施設	4.5 %
14	その他()	0.9 %
15	わからない	0.6 %
16	特になし (無回答)	8.9 % 17.6 %

八千代市とご自身の住んでいる市区町村についてお尋ねします

問6 八千代市とご自身が住んでいる市区町村を比べてどのように思いますか。（ご自由にご記入ください）

①八千代市の良い、充実していると感じるところ

--

②八千代市の良くない、足りないと感じるところ

--

IV 調査結果の要約

IV 調査結果の要約

【市内在住者調査】

1 八千代市のイメージについて

(1) 市のイメージ

市のイメージは、「生活に便利な都市」が3割を超え最も多く、次いで、「自然が豊かな都市」及び「安心して暮らせる都市」が2割台半ばである。前回（令和元年度）調査と比較すると、「生活に便利な都市」、「安心して暮らせる都市」がやや増加した。性別でみると、男女で大きな差はみられない。年齢別でみると、「生活に便利な都市」は、29歳以下が4割を超え最も多く、「自然が豊かな都市」は50歳代と60歳代で3割を超えている。

2 定住意向について

(1) 市への愛着心

市への愛着は、「愛着がある」と「どちらかといえば愛着がある」を合わせた、「愛着がある」が8割である。一方、「どちらかといえば愛着がない」と「愛着がない」を合わせた、「愛着がない」は1割を超えている。前回（令和元年度）調査と比較すると、「愛着がある」の割合がやや増加している。性別でみると、「愛着がある」は男性の方が女性よりも3.2ポイント多くなっている。年齢別でみると、「愛着がある」は29歳以下が約9割で最も多く、40歳代以上の年齢層において、年齢層が上がるほど「愛着がある」の割合が多くなっている。

(2) 居住継続意識

市への居住継続意識は、「ずっと住み続けたい」と「当分の間住み続けたい」を合わせた、「居住継続」が8割を超えている。一方、「いずれは、市外に住みたい」と「すぐにでも市外に移りたい」を合わせた、「転出希望」は1割である。性別でみると、「居住継続」は男性の方が女性よりも7.1ポイント多くなっている。年齢別でみると、「居住継続」は、年齢層が上がるほど多くなり、70歳以上が約9割で最も多い。

「ずっと住み続けたい」、「当分の間住み続けたい」と答えた方に、居住継続の理由について尋ねた結果、「自分の家・土地があるから」が約6割で最も多く、次いで、「長年住み慣れており愛着があるから」及び「買い物など日常生活が便利だから」が約4割となっている。

「いずれは、市外に住みたい」、「すぐにでも市外に移りたい」と答えた方に、転出希望の理由について尋ねた結果、「通勤・通学に不便だから」が3割台半ばで最も多く、次いで、「医療の施設・体制が十分ではないから」が2割台半ばである。

3 「地域との関わり合い」について

(1) 自治会への加入状況

自治会への加入状況は、「加入している」が6割台半ばで前回（令和元年度）調査より減少している。性別でみると、女性の方が男性よりも6.2ポイント多くなっている。

「加入していない」と答えた方に、自治会に加入していない理由を尋ねた結果、「自分が住んでいるところに自治会がないから」が2割台半ばで最も多く、次いで、「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」が1割台半ばである。

（2）自治会の必要性

自治会の必要性は、「あった方がよい」と「どちらかといえばあった方がよい」を合わせた、「あった方がよい」が6割を超え、一方、「どちらかといえば必要ない」と「必要ない」を合わせた、「必要ない」は2割を超えている。性別で見ると、男女で大きな差異はみられない。

「あった方がよい」、「どちらかといえばあった方がよい」と答えた方に理由を尋ねた結果、「防犯・防災活動など生命や財産を守るために必要だから」が3割台半ばで最も多く、次いで、「地域の親睦・交流に必要だから」が2割台半ば、「環境美化など生活環境の維持・向上のために必要だから」が約2割で続いている。

4 「行政サービスの在り方」について

（1）市民と市役所の関係

予め8つの活動を設定し、それらの活動を行う中心は市民であるべきなのか、市役所であるべきなのかを尋ねた。「市民中心」と「どちらかという市民中心」を合わせた、「市民中心」は“登下校時の子どもの見守り”が8割台半ば，“家の前の道路の掃除”が8割を超え，“地域のイベントの運営”が4割台半ばである。「どちらかという市役所中心」と「市役所中心」を合わせた、「市役所中心」は“緑化活動の推進”が8割台半ば，“防犯・防災に関する取組”が7割台半ば，“ごみ減量化やリサイクルの推進”が7割を超えている。

（2）市民参加の条件整備

市民参加の条件整備は、「市民の立場から見て、市の抱えている課題を市民が理解しやすい仕組みをつくる」が約5割で最も高く、次いで、「市が行っている施策や事業内容のPR」が約3割、「情報公開（制度）の充実」が2割を超えている。すべての性別、年齢、居住地域で、「市民の立場から見て、市の抱えている課題を市民が理解しやすい仕組みをつくる」が最多となっている。

5 八千代市が力を入れて取り組むべき施策の分野について

（1）市が力を入れて取り組むべき施策の分野

市が力を入れて取り組むべき施策の分野としては、「高齢者」が約5割で最も多く、次いで、「子育て支援」が3割、「公共交通」が2割台半ばである。性別で見ると、男女で大きな差はみられない。年齢別で見ると、40歳代以下の年齢層で「子育て支援」、50歳代以上の年齢層では「高齢者」が最も多くなっている。

6 高齢社会について

（1）高齢者が安心して暮らしていくために大切なこと

高齢者が安心して暮らしていくために大切なことは、「介護が必要になったときのための介護保険サービスや福祉サービスの充実」が6割で最も多く、次いで、「病気にかかったときのための医療体

制の充実」が3割、「使いやすい移動手段の確保」が約3割である。性別で見ると、男性では「病気にかかったときのための医療体制の充実」、女性では「使いやすい移動手段の確保」が比較的多い。年齢別で見ると、各年齢層ともに「介護が必要になったときのための介護保険サービスや福祉サービスの充実」が最も多く、年齢層が上がるほど割合が多くなっている。

7 環境問題について

(1) 関心のある環境問題

関心を持っている環境問題は、「地球温暖化」が約6割で最も多く、次いで、「気候変動」が4割台半ば、「ごみの減量・リサイクル」が約4割で続いている。性別で見ると、男女ともに「地球温暖化」が最多だが、女性の方が男性よりも15.4ポイント多くなっている。年齢別で見ると、40歳代で「ごみの減量・リサイクル」、その他の年齢層で「気候変動」が比較的多くなっている。

(2) 環境への取組の期待

環境に対する取組として期待していることは、「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」が3割台半ばで最も多く、次いで、「地球温暖化対策の推進」が約3割、「ごみの分別やリサイクルの推進」が2割である。性別で見ると、「地球温暖化対策の推進」では女性の方が男性よりも9.8ポイント多い。年齢別では、29歳以下では「ごみの分別やリサイクルの推進」、30～60歳代では「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」、70歳以上では「地球温暖化対策の推進」が最多となっている。

8 交通について

(1) 交通バリアフリーの優先策

交通バリアフリーの優先策は、「歩道の改良」が約7割で最も多く、次いで、「歩道が未整備の道路の解消」が5割台半ば、「鉄道駅へのエレベーターの設置」が約3割である。性別で見ると、「歩道が未整備の道路の解消」では、男性の方が女性よりも6.5ポイント多い。年齢別で見ると、60歳代で「歩道の改良」の割合が7割台半ばと目立って多い。

9 安心で安全なまちづくりについて

(1) 安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこと

安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこととしては、「災害時におけるライフラインの確保」が6割台半ばで最も多く、次いで、「防犯施設の整備」が3割台半ば、「消防・救急体制の整備」が2割を超えている。性別で見ると、「通学路の安全確保」では女性の方が男性よりも9.1ポイント多い。年齢別で見ると、29歳以下で「防災倉庫等災害関連施設の整備」、30歳代で「通学路の安全確保」の割合が多い。

10 都市基盤の整備について

(1) 取り組むべき都市基盤の整備

取り組むべき都市基盤の整備としては、「身近な生活道路の整備」が4割台半ばで最も多く、次いで、「駅周辺の活性化」が3割を超え、「歩いて行ける範囲に生活に必要な施設の集約」が3割を超

えている。性別で見ると、男性で「幹線道路の整備」、女性で「歩いて行ける範囲に生活に必要な施設の集約」の割合が比較的多い。年齢別で見ると、50歳代以下では「駅周辺の活性化」、60歳代では「良好な住環境の維持・保全」、70歳以上では「歩いて行ける範囲に生活に必要な施設の集約」が比較的多い。

11 情報の提供について

(1) 行政情報の入手方法

行政情報の入手方法は、「広報やちよ」が7割を超え最も多く、次いで、「自治会の回覧板」が3割台半ば、「市のホームページ」2割台半ばである。性別で見ると、男性で「市のホームページ」、女性で「友人・知人などからの口コミ」の割合が比較的多い。年齢別で見ると、30歳代以下では「友人・知人などからの口コミ」、40歳代と50歳代では「市のホームページ」、60歳代以上では「自治会の回覧板」が比較的多い。

(2) 情報施策への希望

市の情報施策への希望としては、「インターネット（ホームページ）やSNS全般による情報の充実」が4割台半ばで最も多く、次いで、「広報やちよの配布の充実」が4割を超え、「携帯電話への情報提供の充実」が約3割である。性別で見ると、男性で「インターネット（ホームページ）やSNS全般による情報の充実」、女性で「広報やちよの配布の充実」の割合が最も多い。年齢別で見ると、50歳代以下で「インターネット（ホームページ）やSNS全般による情報の充実」、60歳代以上で「広報やちよの配布の充実」が最多となっている。

(3) 充実すべき情報提供内容

今後充実させてほしい情報提供内容としては、「防災・防犯」が3割台半ばで最も多く、次いで、「介護サービス」が3割台半ば、「福祉サービス」が3割を超えている。性別で見ると、男性で「防災・防犯」、女性で「介護サービス」の割合が多い。年齢別で見ると、40歳代以下で「子育て」、50歳代では「防災・防犯」、60歳代以上では「介護サービス」が最も多い。

12 多文化共生について

(1) 多文化共生の施策

多文化共生の施策としては、「外国人のための相談窓口の設置」が約5割で最も多く、次いで、「外国人向けの表示、案内などの整備」が約3割、「外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供」が約3割である。性別で見ると、男性で「外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供」、女性で「外国人向けの表示、案内などの整備」の割合が比較的多い。年齢別では、50歳代、70歳以上で「外国人のための相談窓口の設置」が比較的多い。

13 生涯学習や文化活動、スポーツ活動について

(1) 生涯学習・文化活動、スポーツ活動の有無

生涯学習・文化活動の時間を「とっていない」が6割台半ばとなっている。性別でみると、男女で大きな差はみられない。年齢別でみると、「とっている」割合は29歳以下が4割台半ばで最も多く、次いで、70歳以上が3割台半ばとなっている。

スポーツ活動の時間を「とっていない」が6割を超えている。性別でみると、「とっている」割合は男性の方が女性よりも8.8ポイント多い。年齢別でみると、「とっている」割合は60歳代が約4割で最も多く、次いで、50歳代が約4割となっている。

生涯学習・文化活動、スポーツ活動の時間をとっている人の活動の場所は、「公民館や図書館など公共の社会教育施設」が3割台半ばで最も多く、次いで、「自宅」が3割台半ばである。

生涯学習や文化活動の時間を「とっている」人に、その活動推進に必要なことを尋ねた結果、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する」が約4割で最も多く、次いで、「講座など無料での学習機会を増やす」が3割台半ば、「学習会・講座などの開催情報の提供」が3割台半ばである。

スポーツ活動の時間を「とっている」人に、その活動推進に必要なことを尋ねた結果、「無料駐車場を増やす」が約3割で最も多く、次いで、「講習など無料での学習機会を増やす」が約3割、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する」、「老朽化した市の施設の改修・建替え」が2割台半ばである。

14 SDGsに関することについて

(1) SDGsの認知度

SDGsの認知度は、「内容まで含めて知っている」が5割台半ばで最も多く、次いで、「内容はわからないが名前は聞いたことがある」が3割を超え、「知らない(名前も聞いたことがない)」が1割を超えている。性別でみると、「内容まで含めて知っている」の割合は男性の方が女性よりも9.9ポイント多い。年齢別でみると、「内容まで含めて知っている」の割合は30歳代が約7割で最も多い。

(2) SDGsの関心度

SDGsの関心度は、「非常に関心がある」と「やや関心がある」を合わせた、「関心がある」は6割台半ばである。性別でみると、「関心がある」の割合は女性の方が男性よりも9.4ポイント多い。年齢別でみると、「関心がある」の割合は60歳代が約8割で最も多い。

(3) SDGsの推進について

SDGsが推進されるべきだと思うかについて、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた、「そう思う」の割合は約7割である。性別でみると、「そう思う」の割合は女性の方が男性よりも5.1ポイント多い。年齢別でみると、「そう思う」の割合は60歳代が8割を超え最も多い。

15 八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度について

総合計画の5分野にわたる計45項目の施策について、重要度、満足度の評価をそれぞれ5段階の中から選択する設問である。以下により加重平均を算出した結果を「評価点」として示す。

重要度		満足度	
重要である	= 2点	満足	= 2点
やや重要である	= 1点	やや満足	= 1点
普通	= 0点	普通	= 0点
あまり重要でない	= -1点	やや不満	= -1点
重要でない	= -2点	不満	= -2点

全 45 項目中の比較で、重要度、満足度の評価点の上位、下位の項目を抽出すると以下のとおりである。重要度の最上位は、防犯、防災、救急医療といった安全・安心に関する項目等であった。また、満足度の最上位は「安全でおいしい水道水の安定的な供給」で、最下位は、「渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備」であり、道路・交通関係の項目の満足度が低位で続いている。

(評価点上位・下位の施策項目)

重要度			
	順位	施策項目	評価点
上位5項目	1位	(17) 犯罪が少なく安心して暮らせるまち	1.67
	2位	(14) 災害に強い安全なまちづくり	1.66
	3位	(3) 救急医療体制の充実	1.61
	4位	(21) 安全でおいしい水道水の安定的な供給	1.60
	5位	(2) 地域の医療体制の充実	1.59
:			
下位5項目	40位	(44) ふるさと親子祭による、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化	0.66
	41位	(31) 移住・定住の促進	0.52
	42位	(13) 地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実	0.52
	43位	(39) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備	0.52
	44位	(11) コミュニティづくりのための施設の充実	0.49

満足度			
	順位	施策項目	評価点
上位5項目	1位	(21) 安全でおいしい水道水の安定的な供給	0.38
	2位	(20) 公共下水道の整備	0.24
	3位	(1) 病気の早期発見・予防体制の整備	0.23
	4位	(15) 火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実	0.14
	5位	(40) 新鮮な市内産農産物の安定的な供給	0.13
:			
下位5項目	40位	(18) 安全に通行するための交通安全施設の充実	-0.17
	41位	(22) 鉄道・バス路線などの公共交通網の整備	-0.17
	42位	(29) 障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないこと	-0.24
	43位	(24) 既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備	-0.30
	44位	(23) 渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備	-0.47

16 前期基本計画における指標について

(1) 子育てしやすいまち

子育てしやすいまちは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は4割を超えている。「感じる」は、前回（令和3年度）調査より1.6ポイント減少している。

(2) ボランティア・地域活動の参加状況

ボランティアや地域活動に「参加している」は約2割、「参加していない」は8割となっている。

(3) 高齢者福祉サービスの充実

高齢者福祉サービスの充実は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割を超えている。「感じる」は、前回（令和3年度）調査より2.2ポイント減少している。

(4) 健康状態

健康状態は、自分が健康だと「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は7割を超えている。「感じる」は前回（令和3年度）調査より4.8ポイント減少している。

(5) 健康診断や人間ドックの受診状況

健康診断や人間のドックの受診状況は、「定期的に受けている」と「不定期だが受けている」を合わせた、「受けている」は8割台半ばである。「受けている」は前回（令和3年度）調査より2.7ポイント増加している。

(6) 地域医療体制の整備状況

地域医療体制の整備状況は、整っていると「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約5割である。「感じる」は前回（令和3年度）調査より5.5ポイント減少している。

(7) 生涯学習情報の得やすさ

生涯学習の得やすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割である。「感じる」は前回（令和3年度）調査より0.3ポイント増加している。

(8) 消費生活センター

消費生活センターが身近な消費生活相談窓口であることの認知度は、「知っている」が3割台半ば、「知らない」が6割台半ばである。「知っている」前回（令和2年度）調査より9.2ポイント減少している。

(9) 土地利用について

地域の特性を活かした土地利用が図られていると感じるかについては、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は1割台半ばである。「感じる」は前回（令和2年度）調査より9.1ポイント減少している。

(10) 緑豊かなまち

緑豊かなまちは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は7割台半ばである。「感じる」は前回（令和3年度）調査より2.6ポイント減少している。

(11) 鉄道の利用しやすさ

鉄道の利用しやすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は6割台半ばである。「感じる」は、前回（令和3年度）調査より0.8ポイント減少している。

(12) バスの利用しやすさ

バスの利用しやすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は3割台半ばである。「感じる」は前回（令和3年度）調査より1.4ポイント減少している。

(13) 市内・市外間の移動のしやすさ

市内・市外間の移動のしやすさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は4割台半ばである。「感じる」は前回（令和3年度）調査より2.4ポイント減少している。

(14) 交通弱者にやさしい交通環境

交通弱者にやさしい交通環境は、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は1割台半ばである。「感じる」は前回（令和3年度）調査より2.1ポイント減少している。

(15) 道路状況

道路状況が整っているかについて、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は3割である。「感じる」は前回（令和2年度）調査より8.5ポイント減少している。

(16) まちのきれいさ

まちのきれいさは、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は6割台半ばである。「感じる」は、前回（令和3年度）調査より0.6ポイント減少している。

(17) 行政情報の提供状況

市民が知りたい行政情報が十分に提供されているかについて、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割台半ばである。「感じる」は前回（令和2年度）調査より13.8ポイント減少している。

(18) 市政に対する意見・要望

市政に対する意見や要望を伝える機会と手段が整えられているかについて、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は1割を超えている。「感じる」は前回（令和2年度）調査より10.6ポイント減少している。

(19) 多様な生き方・働き方

性別にとらわれず多様な生き方・働き方を選択できるかについて、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約2割である。「感じる」は前回（令和2年度）調査より12.2ポイント減少している。

(20) 国際交流・協力

国際交流・協力に関する活動への参加等については、「思う」と「どちらかというと思う」を合わせた、「思う」は約3割である。「思う」は前回（令和3年度）調査より1.7ポイント減少している。

(21) 新川周辺の活性化

新川周辺が活性化していると感じるかについて、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約3割である。「感じる」は前回（令和2年度）調査より11.9ポイント減少している。

(22) 居住希望

今後も八千代市に住み続けたいかについて、「考えている」と「どちらかというと考えている」を合わせた、「考えている」は7割台半ばである。「感じる」は前回（令和2年度）調査より2.7ポイント増加している。

(23) 行政経営

行政が自らの責任と判断に基づき行政経営が行われているかについて、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は2割を超えている。「感じる」は前回（令和2年度）調査より1.1ポイント減少している。

(24) 公共施設のサービス・設備・管理

公共施設のサービス・設備・管理の満足度については、「感じる」と「どちらかというと感じる」を合わせた、「感じる」は約4割である。

【市外在住市内在勤者調査】

1 八千代市のイメージについて

(1) 市のイメージ

市のイメージは、「自然が豊かな都市」が3割を超え最も多く、「生活に便利な都市」が2割台半ば、「安心して暮らせる都市」が約1割である。性別で見ると、男性で「生活に便利な都市」、女性で「安心して暮らせる都市」や「自然が豊かな都市」の割合が比較的多い。年齢別で見ると、70歳以上で「生活に便利な都市」、50歳代で「自然が豊かな都市」が多いことが目立つ。

2 八千代市の魅力について

(1) 市の魅力

八千代市は住んでみたくなる魅力的なまちと思うか、との問いに対しては、「どちらともいえない」が5割台半ばで最も多く、「そう思わない」が2割台半ば、「そう思う」が約2割となっている。性別で見ると、「そう思う」の割合は女性の方が男性よりも5.5ポイント多い。年齢別で見ると、「そう思う」の割合は30歳代で最も多く、「そう思わない」の割合は40歳代で最も多い。

(2) 魅力的なまちになるための方向性

魅力的なまちになるための方向性は、「居住環境の整備されたまち」が4割台半ばで最も多く、次いで、「医療や福祉の充実したまち」が約4割、「災害に強いまち」が3割台半ばである。性別で見ると、「商工業が発展したまち」の割合は男性の方が女性よりも8.8ポイント多い。年齢別で見ると、30歳代と50歳代で「近代的農業と住宅が調和したまち」、40歳代で「居住環境の整備されたまち」の割合が多い。

3 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について

(1) 市が力を入れて取り組むべき施策

今後、市が力を入れて取り組むべき施策としては、「道路」が4割を超え最も多く、「公共交通」が約3割、「高齢者」が2割台半ばである。性別で見ると、男性で「公共交通」、女性で「高齢者」などの割合が比較的多い。年齢別で見ると、29歳以下と30歳代で「子育て支援」、50歳代で「公共交通」の割合が比較的多い。

4 市内の施設等の利用について

市外からの通勤者が、帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設が「ある」は4割台半ば、「ない」は約5割となっている。性別で見ると、「ある」の割合は女性の方が男性よりも11.7ポイント多い。年齢別で見ると、29歳以下から60歳代までの各年齢層で「ある」が4～5割となっている。

帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設が「ある」と答えた人に、その立ち寄り先の施設を尋ねた結果、「ショッピングセンター」が8割で最も多く、次いで「飲食店」が5割台半ばとなっている。

市内で帰宅途中や休日に立ち寄る施設が「ある」人の立ち寄りの頻度は、「月に1～2回程度」が4割で最も多く、次いで「月に3～4回程度」が2割台半ば、「週に3～4回程度」が約2割である。

立ち寄りたい施設は、「ショッピングセンター・デパート」が約4割で最も多く、「飲食店（カフェを含む）」が3割を超え、「商業施設・小売店」が2割台半ばである。

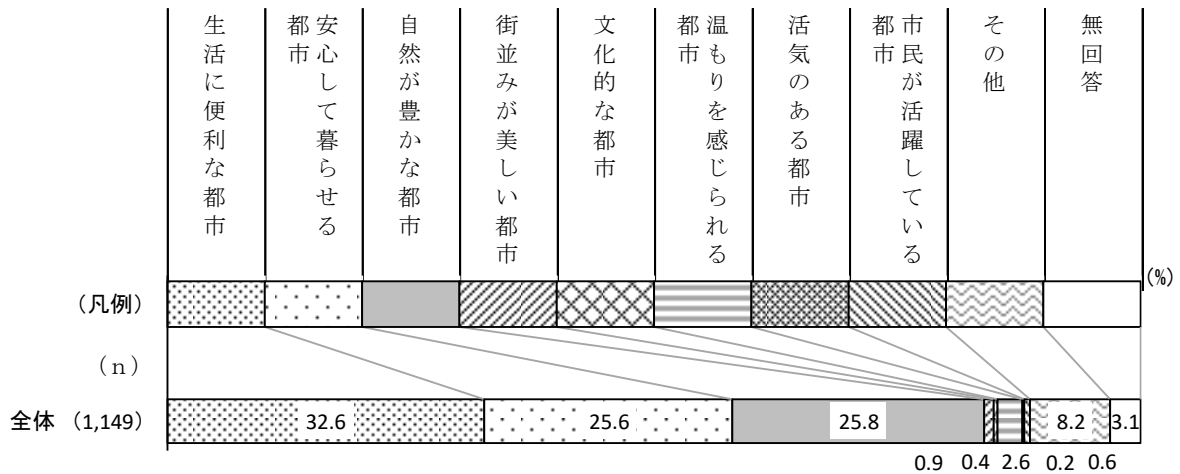
V 調査結果の分析－市内在住者調査－

V 調査結果の分析－市内在住者調査－

1 八千代市のイメージについて

(1) 市のイメージ

問1 八千代市にどのようなイメージをお持ちですか。最もあてはまるものをお選びください。
(○は1つ)

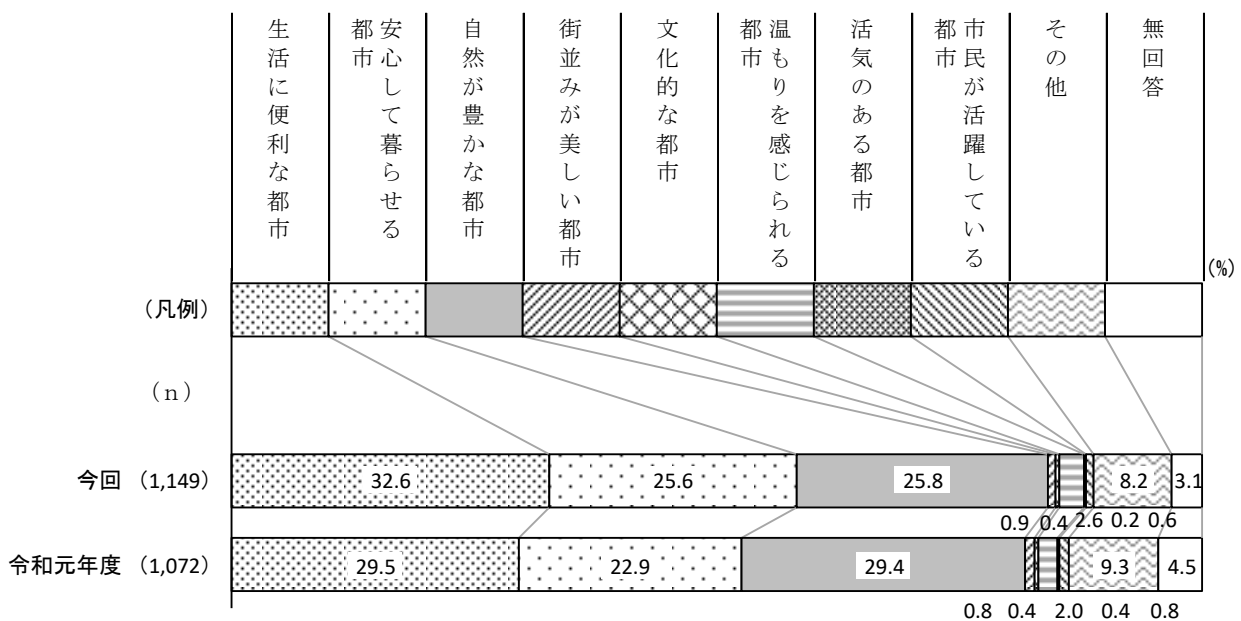


八千代市のイメージは、「生活に便利な都市」が32.6%で最も多く、「自然が豊かな都市(25.8%)」、「安心して暮らせる都市(25.6%)」が続いており、この3項目で84.0%を占める。

《時系列比較》

上位3項目を前回(令和元年度)調査と比較すると、「生活に便利な都市」は3.1ポイント増加、「安心して暮らせる都市」は2.7ポイント増加したが、「自然が豊かな都市」は3.6ポイント減少している。

<参考：過去の同様の設問の結果>



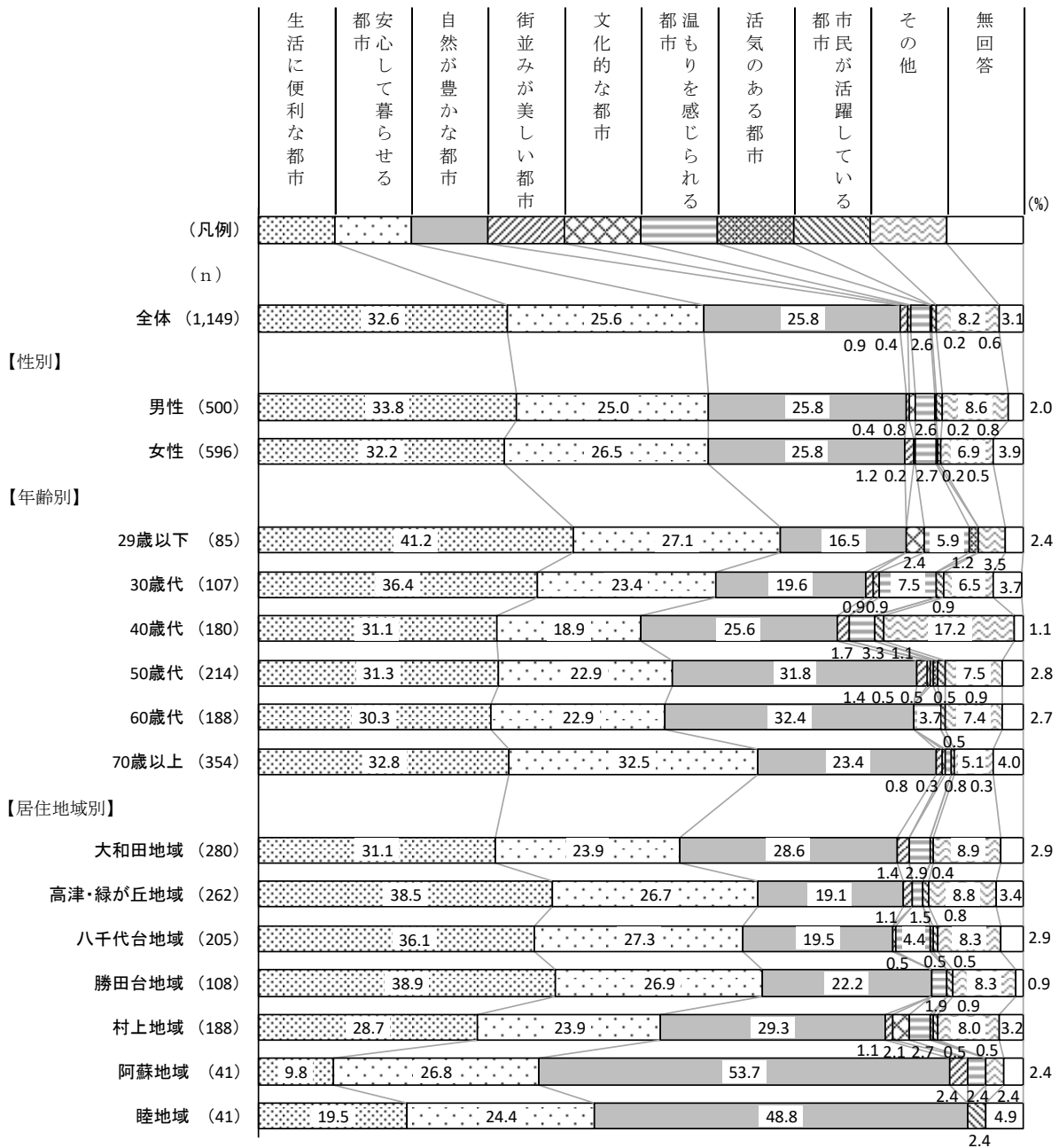
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では、「生活に便利な都市」の割合は年齢層が低いほど多く、29歳以下では41.2%となっている。「安心して暮らせる都市」の割合は70歳以上が32.5%で最も多く、「自然が豊かな都市」は50歳代と60歳代で3割を上回っている。

居住地域別では、阿蘇地域、睦地域で「自然が豊かな都市」の割合が多い。「生活に便利な都市」の割合は、勝田台地域、高津・緑が丘地域などで多くなっている。

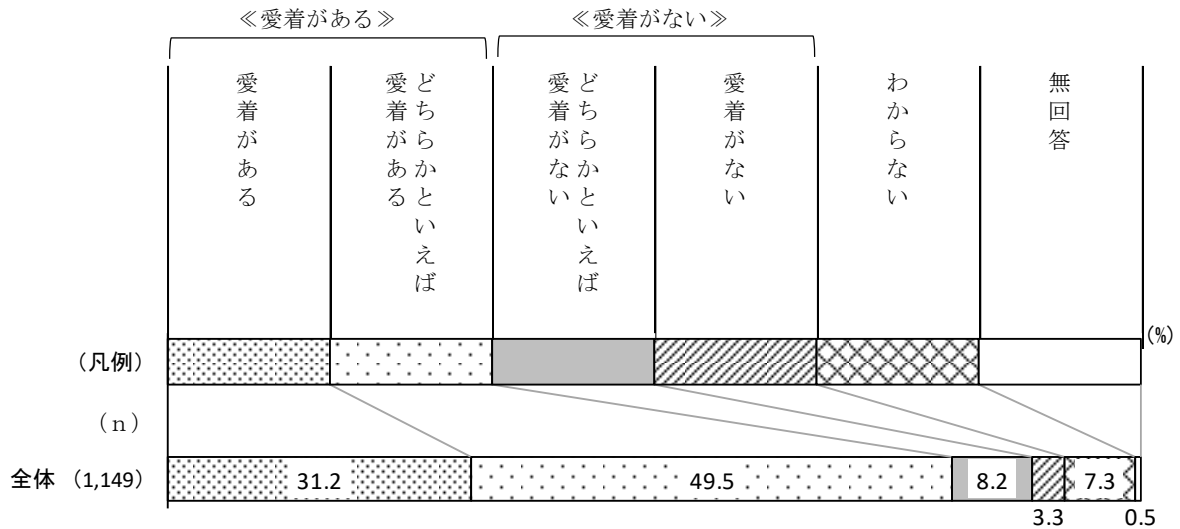
＜性別・年齢別・居住地域別＞



2 定住意向について

(1) 市への愛着心

問2 八千代市に愛着を持っていますか。(〇は1つ)

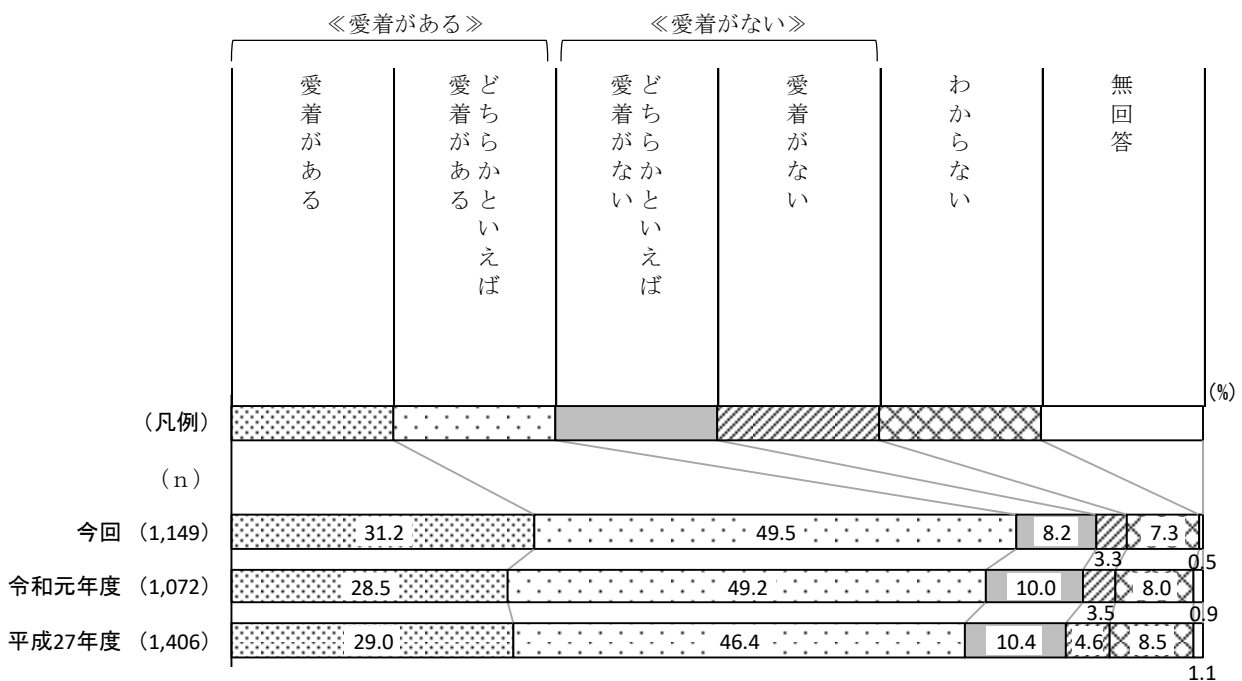


市への愛着は、「どちらかといえば愛着がある」が49.5%で最も多く、「愛着がある」が31.2%で、これらを合わせた《愛着がある》は80.7%となっている。一方、「どちらかといえば愛着がない」が8.2%、「愛着がない」が3.3%で、合わせた《愛着がない》は11.5%である。

《時系列比較》

前回（令和元年度）調査と比較すると，《愛着がある》の割合は3.0ポイント増加している。

<時系列比較>



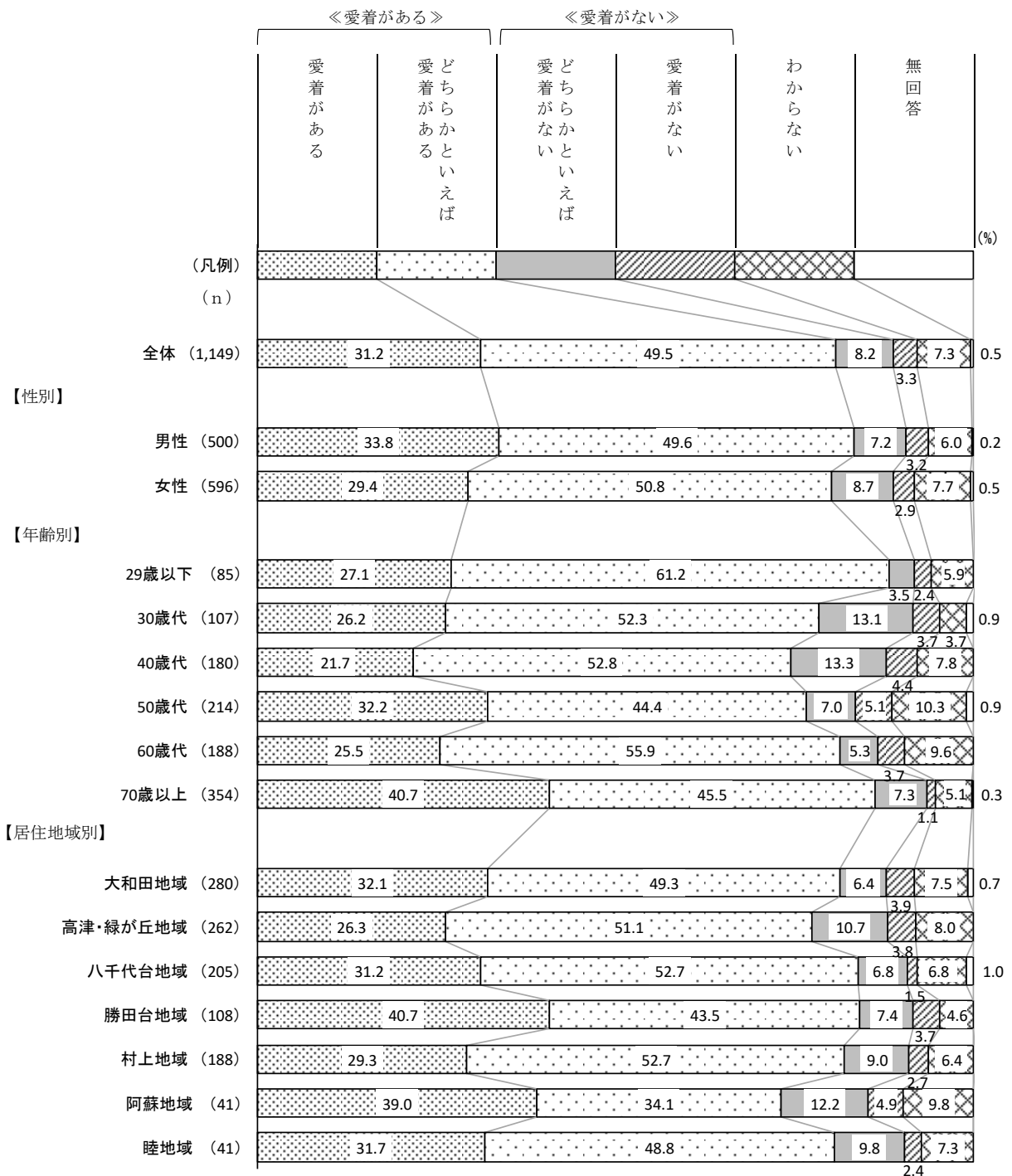
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《愛着がある》の割合は、男性の方が女性よりも3.2ポイント多くなっている。

年齢別では、《愛着がある》の割合は、29歳以下が88.3%で最も多く、40歳以上の年齢層において、年齢層が上がるほど《愛着がある》の割合が多くなっている。

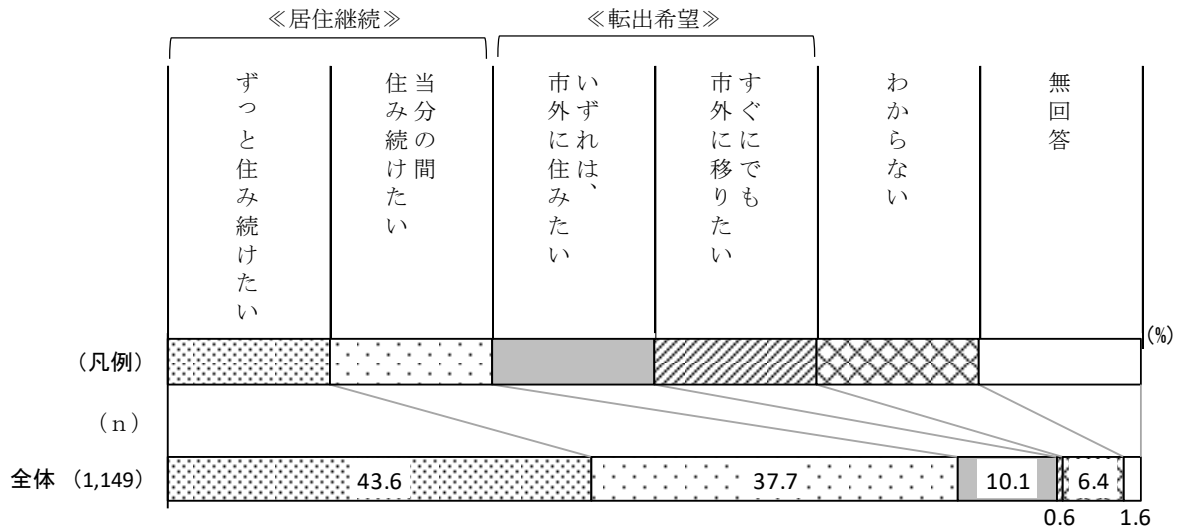
居住地域別では、《愛着がある》の割合は、勝田台地域、八千代台地域、村上地域で比較的多くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(2) 居住継続意識

問3 今後も八千代市に住み続けたいとお考えですか。(〇は1つ)

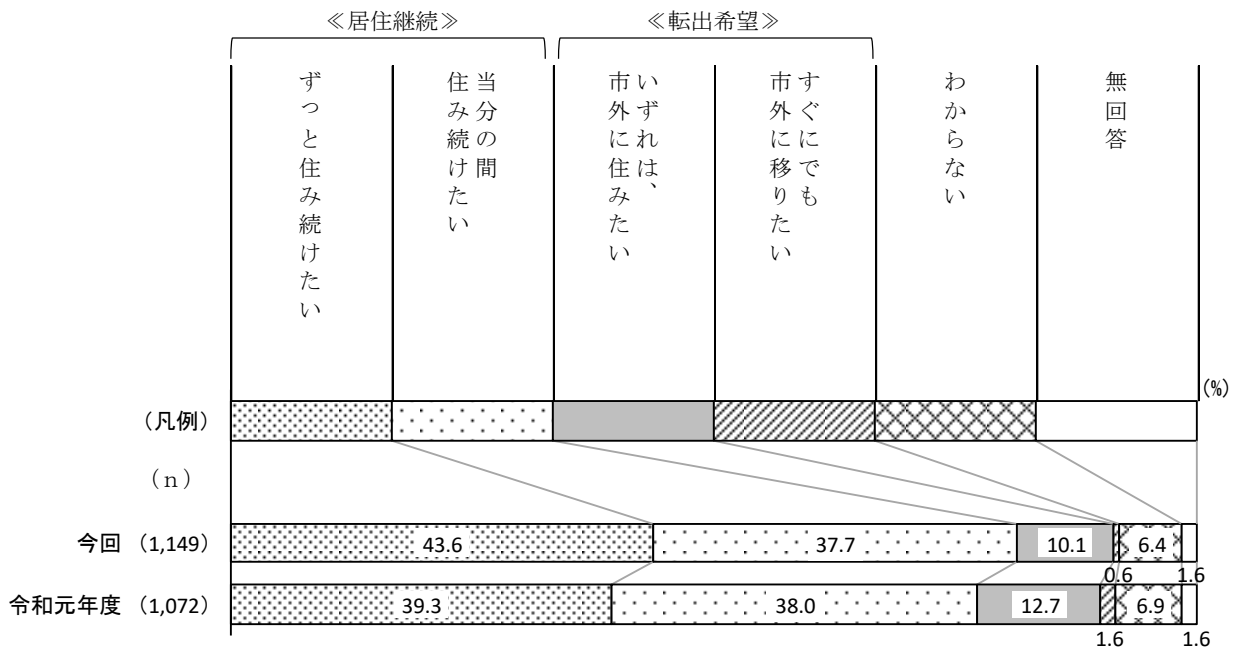


市への居住継続意識は、「ずっと住み続けたい」が43.6%で最も多く、「当分の間住み続けたい」が37.7%で、これらを合わせた81.3%が«居住継続»意識を持っている。一方、「いずれは、市外に住みたい」が10.1%、「すぐにでも市外に移りたい」が0.6%で、これらを合わせた«転出希望»は10.7%であった。

«時系列比較»

前回(令和元年度)調査と比較すると、「居住継続»の割合は4.0ポイント増加している。

<時系列比較>



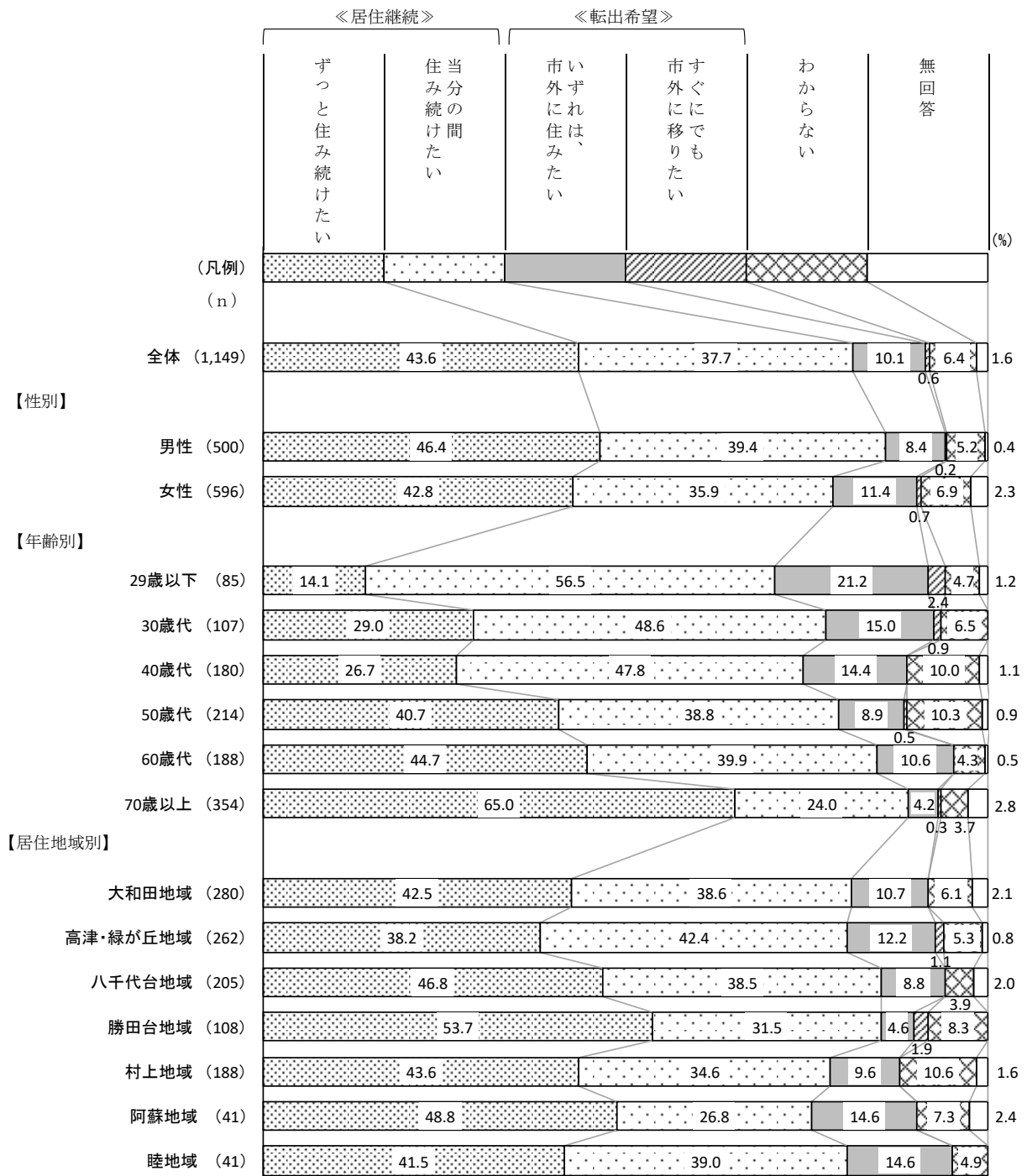
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《居住継続》の割合は男性の方が女性よりも7.1ポイント多くなっている。

年齢別では、《居住継続》の割合は年齢層が上がるほど多くなる傾向がみられ、29歳以下では70.6%であるが、70歳以上では89.0%となっている。

居住地域別では、《居住継続》の割合は八千代台地域が85.3%、勝田台地域で85.2%と多くなっている。

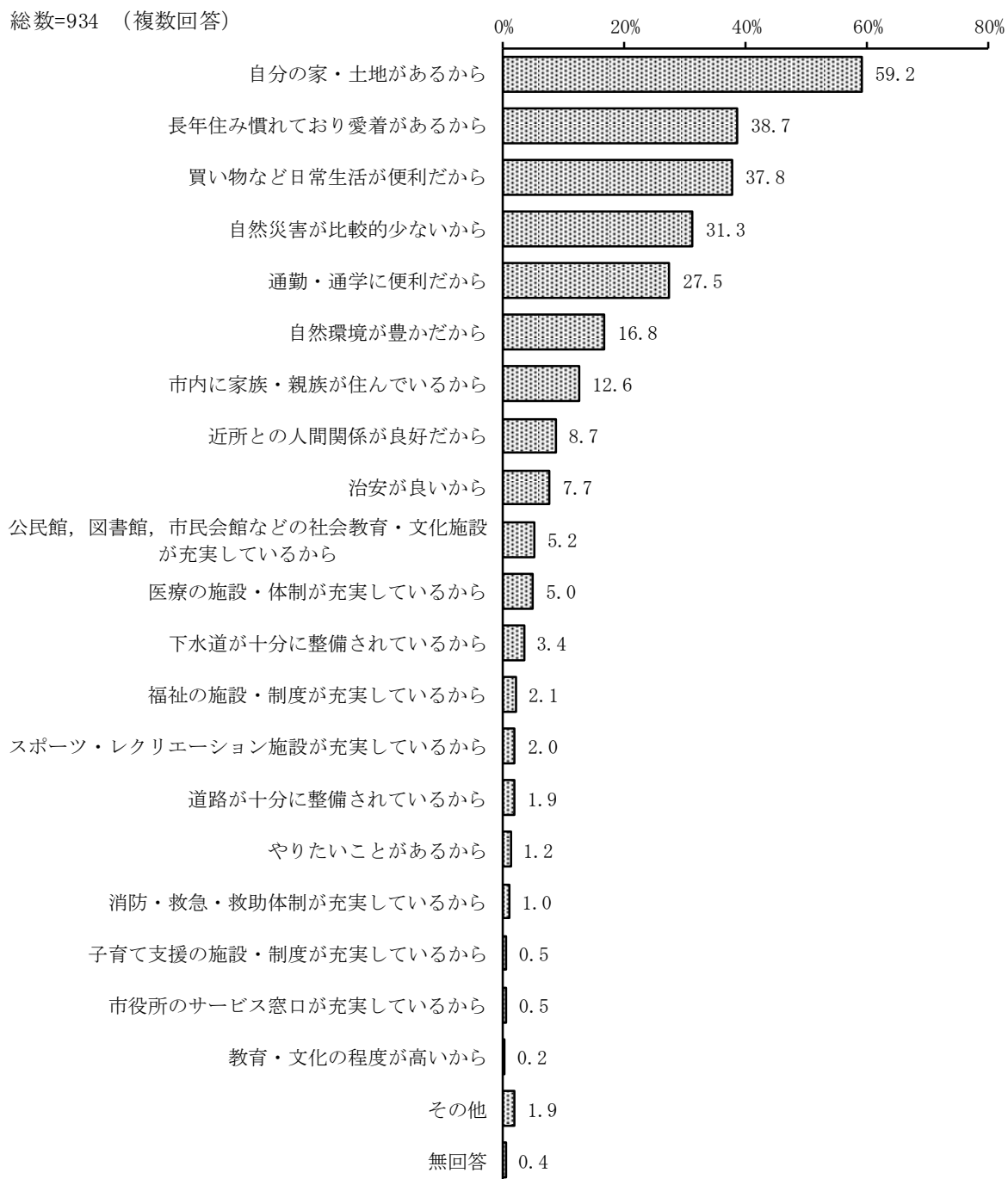
<性別・年齢別・居住地域別>



(2-1) 居住継続の理由

(問3で「1 ずっと住みたい」「2 当分の間住みたい」とお答えの方にお尋ねします)

問3-1 住みたいと思う理由を次の中から選んでください。(○は3つまで)



前問で、居住継続意識ありと分類された回答者に対し、その理由を尋ねた結果、「自分の家・土地があるから」が59.2%で最も多く、次いで、「長年住み慣れており愛着があるから」が38.7%、「買い物など日常生活が便利だから」が37.8%、「自然災害が比較的少ないから」が31.3%で続いている。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女ともに「自分の家・土地があるから」が最も多く、次いで、男性では「長年住み慣れており愛着があるから」、女性では「買い物など日常生活が便利だから」が多くなっている。

年齢別では、29歳以下で「通勤・通学に便利だから」、30歳代から70歳以上で「自分の家・土地があるから」が最多となっている。

居住地域別では、阿蘇地域では「長年住み慣れており愛着があるから」、その他の地域では「自分の家・土地があるから」が最多である。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	通勤・通学に便利だから	福祉の施設・制度が充実しているから	医療の施設・体制が充実しているから	子育て支援の施設・制度が充実しているから	実社会教育施設・文化施設が充実しているから	公民館、図書館、市民会館など施設が充実しているから	スポーツ・レクリエーション施設が充実しているから	道路が十分に整備されているから	下水道が十分に整備されているから	自然環境が豊かだから	長年住み慣れており愛着があるから	自分の家・土地があるから	教育・文化の程度が高いから	買い物など日常生活が便利だから	治安が良いから	近所との人間関係が良好だから	自然災害が比較的小さいから	市役所のサービス窓口が充実しているから	やりたいことがあるから	市内に家族・親族が住んでいるから	消防・救急・救助体制が充実しているから
性別	934 100.0	257 27.5	20 2.1	47 5.0	5 0.5	49 5.2	19 2.0	18 1.9	32 3.4	157 16.8	361 38.7	553 59.2	2 0.2	353 37.8	72 7.7	81 8.7	292 31.3	5 0.5	11 1.2	118 12.6	9 1.0	
男性	429 100.0	131 30.5	14 3.3	24 5.6	4 0.9	25 5.8	11 2.6	5 1.2	14 3.3	74 17.2	171 39.9	243 56.6	1 0.2	161 37.5	34 7.9	20 4.7	133 31.0	4 0.9	7 1.6	56 13.1	2 0.5	
女性	469 100.0	118 25.2	4 0.9	20 4.3	1 0.2	23 4.9	8 1.7	11 2.3	17 3.6	80 17.1	175 37.3	291 62.0	1 0.2	184 39.2	36 7.7	56 11.9	154 32.8	1 0.2	4 0.9	56 11.9	7 1.5	
年齢別	60 100.0	36 60.0	0 0.0	0 0.0	1 1.7	3 5.0	2 3.3	2 3.3	0 0.0	13 21.7	22 36.7	20 33.3	1 1.7	28 46.7	9 15.0	2 3.3	8 13.3	0 0.0	2 3.3	2 20.0	0 0.0	
29歳以下	83 100.0	33 39.8	0 0.0	1 1.2	3 3.6	4 4.8	0 0.0	0 0.0	1 1.2	11 13.3	20 24.1	51 61.4	0 0.0	38 45.8	9 12.0	9 10.8	18 21.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 13.3	0 0.0
30歳代	134 100.0	52 38.8	2 1.5	4 3.0	1 0.7	4 3.0	3 2.2	3 1.5	2 0.0	18 13.4	36 26.9	72 53.7	1 0.7	51 38.1	16 11.9	9 6.7	27 20.1	1 0.7	2 1.5	2 20.1	0 0.0	
40歳代	170 100.0	62 36.5	2 1.2	7 4.1	0 0.0	4 2.4	3 1.8	6 3.5	3 1.8	32 18.8	54 31.8	111 65.3	0 0.0	69 40.6	12 7.1	12 7.1	42 24.7	0 0.0	2 1.2	17 10.0	1 0.6	
50歳代	159 100.0	33 20.8	4 2.5	5 3.1	0 0.0	6 3.8	3 1.9	2 1.3	4 2.5	32 20.1	73 45.9	107 67.3	0 0.0	53 33.3	6 3.8	18 11.3	46 28.9	1 0.6	4 2.5	12 7.5	2 1.3	
60歳代	315 100.0	38 12.1	10 3.2	27 8.6	0 0.0	28 8.9	8 2.5	5 1.6	23 7.3	50 15.9	150 47.6	186 59.0	0 0.0	113 35.9	18 5.7	26 8.3	150 47.6	3 1.0	1 0.3	38 12.1	6 1.9	
70歳以上	227 100.0	61 26.9	4 1.8	16 7.0	2 0.9	16 7.0	7 3.1	4 1.8	2 0.9	44 19.4	89 39.2	134 59.0	-	82 36.1	23 10.1	15 6.6	59 26.0	0 0.4	2 0.9	37 16.3	2 0.9	
居住地域別	211 100.0	63 29.9	1 0.5	7 3.3	2 0.9	7 3.3	3 1.4	5 2.4	4 1.9	29 13.7	69 32.7	120 56.9	-	107 50.7	20 9.5	15 7.1	66 31.3	-	4 1.9	31 14.7	1 0.5	
大和田地域	175 100.0	54 30.9	5 2.9	8 4.6	-	2 1.1	2 1.1	3 1.7	12 6.9	15 8.6	66 37.7	116 66.3	-	68 38.9	13 7.4	15 8.6	54 30.9	3 1.7	3 1.7	14 8.0	3 1.7	
高津・緑が丘地域	92 100.0	21 22.8	3 3.3	6 6.5	-	5 5.4	1 1.1	1 1.1	4 4.3	8 8.7	39 42.4	54 58.7	-	37 40.2	3 3.3	11 12.0	37 40.2	-	-	9 9.8	2 2.2	
八千代台地域	147 100.0	45 30.6	4 2.7	4 2.7	1 0.7	15 10.2	5 3.4	5 3.4	36 24.5	36 39.5	58 59.2	87 59.2	1 0.7	51 34.7	7 4.8	15 10.2	49 33.3	-	1 1.4	16 10.9	1 0.7	
勝田台地域	31 100.0	4 12.9	2 6.5	2 6.5	-	3 9.7	1 3.2	1 3.2	2 6.5	11 35.5	18 58.1	11 35.5	-	2 6.5	2 6.5	2 6.5	13 41.9	1 3.2	-	3 9.7	1 3.2	
阿蘇地域	33 100.0	5 15.2	-	-	-	1 3.0	-	1 3.0	1 3.0	10 30.3	15 45.5	23 69.7	1 3.0	3 9.1	3 9.1	3 12.1	4 36.4	1 3.0	-	6 18.2	1 3.0	
睦地域																						

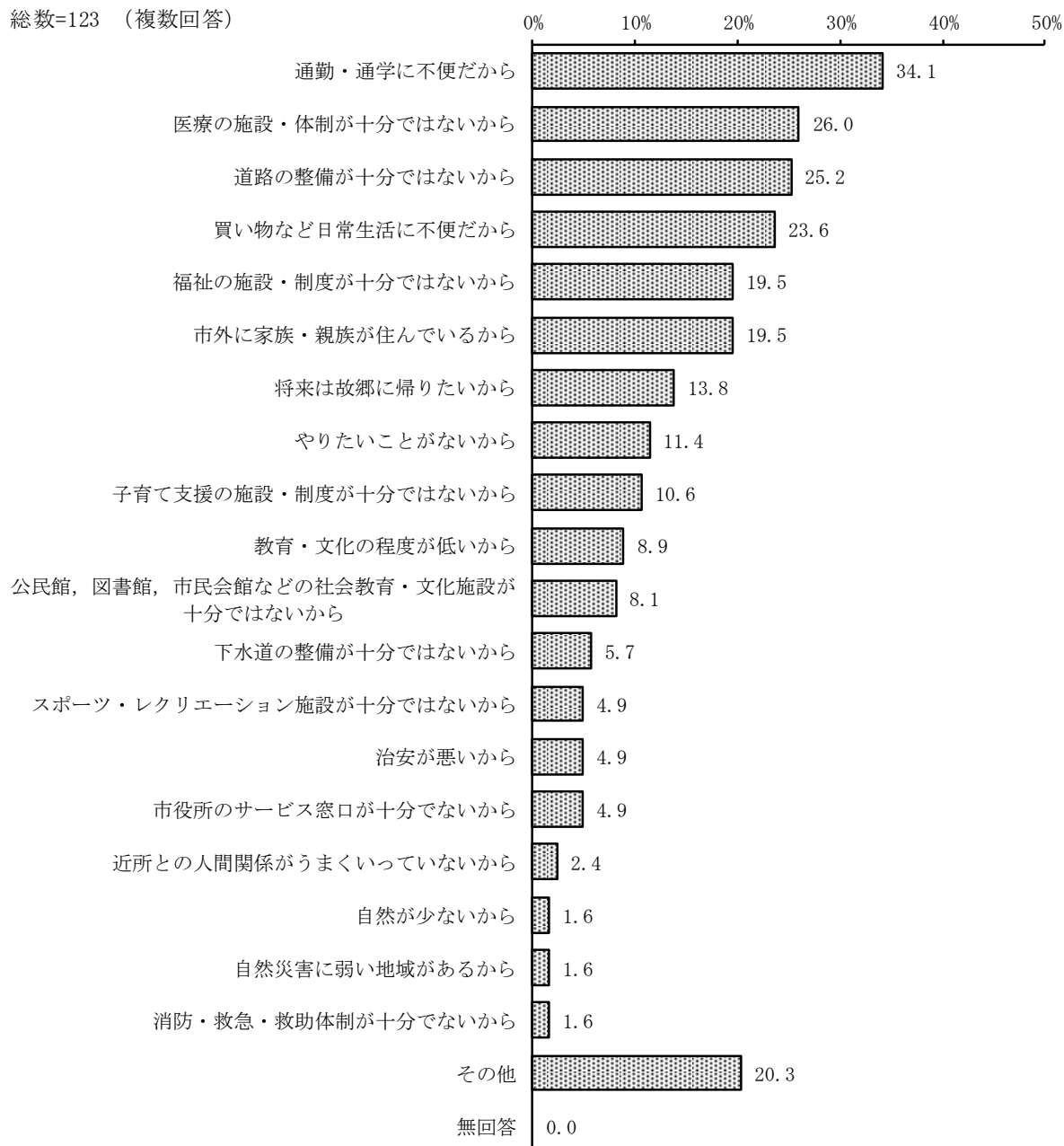
各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)
 注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

(2-2) 転出希望の理由

(問3で「3 いずれは、市外に住みたい」「4 すぐにでも市外に移りたい」とお答えの方にお尋ねします)

問3-2 転出したいと思う理由は何ですか。(〇は3つまで)

総数=123 (複数回答)



前々問で転出希望と分類された回答者に対し、その理由を尋ねた結果、「通勤・通学に不便だから」が34.1%で最も多く、次いで、「医療の施設・体制が十分ではないから」が26.0%、「道路の整備が十分ではないから」が25.2%、「買い物など日常生活に不便だから」が23.6%が続いている。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女ともに「通勤・通学に不便だから」が最も多く、女性の方が男性よりも3.5ポイント多くなっている。

年齢別では、29歳以下では「通勤・通学に不便だから」、40歳代では「道路の整備が十分ではないから」、50歳代では「医療の施設・体制が十分ではないから」、60歳代では「福祉の施設・制度が十分ではないから」、「道路の整備が十分ではないから」が最多となっている。

居住地域別では、大和田地域と高津・緑が丘地域などで、「通勤・通学に不便だから」が最多となっている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

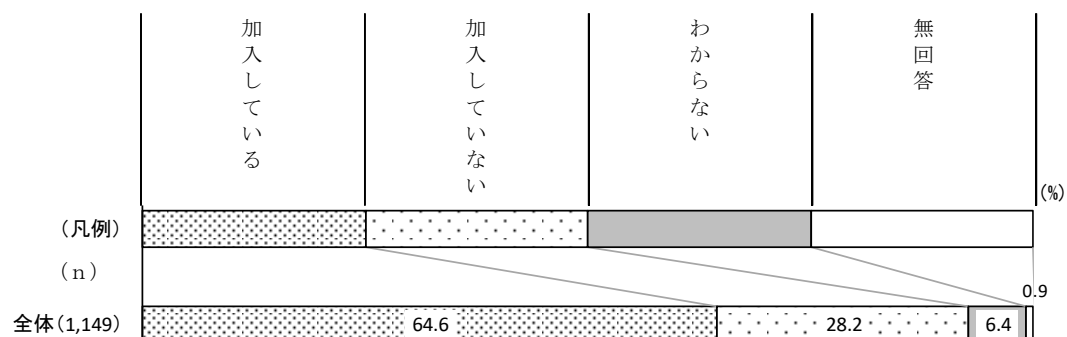
	全体	通勤・通学に不便だから	福祉の施設・制度が十分ではないから	医療の施設・体制が十分ではないから	子育て支援の施設・制度が十分ではないから	公民館、図書館、市民会館などの社会教育施設が十分ではないから	スポーツ・レクリエーション施設が十分ではないから	道路の整備が十分ではないから	下水道の整備が十分ではないから	自然が少ないから	将来は故郷に帰りたいから	教育・文化の程度が低いから	買い物など日常生活に不便だから	治安が悪いから	近所との人間関係がうまくいっていないから	自然災害に弱い地域があるから	市役所のサービス窓口が十分でないから	やりたいことがないから	市外に家族・親族が住んでいないから	消防・救急・救助体制が十分でないから	
全体	123 100.0	42 34.1	24 19.5	32 26.0	13 10.6	10 8.1	6 4.9	31 25.2	7 5.7	2 1.6	17 13.8	11 8.9	23.6 19.3	6 4.9	3 2.4	2 1.6	6 4.9	14 11.4	24 19.5	2 1.6	
性別	男性	43 100.0	14 32.6	10 23.3	13 30.2	5 11.6	2 4.7	2 4.7	11 25.6	2 4.7	1 2.3	3 7.0	4 9.3	10 23.3	4 9.3	1 2.3	3 7.0	4 9.3	5 11.6	1 2.3	
	女性	72 100.0	26 36.1	13 18.1	18 25.0	7 9.7	8 11.1	4 5.6	17 23.6	4 5.6	1 1.4	14 19.4	6 8.3	18 25.0	1 1.4	1 1.4	2 2.8	8 11.1	17 23.6	1 1.4	
年齢別	29歳以下	20 100.0	12 60.0	1 5.0	1 5.0	3 15.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	10 50.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	3 15.0	1 5.0	1 5.0	
	30歳代	17 100.0	8 47.1	3 17.6	3 17.6	4 23.5	2 11.8	2 11.8	4 23.5	1 5.9	1 5.9	1 5.9	2 11.8	1 5.9	1 5.9	1 5.9	3 17.6	4 23.5	1 5.9	1 5.9	
	40歳代	26 100.0	9 34.6	3 11.5	5 19.2	4 15.4	2 7.7	2 7.7	11 42.3	3 11.5	1 3.8	7 26.9	4 15.4	3 11.5	2 7.7	1 3.8	1 3.8	2 7.7	8 30.8	1 3.8	
	50歳代	20 100.0	7 35.0	2 10.0	10 50.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	5 25.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	4 20.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	2 10.0	2 10.0	7 35.0	1 5.0
	60歳代	20 100.0	5 25.0	7 35.0	6 30.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	7 35.0	1 5.0	1 5.0	3 15.0	1 5.0	6 30.0	1 5.0	1 5.0	1 5.0	5 25.0	2 10.0	5 25.0	1 5.0
	70歳以上	16 100.0	1 6.3	7 43.8	8 50.0	1 6.3	2 12.5	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	2 12.5	2 12.5	3 18.8	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	1 6.3	2 12.5	1 6.3
居住地域別	大和田地域	30 100.0	10 33.3	7 23.3	7 23.3	3 10.0	2 6.7	1 3.3	9 30.0	2 6.7	1 3.3	4 13.3	6 20.0	3 10.0	1 3.3	1 3.3	3 10.0	3 10.0	4 13.3	7 23.3	
	高津・緑が丘地域	35 100.0	11 31.4	8 22.9	10 28.6	6 17.1	3 8.6	2 5.7	10 28.6	1 2.9	1 2.9	5 14.3	2 5.7	7 20.0	1 2.9	1 2.9	2 5.7	5 14.3	6 17.1	1 2.9	
	八千代台地域	18 100.0	7 38.9	2 11.1	4 22.2	1 5.6	3 16.7	1 5.6	4 22.2	1 5.6	1 5.6	4 22.2	1 5.6	7 38.9	1 5.6	1 5.6	1 5.6	2 11.1	1 5.6	1 5.6	
	勝田台地域	7 100.0	1 14.3	1 14.3	2 28.6	2 28.6	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3	
	村上地域	18 100.0	4 22.2	6 33.3	5 27.8	2 11.1	1 5.6	1 5.6	11 61.1	2 11.1	1 5.6	1 5.6	1 5.6	7 38.9	1 5.6	1 5.6	1 5.6	1 5.6	1 5.6	5 27.8	
	阿蘇地域	6 100.0	4 66.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	
	睦地域	6 100.0	5 83.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)
 注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

3 「地域との関わり合い」について

(1) 自治会への加入状況

問4 自治会に加入していますか。(〇は1つ)

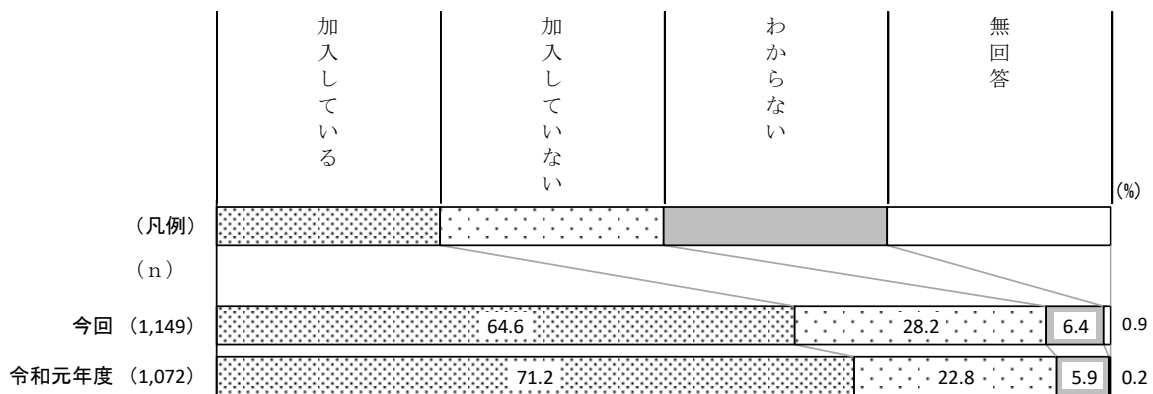


自治会への加入状況は、「加入している」が64.6%で、「加入していない」が28.2%となっている。

《時系列比較》

前回（令和元年度）調査と比較すると、「加入している」の割合は6.6ポイント減少している。

<時系列比較>



《性別・年齢別・住居形態別・居住地域別》

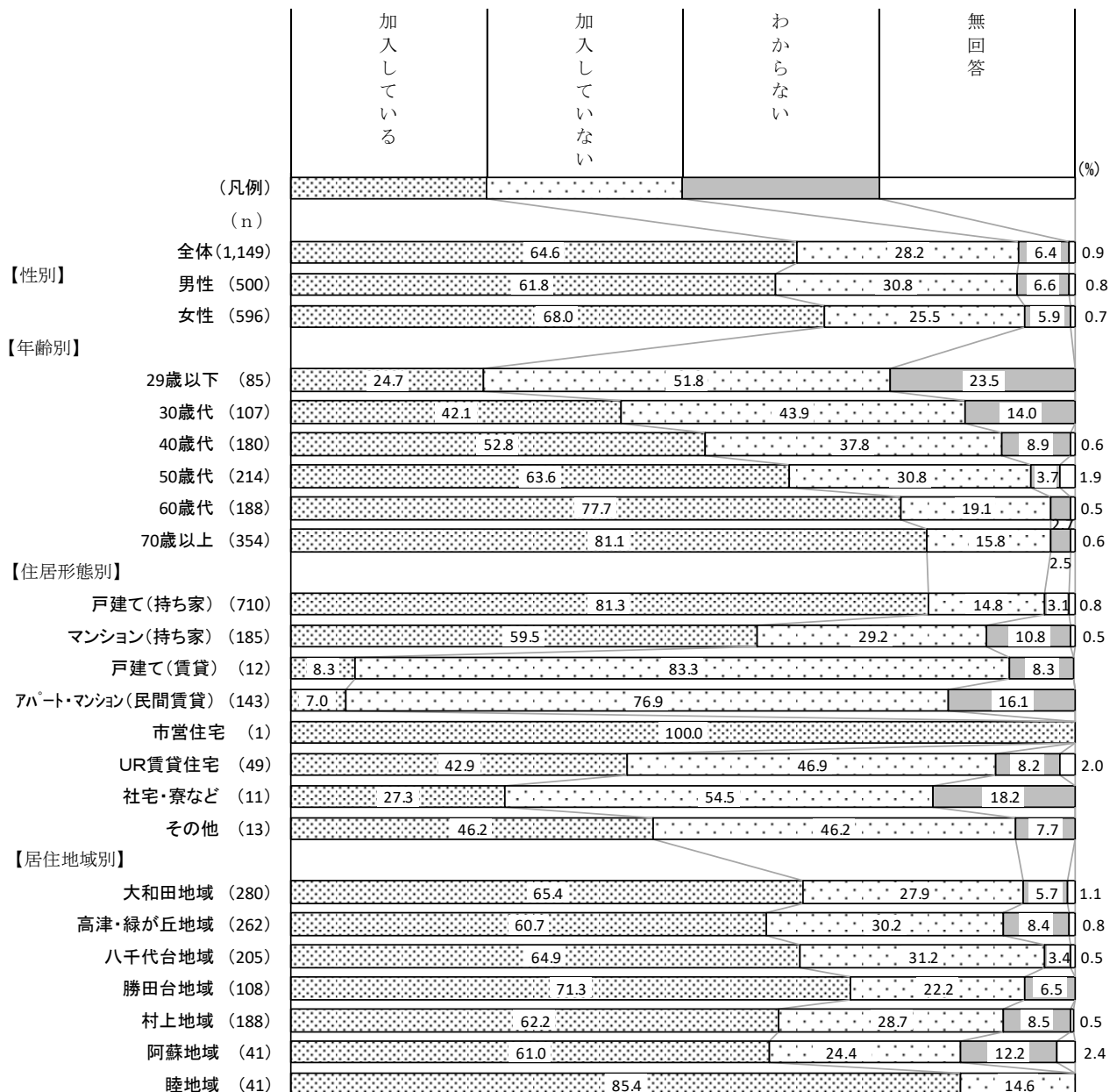
性別では、「加入している」の割合は、女性の方が男性よりも6.2ポイント多くなっている。

年齢別では、年齢層が上がるほど「加入している」の割合が多く、その値は、29歳以下では24.7%であるのに対し、70歳以上では81.1%と、3倍以上の開きがある。

住居形態別にみると、戸建て（持ち家）では81.3%が「加入している」のに対し、アパート・マンション（民間賃貸）では7.0%と大きな相違がある。マンションでも持ち家の場合は59.5%が「加入している」であり、持ち家である場合に「加入している」の割合が多い。

居住地域別では、睦地域で「加入している」の割合が85.4%と最も多く、高津・緑が丘地域では60.7%と最も少ない。

＜性別・年齢別・住居形態別・居住地域別＞



(1-1) 自治会に加入しない理由

(問4で「2 加入していない」とお答えの方にお伺いします)

問4-1 自治会に加入しない理由は何ですか。最もあてはまるものをお選びください。(〇は1つ)



前問で、自治会に「加入していない」と答えた回答者にその理由を尋ねたところ、「自分が住んでいるところに自治会がないから」が25.3%で最も多く、次いで、「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」が15.7%、「その他」が12.3%、「当番などを負担に感じるから」と「自治会加入のメリットを感じないから」が12.0%の順となっている。

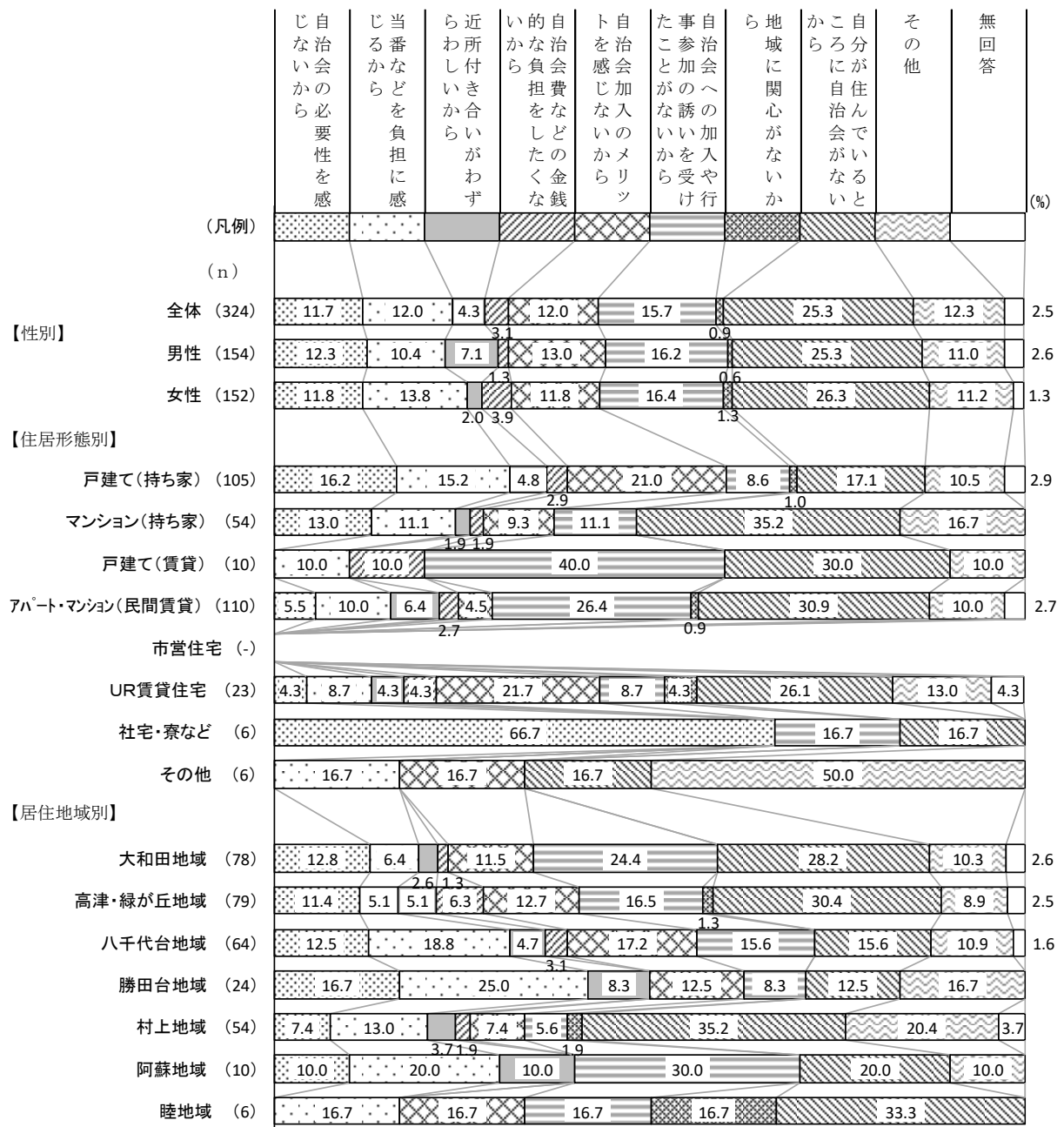
《性別・住居形態別・居住地域別》

性別にみると、男性では「近所付き合いがわずらわしいから」、女性では「当番などを負担に感じるから」、「自治会費などの金銭的な負担をたくないから」が比較的多くなっている。

住居形態別では、特に「加入していない」割合が多いアパート・マンション（民間賃貸）において、「自分が住んでいるところに自治会がないから」や「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」の割合が多い。

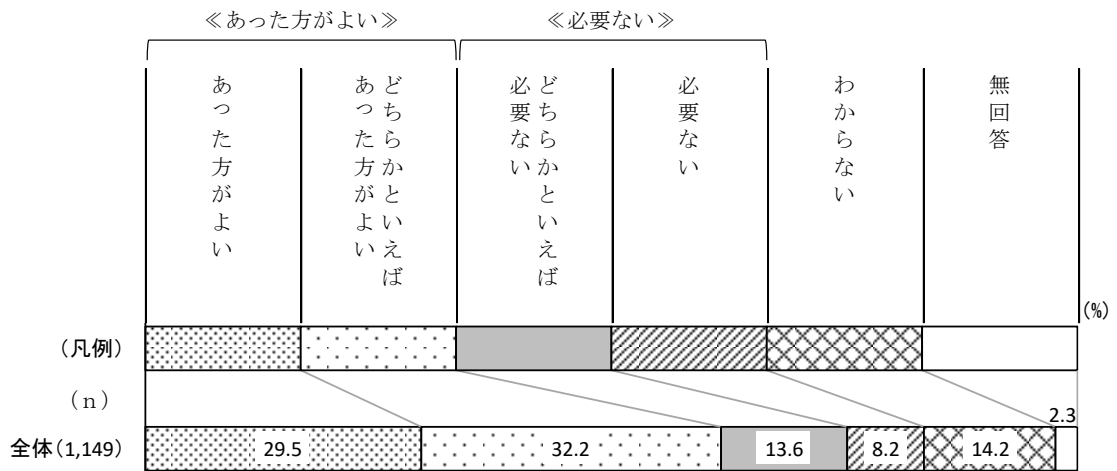
居住地域別では、村上地域や睦地域では「自分が住んでいるところに自治会がないから」、阿蘇地域や大和田地域では「自治会への加入や行事参加の誘いを受けたことがないから」の割合が比較的多い。

<性別・居住形態別・居住地域別>



(2) 自治会の必要性

問5 自治会はあった方がよいと思いますか。(○は1つ)

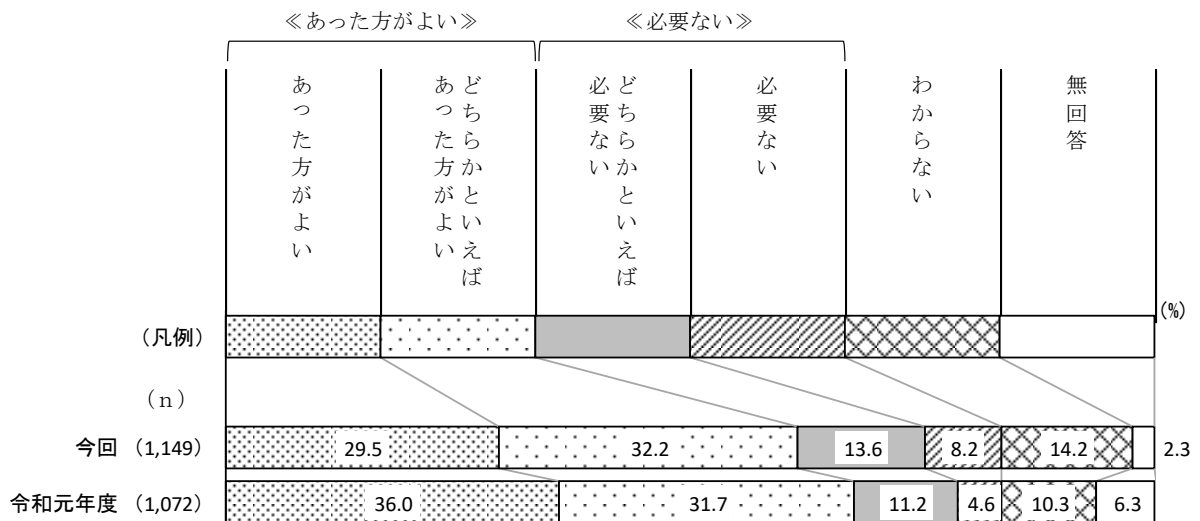


自治会の必要性については、「あった方がよい」が29.5%、「どちらかといえはあった方がよい」が32.2%で、これらを合わせた《あった方がよい》が61.7%となっている。一方、「どちらかといえは必要ない」が13.6%、「必要ない」が8.2%で、合わせた《必要ない》は21.8%である。「わからない」は14.2%となっている。

《時系列比較》

前回(令和元年度)調査と比較すると、《あった方がよい》の割合は6.0ポイント減少している。

<時系列比較>



《性別・年齢別・住居形態別・居住地域別》

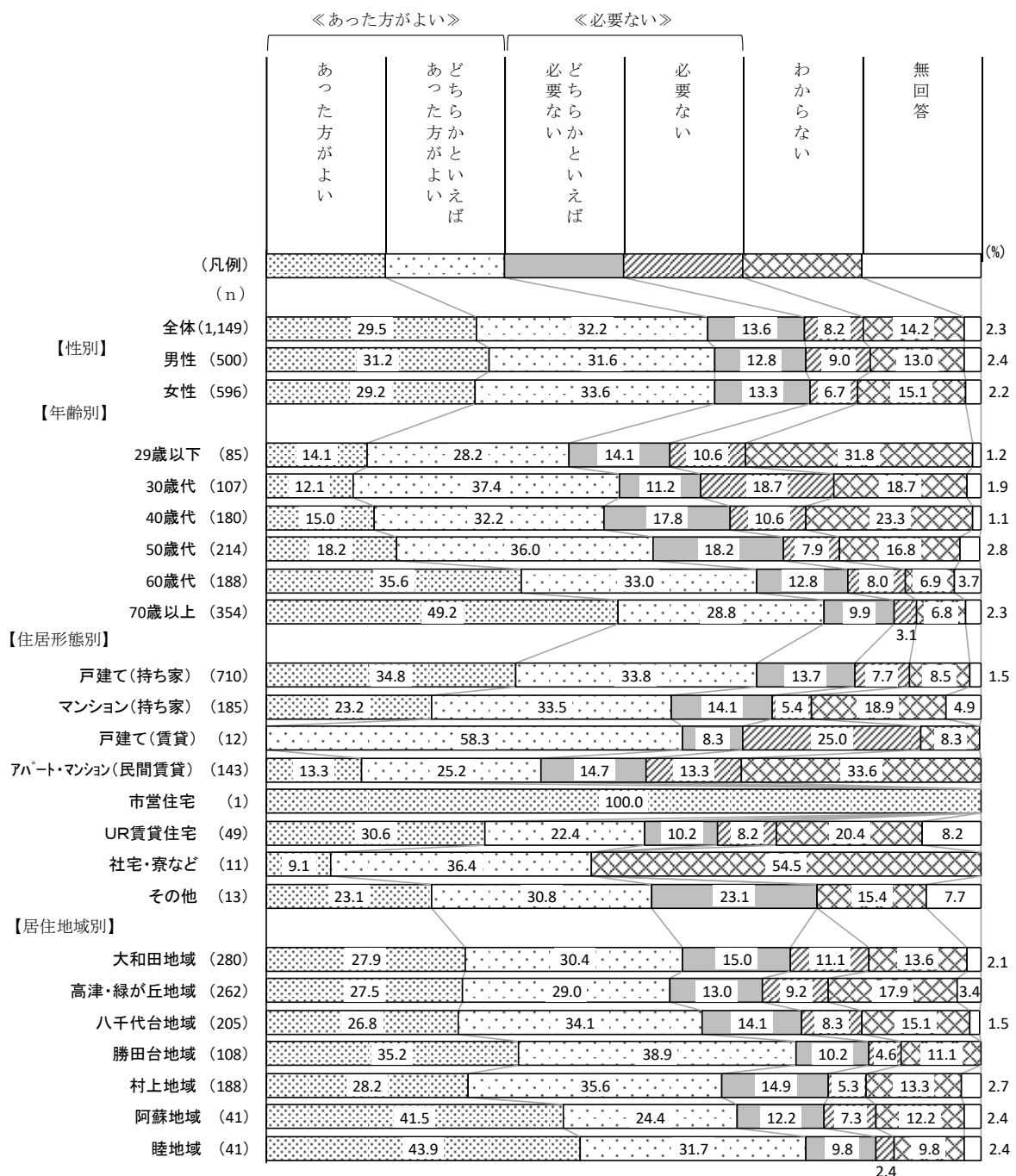
性別では、《あった方がよい》の割合は男女で大きな差異はみられない。

年齢別では、《あった方がよい》の割合は、年齢層が上がるほど多くみられる。なお、29歳以下では、「わからない」が3割を超えている。

住居形態別では、戸建て（持ち家）では《あった方がよい》の割合が比較的多く、アパート・マンション（民間賃貸）ではその値が38.5%と目立って少なくなっている。

居住地域別では、《あった方がよい》の割合は睦地域の75.6%が最も多く、次いで勝田台地域が74.1%となっている。一方、高津・緑が丘地域が56.5%で最も少ない。

<性別・年齢別・住居形態別・居住地域別>

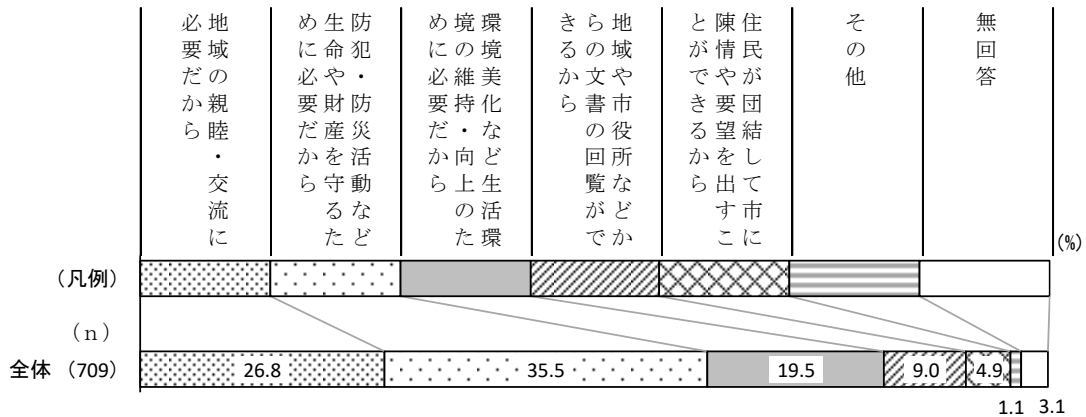


(2-1) 自治会が必要だと思う理由

(問5で「1 あった方がよい」「2 どちらかといえばあった方がよい」とお答えの方にお尋ねします)

問5-1 なぜ自治会はあった方がよいと思いますか。最もあてはまるものをお選びください。

(○は1つ)



前問で、自治会が「あった方がよい」(「どちらかといえば」を含む)に分類された回答者にその理由を尋ねたところ、「防犯・防災活動など生命や財産を守るために必要だから」が35.5%で最も多く、次いで、「地域の親睦・交流に必要だから」が26.8%、「環境美化など生活環境の維持・向上のために必要だから」が19.5%で続いている。

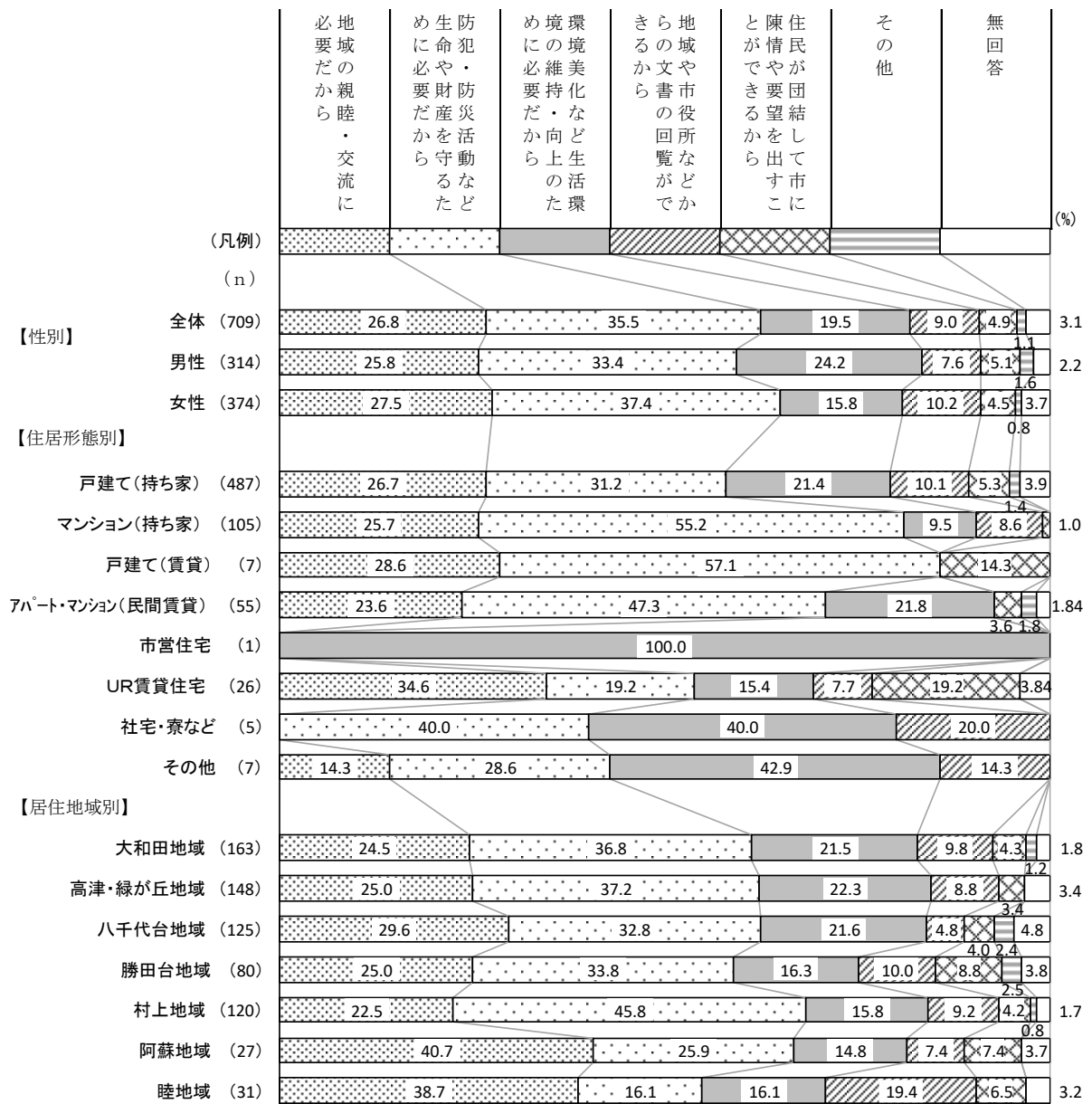
《性別・住居形態別・居住地域別》

性別では、「環境美化など生活環境の維持・向上のために必要だから」の割合は男性の方が女性よりも8.4ポイント多くなっている。

住居形態別では、「防犯・防災活動など生命や財産を守るために必要だから」の割合がマンション(持ち家)や戸建て(賃貸)で5割を上回っている。

居住地域別では、村上地域で「防犯・防災活動など生命や財産を守るために必要だから」、阿蘇地域や陸地域で「地域の親睦・交流に必要だから」の割合が比較的多くなっている。

<性別・住居形態別・居住地域別>



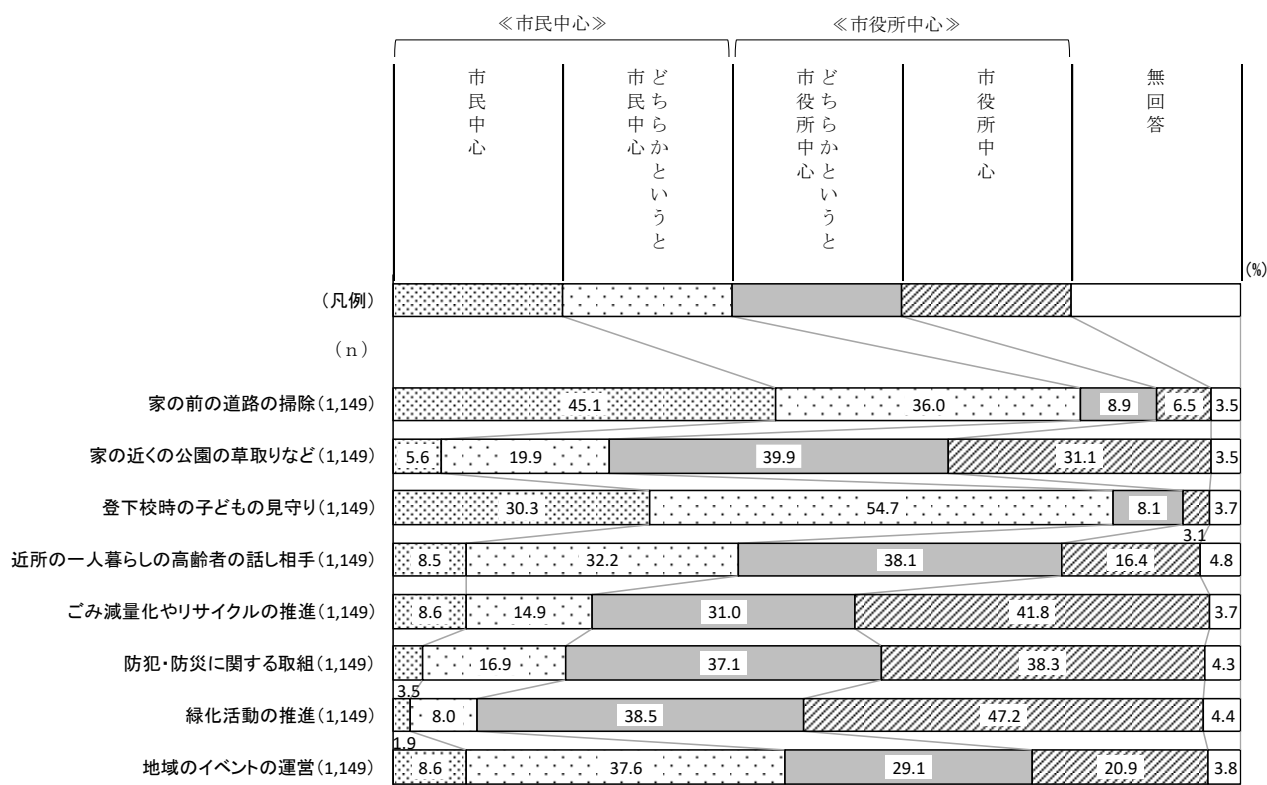
4 「行政サービスの在り方」について

(1) 市民と市役所の関係

問6 次のような仕事について、市民か市役所のどちらが中心になって行うべきだと思いますか。

(○は1つずつ)

(※「市民」には「市民」個人だけではなく、自治会などのコミュニティ組織を含みます。)



8種類のまちづくりに関する活動に関して、その中心主体が市民、市役所のどちらであるべきかを尋ねるものである。

「どちらかという」を含めて、《市民中心》と《市役所中心》に二分し、それぞれで回答割合の多い活動項目を列挙すると、以下のようになる。

市民中心			市役所中心	
1位	登下校時の子どもの見守り	85.0%	緑化活動の推進	85.7%
2位	家の前の道路の掃除	81.1%	防犯・防災に関する取組	75.4%
3位	地域のイベントの運営	46.2%	ごみ減量化やリサイクルの推進	72.8%

なお、「地域のイベントの運営」は、《市民中心》(46.2%)と《市役所中心》(50.0%)の割合が拮抗している。

◎家の前の道路の掃除

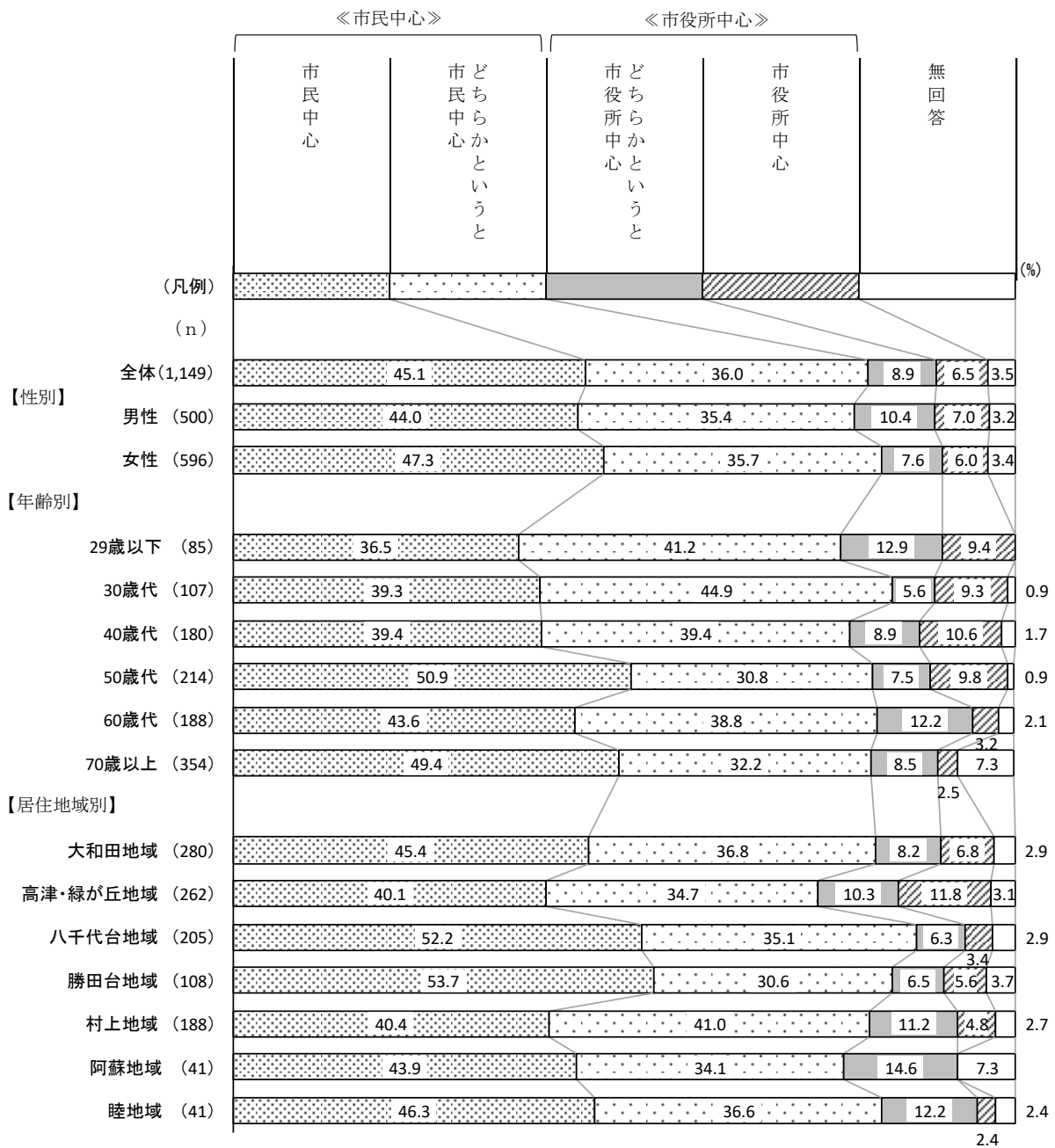
＜性別・年齢別・居住地域別＞

性別では、《市民中心》の割合は、女性の方が男性よりも3.6ポイント多くなっている。

年齢別では、《市民中心》の割合は30歳代が最も多く、次いで60歳代、50歳代が続いている。

居住地域別では、八千代台地域、勝田台地域で《市民中心》の割合が比較的多い。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

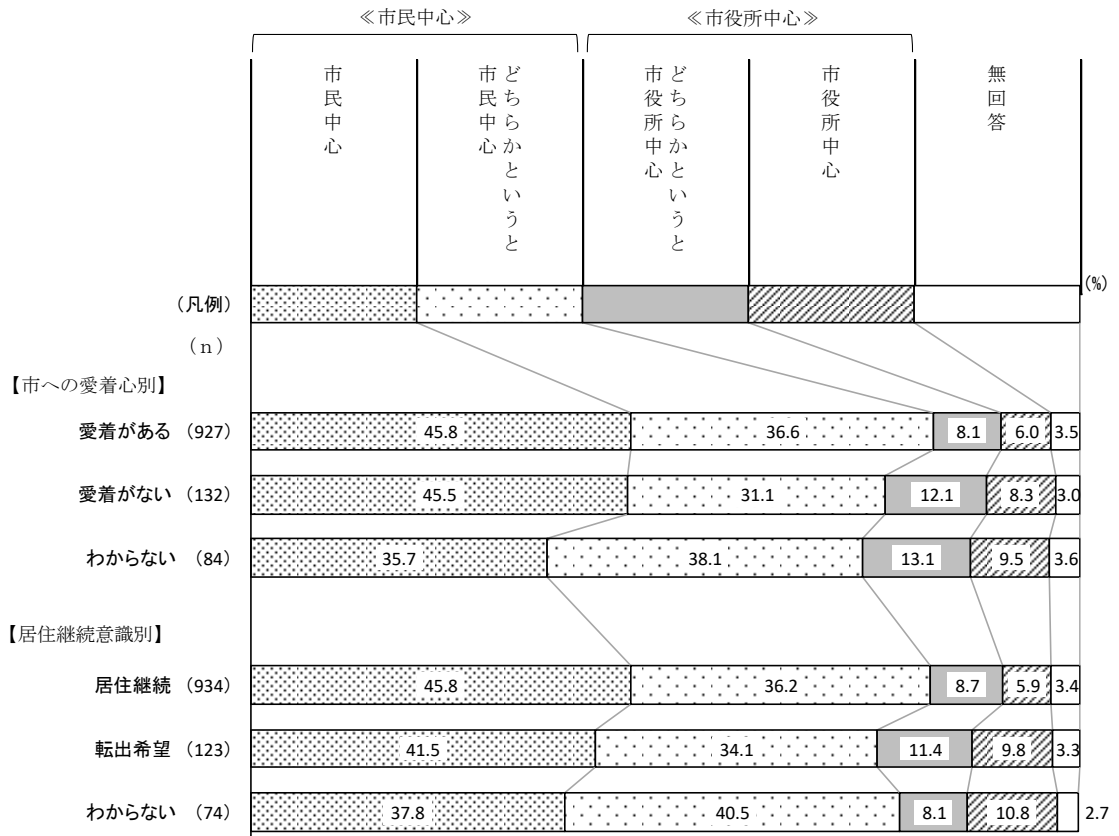


《市への愛着心別・居住継続意識別》

市への愛着心があると分類された回答者の方が、ないと分類された回答者よりも《市民中心》の割合が多くなっている。

市内への居住継続意識ありと分類された回答者の方が、転出希望の回答者に比べて、《市民中心》の割合が多くなっている。

＜市への愛着心別・居住継続意識別＞



◎家の近くの公園の草取りなど

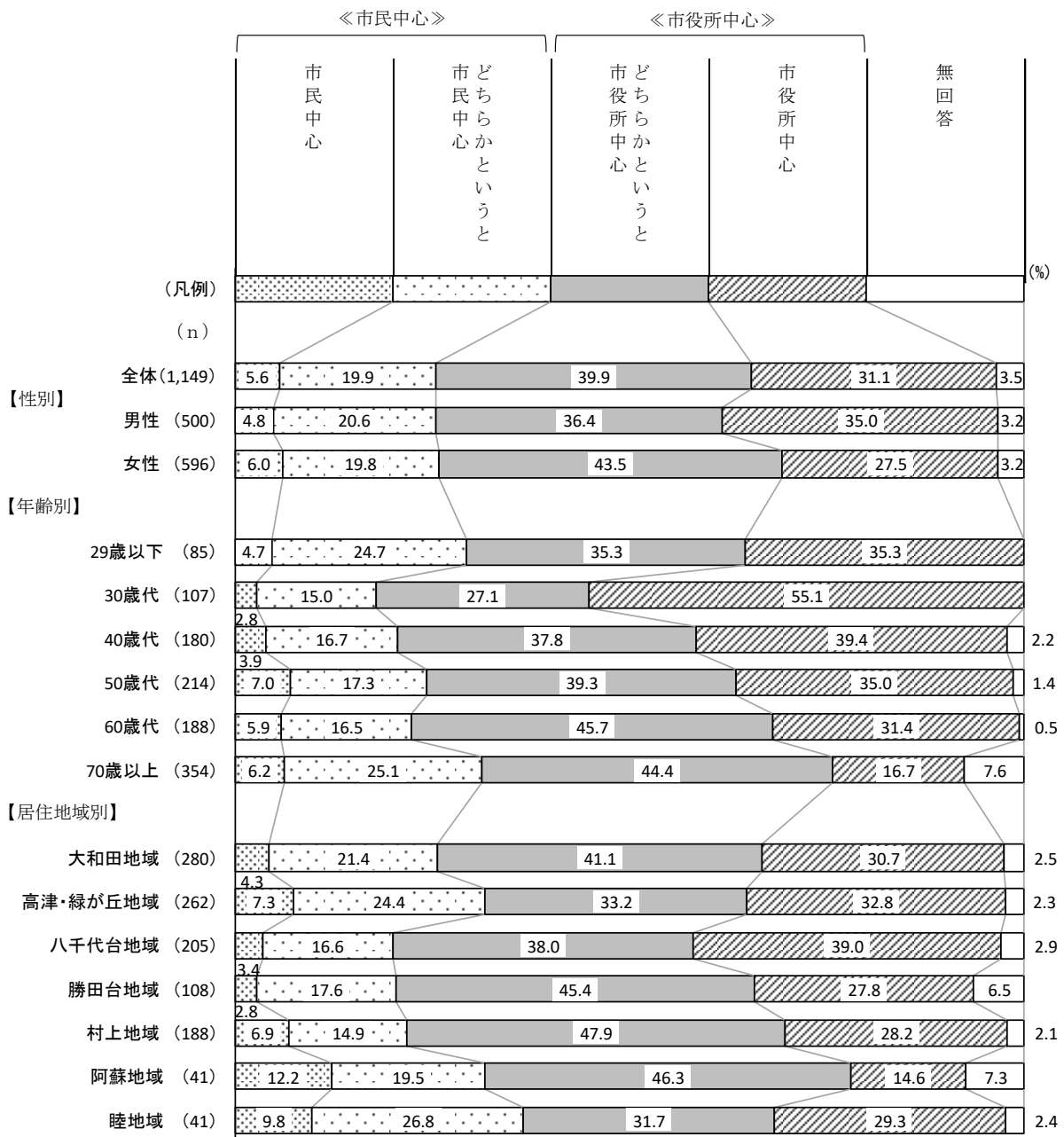
≪性別・年齢別・居住地域別≫

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では、29歳以下、70歳以上で≪市民中心≫の割合が比較的多い。

居住地域別では、睦地域で≪市民中心≫の割合が他の地域よりも比較的多い。

<性別・年齢別・居住地域別>

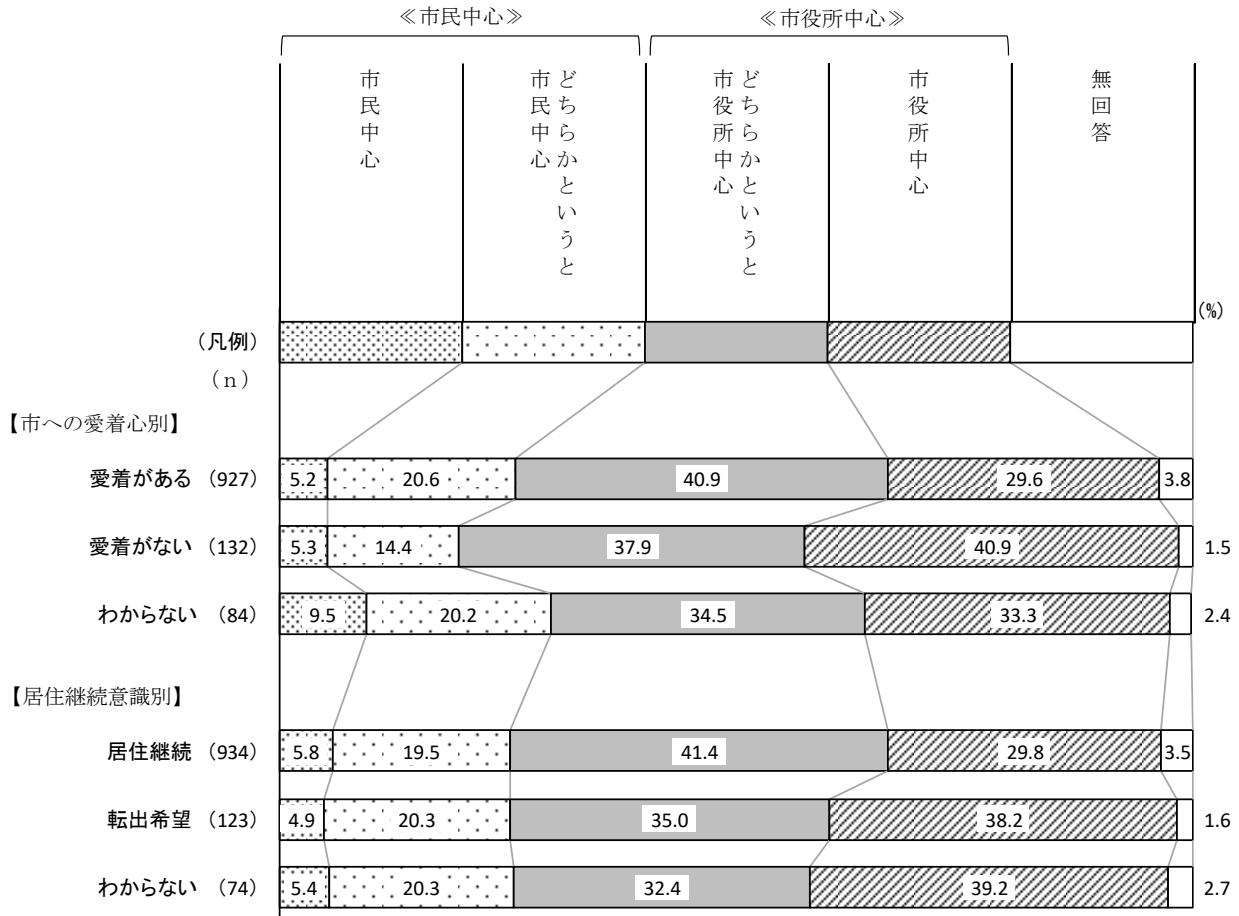


《市への愛着心別・居住継続意識別》

市への愛着心があると分類された回答者の方が、ないと分類された回答者よりも、《市民中心》の割合が多い。

居住継続意識別では、大きな差異はみられない。

＜市への愛着心別・居住継続意識別＞



◎登下校時の子どもの見守り

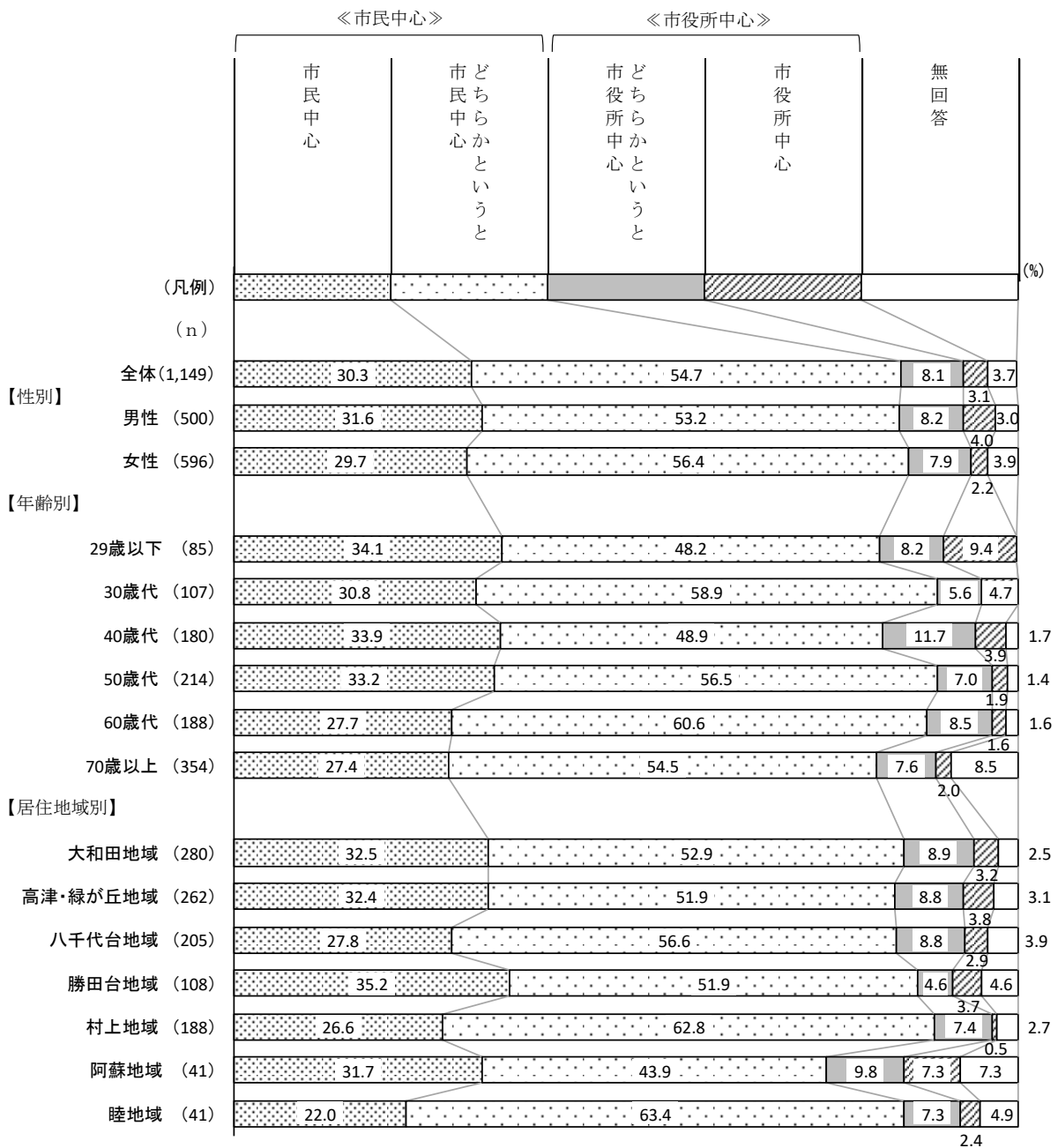
≪性別・年齢別・居住地域別≫

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では、30歳代、50歳代で≪市民中心≫の割合が比較的多い。

居住地域別では、村上地域で≪市民中心≫の割合が比較的多い。

<性別・年齢別・居住地域別>

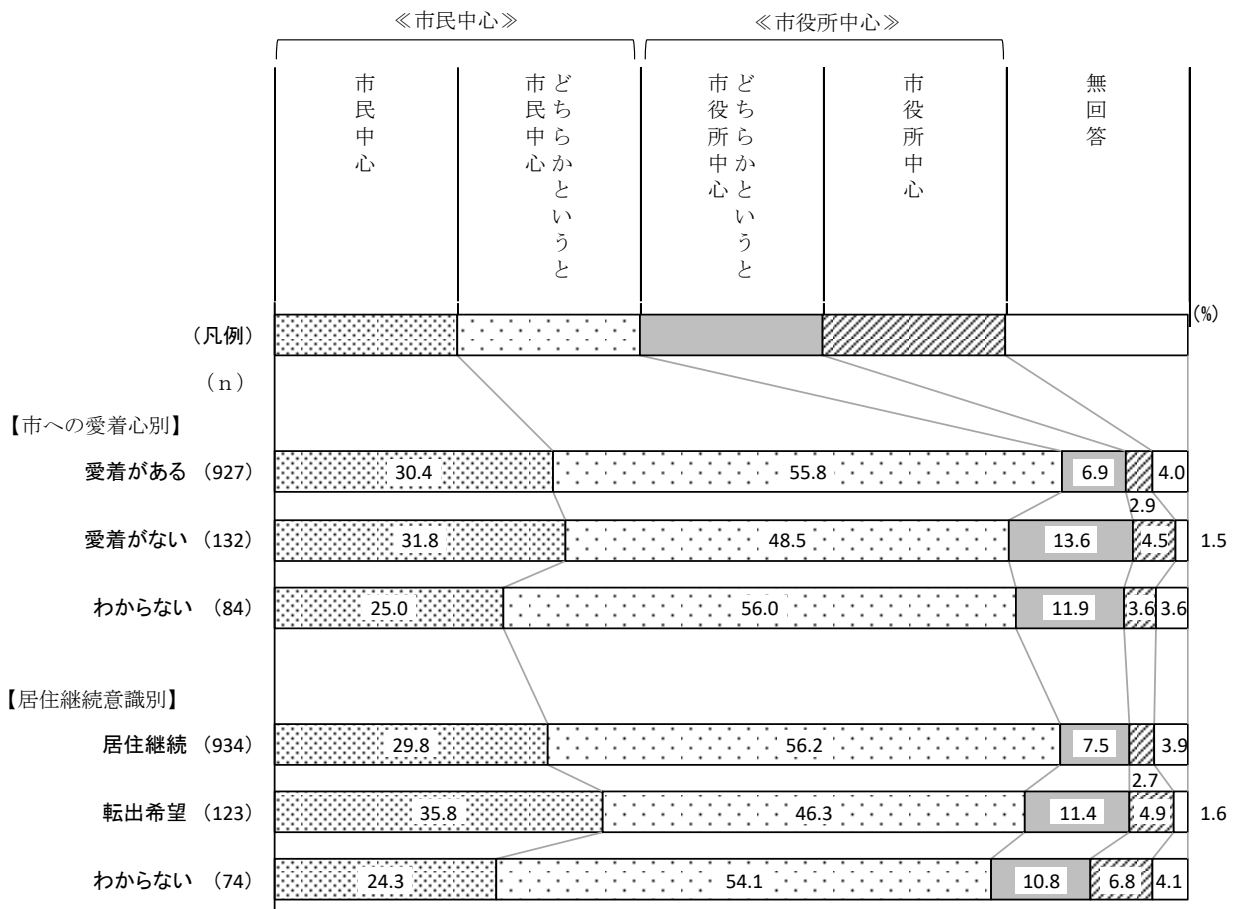


《市への愛着心別・居住継続意識別》

市への愛着心があると分類された回答者の方が、ないと分類された回答者よりも《市民中心》の割合が多い。

市内への居住継続意識ありと分類された回答者の方が、転出希望の回答者に比べて、《市民中心》の割合が多い。

＜市への愛着心別・居住継続意識別＞



◎近所の一人暮らしの高齢者の話し相手

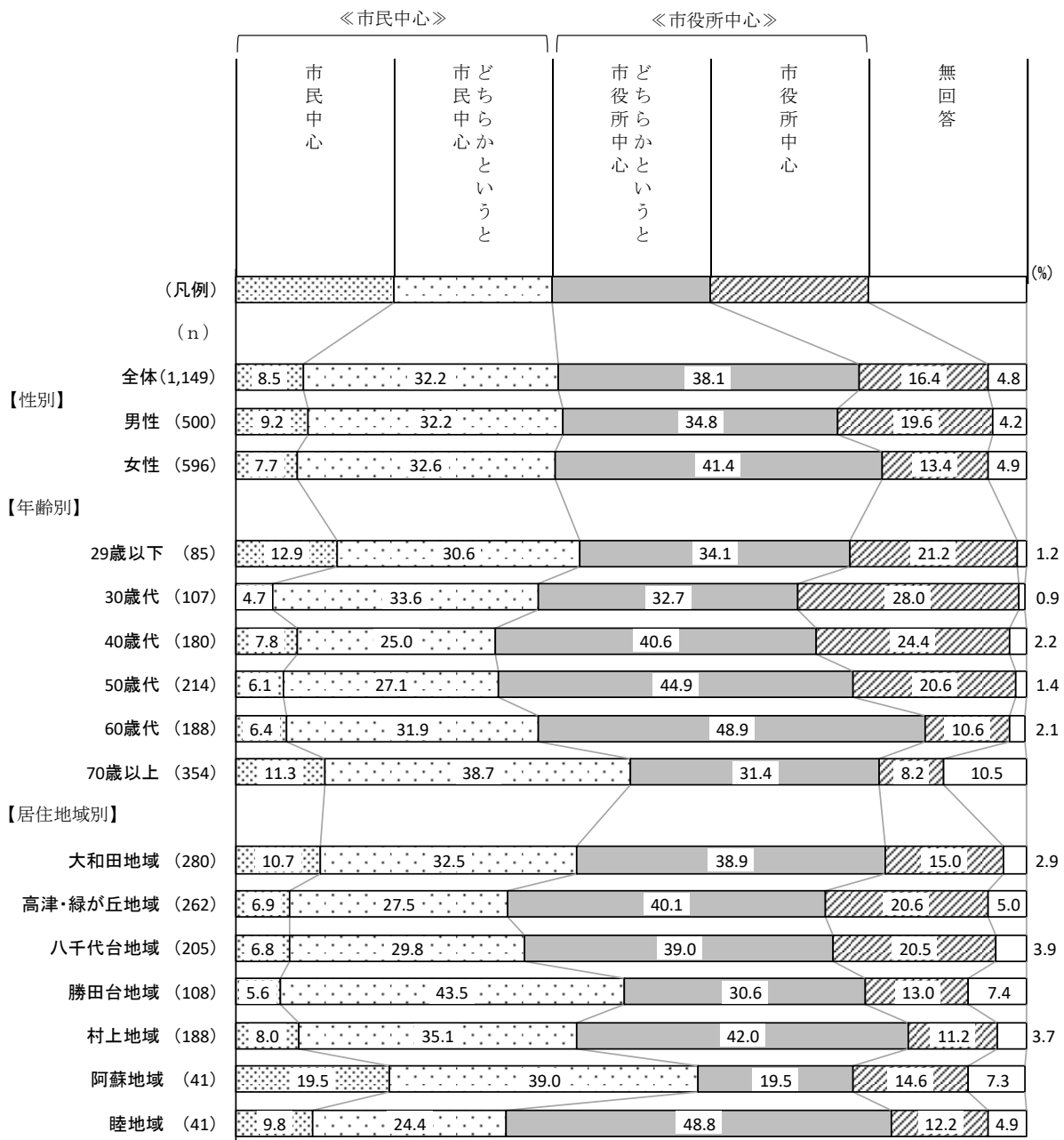
≪性別・年齢別・居住地域別≫

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では、29歳以下、70歳以上で≪市民中心≫の割合が比較的多い。

居住地域別では、阿蘇地域、勝田台地域で≪市民中心≫の割合が比較的多い。

<性別・年齢別・居住地域別>

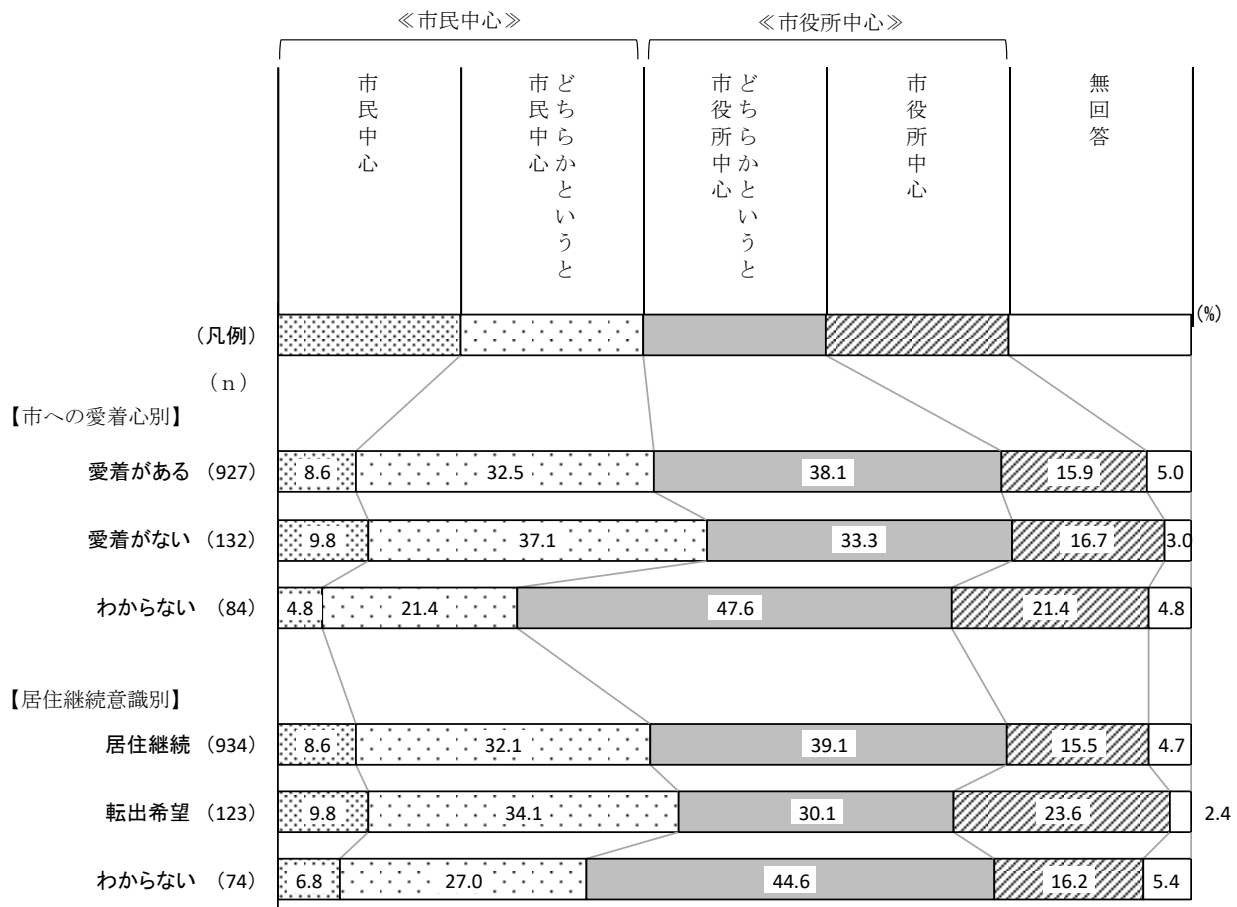


《市への愛着心別・居住継続意識別》

市への愛着心がないと分類された回答者の方が、あると分類された回答者よりも《市民中心》の割合が多い。

転出希望と分類された回答者の方が、居住継続意識ありの回答者に比べて、《市民中心》の割合が多い。

＜市への愛着心別・居住継続意識別＞



◎ごみ減量化やリサイクルの推進

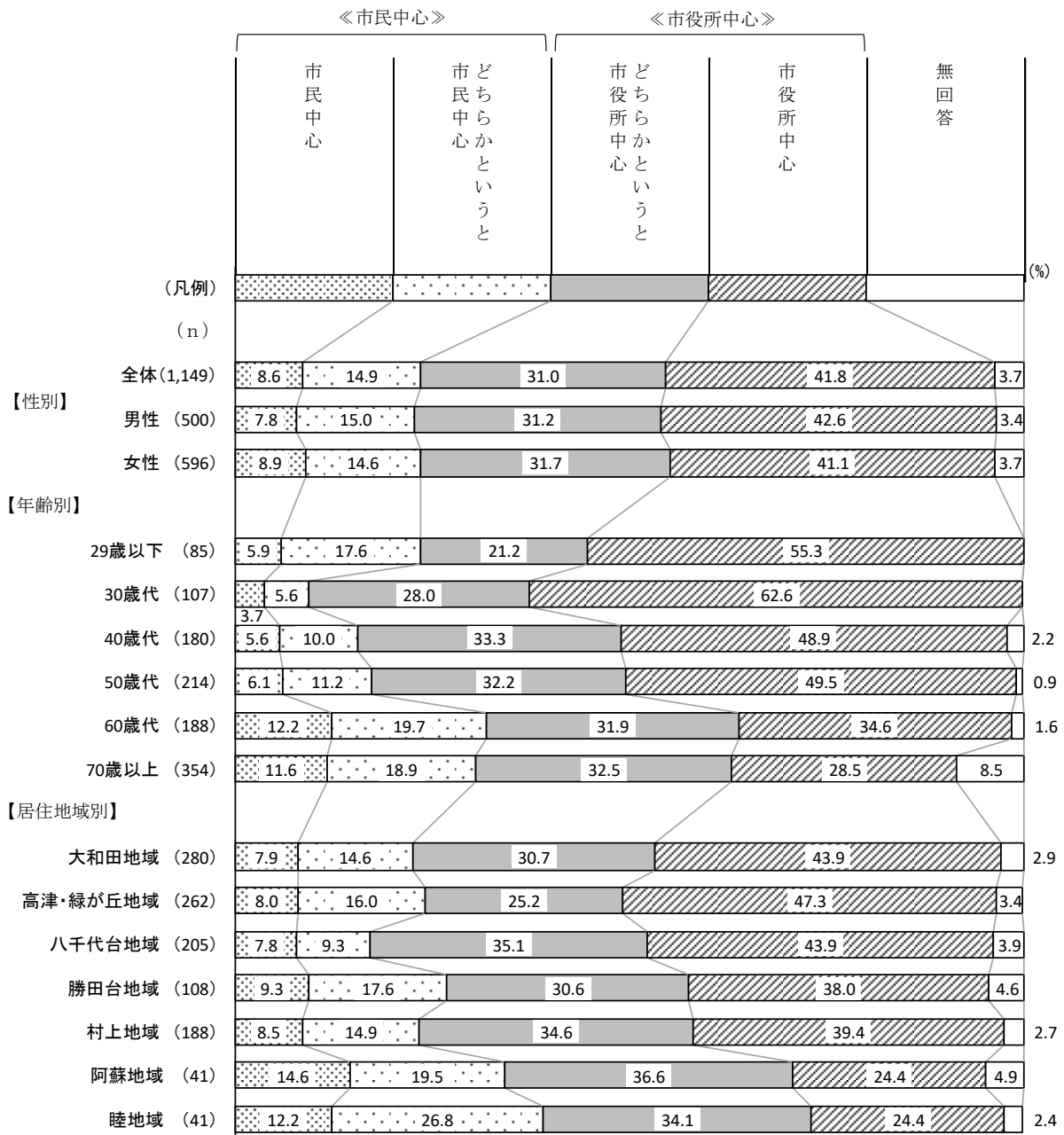
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では、60歳代、70歳以上で《市民中心》の割合が比較的多い。

居住地域別では、睦地域、阿蘇地域で《市民中心》の割合が比較的多い。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

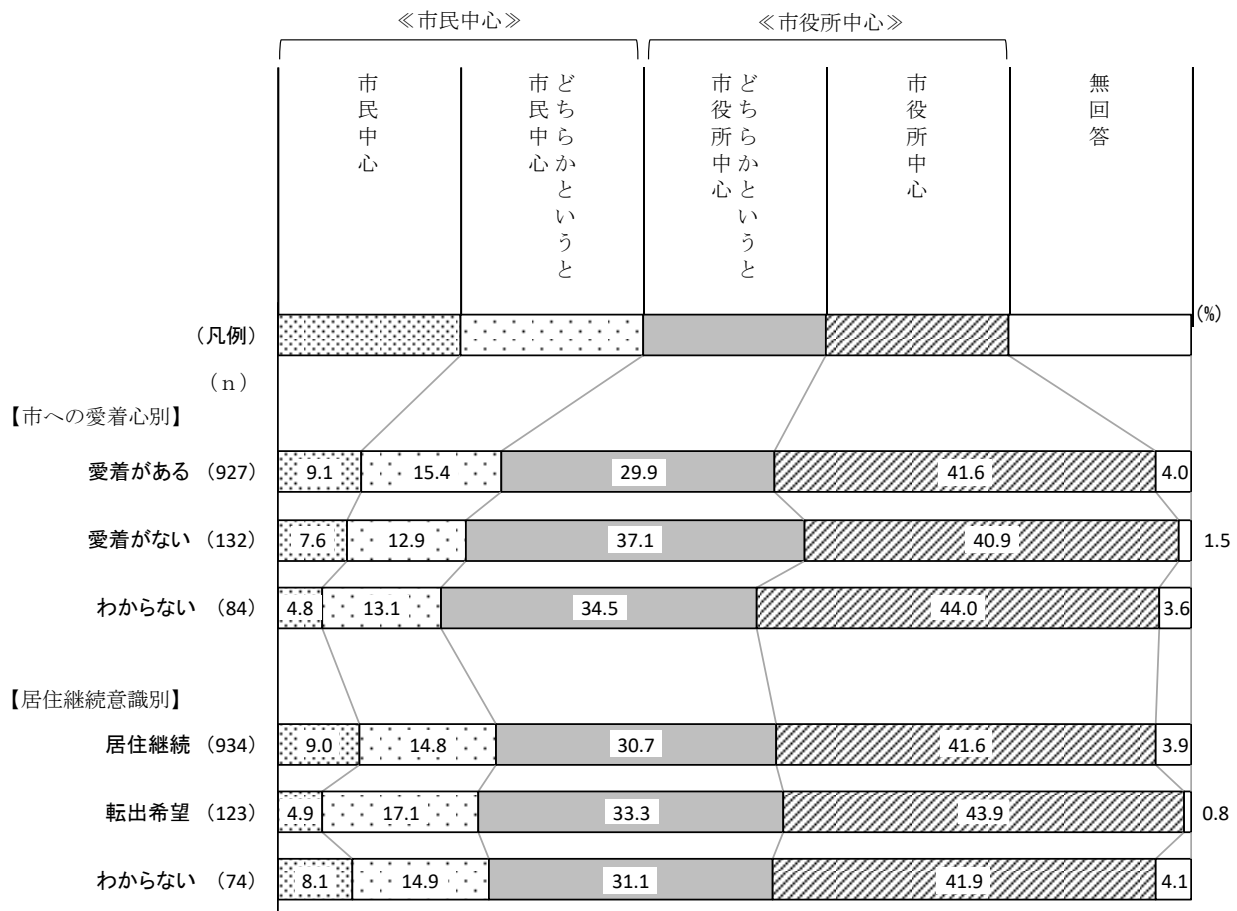


《市への愛着心別・居住継続意識別》

市への愛着心があると分類された回答者の方が、ないと分類された回答者よりも《市民中心》の割合が多い。

市内への居住継続意識ありと分類された回答者の方が、転出希望の回答者に比べて、《市民中心》の割合が多い。

＜市への愛着心別・居住継続意識別＞



◎防犯・防災に関する取組

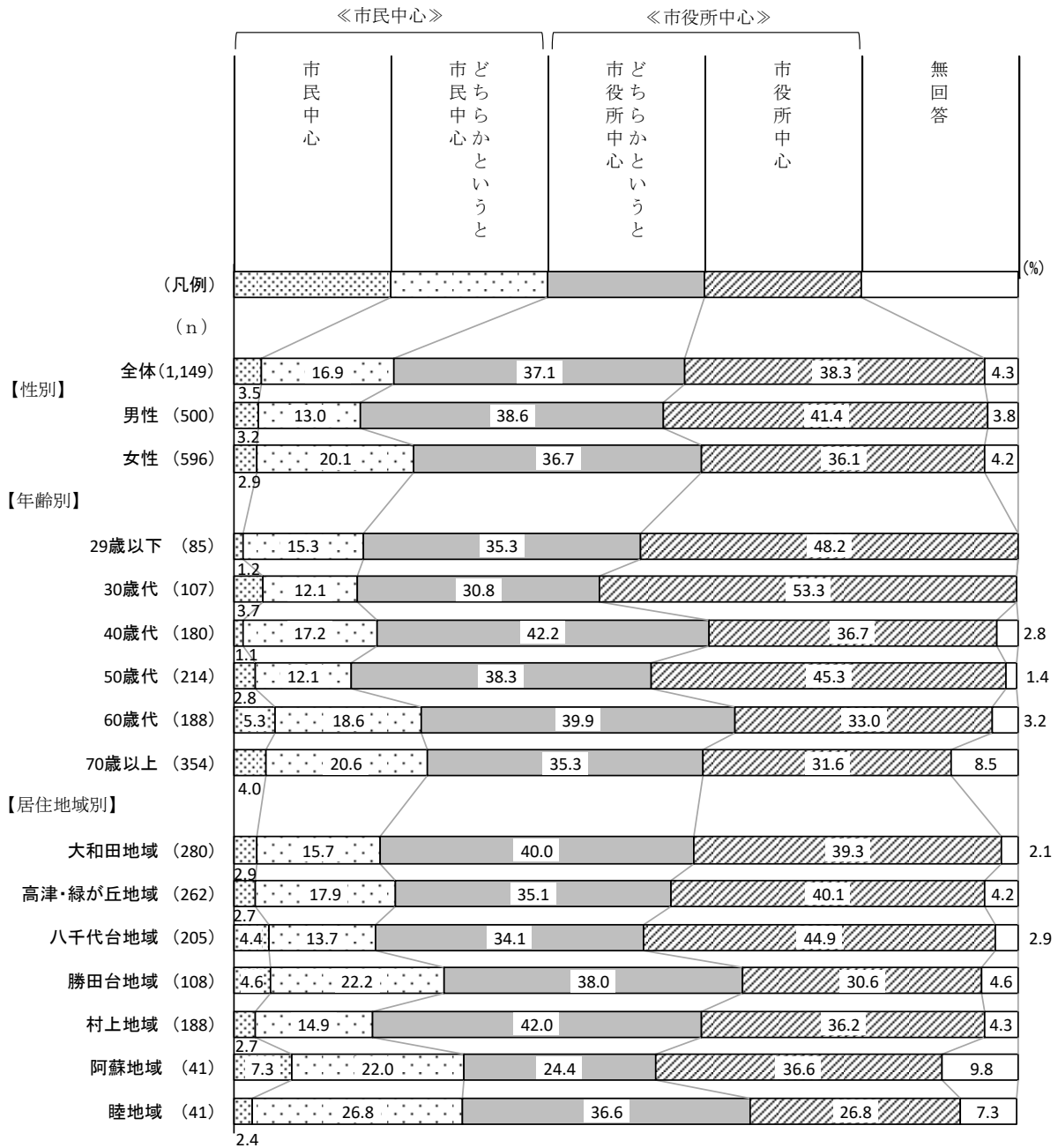
≪性別・年齢別・居住地域別≫

性別では、≪市民中心≫の割合は女性の方が男性よりも6.8ポイント多くなっている。

年齢別では、60歳代、70歳以上で≪市民中心≫の割合が比較的多い。

居住地域別では、阿蘇地域、睦地域で≪市民中心≫の割合が比較的多い。

<性別・年齢別・居住地域別>

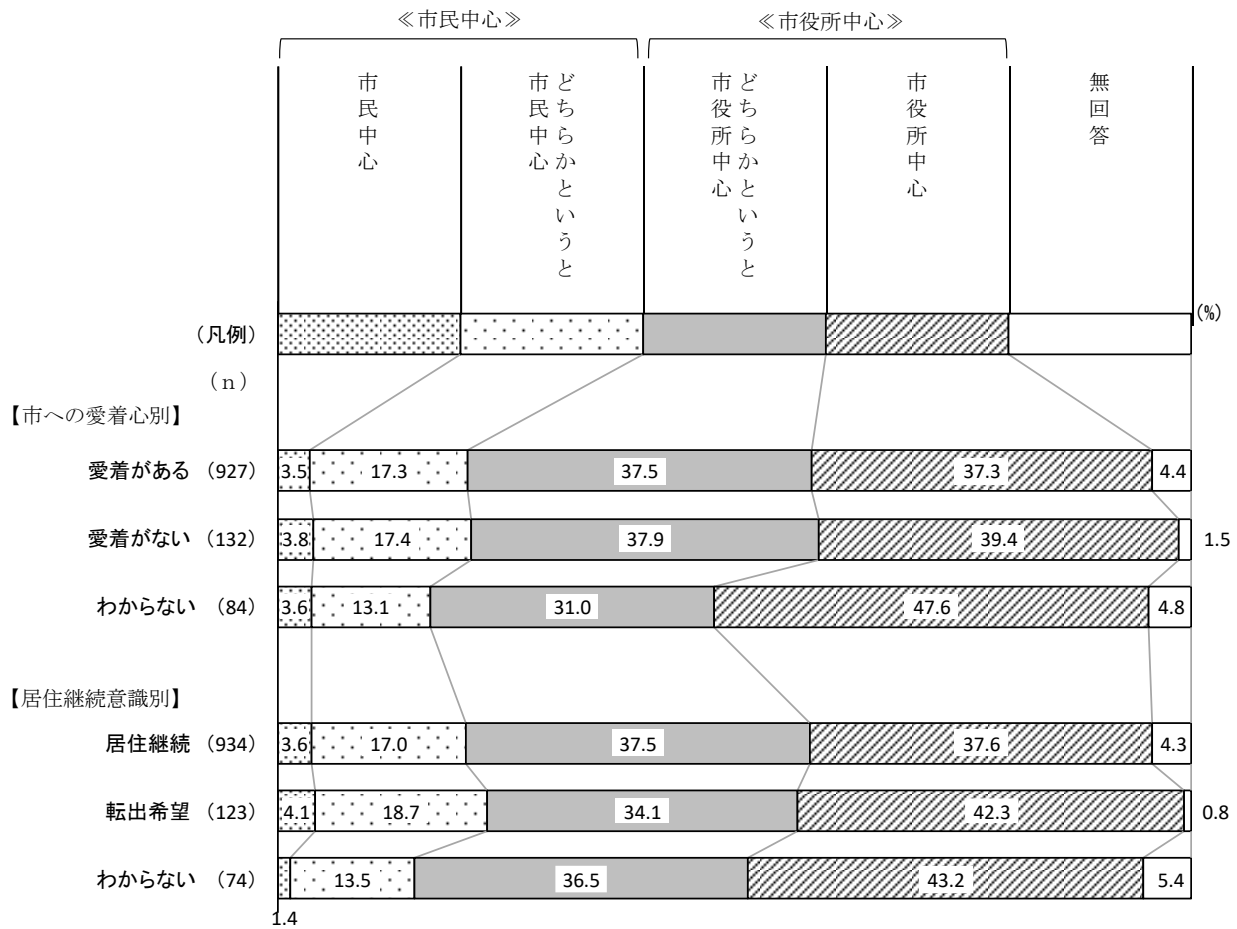


《市への愛着心別・居住継続意識別》

市への愛着心の有無による大きな差異はみられない。

転出希望と分類された回答者の方が、居住継続意識ありの回答者に比べて、《市民中心》の割合が多い。

＜市への愛着心別・居住継続意識別＞



◎緑化活動の推進

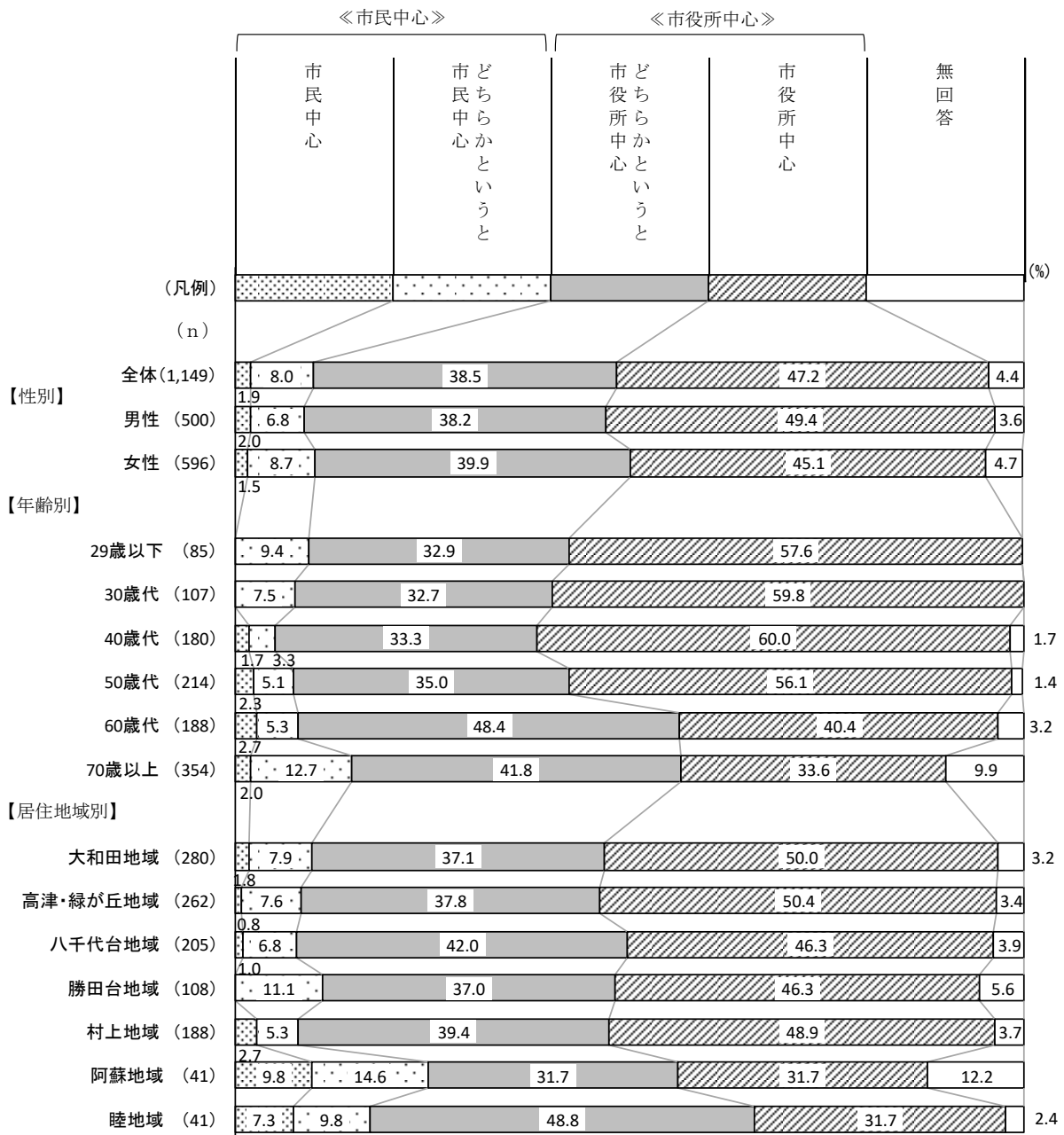
≪性別・年齢別・居住地域別≫

性別では，男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では，70歳以上で≪市民中心≫の割合が比較的多い。

居住地域別では，阿蘇地域，睦地域で≪市民中心≫の割合が比較的多い。

<性別・年齢別・居住地域別>

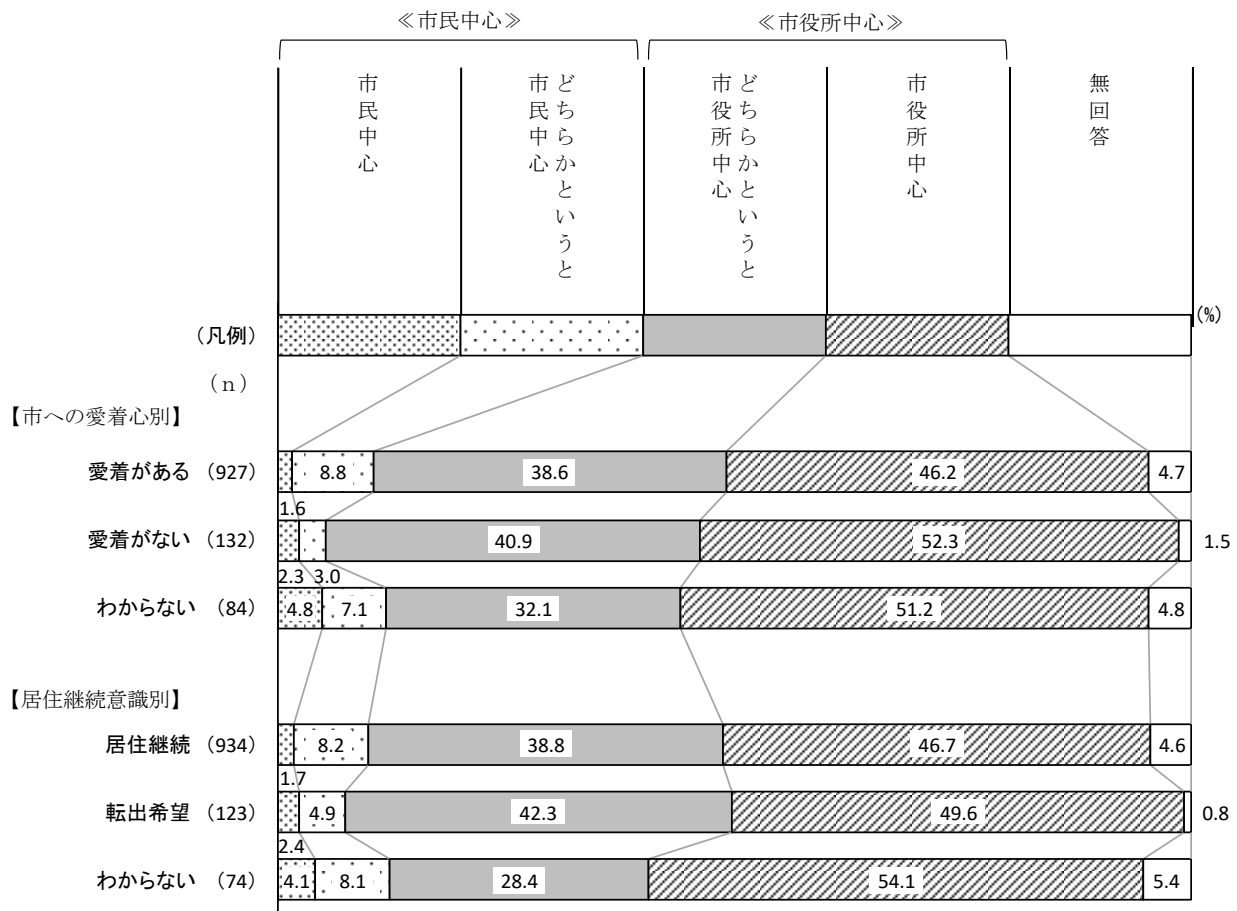


《市への愛着心別・居住継続意識別》

市への愛着心があると分類された回答者の方が、ないと分類された回答者よりも《市民中心》の割合が多い。

市内への居住継続意識ありと分類された回答者の方が、転出希望の回答者に比べて、《市民中心》の割合が多い。

＜市への愛着心別・居住継続意識別＞



◎地域のイベントの運営

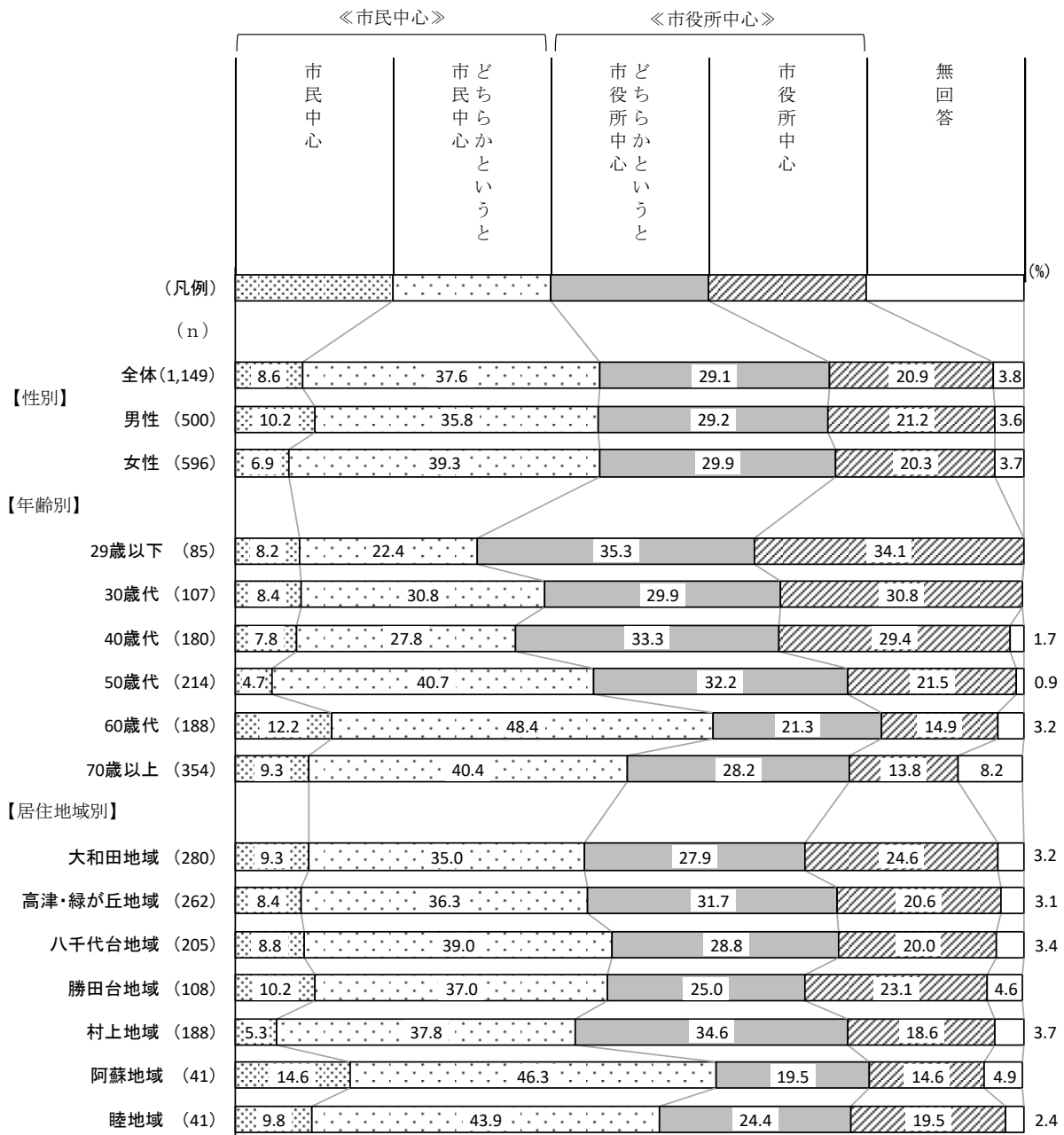
≪性別・年齢別・居住地域別≫

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では、60歳代、70歳以上で≪市民中心≫の割合が比較的多い。

居住地域別では、阿蘇地域、睦地域で≪市民中心≫の割合が比較的多い。

<性別・年齢別・居住地域別>

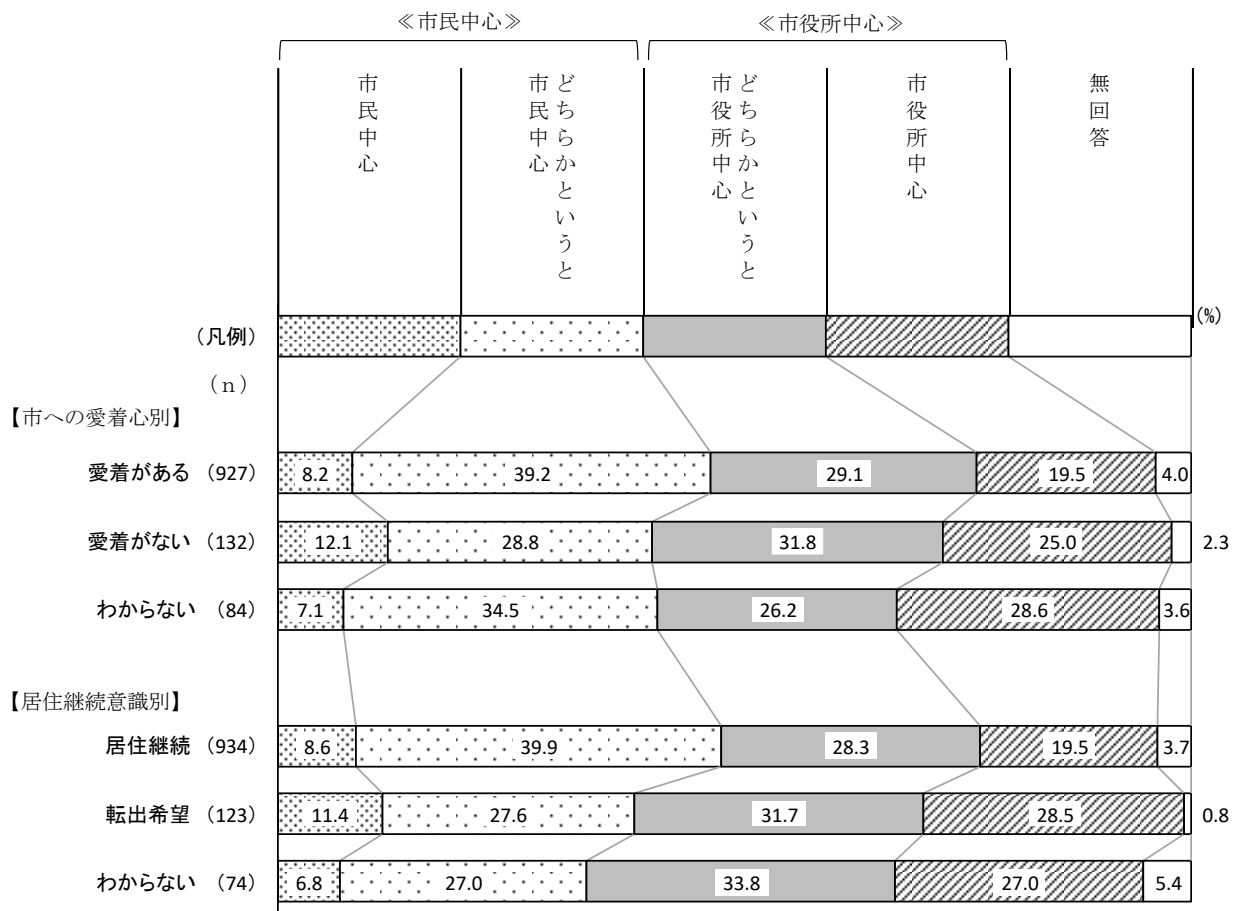


《市への愛着心別・居住継続意識別》

市への愛着心があると分類された回答者の方が、ないと分類された回答者よりも《市民中心》の割合が多い。

市内への居住継続意識ありと分類された回答者の方が、転出希望の回答者に比べて、《市民中心》の割合が多い。

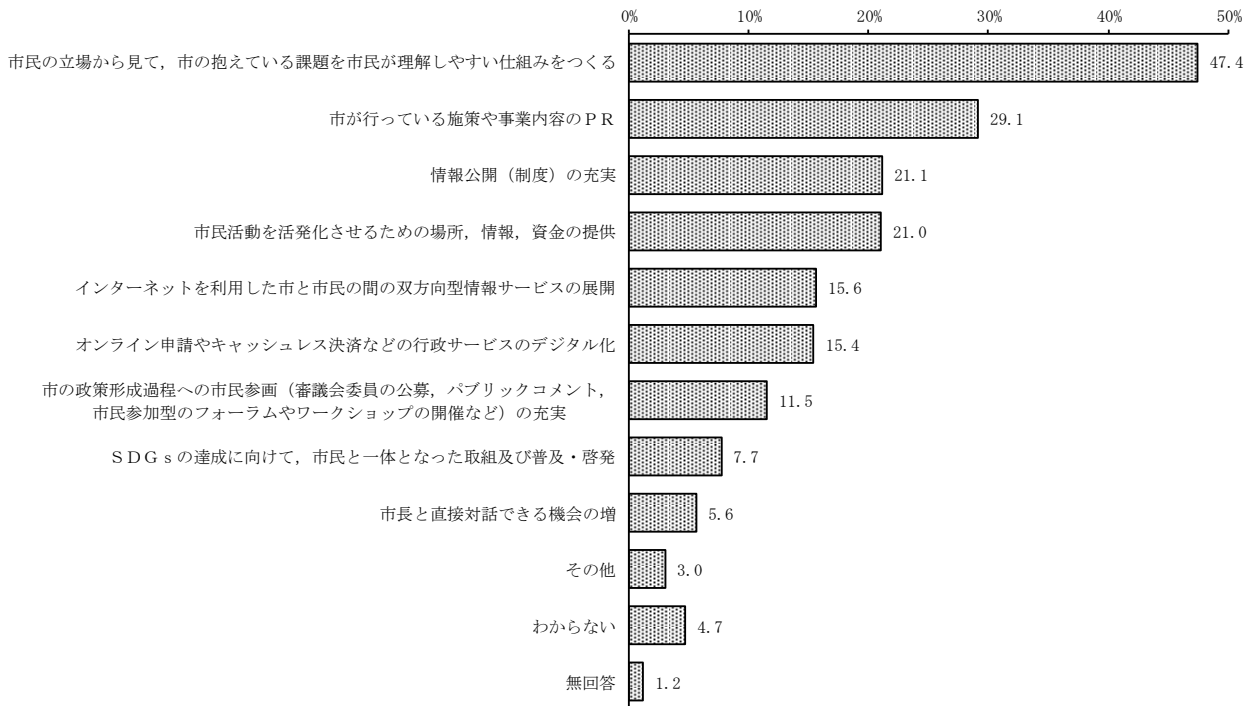
＜市への愛着心別・居住継続意識別＞



(2) 市民参加の条件整備

問7 市では、今後、市民と一体となって課題を解決していきたいと考えています。そのためには市はどのようなことを行う必要があると思いますか。（〇は2つまで）

総数=1,149（複数回答）



市民参加の条件としては、「市民の立場から見て、市の抱えている課題を市民が理解しやすい仕組みをつくる」が47.4%で最も多く、次いで、「市が行っている施策や事業内容のPR」が29.1%、「情報公開（制度）の充実」が21.1%で続いている。

前回（令和元年度）調査と比較すると、「市民の立場から見て、市の抱えている課題を市民が理解しやすい仕組みをつくる」（前回48.7%）が最も多く、ほぼ同様の結果であった。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では、各年齢層ともに「市民の立場から見て、市の抱えている課題を市民が理解しやすい仕組みをつくる」が最多となっている。

居住地域別では、各地域ともに「市民の立場から見て、市の抱えている課題を市民が理解しやすい仕組みをつくる」が最多となっている。阿蘇地域では、「市が行っている施策や事業内容のPR」の割合も多い。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	市が行っている施策や事業内容のPR	情報公開（制度）の充実	市民の立場から見て、市の抱えている課題を市民が理解しやすい仕組みをつくる	市長と直接対話できる機会の増	市民活動を活性化させるための場所、情報、資金の提供	市の政策形成過程への市民参画（審議会委員の公募、パブリックコメント、市民参加型のフォーラムやワークショップの開催など）の充実	インターネットを利用した市と市民の間の双方向型情報サービスの展開	オンライン申請やキャッシュレス決済などの行政サービスのデジタル化	SDGsの達成に向けて、市民と一体となつた取組及び普及・啓発
	全体	1,149 100.0	334 29.1	242 21.1	545 47.4	64 5.6	241 21.0	132 11.5	179 15.6	177 15.4	88 7.7
性別	男性	500 100.0	151 30.2	101 20.2	237 47.4	27 5.4	98 19.6	71 14.2	90 18.0	76 15.2	35 7.0
	女性	596 100.0	170 28.5	134 22.5	292 49.0	33 5.5	132 22.1	60 10.1	79 13.3	85 14.3	48 8.1
年齢別	29歳以下	85 100.0	22 25.9	12 14.1	35 41.2	4 4.7	19 22.4	6 7.1	18 21.2	27 31.8	5 5.9
	30歳代	107 100.0	20 18.7	17 15.9	46 43.0	4 3.7	23 21.5	11 10.3	28 26.2	31 29.0	3 2.8
	40歳代	180 100.0	40 22.2	33 18.3	86 47.8	12 6.7	35 19.4	21 11.7	34 18.9	45 25.0	15 8.3
	50歳代	214 100.0	43 20.1	41 19.2	106 49.5	17 7.9	34 15.9	26 12.1	43 20.1	40 18.7	22 10.3
	60歳代	188 100.0	51 27.1	52 27.7	100 53.2	7 3.7	41 21.8	24 12.8	32 17.0	23 12.2	13 6.9
	70歳以上	354 100.0	151 42.7	84 23.7	164 46.3	18 5.1	84 23.7	44 12.4	22 6.2	10 2.8	29 8.2
居住地域別	大和田地域	280 100.0	77 27.5	59 21.1	120 42.9	24 8.6	55 19.6	35 12.5	53 18.9	51 18.2	16 5.7
	高津・緑が丘地域	262 100.0	77 29.4	49 18.7	130 49.6	9 3.4	54 20.6	34 13.0	38 14.5	45 17.2	17 6.5
	八千代台地域	205 100.0	58 28.3	37 18.0	104 50.7	11 5.4	49 23.9	19 9.3	36 17.6	33 16.1	21 10.2
	勝田台地域	108 100.0	33 30.6	26 24.1	53 49.1	3 2.8	23 21.3	14 13.0	15 13.9	12 11.1	14 13.0
	村上地域	188 100.0	53 28.2	44 23.4	95 50.5	9 4.8	36 19.1	24 12.8	27 14.4	28 14.9	12 6.4
	阿蘇地域	41 100.0	16 39.0	13 31.7	16 39.0	1 2.4	7 17.1	1 2.4	4 9.8	2 4.9	3 7.3
	睦地域	41 100.0	12 29.3	10 24.4	18 43.9	4 9.8	10 24.4	5 12.2	3 7.3	5 12.2	3 7.3

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

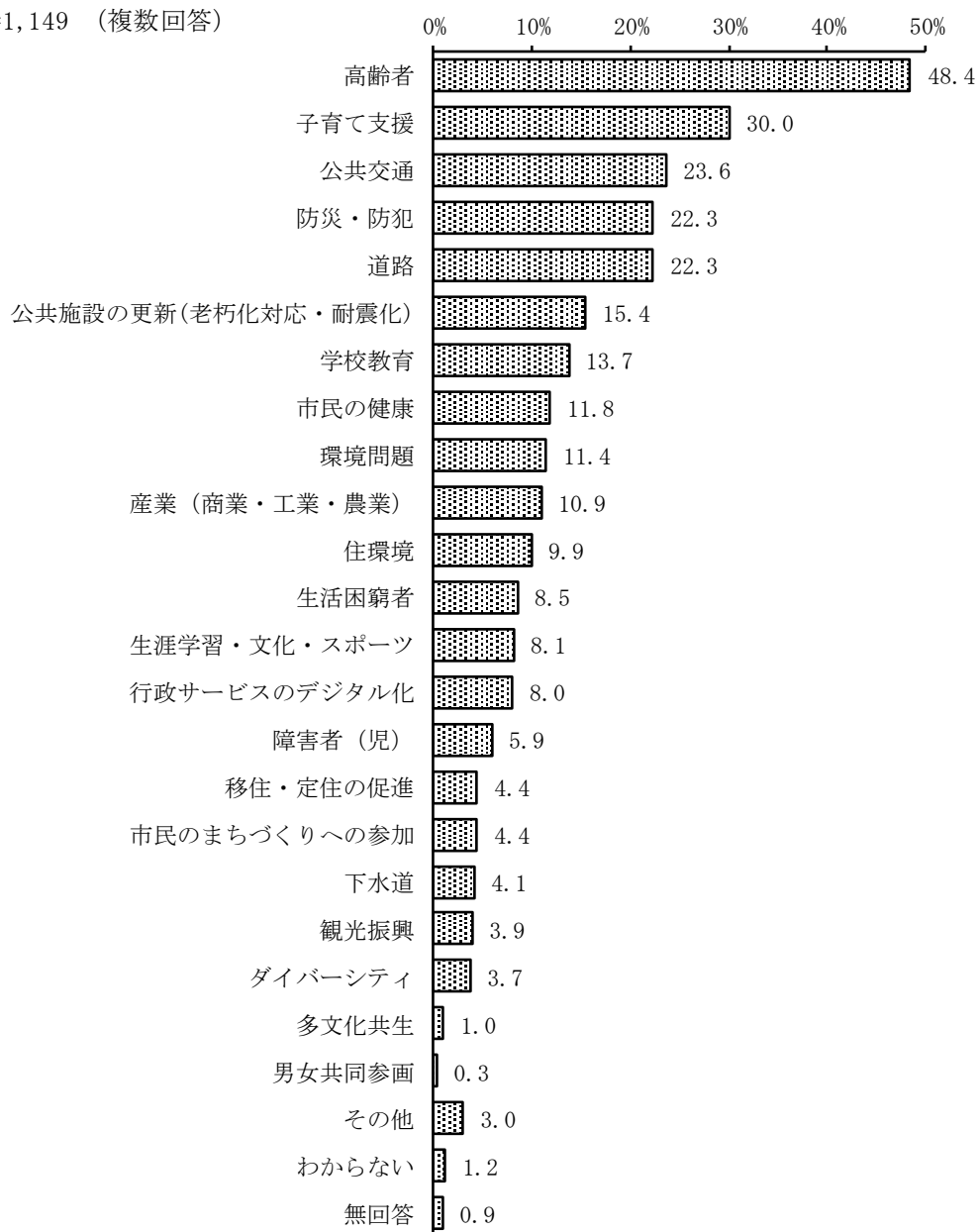
注) 「その他」, 「わからない」, 「無回答」は表記を省略している。

5 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について

(1) 市が力を入れて取り組むべき施策の分野

問8 今後、力を入れて取り組むべき施策の分野は何だと思えますか（○は3つまで）

総数=1,149（複数回答）



市が力を入れて取り組むべき施策の分野としては、「高齢者」が48.4%で最も多く、次いで、「子育て支援」が30.0%、「公共交通」が23.6%、「道路」と「防災・防犯」が22.3%が続いている。

前回（令和元年度）調査と比較すると、上位項目の「高齢者」（前回49.2%）、「子育て支援」（同35.3%）など、ほぼ同様の結果であった。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では、40歳代以下の年齢層で「子育て支援」、50歳代以上の年齢層では「高齢者」が最も多くなっている。

居住地域別では、阿蘇地域と睦地域は「公共交通」、その他の地域では「高齢者」が最も多くなっている。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	高齢者	環境問題	障害者（児）	道路	下水道	子育て支援	学校教育	市民の健康	観光振興	産業（商業・工業・農業）	生涯学習・文化・スポーツ	移住・定住の促進	男女共同参画	ダイバーシティ	公共交通	住環境	防災・防犯	生活困窮者	公共施設の更新（老朽化対応・耐震化）	市民のまちづくりへの参加	多文化共生	行政サービスのデジタル化	
	1,149	556	131	68	256	47	345	157	136	45	125	93	51	3	43	271	114	256	98	177	50	11	92	
	100.0	48.4	11.4	5.9	22.3	4.1	30.0	13.7	11.8	3.9	10.9	8.1	4.4	0.3	3.7	23.6	9.9	22.3	8.5	15.4	4.4	1.0	8.0	
性別	男性	500	242	46	27	120	20	162	64	24	68	40	31	2	18	107	60	116	37	64	23	6	47	
	女性	596	294	77	38	122	23	171	86	21	57	53	19	1	24	149	49	131	54	103	27	5	42	
	100.0	49.3	12.9	6.4	20.5	3.9	28.7	14.4	12.2	3.4	8.6	8.6	3.2	0.2	4.0	25.0	8.2	22.0	9.1	17.3	4.5	0.8	7.0	
年齢別	29歳以下	85	23	4	9	13	3	45	19	8	7	8	4	3	5	18	12	12	5	13	1	1	14	
		100.0	27.1	4.7	10.6	15.3	3.5	52.9	22.4	9.4	8.2	9.4	4.7	3.5	5.9	21.2	14.1	14.1	5.9	15.3	1.2	1.2	16.5	
	30歳代	107	21	8	4	28	3	67	27	8	7	11	8	4	3	30	10	8	8	20	6	2	20	
		100.0	19.6	7.5	3.7	26.2	2.8	62.6	25.2	7.5	6.5	10.3	7.5	3.7	2.8	28.0	9.3	7.5	7.5	18.7	5.6	1.9	18.7	
	40歳代	180	57	13	7	53	9	71	47	14	7	24	11	13	1	7	40	20	36	11	32	8	1	15
		100.0	31.7	7.2	3.9	29.4	5.0	39.4	26.1	7.8	3.9	13.3	6.1	7.2	0.6	3.9	22.2	11.1	20.0	6.1	17.8	4.4	0.6	8.3
	50歳代	214	113	30	10	46	15	46	25	23	8	24	17	13	7	56	18	52	14	34	3	2	22	
		100.0	52.8	14.0	4.7	21.5	7.0	21.5	11.7	10.7	3.7	11.2	7.9	6.1	3.3	26.2	8.4	24.3	6.5	15.9	1.4	0.9	10.3	
	60歳代	188	107	27	13	36	5	40	19	19	6	24	17	6	1	11	39	24	58	21	25	10	2	12
		100.0	56.9	14.4	6.9	19.1	2.7	21.3	10.1	10.1	3.2	12.8	9.0	3.2	0.5	5.9	20.7	12.8	30.9	11.2	13.3	5.3	1.1	6.4
70歳以上	354	223	45	25	75	10	73	20	61	10	31	33	11	1	10	85	28	87	37	51	22	3	8	
	100.0	63.0	12.7	7.1	21.2	2.8	20.6	5.6	17.2	2.8	8.8	9.3	3.1	0.3	2.8	24.0	7.9	24.6	10.5	14.4	6.2	0.8	2.3	
居住地域別	大和田地域	280	121	34	20	60	10	99	49	33	8	30	27	11	1	13	66	25	57	18	45	7	3	27
		100.0	43.2	12.1	7.1	21.4	3.6	35.4	17.5	11.8	2.9	10.7	9.6	3.9	0.4	4.6	23.6	8.9	20.4	6.4	16.1	2.5	1.1	9.6
	高津・緑が丘地域	282	117	18	15	73	7	78	44	29	17	30	23	13	2	11	72	26	46	24	36	11	1	24
		100.0	44.7	6.9	5.7	27.9	2.7	29.8	16.8	11.1	6.5	11.5	8.8	5.0	0.8	4.2	27.5	9.9	17.6	9.2	13.7	4.2	0.4	9.2
	八千代台地域	205	104	18	10	46	8	61	23	17	5	17	13	9	7	33	28	52	13	38	17	4	23	
		100.0	50.7	8.8	4.9	22.4	3.9	29.8	11.2	8.3	2.4	8.3	6.3	4.4	3.4	16.1	13.7	25.4	6.3	18.5	8.3	2.0	11.2	
	勝田台地域	108	66	13	6	14	2	35	8	22	4	10	9	2	2	24	9	33	12	15	6	1	5	
	100.0	61.1	12.0	5.6	13.0	1.9	32.4	7.4	20.4	3.7	9.3	8.3	1.9	1.9	22.2	8.3	30.6	11.1	13.9	5.6	0.9	4.6		
村上地域	188	102	30	13	36	10	51	26	22	8	24	15	8	8	34	18	50	17	30	7	2	10		
	100.0	54.3	16.0	6.9	19.1	5.3	27.1	13.8	11.7	4.3	12.8	8.0	4.3	4.3	18.1	9.6	26.6	9.0	16.0	3.7	1.1	5.3		
阿蘇地域	41	19	7	3	7	5	8	1	2	2	8	2	6	2	20	3	5	4	4	2	-	-		
	100.0	46.3	17.1	7.3	17.1	12.2	19.5	2.4	4.9	4.9	19.5	4.9	14.6	4.9	48.8	7.3	12.2	9.8	9.8	4.9	-	-		
睦地域	41	17	6	1	13	4	9	6	8	1	4	2	2	2	18	3	8	7	7	7	-	-		
	100.0	41.5	14.6	2.4	31.7	9.8	22.0	14.6	19.5	2.4	9.8	4.9	-	-	43.9	7.3	19.5	17.1	17.1	-	-	4.9		

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

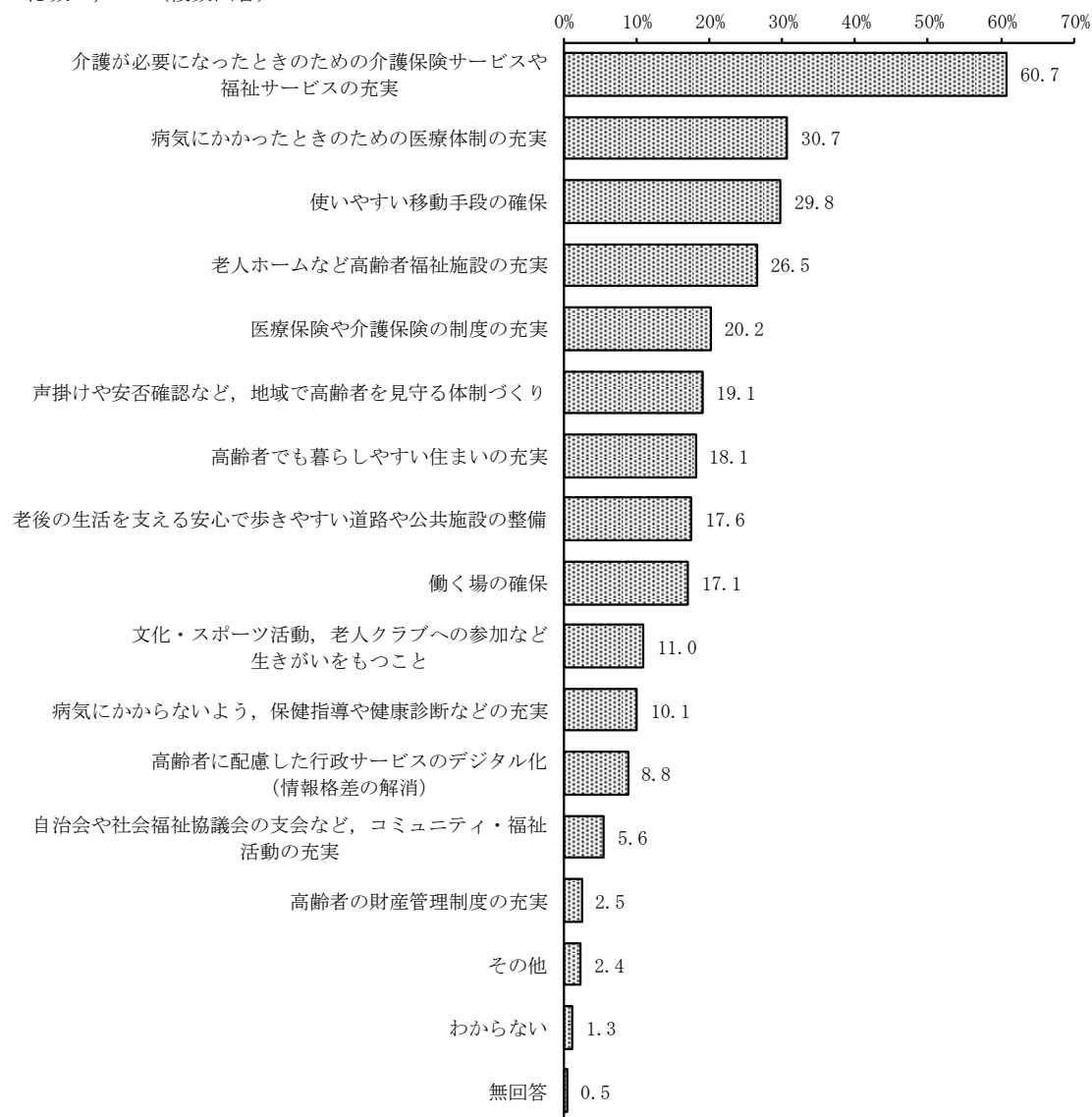
注) 「その他」, 「わからない」, 「無回答」は表記を省略している。

6 高齢社会について

(1) 高齢者が安心して暮らしていくために大切なこと

問9 高齢者が安心して暮らしていくには、今後どのようなことが大切だと思いますか。(〇は3つまで)

総数=1,149 (複数回答)



高齢者が安心して暮らしていくために大切なこととしては、「介護が必要になったときのための介護保険サービスや福祉サービスの充実」が60.7%で最も多く、次いで、「病気にかかったときのための医療体制の充実」が30.7%、「使いやすい移動手段の確保」が29.8%が続いている。「医療保険や介護保険の制度の充実」も5位(20.2%)であり、「介護が必要になったときのための介護保険や福祉のサービスの充実」と合わせると、介護保険を含めた介護サービスの充実が市民の大きな関心事といえる。

《時系列比較》

前回(令和元年度)調査と比較すると、「介護が必要になったときのための介護保険サービスや福祉サービスの充実」(前回62.1%)は1.4ポイント減少したが、前回調査同様突出して多い。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女ともに「介護が必要になったときのための介護保険サービスや福祉サービスの充実」が最も多いが、男性では「病気にかかったときのための医療体制の充実」，女性では「使いやすい移動手段の確保」が比較的多くなっている。

年齢別では、各年齢層ともに「介護が必要になったときのための介護保険サービスや福祉サービスの充実」が最も多く、年齢層が上がるほど割合が多くなっている。

居住地域別では、各地域ともに「介護が必要になったときのための介護保険サービスや福祉サービスの充実」が最も多く、睦地域（70.7%）の多さが目立つ。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	介護が必要になったときのための福祉サービスの充実	医療体制の充実	病気にかかったときのための充実	医療保険や介護保険の制度の充実	病気がかからないよう、保健指導や健康診断などの充実	老人ホームなど高齢者福祉施設の充実	高齢者でも暮らしやすい住まいの充実	高齢者でも暮らしやすい住まいの整備	老後の生活を支える安心で整歩しやすい道路や公共施設の整備	ラフ・スポーツ活動、老人クラブへの参加など生きがいをもつこと	働く場の確保	で高齢者を見守る体制づくり	高齢者の財産管理制度の充実	活動の充実	自治会や社会福祉協議会の活動の充実	使いやすい移動手段の確保	解消）高齢者に配慮した行政サービスのデジタル化（情報格差の解消）
	1,149 100.0	698 60.7	353 30.7	232 20.2	116 10.1	304 26.5	208 18.1	202 17.6	126 11.0	197 17.1	219 19.1	29 2.5	64 5.6	342 29.8	101 8.8			
性別	男性	500 100.0	303 60.6	163 32.6	111 22.2	53 10.6	137 27.4	74 14.8	84 16.8	67 13.4	87 17.4	83 16.6	15 3.0	30 6.0	126 25.2	48 9.6		
	女性	596 100.0	366 61.4	177 29.7	113 19.0	59 9.9	161 27.0	125 21.0	109 18.3	53 8.9	98 16.4	132 22.1	13 2.2	34 5.7	194 32.6	49 8.2		
年齢別	29歳以下	85 100.0	40 47.1	18 21.2	9 10.6	12 14.1	18 21.2	18 21.2	15 17.6	18 21.2	20 23.5	18 21.2	5 5.9	8 9.4	22 25.9	4 4.7		
	30歳代	107 100.0	53 49.5	30 28.0	21 19.6	11 10.3	18 16.8	22 20.6	19 17.8	6 5.6	29 27.1	18 16.8	1 0.9	7 6.5	37 34.6	9 8.4		
	40歳代	180 100.0	106 58.9	60 33.3	43 23.9	19 10.6	27 15.0	41 22.8	30 16.7	19 10.6	51 28.3	34 18.9	4 2.2	4 2.2	54 30.0	18 10.0		
	50歳代	214 100.0	134 62.6	57 26.6	52 24.3	21 9.8	57 26.6	38 17.8	32 15.0	28 13.1	45 21.0	36 16.8	6 2.8	9 4.2	67 31.3	22 10.3		
	60歳代	188 100.0	122 64.9	66 35.1	28 14.9	22 11.7	53 28.2	32 17.0	36 19.1	26 13.8	30 16.0	43 22.9	8 4.3	11 5.9	47 25.0	17 9.0		
	70歳以上	354 100.0	232 65.5	115 32.5	75 21.2	31 8.8	128 36.2	55 15.5	67 18.9	27 7.6	19 5.4	69 19.5	5 1.4	25 7.1	106 29.9	31 8.8		
居住地域別	大和田地域	280 100.0	167 59.6	92 32.9	61 21.8	31 11.1	69 24.6	48 17.1	43 15.4	34 12.1	55 19.6	59 21.1	9 3.2	15 5.4	83 29.6	24 8.6		
	高津・緑が丘地域	262 100.0	153 58.4	92 35.1	48 18.3	32 12.2	56 21.4	38 14.5	49 18.7	29 11.1	44 16.8	46 17.6	6 2.3	8 3.1	92 35.1	27 10.3		
	八千代台地域	205 100.0	131 63.9	58 28.3	43 21.0	21 10.2	60 29.3	43 21.0	43 21.0	20 9.8	29 14.1	36 17.6	5 2.4	15 7.3	54 26.3	19 9.3		
	勝田台地域	108 100.0	67 62.0	37 34.3	24 22.2	7 6.5	36 33.3	18 16.7	13 12.0	12 11.1	13 12.0	18 16.7	4 3.7	9 8.3	33 30.6	12 11.1		
	村上地域	188 100.0	118 62.8	44 23.4	34 18.1	18 9.6	56 29.8	40 21.3	33 17.6	24 12.8	42 22.3	43 22.9	4 2.1	14 7.4	47 25.0	17 9.0		
	阿蘇地域	41 100.0	24 58.5	13 31.7	8 19.5	3 7.3	7 17.1	11 26.8	10 24.4	4 9.8	6 14.6	6 14.6	-	2 4.9	15 36.6	-		
	睦地域	41 100.0	29 70.7	9 22.0	10 24.4	3 7.3	17 41.5	8 19.5	7 17.1	2 4.9	5 12.2	10 24.4	1 2.4	1 2.4	11 26.8	2 4.9		

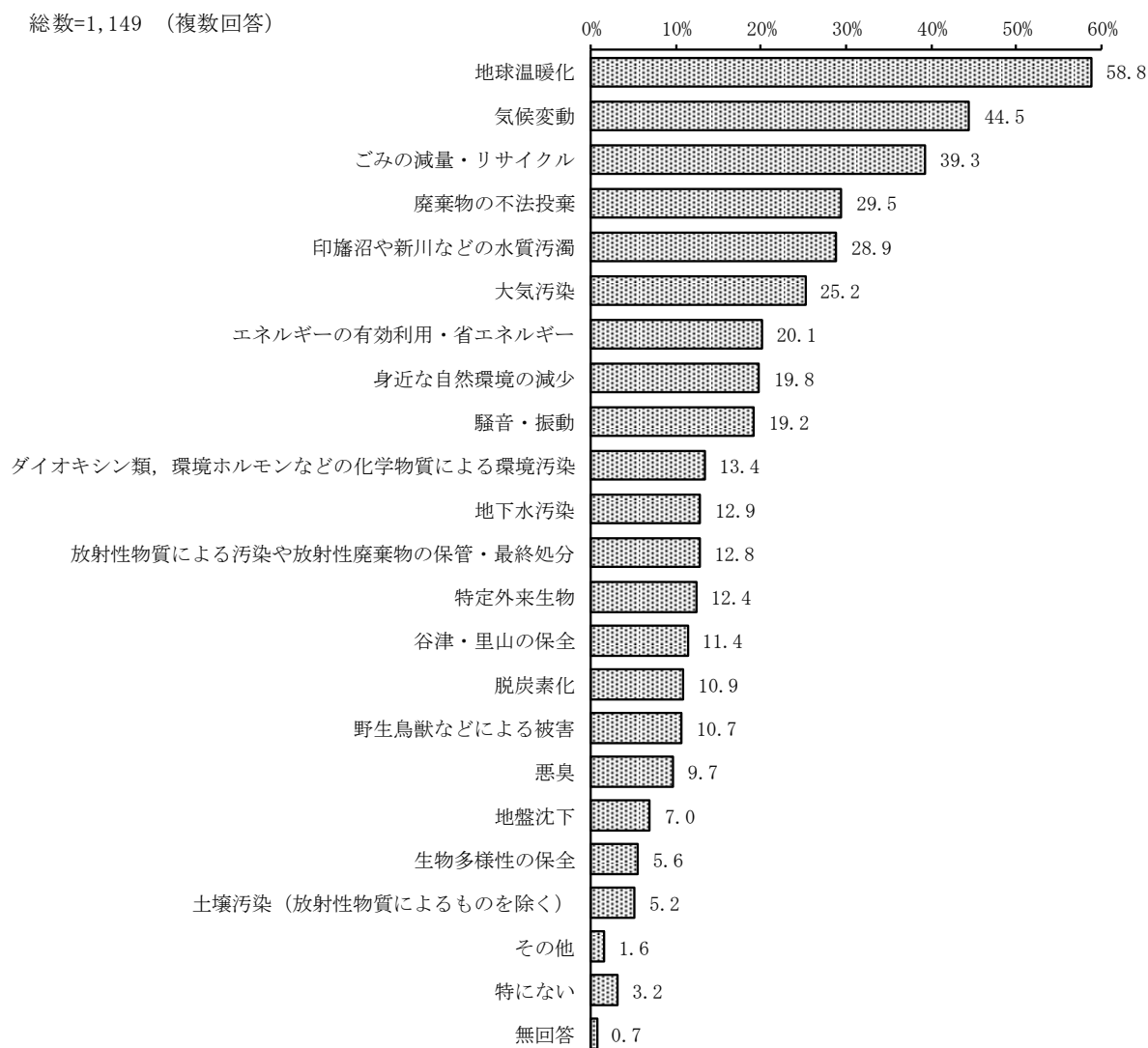
各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」，「わからない」，「無回答」は表記を省略している。

7 環境問題について

(1) 関心のある環境問題

問 10 関心を持っている環境問題は何ですか。(〇はいくつでも)



関心を持っている環境問題としては、「地球温暖化」が58.8%で最も多く、次いで、「気候変動」が44.5%、「ごみの減量・リサイクル」が39.3%が続いている。

《時系列比較》

前回(令和元年度)調査と比較すると、「地球温暖化」(前回調査では「地球温暖化やオゾン層の破壊, 酸性雨などの地球環境問題」(36.7%))が22.1ポイント、「気候変動」(39.1%)が5.4ポイント増加した。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女ともに「地球温暖化」が最多だが、女性の方が男性よりも15.4ポイント多くなっている。

年齢別では、各年齢層ともに「地球温暖化」が最も多く、次いで40歳代が「ごみの減量・リサイクル」，その他の年齢層では「気候変動」が多くなっている。

居住地域別では、阿蘇地域が「廃棄物の不法投棄」，その他の地域では「地球温暖化」が最多となっている。次いで、大和田地域が「ごみの減量・リサイクル」，阿蘇地域が「印旛沼や新川などの水質汚濁」，その他の地域では「気候変動」が多くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

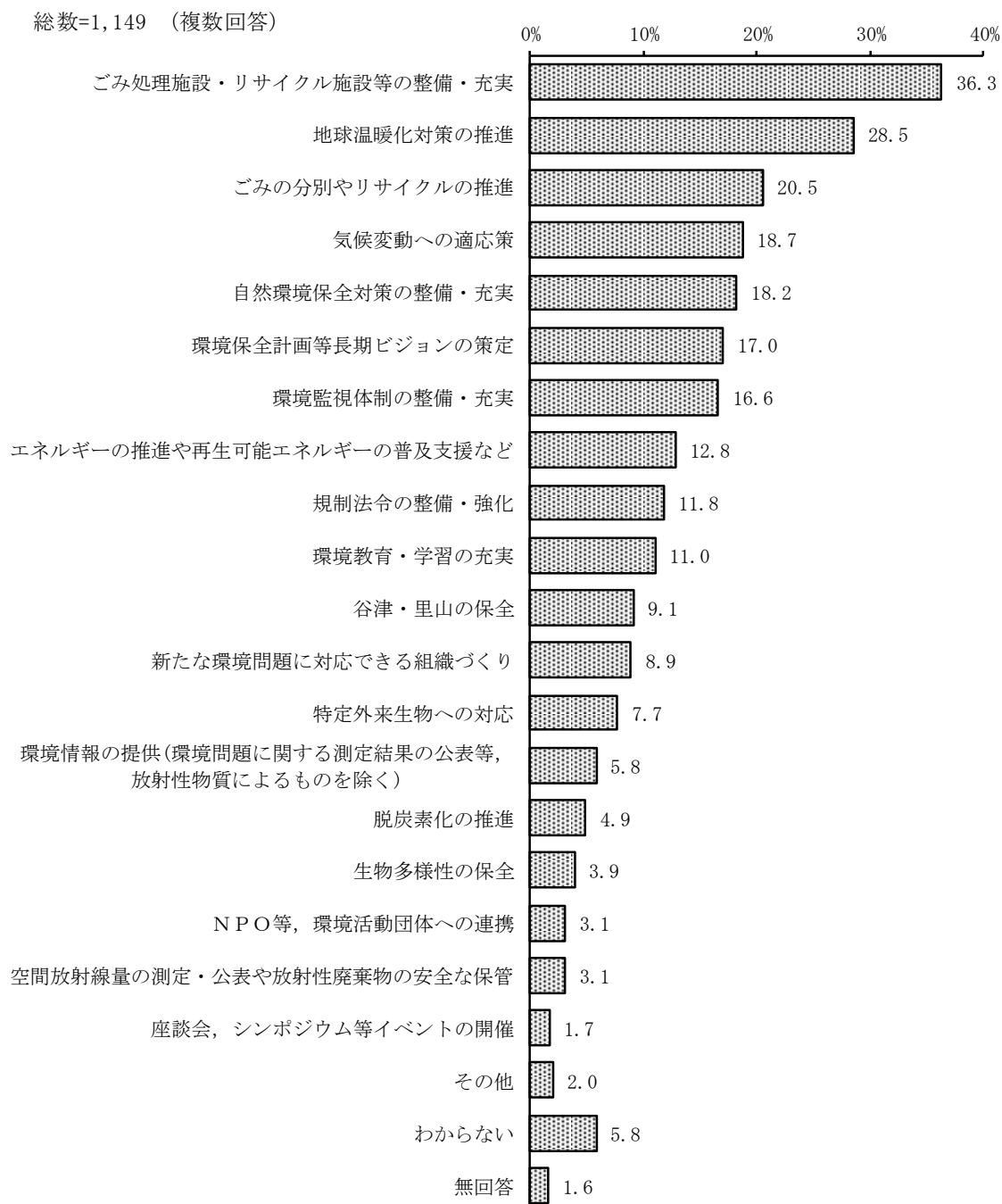
	全体	大気汚染	印旛沼や新川などの水質汚濁	ダイオキシン類、環境ホルモンの化学物質による汚染	騒音・振動	悪臭	地下水汚染	土壌汚染（放射性物質によるものを除く）	地盤沈下	ごみの減量・リサイクル	廃棄物の不法投棄	身近な自然環境の減少	エネルギーの有効利用・省エネ	地球温暖化	脱炭素化	生物多様性の保全	谷津・里山の保全	放射性物質による汚染や放射能汚染の保管・最終処分	野生鳥獣などによる被害	特定外来生物	気候変動	
全体	1,149 100.0	289 25.2	332 28.9	154 13.4	221 19.2	112 9.7	148 12.9	60 5.2	80 7.0	451 39.3	339 29.5	228 19.8	231 20.1	676 58.8	125 10.9	64 5.6	131 11.4	147 12.8	123 10.7	142 12.4	511 44.5	
性別	男性	500 100.0	122 24.4	169 33.8	48 9.6	96 19.2	49 9.8	59 11.8	13 2.6	24 4.8	179 35.8	165 33.0	98 19.6	94 18.8	255 51.0	69 13.8	31 6.2	70 14.0	38 7.6	51 10.2	66 13.2	191 38.2
	女性	596 100.0	154 25.8	153 25.7	99 16.6	115 19.3	58 9.7	83 13.9	42 7.0	48 8.1	256 43.0	161 27.0	120 20.1	130 21.8	396 66.4	53 8.9	30 5.0	59 9.9	103 17.3	63 10.6	69 11.6	306 51.3
年齢別	29歳以下	85 100.0	20 23.5	17 20.0	8 9.4	19 22.4	16 18.8	3 3.5	2 2.4	9 10.6	28 32.9	14 16.5	17 20.0	15 17.6	35 41.2	11 12.9	8 9.4	7 8.2	5 5.9	8 9.4	9 10.6	30 35.3
	30歳代	107 100.0	24 22.4	25 23.4	5 4.7	31 29.0	21 19.6	13 12.1	6 5.6	14 13.1	34 31.8	30 28.0	13 12.1	22 20.6	51 47.7	7 6.5	7 6.5	6 5.6	9 8.4	9 8.4	15 14.0	36 33.6
	40歳代	180 100.0	42 23.3	44 24.4	21 11.7	40 22.2	20 11.1	15 11.1	14 8.3	14 7.8	78 43.3	47 26.1	34 18.9	34 28.3	51 45.6	13 7.2	10 5.6	13 7.2	19 10.6	28 15.6	24 13.3	63 35.0
	50歳代	214 100.0	50 23.4	65 30.4	32 15.0	48 22.4	23 10.7	29 13.6	11 5.1	16 7.5	87 40.7	63 29.4	43 20.1	57 26.6	143 66.8	29 13.6	14 6.5	25 11.7	31 14.5	24 11.2	37 17.3	103 48.1
	60歳代	188 100.0	39 20.7	52 27.7	27 14.4	29 15.4	13 6.9	29 15.4	10 5.3	4 2.1	73 38.8	65 34.6	35 18.6	41 21.8	126 67.0	25 13.3	11 5.9	29 15.4	19 10.1	19 10.1	14 7.4	94 50.0
	70歳以上	354 100.0	108 30.5	128 36.2	59 16.7	82 23.2	17 4.8	83 23.5	15 4.2	21 5.9	146 41.2	116 32.8	80 22.6	44 12.4	232 65.5	39 11.0	14 4.0	50 14.1	62 17.5	33 9.3	43 12.1	179 50.6
居住地域別	大和田地域	280 100.0	69 24.6	77 27.5	44 15.7	48 17.1	22 7.9	34 12.1	11 3.9	19 6.8	122 43.6	78 27.9	61 21.8	67 23.9	173 61.8	33 11.8	15 5.4	31 11.1	29 10.4	17 6.1	35 12.5	119 42.5
	高津・緑が丘地域	262 100.0	62 23.7	74 28.2	30 11.5	51 19.5	28 10.7	25 9.5	15 5.7	17 6.5	94 35.9	76 29.0	51 19.5	53 20.2	151 57.6	25 9.5	15 5.7	8 8.0	35 13.4	32 12.2	37 14.1	106 40.5
	八千代台地域	205 100.0	49 23.9	52 25.4	19 9.3	45 22.0	16 7.8	25 12.2	10 4.9	12 5.9	81 39.5	54 26.3	37 18.0	32 15.6	122 59.5	25 12.2	3 3.9	7 7.3	27 13.2	30 14.6	20 9.8	98 47.8
	勝田台地域	108 100.0	34 31.5	39 36.1	17 15.7	18 16.7	12 11.1	19 17.6	5 4.6	6 5.6	51 47.2	37 34.3	19 17.6	20 18.5	70 64.8	15 13.9	7 6.5	17 15.7	21 19.4	15 13.9	14 13.0	52 48.1
	村上地域	188 100.0	55 29.3	64 34.0	31 16.5	41 21.8	21 11.2	30 16.0	14 7.4	17 9.0	72 38.3	57 30.3	39 20.7	44 23.4	110 58.5	20 10.6	13 6.9	31 16.5	21 11.2	16 8.5	23 12.2	93 49.5
	阿蘇地域	41 100.0	8 19.5	18 43.9	6 14.6	10 24.4	6 14.6	3 7.3	2 4.9	4 9.8	13 31.7	19 46.3	4 9.8	8 19.5	17 41.5	4 9.8	2 4.9	8 19.5	6 14.6	9 22.0	7 17.1	14 34.1
	睦地域	41 100.0	6 14.6	5 12.2	3 7.3	5 12.2	6 14.6	10 24.4	2 4.9	3 7.3	11 26.8	14 34.1	10 24.4	6 14.6	22 53.7	1 2.4	3 7.3	6 14.6	6 14.6	3 7.3	6 14.6	20 48.8

- 各属性の中で最も割合が高い選択肢
- 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」，「特になし」，「無回答」は表記を省略している。

(2) 環境への取組の期待

問 11 環境に対する市の取組として何を期待しますか。(○は3つまで)



環境に対する取組として期待していることは、「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」が36.3%で最も多く、次いで、「地球温暖化対策の推進」が28.5%、「ごみの分別やリサイクルの推進」が20.5%で続いている。

《時系列比較》

前回(令和元年度)調査も「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」(35.5%)が最多、次いで、「地球温暖化対策の推進」(26.9%)が続いており、同様の結果であった。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女ともに「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」が最も多い。「地球温暖化対策の推進」では女性の方が男性よりも9.8ポイント多くなっている。

年齢別では、29歳以下では「ごみの分別やリサイクルの推進」、30～60歳代では「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」、70歳以上では「地球温暖化対策の推進」が最多となっている。

居住地域別では、睦地域では「自然環境保全対策の整備・充実」及び「地球温暖化対策の推進」、その他の地域では「ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実」が最多となっている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	環境保全計画等長期ビジョンの策定	規制法令の整備・強化	環境監視体制の整備・充実	自然環境保全対策の整備・充実	ごみ処理施設・リサイクル施設等の整備・充実	ごみの分別やリサイクルの推進	環境情報の提供（環境問題に関する測定結果の公表等、放射性物質によるものを除く）	生物多様性の保全	谷津・里山の保全	特定外来生物への対応	環境教育・学習の充実	座談会、シンポジウム等イベントの開催	NPO等、環境活動団体への連携	新たな環境問題に対応できる組織づくり	地球温暖化対策の推進	脱炭素化の推進	気候変動への適応策	エネルギーの普及支援など	性廃棄物の安全な保管・公表や放射線量の測定
全体	1,149	195	136	191	209	417	236	67	45	104	89	126	19	36	102	328	56	215	147	36
	100.0	17.0	11.8	16.6	18.2	36.3	20.5	5.8	3.9	9.1	7.7	11.0	1.7	3.1	8.9	28.5	4.9	18.7	12.8	3.1
性別	男性	500	100	70	104	95	190	94	33	20	61	43	56	7	17	32	118	32	75	65
	女性	596	87	65	80	109	204	129	33	24	40	41	64	12	19	63	199	22	132	77
	100.0	14.6	10.9	13.4	18.3	34.2	21.6	5.5	4.0	6.7	6.9	10.7	2.0	3.2	10.6	33.4	3.7	22.1	12.9	4.2
年齢別	29歳以下	85	13	12	16	9	22	26	2	10	5	5	14	2	5	7	13	4	9	1
		100.0	15.3	14.1	18.8	10.6	25.9	30.6	2.4	11.8	5.9	5.9	16.5	2.4	5.9	8.2	15.3	4.7	10.6	1.2
	30歳代	107	18	16	11	17	45	19	9	6	6	9	17	-	4	8	18	3	15	14
		100.0	16.8	15.0	10.3	15.9	42.1	17.8	8.4	5.6	5.6	8.4	15.9	-	3.7	7.5	16.8	2.8	14.0	13.1
	40歳代	180	24	26	21	22	75	41	8	10	11	15	22	2	5	12	37	7	17	36
		100.0	13.3	14.4	11.7	12.2	41.7	22.8	4.4	5.6	6.1	8.3	12.2	1.1	2.8	6.7	20.6	3.9	9.4	20.0
	50歳代	214	31	26	29	38	81	42	10	9	19	18	21	2	10	26	63	10	44	27
	100.0	14.5	12.1	13.6	17.8	37.9	19.6	4.7	4.2	8.9	8.4	9.8	0.9	4.7	12.1	29.4	4.7	20.6	12.6	
60歳代	188	28	21	46	45	68	29	16	6	23	19	16	4	5	23	52	8	51	27	
	100.0	14.9	11.2	24.5	23.9	36.2	15.4	8.5	3.2	12.2	10.1	8.5	2.1	2.7	12.2	27.7	4.3	27.1	14.4	
70歳以上	354	79	34	65	75	120	74	22	4	39	23	34	9	7	24	140	23	77	33	
	100.0	22.3	9.6	18.4	21.2	33.9	20.9	6.2	1.1	11.0	6.5	9.6	2.5	2.0	6.8	39.5	6.5	21.8	9.3	
居住地域別	大和田地域	280	50	30	39	62	102	53	13	12	28	21	32	6	8	25	82	14	55	39
		100.0	17.9	10.7	13.9	22.1	36.4	18.9	4.6	4.3	10.0	7.5	11.4	2.1	2.9	8.9	29.3	5.0	19.6	13.9
	高津・緑が丘地域	262	44	34	50	39	99	52	20	7	19	20	39	3	9	14	68	11	40	37
		100.0	16.8	13.0	19.1	14.9	37.8	19.8	7.6	2.7	7.3	7.6	14.9	1.1	3.4	5.3	26.0	4.2	15.3	14.1
	八千代台地域	205	28	30	31	26	72	43	9	9	12	13	15	4	9	19	66	15	43	32
		100.0	13.7	14.6	15.1	12.7	35.1	21.0	4.4	4.4	5.9	6.3	7.3	2.0	4.4	9.3	32.2	7.3	21.0	15.6
	勝田台地域	108	18	10	17	21	46	25	7	5	7	11	9	1	4	17	28	6	21	9
	100.0	16.7	9.3	15.7	19.4	42.6	23.1	6.5	4.6	6.5	10.2	8.3	0.9	3.7	15.7	25.9	5.6	19.4	8.3	
村上地域	188	39	26	36	38	66	39	15	8	23	14	20	4	5	18	56	6	39	20	
	100.0	20.7	13.8	19.1	20.2	35.1	20.7	8.0	4.3	12.2	7.4	10.6	2.1	2.7	9.6	29.8	3.2	20.7	10.6	
阿蘇地域	41	10	1	6	7	17	11	2	1	8	5	2	-	-	2	10	1	7	5	
	100.0	24.4	2.4	14.6	17.1	41.5	26.8	4.9	2.4	19.5	12.2	4.9	-	-	4.9	24.4	2.4	17.1	12.2	
睦地域	41	4	4	9	11	10	7	1	2	6	5	7	1	1	5	11	2	7	4	
	100.0	9.8	9.8	22.0	26.8	24.4	17.1	2.4	4.9	14.6	12.2	17.1	2.4	2.4	12.2	26.8	4.9	17.1	9.8	

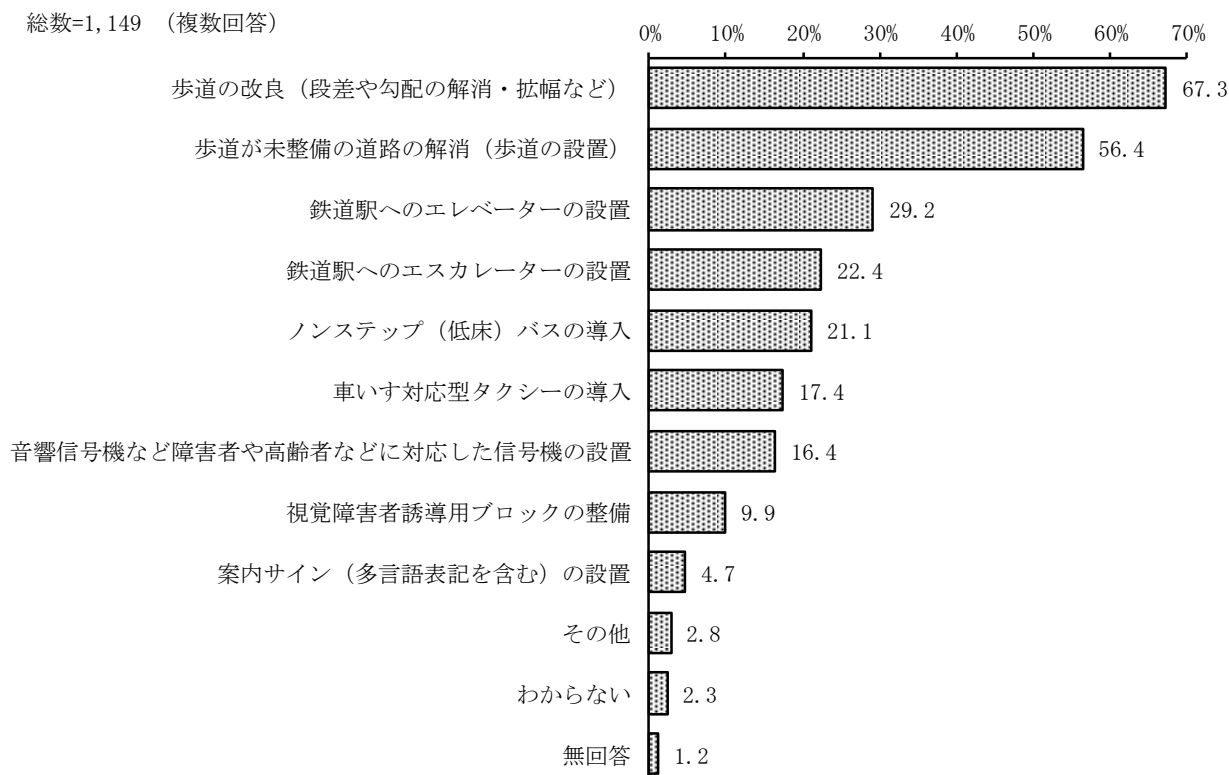
各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「わからない」, 「無回答」は表記を省略している。

8 交通について

(1) 交通バリアフリーの優先策

問 12 交通バリアフリー化で優先的に取り組む対策は何だと思いますか。(〇は3つまで)



交通バリアフリーの優先策としては、「歩道の改良」が67.3%で最も多く、次いで、「歩道が未整備の道路の解消」が56.4%、「鉄道駅へのエレベーターの設置」が29.2%が続いている。

《時系列比較》

前回 (令和元年度) 調査でも、「歩道の改良」(65.4%) が最も多く同様の結果であった。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女ともに「歩道の改良」が最も多い。「歩道が未整備の道路の解消」では、男性の方が女性よりも6.5ポイント多くなっている。



年齢別では、各年齢層ともに「歩道の改良」が最も多く、60歳代(76.1%)の多さが目立つ。

居住地域別では、各地域ともに「歩道の改良」が最多となっている。勝田台地域では、「鉄道駅へのエレベーターの設置」の多さが目立つ。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	鉄道駅へのエレベーターの設置	鉄道駅へのエスカレーター	ノンステップ（低床）バスの導入	車いす対応型タクシーの導入	視覚障害者誘導用ブロックの整備	歩道の改良（段差や勾配の解消・拡幅など）	歩道が未整備の道路の解消（歩道の設置）	音響信号機などの障害者や高齢者などに対応した信号機の設置	案内サイン（多言語表記を含む）の設置
全体		1,149 100.0	335 29.2	257 22.4	242 21.1	200 17.4	114 9.9	773 67.3	648 56.4	188 16.4	54 4.7
性別	男性	500 100.0	123 24.6	107 21.4	96 19.2	76 15.2	56 11.2	337 67.4	301 60.2	80 16.0	26 5.2
	女性	596 100.0	202 33.9	145 24.3	138 23.2	117 19.6	51 8.6	407 68.3	320 53.7	101 16.9	28 4.7
年齢別	29歳以下	85 100.0	31 36.5	23 27.1	18 21.2	11 12.9	14 16.5	42 49.4	41 48.2	19 22.4	6 7.1
	30歳代	107 100.0	39 36.4	13 12.1	21 19.6	17 15.9	4 3.7	74 69.2	70 65.4	16 15.0	7 6.5
	40歳代	180 100.0	63 35.0	38 21.1	32 17.8	22 12.2	19 10.6	122 67.8	114 63.3	20 11.1	9 5.0
	50歳代	214 100.0	68 31.8	46 21.5	39 18.2	45 21.0	23 10.7	146 68.2	130 60.7	20 9.3	13 6.1
	60歳代	188 100.0	43 22.9	34 18.1	35 18.6	17 16.5	17 9.0	143 76.1	112 59.6	37 19.7	6 3.2
	70歳以上	354 100.0	86 24.3	101 28.5	94 26.6	70 19.8	35 9.9	241 68.1	173 48.9	74 20.9	13 3.7
居住地域別	大和田地域	280 100.0	78 27.9	55 19.6	61 21.8	57 20.4	28 10.0	188 67.1	166 59.3	45 16.1	21 7.5
	高津・緑が丘地域	262 100.0	74 28.2	50 19.1	64 24.4	37 14.1	28 10.7	189 72.1	164 62.6	36 13.7	9 3.4
	八千代台地域	205 100.0	51 24.9	39 19.0	43 21.0	43 21.0	18 8.8	144 70.2	113 55.1	38 18.5	9 4.4
	勝田台地域	108 100.0	48 44.4	45 41.7	19 17.6	23 21.3	11 10.2	66 61.1	42 38.9	18 16.7	3 2.8
	村上地域	188 100.0	64 34.0	52 27.7	35 18.6	25 13.3	18 9.6	121 64.4	105 55.9	38 20.2	9 4.8
	阿蘇地域	41 100.0	10 24.4	7 17.1	12 29.3	5 12.2	4 9.8	25 61.0	25 61.0	4 9.8	2 4.9
	睦地域	41 100.0	6 14.6	7 17.1	4 9.8	6 14.6	5 12.2	31 75.6	23 56.1	6 14.6	1 2.4

 各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

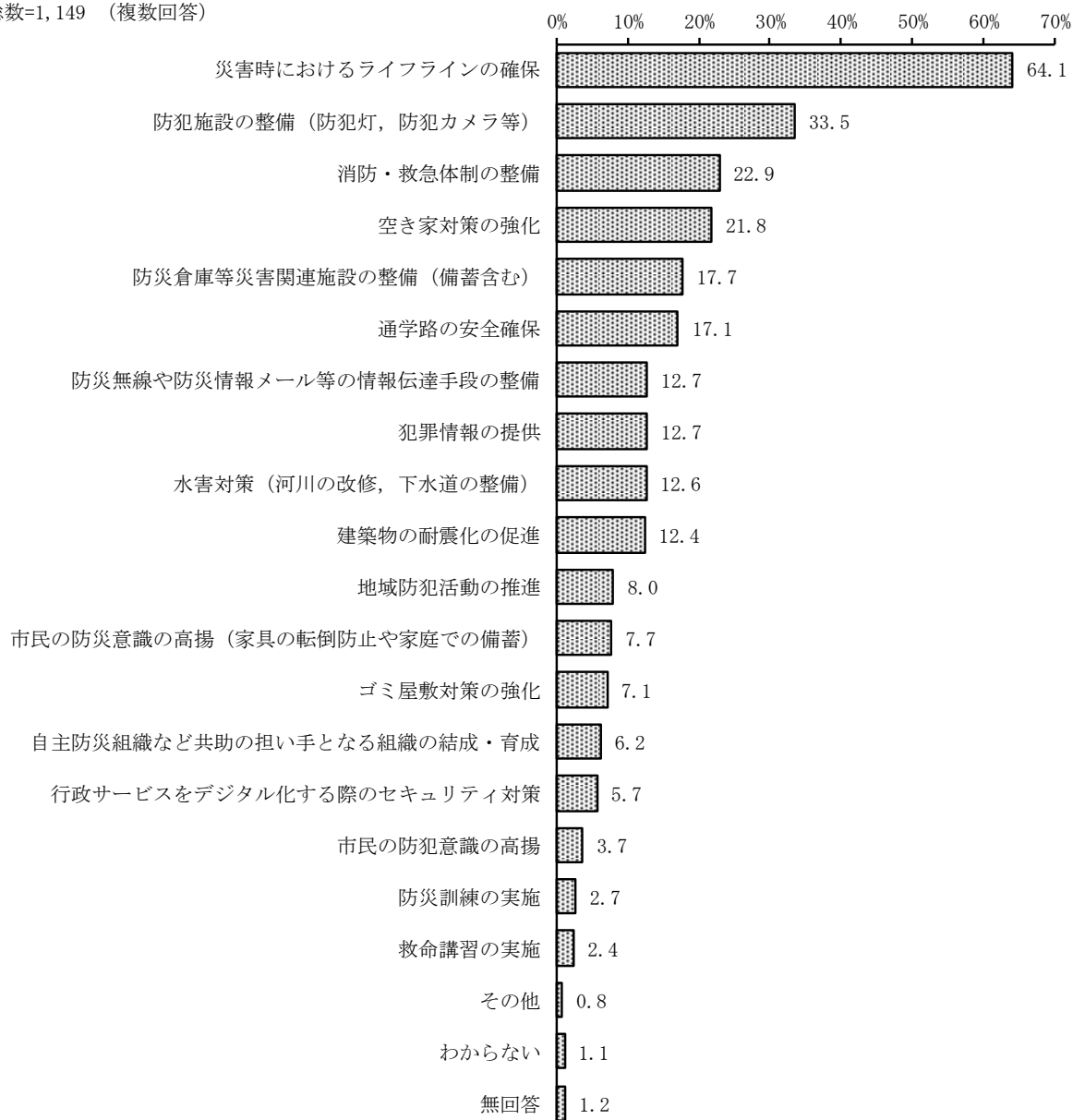
注) 「その他」, 「わからない」, 「無回答」は表記を省略している。

9 安心で安全なまちづくりについて

(1) 安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこと

問 13 安心で安全なまちづくりを進める上で取り組むべきことは何だと思えますか。(○は3つまで)

総数=1,149 (複数回答)



安心で安全なまちづくりのために取り組むべきこととしては、「災害時におけるライフラインの確保」が 64.1%で最も多く、次いで、「防犯施設の整備」が 33.5%、「消防・救急体制の整備」が 22.9%で続いている。

《時系列比較》

前回 (令和元年度) 調査においても、「災害時におけるライフラインの確保」(72.9%) が最多だが、8.8ポイント減少した。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「通学路の安全確保」の割合は女性の方が男性よりも9.1ポイント多い。

年齢別では、上位の項目は共通であるが、29歳以下で「防災倉庫等災害関連施設の整備」、30歳代で「通学路の安全確保」の割合が多くなっている。

居住地域別では、「災害時におけるライフラインの確保」の割合が村上地域で70.7%と特に多い。また、阿蘇地域では「消防・救急体制の整備」の多さも目立つ。

＜性別・年齢別・居住地域別＞

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	災害時におけるライフラインの確保	防災倉庫等災害関連施設の整備（備蓄含む）	消防・救急体制の整備	防災訓練の実施	市民の防災意識の高揚（家具の転倒防止や家庭での備蓄）	伝達手段の整備	防災無線や防災情報メール等の情報	自主防災組織など共助の担い手となる組織の結成・育成	建築物の耐震化の促進	犯罪情報の提供	地域防犯活動の推進	防犯施設の整備（防犯灯、防犯カメラ等）	通学路の安全確保	ゴミ屋敷対策の強化	空き家対策の強化	市民の防犯意識の高揚	救命講習の実施	備	水害対策（河川の改修、下水道の整備）	行政サービスをデジタル化する際のセキュリティ対策
全体	1,149 100.0	736 64.1	203 17.7	263 22.9	31 2.7	88 7.7	146 12.7	71 6.2	142 12.4	146 12.7	92 8.0	385 33.5	197 17.1	82 7.1	250 21.8	43 3.7	28 2.4	145 12.6	65 5.7		
性別	男性	500 100.0	324 64.8	85 17.0	128 25.6	15 3.0	36 7.2	58 11.6	37 7.4	52 10.4	74 14.8	45 9.0	176 35.2	60 12.0	43 8.6	106 21.2	22 4.4	11 2.2	60 12.0	30 6.0	
	女性	596 100.0	386 64.8	110 18.5	128 21.5	15 2.5	49 8.2	85 14.3	32 5.4	79 13.3	70 11.7	41 6.9	194 32.6	126 21.1	35 5.9	129 21.6	19 3.2	16 2.7	74 12.4	34 5.7	
年齢別	29歳以下	85 100.0	53 62.4	23 27.1	11 12.9	2 2.4	8 9.4	6 7.1	4 4.7	12 14.1	17 20.0	9 10.6	23 27.1	18 21.2	2 2.4	12 14.1	8 9.4	3 3.5	11 12.9	8 9.4	
	30歳代	107 100.0	62 57.9	20 18.7	18 16.8	2 1.9	5 4.7	8 7.5	1 0.9	22 20.6	17 15.9	13 12.1	36 33.6	36 33.6	5 4.7	19 17.8	4 3.7	3 2.8	16 15.0	12 11.2	
	40歳代	180 100.0	100 55.6	34 18.9	44 24.4	4 2.2	14 7.8	19 10.6	10 5.6	22 12.2	26 14.4	9 5.0	66 36.7	44 24.4	20 11.1	41 22.8	3 1.7	5 2.8	28 15.6	9 5.0	
	50歳代	214 100.0	149 69.6	39 18.2	50 23.4	5 2.3	33 15.4	10 4.7	27 12.6	27 12.6	22 10.3	13 6.1	68 31.8	28 13.1	19 8.9	46 21.5	5 2.3	6 2.8	39 18.2	16 7.5	
	60歳代	188 100.0	136 72.3	27 14.4	48 25.5	2 1.1	16 8.5	31 16.5	16 8.5	18 9.6	18 9.6	14 7.4	63 33.5	25 13.3	15 8.0	40 21.3	7 3.7	2 1.1	23 12.2	7 3.7	
	70歳以上	354 100.0	227 64.1	58 16.4	89 25.1	16 4.5	34 9.6	49 13.8	29 8.2	40 11.3	46 13.0	33 9.3	122 34.5	45 12.7	19 5.4	86 24.3	15 4.2	8 2.3	25 7.1	13 3.7	
居住地域別	大和田地域	280 100.0	183 65.4	48 17.1	60 21.4	8 2.9	25 8.9	36 12.9	19 6.8	37 13.2	44 15.7	19 6.8	88 31.4	40 14.3	22 7.9	55 19.6	10 3.6	9 3.2	43 15.4	18 6.4	
	高津・緑が丘地域	262 100.0	176 67.2	45 17.2	63 24.0	11 4.2	16 6.1	35 13.4	10 3.8	39 14.9	30 11.5	27 10.3	80 30.5	49 18.7	16 6.1	49 18.7	12 4.6	5 1.9	35 13.4	16 6.1	
	八千代台地域	205 100.0	123 60.0	39 19.0	45 22.0	3 1.5	14 6.8	24 11.7	9 4.4	23 11.2	25 12.2	17 8.3	83 40.5	39 19.0	16 7.8	58 28.3	9 4.4	4 2.0	18 8.8	11 5.4	
	勝田台地域	108 100.0	68 63.0	17 15.7	30 27.8	3 2.8	6 5.6	12 11.1	10 9.3	15 13.9	14 13.0	12 11.1	37 34.3	12 11.1	13 12.0	28 25.9	3 2.8	2 1.9	11 10.2	6 5.6	
	村上地域	188 100.0	133 70.7	35 18.6	41 21.8	6 3.2	18 9.6	30 16.0	15 8.0	16 8.5	20 10.6	7 3.7	62 33.0	37 19.7	9 4.8	35 18.6	6 3.2	4 2.1	29 15.4	12 6.4	
	阿蘇地域	41 100.0	24 58.5	10 24.4	12 29.3	-	2 4.9	3 7.3	-	-	4 9.8	6 14.6	11 26.8	6 14.6	3 7.3	7 17.1	1 2.4	1 4.9	2 12.2	2 4.9	
	睦地域	41 100.0	20 48.8	7 17.1	9 22.0	-	5 12.2	6 14.6	7 17.1	-	6 14.6	7 17.1	3 7.3	16 39.0	12 29.3	1 2.4	14 34.1	1 2.4	1 4.9	1 2.4	-

各属性の中で最も割合が高い選択肢
各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「わからない」, 「無回答」は表記を省略している。

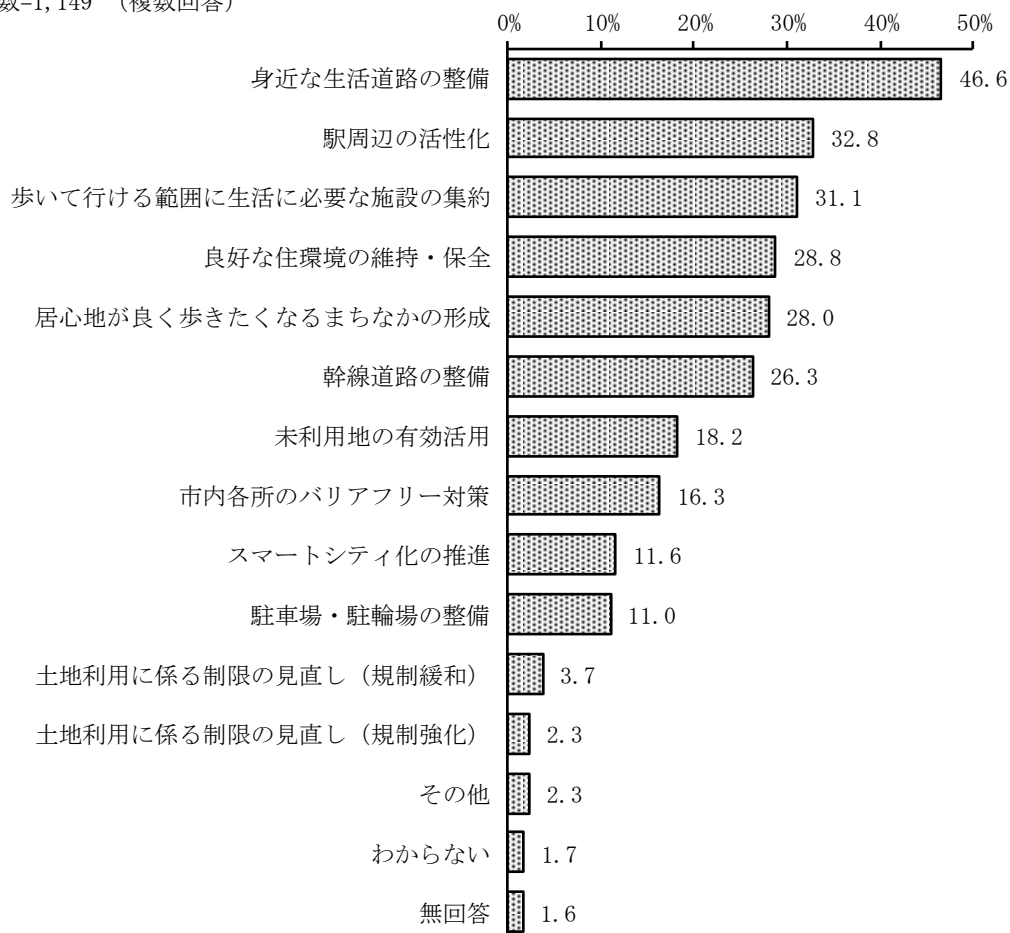
10 都市基盤の整備について

(1) 取り組むべき都市基盤の整備

問 14 市民の生活環境の向上に向けて取り組むべき都市基盤の整備は何だと思えますか。

(○は3つまで) 【新規】

総数=1,149 (複数回答)



取り組むべき都市基盤の整備としては、「身近な生活道路の整備」が 46.6%で最も多く、次いで、「駅周辺の活性化」が 32.8%、「歩いて行ける範囲に生活に必要な施設の集約」が 31.1%で続いている。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女ともに「身近な生活道路の整備」が最多であるが、次いで、男性では「幹線道路の整備」、女性では「歩いて行ける範囲に生活に必要な施設の集約」の割合が多くなっている。

年齢別では、各年齢層ともに「身近な生活道路の整備」が最多であるが、50歳代以下では「駅周辺の活性化」、60歳代では「良好な住環境の維持・保全」、70歳以上では「歩いて行ける範囲に生活に必要な施設の集約」も多くなっている。

居住地域別では、勝田台地域が「駅周辺の活性化」、その他の地域で「身近な生活道路の整備」が最多となっている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	幹線道路の整備	身近な生活道路の整備	未利用地の有効活用	駐車場・駐輪場の整備	駅周辺の活性化	良好な住環境の維持・保全	か居心地が良く歩きたくなるまちな	スマートシティ化の推進	土地強化)	土地利用に係る制限の見直し(規	市内各所のバリアフリー対策	歩いて行ける範囲に生活に必要な	
全体	1,149 100.0	302 26.3	536 46.6	209 18.2	126 11.0	377 32.8	331 28.8	322 28.0	133 11.6	27 2.3	42 3.7	187 16.3	357 31.1	
性別	男性	500 100.0	170 34.0	222 44.4	103 20.6	55 11.0	168 33.6	153 30.6	125 25.0	83 16.6	14 2.8	29 5.8	58 11.6	118 23.6
	女性	596 100.0	117 19.6	287 48.2	97 16.3	67 11.2	194 32.6	171 28.7	188 31.5	47 7.9	12 2.0	12 2.0	121 20.3	228 38.3
年齢別	29歳以下	85 100.0	20 23.5	36 42.4	25 29.4	13 15.3	29 34.1	20 23.5	16 18.8	14 16.5	4 4.7	4 4.7	15 17.6	20 23.5
	30歳代	107 100.0	34 31.8	57 53.3	22 20.6	11 10.3	46 43.0	35 32.7	21 19.6	16 15.0	1 0.9	6 5.6	13 12.1	30 28.0
	40歳代	180 100.0	63 35.0	84 46.7	39 21.7	21 11.7	75 41.7	45 25.0	39 21.7	27 15.0	4 2.2	10 5.6	19 10.6	41 22.8
	50歳代	214 100.0	65 30.4	94 43.9	40 18.7	27 12.6	70 32.7	58 27.1	60 28.0	31 14.5	4 1.9	5 2.3	34 15.9	64 29.9
	60歳代	188 100.0	52 27.7	88 46.8	18 9.6	20 10.6	54 28.7	66 35.1	58 30.9	21 11.2	2 1.1	4 2.1	41 21.8	62 33.0
	70歳以上	354 100.0	64 18.1	167 47.2	62 17.5	32 9.0	99 28.0	105 29.7	125 35.3	23 6.5	11 3.1	13 3.7	64 18.1	136 38.4
居住地域別	大和田地域	280 100.0	77 27.5	136 48.6	48 17.1	27 9.6	97 34.6	82 29.3	83 29.6	41 14.6	3 1.1	5 1.8	49 17.5	94 33.6
	高津・緑が丘地域	262 100.0	94 35.9	126 48.1	49 18.7	25 9.5	62 23.7	92 35.1	69 26.3	27 10.3	4 1.5	14 5.3	41 15.6	74 28.2
	八千代台地域	205 100.0	35 17.1	93 45.4	37 18.0	33 16.1	90 43.9	47 22.9	59 28.8	26 12.7	8 3.9	9 4.4	35 17.1	67 32.7
	勝田台地域	108 100.0	18 16.7	40 37.0	19 17.6	16 14.8	41 38.0	30 27.8	39 36.1	9 8.3	3 2.8	3 2.8	17 15.7	36 33.3
	村上地域	188 100.0	46 24.5	90 47.9	31 16.5	18 9.6	64 34.0	56 29.8	51 27.1	24 12.8	5 2.7	7 3.7	31 16.5	55 29.3
	阿蘇地域	41 100.0	15 36.6	19 46.3	9 22.0	3 7.3	11 26.8	8 19.5	9 22.0	3 7.3	1 2.4	2 4.9	6 14.6	12 29.3
	睦地域	41 100.0	12 29.3	21 51.2	13 31.7	2 4.9	8 19.5	14 34.1	9 22.0	2 4.9	2 4.9	2 4.9	6 14.6	15 36.6

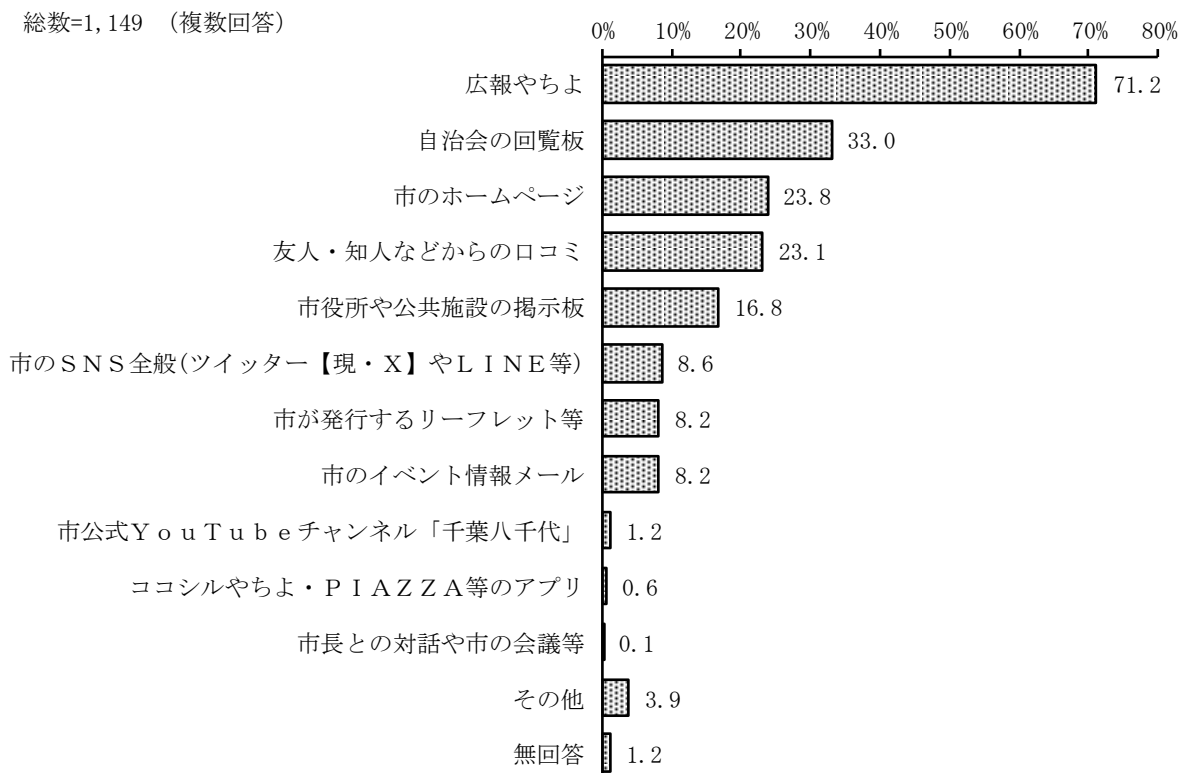
各属性の中で最も割合が高い選択肢
各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」、「わからない」、「無回答」は表記を省略している。

11 情報の提供について

(1) 市行政情報の入手方法

問 15 市の事業やイベントなどの情報をどのような手段で入手していますか。(〇は3つまで)



市行政情報の入手方法は、「広報やちよ」が71.2%で最も多く、次いで、「自治会の回覧板」が33.0%、「市のホームページ」が23.8%で続いている。

《時系列比較》

前回(令和元年度)調査でも、「広報やちよ」(76.1%)が突出して多い。前回調査と比較すると「自治会の回覧板」(39.8%)が6.8ポイント減少し、「市のホームページ」(17.4%)が6.4ポイント増加した。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男性で「市のホームページ」、女性で「友人・知人などからの口コミ」の割合が比較的多くなっている。

年齢別では、各年齢層ともに「広報やちよ」が最多となっている。次いで、30歳代以下では「友人・知人などからの口コミ」、40歳代と50歳代では「市のホームページ」、60歳代以上では「自治会の回覧板」となっている。

居住地域別では、各地域ともに「広報やちよ」、「自治会の回覧板」が多くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

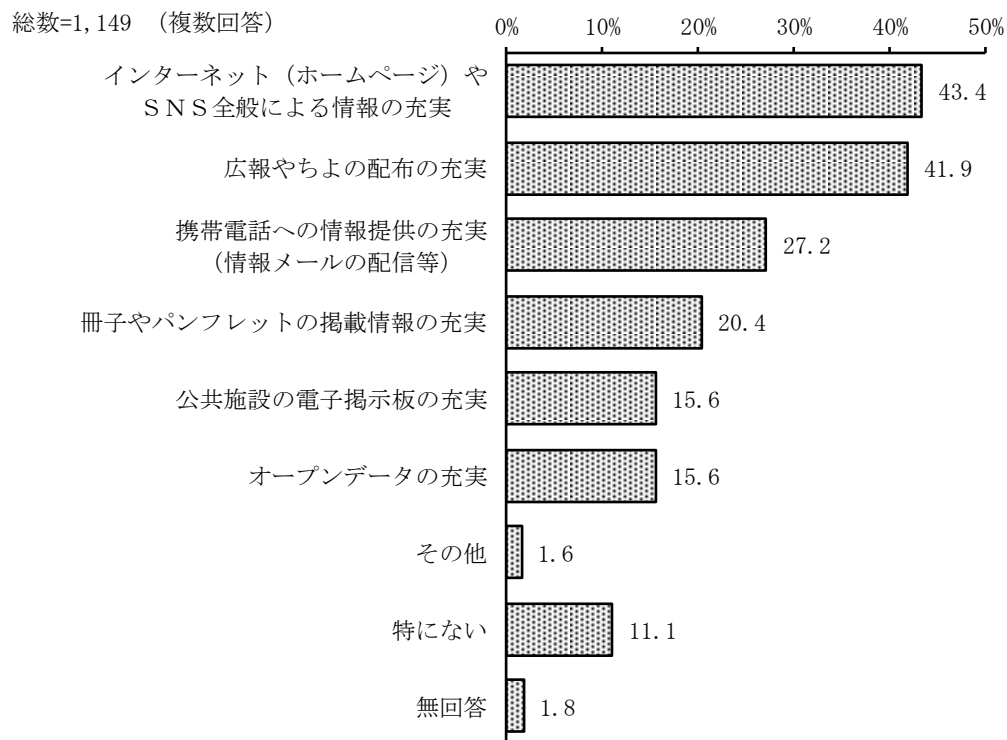
	全体	広報やちよ	市役所や公共施設の掲示板	友人・知人などからの口コミ	市が発行するリーフレット等	市のホームページ	市のイベント情報メール	市のSNS全般（ツイッター・現・X）やLINE等	市のSNS全般（ツイッター・現・X）やLINE等のアプリ	市長との対話や市の会議等	自治会の回覧板	市公式YouTubeチャンネル「千葉八千代」	
全体	1,149 100.0	818 71.2	193 16.8	265 23.1	94 8.2	273 23.8	94 8.2	99 8.6	7 0.6	1 0.1	379 33.0	14 1.2	
性別	男性	500 100.0	352 70.4	86 17.2	94 18.8	51 10.2	145 29.0	34 6.8	43 8.6	3 0.6	1 0.2	167 33.4	6 1.2
	女性	596 100.0	439 73.7	100 16.8	159 26.7	39 6.5	115 19.3	58 9.7	50 8.4	4 0.7	-	203 34.1	6 1.0
年齢別	29歳以下	85 100.0	39 45.9	17 20.0	21 24.7	6 7.1	17 20.0	2 2.4	15 17.6	1 1.2	-	10 11.8	2 2.4
	30歳代	107 100.0	43 40.2	19 17.8	30 28.0	17 15.9	25 23.4	14 13.1	21 19.6	1 0.9	1 0.9	16 15.0	1 0.9
	40歳代	180 100.0	94 52.2	32 17.8	42 23.3	9 5.0	54 30.0	22 12.2	19 10.6	1 0.6	-	41 22.8	1 0.6
	50歳代	214 100.0	143 66.8	31 14.5	50 23.4	16 7.5	58 27.1	17 7.9	22 10.3	-	-	51 23.8	4 1.9
	60歳代	188 100.0	158 84.0	27 14.4	27 14.4	10 5.3	48 25.5	16 8.5	16 8.5	3 1.6	-	68 36.2	-
	70歳以上	354 100.0	326 92.1	64 18.1	94 26.6	36 10.2	67 18.9	23 6.5	6 1.7	1 0.3	-	185 52.3	5 1.4
居住地域別	大和田地域	280 100.0	184 65.7	46 16.4	79 28.2	24 8.6	82 29.3	28 10.0	26 9.3	2 0.7	1 0.4	90 32.1	4 1.4
	高津・緑が丘地域	262 100.0	180 68.7	42 16.0	53 20.2	24 9.2	59 22.5	23 8.8	18 6.9	2 0.8	-	74 28.2	2 0.8
	八千代台地域	205 100.0	147 71.7	30 14.6	47 22.9	14 6.8	48 23.4	10 4.9	22 10.7	-	-	77 37.6	3 1.5
	勝田台地域	108 100.0	82 75.9	22 20.4	29 26.9	10 9.3	21 19.4	9 8.3	9 8.3	-	-	43 39.8	2 1.9
	村上地域	188 100.0	147 78.2	36 19.1	39 20.7	14 7.4	45 23.9	18 9.6	20 10.6	3 1.6	-	50 26.6	2 1.1
	阿蘇地域	41 100.0	31 75.6	6 14.6	7 17.1	5 12.2	5 12.2	1 2.4	2 4.9	-	-	16 39.0	-
	睦地域	41 100.0	31 75.6	7 17.1	9 22.0	2 4.9	9 22.0	5 12.2	2 4.9	-	-	22 53.7	-

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

(2) 情報施策への希望

問 16 今後、市に取り組んでほしい情報の提供に関する施策は何ですか。(〇は3つまで)



市の情報施策への希望としては、「インターネット (ホームページ) や SNS 全般による情報の充実」が 43.4% で最も多く、次いで、「広報やちよの配布の充実」が 41.9%、「携帯電話への情報提供の充実」が 27.2% で続いている。

《時系列比較》

前回 (令和元年度) 調査と比較すると、「インターネット (ホームページ) や SNS 全般による情報の充実」 (前回調査では「インターネット (ホームページ) やツイッターによる情報の充実」 (39.1%)) の割合が 4.3 ポイント増加している。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男性では「インターネット (ホームページ) や SNS 全般による情報の充実」、女性では「広報やちよの配布の充実」が最多となっている。

年齢別では、50 歳代以下で「インターネット (ホームページ) や SNS 全般による情報の充実」、60 歳代以上で「広報やちよの配布の充実」が最多となっている。

居住地域別では、大和田地域及び高津・緑が丘地域、八千代台地域、村上地域で「インターネット (ホームページ) や SNS 全般による情報の充実」が最多となっている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

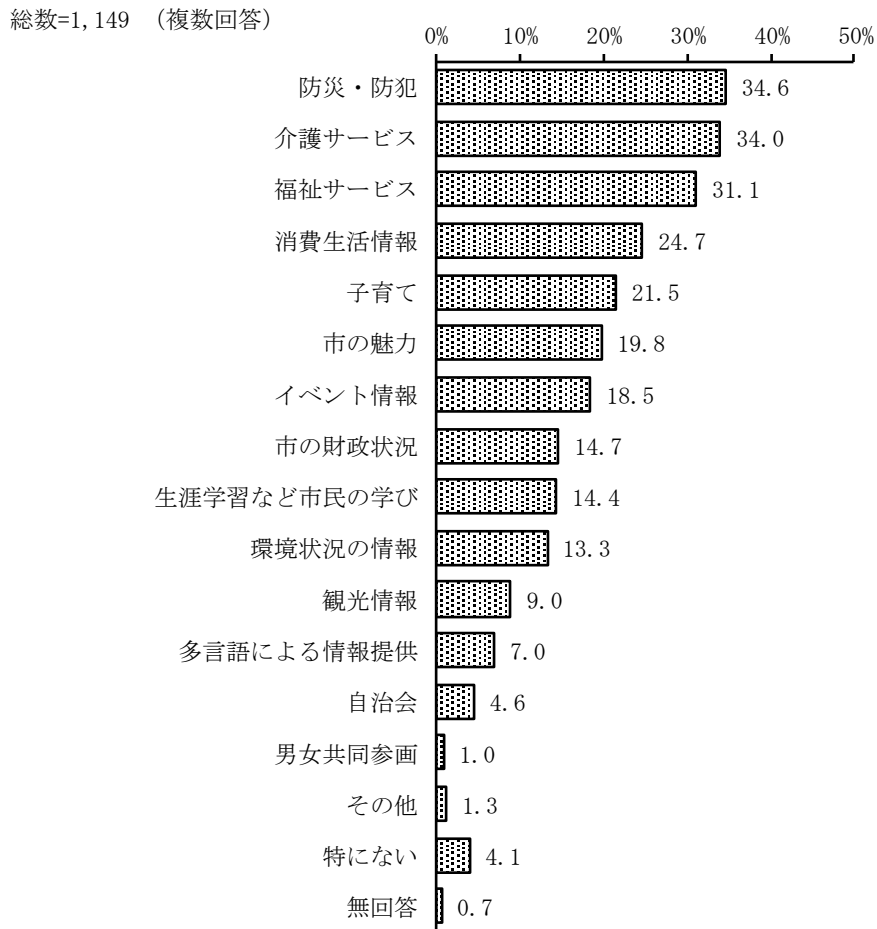
		全体	広報やちよの配布の充実	冊子やパンフレットの掲載情報の充実	公共施設の電子掲示板の充実	インターネット全般による情報の充実（ホームページ）	携帯電話への情報提供の充実（情報メールの配信等）	オープンデータの充実
全体		1,149 100.0	482 41.9	234 20.4	179 15.6	499 43.4	312 27.2	179 15.6
性別	男性	500 100.0	213 42.6	96 19.2	83 16.6	237 47.4	143 28.6	103 20.6
	女性	596 100.0	254 42.6	133 22.3	89 14.9	241 40.4	162 27.2	70 11.7
年齢別	29歳以下	85 100.0	17 20.0	10 11.8	11 12.9	47 55.3	13 15.3	22 25.9
	30歳代	107 100.0	17 15.9	13 12.1	17 15.9	73 68.2	27 25.2	25 23.4
	40歳代	180 100.0	37 20.6	18 10.0	29 16.1	102 56.7	43 23.9	32 17.8
	50歳代	214 100.0	79 36.9	27 12.6	40 18.7	108 50.5	72 33.6	36 16.8
	60歳代	188 100.0	88 46.8	51 27.1	26 13.8	84 44.7	46 24.5	34 18.1
	70歳以上	354 100.0	236 66.7	113 31.9	55 15.5	82 23.2	108 30.5	30 8.5
居住地域別	大和田地域	280 100.0	108 38.6	63 22.5	43 15.4	132 47.1	71 25.4	54 19.3
	高津・緑が丘地域	262 100.0	106 40.5	44 16.8	45 17.2	114 43.5	63 24.0	49 18.7
	八千代台地域	205 100.0	88 42.9	40 19.5	28 13.7	102 49.8	64 31.2	26 12.7
	勝田台地域	108 100.0	49 45.4	27 25.0	18 16.7	37 34.3	35 32.4	12 11.1
	村上地域	188 100.0	75 39.9	36 19.1	32 17.0	85 45.2	56 29.8	33 17.6
	阿蘇地域	41 100.0	23 56.1	12 29.3	5 12.2	10 24.4	5 12.2	3 7.3
	睦地域	41 100.0	23 56.1	8 19.5	7 17.1	14 34.1	12 29.3	1 2.4

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「特にない」, 「無回答」は表記を省略している。

(3) 充実すべき情報提供内容

問 17 今後、市が提供する情報で充実すべき内容は何ですか。(〇は3つまで)



今後充実させてほしい情報提供内容としては、「防災・防犯」が34.6%で最も多く、次いで、「介護サービス」が34.0%、「福祉サービス」が31.1%で続いている。

《時系列比較》

前回（令和元年度）調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男性では「防災・防犯」、女性では「介護サービス」が最多となっている。

年齢別では、40歳代以下では「子育て」、50歳代では「防災・防犯」、60歳代以上では「介護サービス」の割合が多くなっている。

居住地域別では、「防災・防犯」、「介護サービス」のほか、八千代台地域、村上地域で「福祉サービス」、阿蘇地域で「市の魅力」、睦地域で「消費生活情報」が比較的多くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	市の魅力	多言語による情報提供	消費生活情報	自治会	市の財政状況	防災・防犯	介護サービス	福祉サービス	観光情報	子育て	環境状況の情報	生涯学習など市民の学び	イベント情報	男女共同参画	
全体	1,149 100.0	228 19.8	81 7.0	284 24.7	53 4.6	169 14.7	398 34.6	391 34.0	357 31.1	103 9.0	247 21.5	153 13.3	165 14.4	212 18.5	11 1.0	
性別	男性	500 100.0	124 24.8	31 6.2	126 25.2	24 4.8	95 19.0	179 35.8	153 30.6	138 27.6	39 7.8	98 19.6	81 16.2	61 12.2	105 21.0	3 0.6
	女性	596 100.0	92 15.4	48 8.1	143 24.0	27 4.5	67 11.2	203 34.1	221 37.1	208 34.9	61 10.2	139 23.3	63 10.6	100 16.8	105 17.6	8 1.3
年齢別	29歳以下	85 100.0	19 22.4	8 9.4	20 23.5	2 2.4	12 14.1	26 30.6	11 12.9	13 15.3	15 17.6	38 44.7	3 3.5	14 16.5	20 23.5	3 3.5
	30歳代	107 100.0	23 21.5	8 7.5	22 20.6	2 1.9	27 25.2	36 33.6	8 7.5	17 15.9	17 15.9	63 58.9	11 10.3	9 8.4	32 29.9	1 0.9
	40歳代	180 100.0	33 18.3	12 6.7	38 21.1	4 2.2	34 18.9	66 36.7	31 17.2	39 21.7	17 9.4	70 38.9	20 11.1	17 9.4	38 21.1	3 1.7
	50歳代	214 100.0	37 17.3	19 8.9	50 23.4	6 2.8	29 13.6	85 39.7	83 38.8	71 33.2	21 9.8	28 13.1	30 14.0	29 13.6	44 20.6	1 0.5
	60歳代	188 100.0	31 16.5	17 9.0	56 29.8	8 4.3	19 10.1	66 35.1	75 39.9	71 37.8	16 8.5	26 13.8	33 17.6	29 15.4	30 16.0	-
	70歳以上	354 100.0	79 22.3	17 4.8	91 25.7	29 8.2	47 13.3	115 32.5	174 49.2	142 40.1	16 4.5	21 5.9	55 15.5	65 18.4	48 13.6	3 0.8
居住地域別	大和田地域	280 100.0	52 18.6	17 6.1	63 22.5	7 2.5	42 15.0	94 33.6	89 31.8	87 31.1	25 8.9	67 23.9	42 15.0	41 14.6	68 24.3	4 1.4
	高津・緑が丘地域	262 100.0	46 17.6	14 5.3	71 27.1	8 3.1	42 16.0	91 34.7	89 34.0	71 27.1	29 11.1	59 22.5	35 13.4	45 17.2	47 17.9	2 0.8
	八千代台地域	205 100.0	43 21.0	23 11.2	45 22.0	12 5.9	35 17.1	76 37.1	77 37.6	79 38.5	13 6.3	48 23.4	26 12.7	32 15.6	29 14.1	1 0.5
	勝田台地域	108 100.0	24 22.2	2 1.9	31 28.7	9 8.3	23 21.3	39 36.1	47 43.5	35 32.4	8 7.4	21 19.4	6 5.6	14 13.0	18 16.7	1 0.9
	村上地域	188 100.0	34 18.1	18 9.6	47 25.0	8 4.3	20 10.6	71 37.8	59 31.4	62 33.0	17 9.0	36 19.1	33 17.6	19 10.1	34 18.1	2 1.1
	阿蘇地域	41 100.0	13 31.7	5 12.2	8 19.5	6 14.6	4 9.8	11 26.8	11 26.8	8 19.5	4 9.8	5 12.2	4 9.8	6 14.6	7 17.1	-
	睦地域	41 100.0	11 26.8	2 4.9	12 29.3	1 2.4	2 4.9	11 26.8	11 26.8	10 24.4	6 14.6	9 22.0	5 12.2	5 12.2	9 22.0	1 2.4

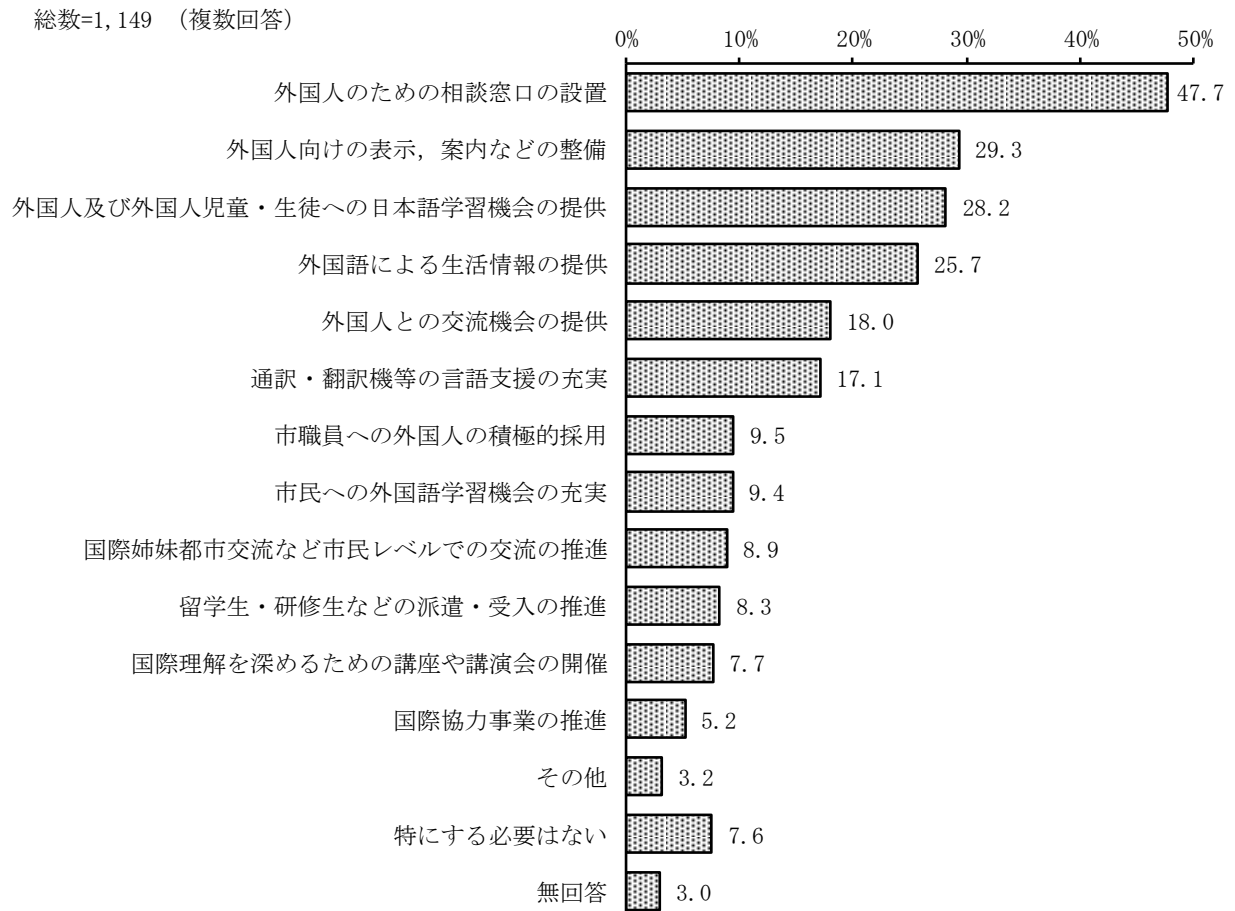
各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

注) 「その他」, 「特にない」, 「無回答」は表記を省略している。

12 多文化共生について

(1) 多文化共生の施策

問 18 八千代市は、アメリカ合衆国テキサス州タイラー市と国際姉妹都市提携、タイ王国バンコク都と友好都市提携をしています。また、市内に住む外国人は増加しており、令和5年7月末現在、7,000人を超えています。このことを踏まえて、今後、市としてどのような施策を行っていくべきだと思いますか。（〇は3つまで）



多文化共生の施策としては、「外国人のための相談窓口の設置」が47.7%で最も多く、次いで、「外国人向けの表示、案内などの整備」が29.3%、「外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供」が28.2%が続いている。

《時系列比較》

前回（令和元年度）調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。

《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女ともに「外国人のための相談窓口の設置」が最多であるが、次いで、男性では「外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供」、女性では「外国人向けの表示、案内などの整備」の割合が多くなっている。

年齢別では、50歳代、70歳以上で「外国人のための相談窓口の設置」の割合が5割を上回っている。

居住地域別では、大和田地域、村上地域、阿蘇地域で「外国人のための相談窓口の設置」の割合が5割を上回っている。

<性別・年齢別・居住地域別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	外国人のための相談窓口の設置	外国人向けの表示、案内などの整備	外国語による生活情報の提供	外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供	外国人及び外国人児童・生徒への日本語学習機会の提供	国際理解を深めるための講座や講演会の開催	国際姉妹都市交流など市民レベルでの交流の推進	外国人との交流機会の提供	留学生・研修生などの派遣・受入の推進	市職員への外国人の積極的採用	市民への外国語学習機会の充実	国際協力事業の推進	通訳・翻訳機等の言語支援の充実
全体	1,149 100.0	548 47.7	337 29.3	295 25.7	324 28.2	89 7.7	102 8.9	207 18.0	95 8.3	109 9.5	108 9.4	60 5.2	196 17.1	
性別	男性	500 100.0	232 46.4	139 27.8	120 24.0	156 31.2	41 8.2	50 10.0	102 20.4	37 7.4	58 11.6	37 7.4	27 5.4	84 16.8
	女性	596 100.0	298 50.0	188 31.5	161 27.0	155 26.0	45 7.6	47 7.9	102 17.1	56 9.4	47 7.9	69 11.6	33 5.5	97 16.3
年齢別	29歳以下	85 100.0	28 32.9	30 35.3	20 23.5	17 20.0	10 11.8	11 12.9	10 11.8	10 11.8	8 9.4	14 16.5	5 5.9	12 14.1
	30歳代	107 100.0	46 43.0	25 23.4	26 24.3	31 29.0	9 8.4	16 15.0	20 18.7	9 8.4	11 10.3	11 10.3	6 5.6	23 21.5
	40歳代	180 100.0	74 41.1	48 26.7	47 26.1	54 30.0	7 3.9	19 10.6	37 20.6	16 8.9	13 7.2	24 13.3	6 3.3	38 21.1
	50歳代	214 100.0	114 53.3	68 31.8	62 29.0	58 27.1	9 4.2	14 6.5	38 17.8	11 5.1	16 7.5	13 6.1	11 5.1	41 19.2
	60歳代	188 100.0	92 48.9	68 36.2	50 26.6	56 29.8	15 8.0	14 7.4	46 24.5	14 7.4	21 11.2	21 11.2	11 5.9	36 19.1
	70歳以上	354 100.0	189 53.4	96 27.1	86 24.3	105 29.7	38 10.7	25 7.1	56 15.8	35 9.9	39 11.0	24 6.8	21 5.9	42 11.9
居住地域別	大和田地域	280 100.0	145 51.8	77 27.5	64 22.9	80 28.6	13 4.6	30 10.7	53 18.9	31 11.1	21 7.5	31 11.1	18 6.4	46 16.4
	高津・緑が丘地域	262 100.0	108 41.2	75 28.6	77 29.4	82 31.3	26 9.9	20 7.6	55 21.0	21 8.0	23 8.8	26 9.9	13 5.0	48 18.3
	八千代台地域	205 100.0	99 48.3	65 31.7	63 30.7	52 25.4	19 9.3	15 7.3	35 17.1	11 5.4	22 10.7	19 9.3	12 5.9	40 19.5
	勝田台地域	108 100.0	50 46.3	34 31.5	22 20.4	29 26.9	12 11.1	10 9.3	20 18.5	9 8.3	9 8.3	9 8.3	3 2.8	13 12.0
	村上地域	188 100.0	99 52.7	56 29.8	47 25.0	57 30.3	12 6.4	17 9.0	31 16.5	14 7.4	22 11.7	14 7.4	13 6.9	29 15.4
	阿蘇地域	41 100.0	22 53.7	12 29.3	8 19.5	11 26.8	5 12.2	2 4.9	6 14.6	4 9.8	3 7.3	6 14.6	-	7 17.1
	睦地域	41 100.0	19 46.3	15 36.6	9 22.0	9 22.0	1 2.4	5 12.2	7 17.1	5 12.2	7 17.1	2 4.9	1 2.4	7 17.1

各属性の中で最も割合が高い選択肢
各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

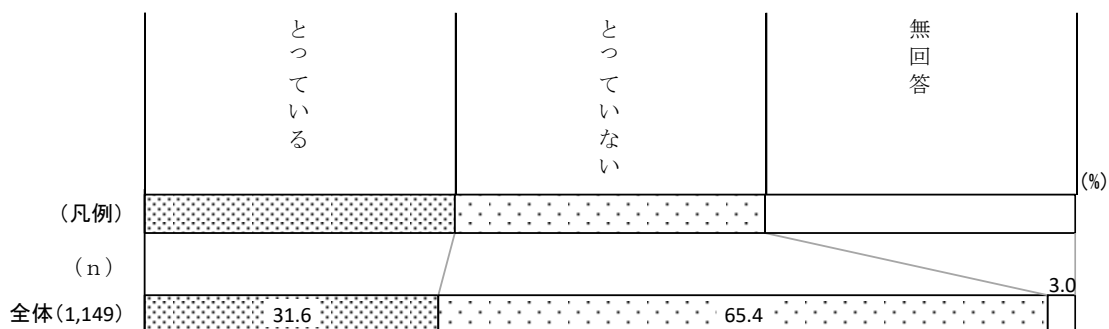
注) 「その他」, 「特にする必要はない」, 「無回答」は表記を省略している。

13 生涯学習や文化活動、スポーツ活動について

(1) 生涯学習・文化活動、スポーツ活動の有無

問 19 仕事や学業以外で趣味や教養、自己の能力を高めるための学習時間（スポーツ活動を含む）をとっていますか。（〇は1つずつ）

■生涯学習・文化活動

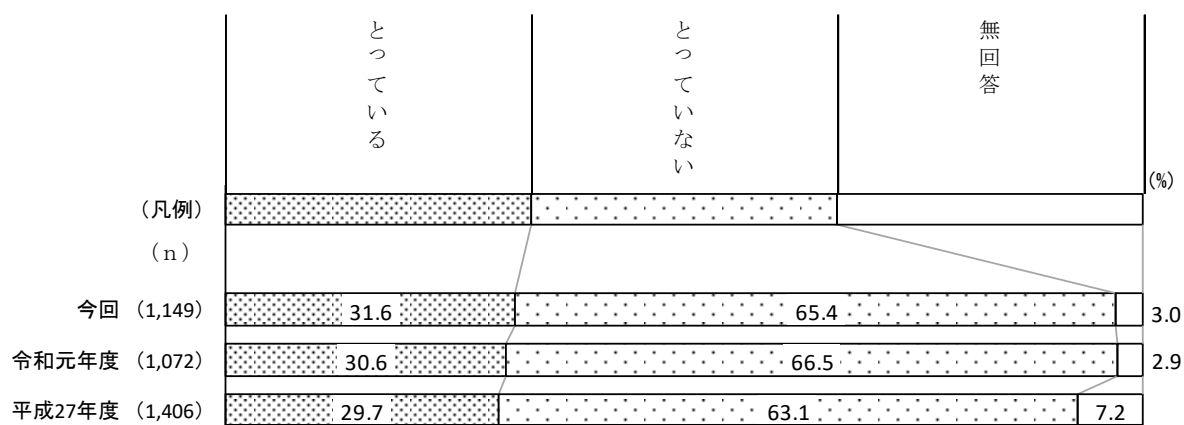


生涯学習・文化活動の時間を「とっていない」が 65.4%、「とっている」は 31.6%となっている。

《時系列比較》

前回（令和元年度）調査と比較すると、「とっている」の割合は 1.0 ポイント増加している。

＜時系列比較＞



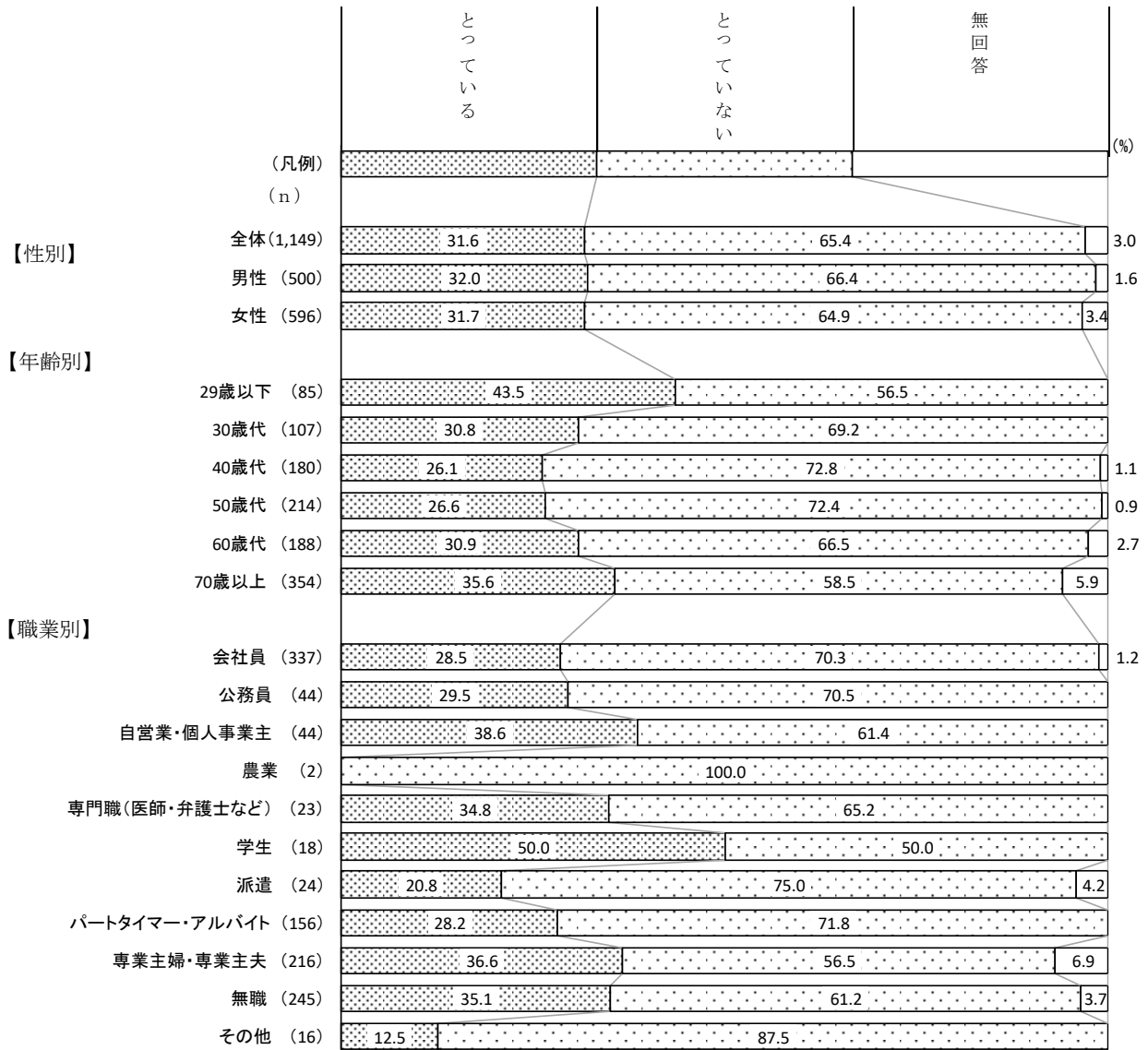
《性別・年齢別・職業別》

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では、「とっている」割合は29歳以下が43.5%で最も多く、次いで、70歳以上が35.6%となっている。

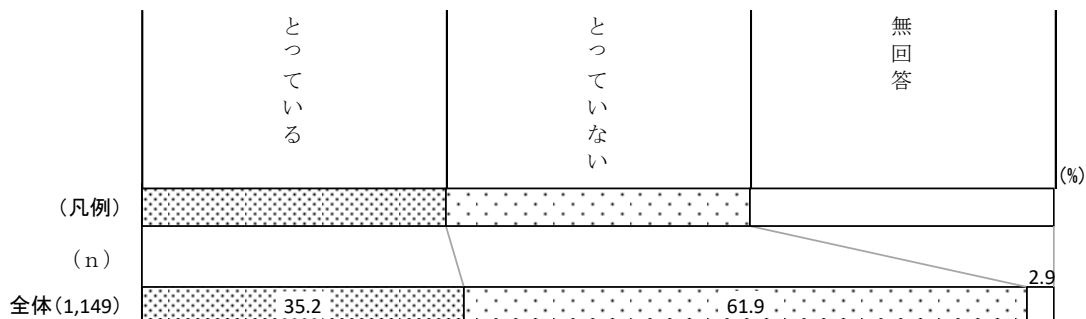
職業別では、学生で「とっている」割合が比較的多い。

<性別・年齢別・職業別>



問 19 仕事や学業以外で趣味や教養，自己の能力を高めるための学習時間（スポーツ活動を含む）をとっていますか。（〇は1つずつ）

■スポーツ活動

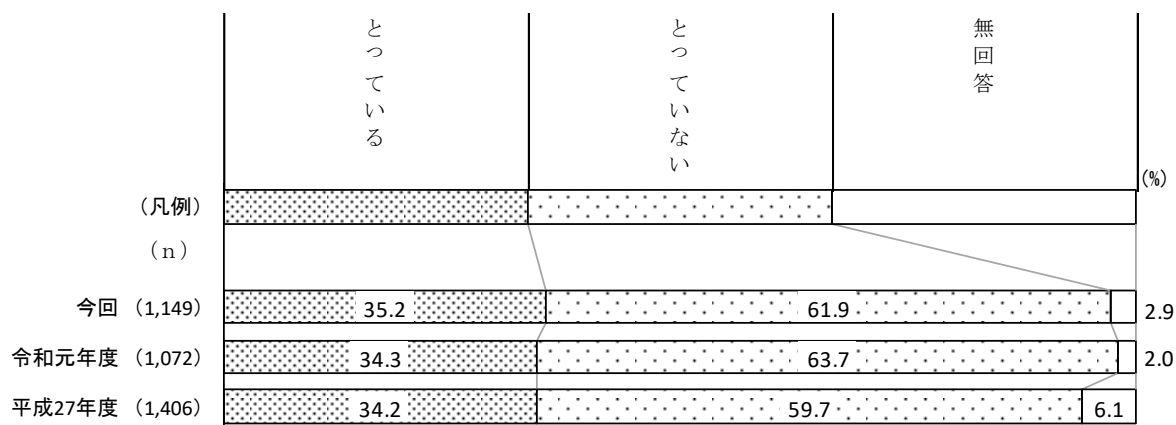


スポーツ活動の時間を「とっていない」が61.9%、「とっている」は35.2%となっている。

《時系列比較》

前回（令和元年度）調査と比較すると、「とっている」の割合は0.9ポイント増加している。

＜時系列比較＞



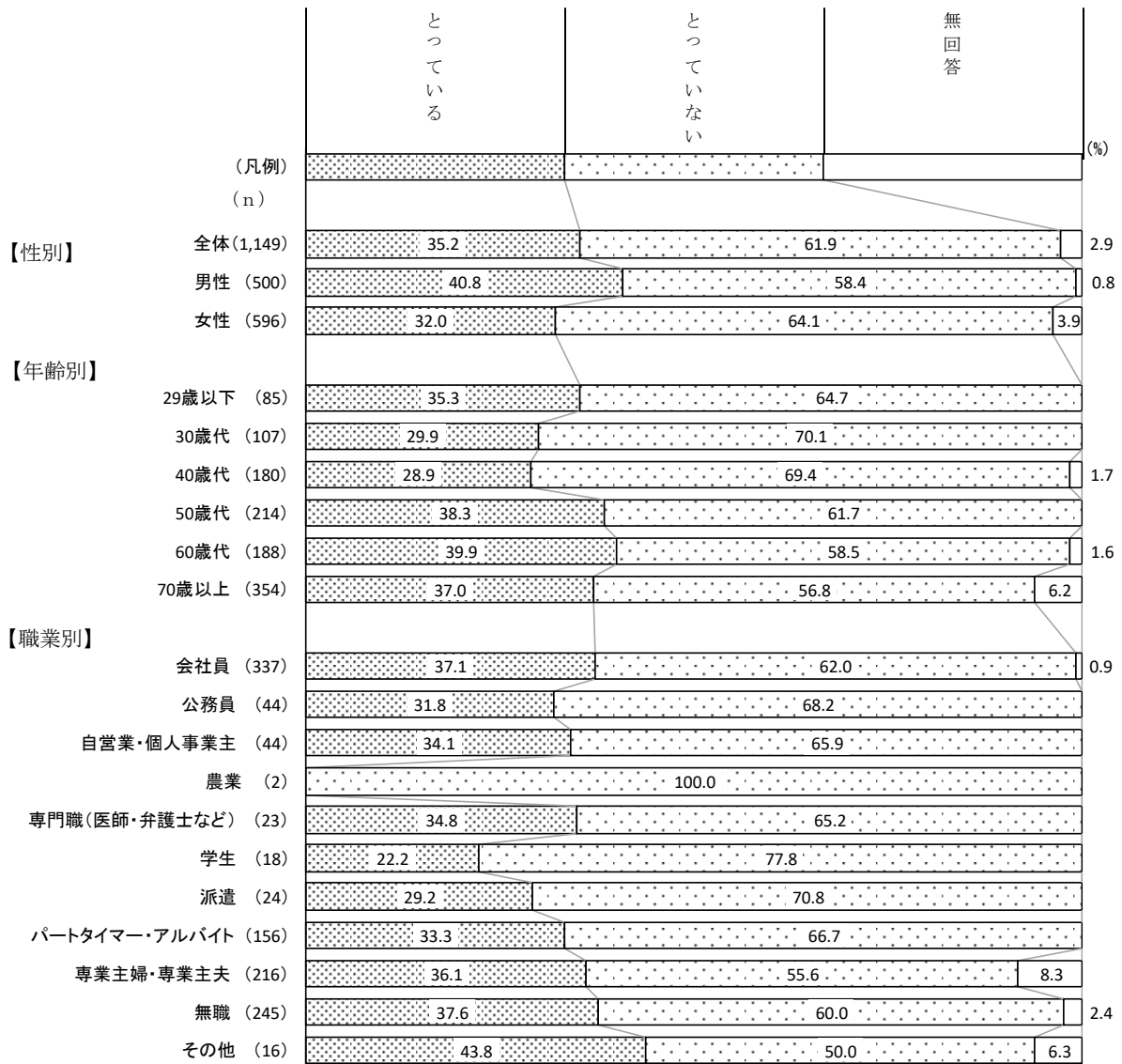
《性別・年齢別・職業別》

性別では、「とっている」割合は男性の方が女性よりも8.8ポイント多い。

年齢別では、「とっている」割合は60歳代が39.9%で最も多く、次いで50歳代が38.3%となっている。

職業別では、学生の「とっている」割合が22.2%と少なくなっている。

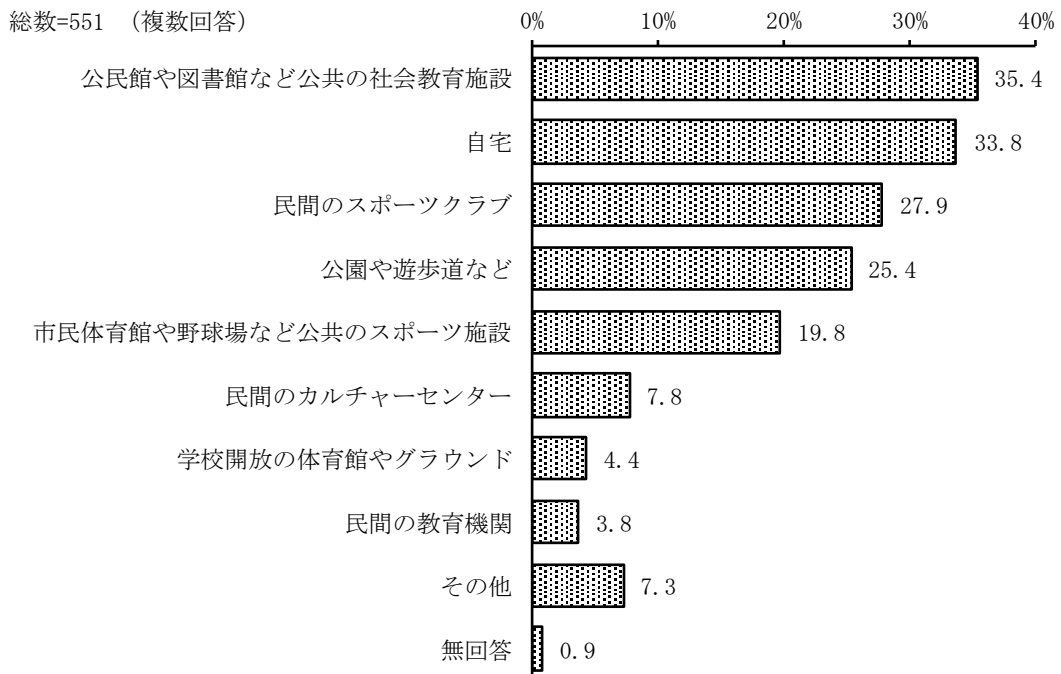
<性別・年齢別・職業別>



(1-1) 生涯学習や文化活動・スポーツ活動の場所

(問19で(1)か(2)のどちらか1つでも「1 としている」とお答えの方にお尋ねします)

問19-1 生涯学習や文化活動, スポーツ活動をするために利用している場所はどのようなところですか。(〇はいくつでも)



生涯学習・文化活動, スポーツ活動の時間をとっている人の活動の場所は, 「公民館や図書館など公共の社会教育施設」が35.4%で最も多く, 「自宅」が33.8%, 「民間のスポーツクラブ」が27.9%で続いている。

《性別・年齢別・職業別》

性別では, 男性は「自宅」, 女性は「公民館や図書館など公共の社会教育施設」が最多となっている。

年齢別では, 40歳代以下では「自宅」, 50~60歳代では「民間のスポーツクラブ」, 70歳以上では「公民館や図書館など公共の社会教育施設」が最も多くなっている。

職業別では, 会社員や自営業・個人事業主で「自宅」, 専業主婦・専業主夫や無職で「公民館や図書館など公共の社会教育施設」が最多となっている。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	公民館や図書館など公共の施設	市民体育館や野球場など公共のスポーツ施設	学校開放の体育館やグラウンド	公園や遊歩道など	民間のカルチャーセンター	民間のスポーツクラブ	自宅	民間の教育機関
全体		551 100.0	195 35.4	109 19.8	24 4.4	140 25.4	43 7.8	154 27.9	186 33.8	21 3.8
性別	男性	260 100.0	77 29.6	57 21.9	12 4.6	83 31.9	11 4.2	77 29.6	96 36.9	7 2.7
	女性	275 100.0	114 41.5	50 18.2	12 4.4	54 19.6	32 11.6	74 26.9	82 29.8	13 4.7
年齢別	29歳以下	45 100.0	14 31.1	4 8.9	-	18 40.0	2 4.4	11 24.4	23 51.1	1 2.2
	30歳代	46 100.0	13 28.3	4 8.7	-	12 26.1	2 4.3	16 34.8	25 54.3	3 6.5
	40歳代	74 100.0	15 20.3	15 20.3	4 5.4	11 14.9	2 2.7	27 36.5	37 50.0	5 6.8
	50歳代	104 100.0	23 22.1	28 26.9	2 1.9	25 24.0	4 3.8	30 28.8	28 26.9	4 3.8
	60歳代	93 100.0	30 32.3	18 19.4	2 2.2	23 24.7	14 15.1	33 35.5	27 29.0	3 3.2
	70歳以上	184 100.0	98 53.3	38 20.7	16 8.7	50 27.2	18 9.8	36 19.6	44 23.9	5 2.7
	職業別	会社員	159 100.0	33 20.8	31 19.5	3 1.9	42 26.4	5 3.1	53 33.3	55 34.6
	公務員	18 100.0	4 22.2	-	-	9 50.0	4 22.2	8 44.4	9 50.0	2 11.1
	自営業・個人事業主	20 100.0	3 15.0	3 15.0	1 5.0	5 25.0	2 10.0	7 35.0	11 55.0	2 10.0
	農業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	専門職（医師・弁護士など）	11 100.0	3 27.3	-	-	4 36.4	-	4 36.4	6 54.5	-
	学生	10 100.0	5 50.0	1 10.0	-	3 30.0	-	2 20.0	5 50.0	-
	派遣	8 100.0	5 62.5	2 25.0	1 12.5	3 37.5	1 12.5	1 12.5	3 37.5	-
	パートタイマー・アルバイト	74 100.0	24 32.4	19 25.7	2 2.7	14 18.9	5 6.8	26 35.1	24 32.4	3 4.1
	専業主婦・専業主夫	110 100.0	50 45.5	20 18.2	5 4.5	18 16.4	20 18.2	24 21.8	31 28.2	3 2.7
	無職	129 100.0	65 50.4	29 22.5	12 9.3	38 29.5	6 4.7	26 20.2	39 30.2	3 2.3
	その他	8 100.0	1 12.5	2 25.0	-	3 37.5	-	2 25.0	1 12.5	-

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

(属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

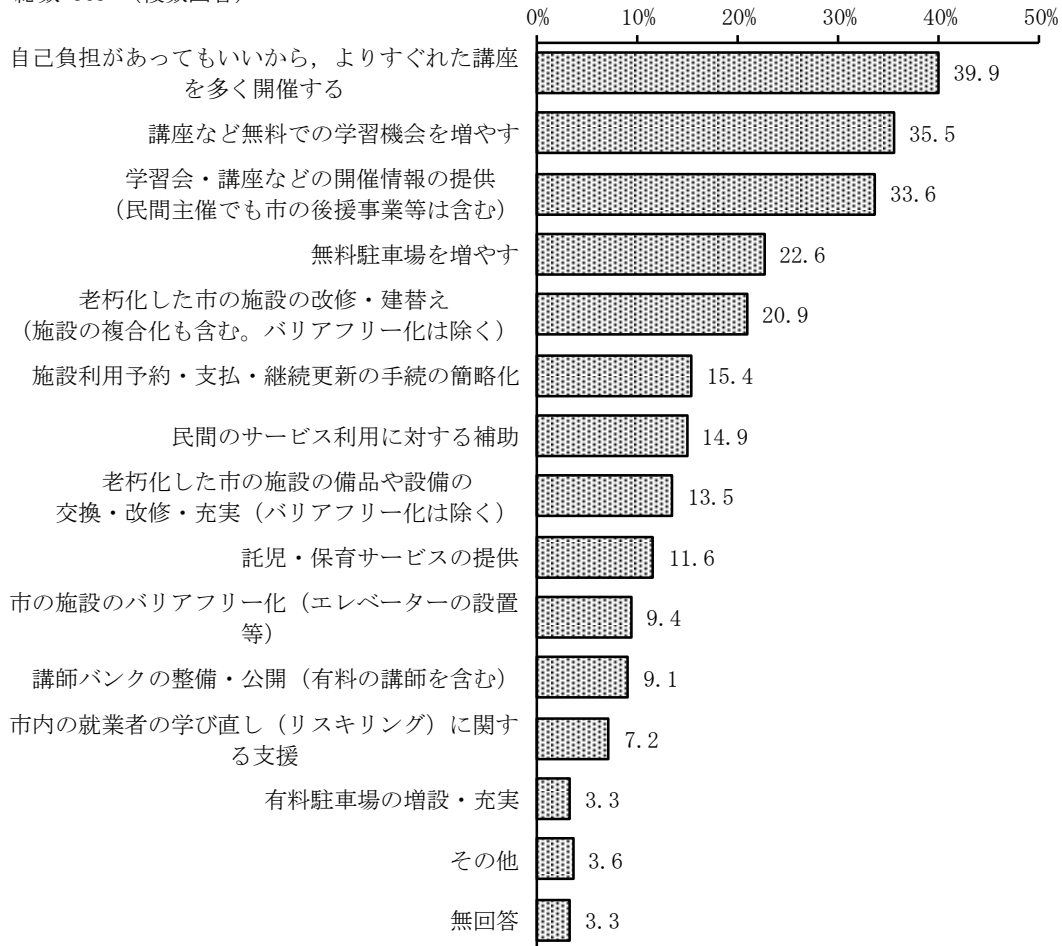
注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

(1-2) 生涯学習・文化活動推進に必要なこと

(問19の(1)で「1 としている」とお答えの方にお尋ねします)

問19-2 生涯学習・文化活動の推進のために、市はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇は3つまで)

総数=363 (複数回答)



生涯学習や文化活動の時間を「としている」人に、その活動推進に必要なことを尋ねた結果、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する」が39.9%で最も多く、次いで、「講座など無料での学習機会を増やす」が35.5%、「学習会・講座などの開催情報の提供」が33.6%で続いている。

《性別・年齢別・職業別》

性別では、男女ともに「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する」が最多で、女性の方が男性よりも5.0ポイント多くなっている。

年齢別では、29歳以下、50歳代で「講座など無料での学習機会を増やす」、30～40歳代、60歳代で「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する」、70歳以上で「学習会・講座などの開催情報の提供」の割合が最も多い。

職業別では、無職で「講座など無料での学習機会を増やす」、パートタイマー・アルバイトや専業主婦・専業主夫で「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する」の割合が多くなっている。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	講座など無料での学習機会を増やす	自己負担があってもいいから、よりすぐれた講座を多く開催する	講師バンクの整備・公開（有料の講師を含む）	学習会・講座などの開催情報の提供（民間主催でも市の後援事業等は含む）	市の施設のバリアフリー化（エレベーターの設置等）	老朽化した市の施設の改修・建替え（施設の複合化も含む。バリアフリー化は除く）	老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実（バリアフリー化は除く）	無料駐車場の増やす	有料駐車場の増設・充実	施設利用予約・支払・継続更新の手續の簡略化	民間のサービス利用に対する補助	託児・保育サービスの提供	市内の就業者の学び直し（リスキリング）に関する支援	
	363 100.0	129 35.5	145 39.9	33 9.1	122 33.6	34 9.4	76 20.9	49 13.5	82 22.6	12 3.3	56 15.4	54 14.9	42 11.6	26 7.2	
性別	男性	160 100.0	56 35.0	58 36.3	15 9.4	49 30.6	15 9.4	34 21.3	17 10.6	40 25.0	8 5.0	25 15.6	22 13.8	16 10.0	11 6.9
	女性	189 100.0	70 37.0	78 41.3	18 9.5	70 37.0	18 9.5	38 20.1	29 15.3	40 21.2	4 2.1	31 16.4	31 16.4	24 12.7	14 7.4
年齢別	29歳以下	37 100.0	13 35.1	8 21.6	1 2.7	11 29.7	2 5.4	8 21.6	4 10.8	9 24.3	1 2.7	5 13.5	11 29.7	6 16.2	3 8.1
	30歳代	33 100.0	7 21.2	10 30.3	3 9.1	9 27.3	3 9.1	6 18.2	4 12.1	7 21.2	2 6.1	5 15.2	8 24.2	9 27.3	1 3.0
	40歳代	47 100.0	13 27.7	27 57.4	7 14.9	8 17.0	1 2.1	14 29.8	7 14.9	10 21.3	7 14.9	5 10.6	3 6.4	7 14.9	7 14.9
	50歳代	57 100.0	22 38.6	20 35.1	3 5.3	14 24.6	8 14.0	12 21.1	7 12.3	11 19.3	-	6 10.5	10 17.5	4 7.0	5 8.8
	60歳代	58 100.0	20 34.5	27 46.6	8 13.8	22 37.9	5 8.6	10 17.2	8 13.8	13 22.4	-	8 13.8	11 19.0	8 13.8	5 8.6
	70歳以上	126 100.0	54 42.9	49 38.9	11 8.7	56 44.4	15 11.9	25 19.8	17 13.5	31 24.6	2 1.6	27 21.4	11 8.7	8 6.3	5 4.0
職業別	会社員	96 100.0	31 32.3	33 34.4	6 6.3	26 27.1	5 5.2	25 26.0	11 11.5	20 20.8	4 4.2	15 15.6	17 17.7	11 11.5	9 9.4
	公務員	13 100.0	4 30.8	9 69.2	1 7.7	5 38.5	2 15.4	1 7.7	-	4 30.8	1 7.7	2 15.4	4 30.8	1 7.7	2 15.4
	自営業・個人事業主	17 100.0	6 35.3	6 35.3	4 23.5	6 35.3	1 5.9	1 5.9	1 5.9	7 41.2	-	3 17.6	4 23.5	3 17.6	1 5.9
	農業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	専門職（医師・弁護士など）	8 100.0	1 12.5	5 62.5	-	2 25.0	2 25.0	4 50.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	-	1 12.5	1 12.5
	学生	9 100.0	3 33.3	-	-	4 44.4	1 11.1	1 11.1	2 22.2	2 22.2	1 11.1	1 11.1	3 33.3	-	-
	派遣	5 100.0	3 60.0	3 60.0	1 20.0	-	1 20.0	-	1 20.0	2 40.0	-	1 20.0	-	1 20.0	-
	パートタイマー・アルバイト	44 100.0	10 22.7	18 40.9	5 11.4	9 20.5	4 9.1	15 34.1	7 15.9	9 20.5	3 6.8	6 13.6	7 15.9	8 18.2	6 13.6
	専業主婦・専業主夫	79 100.0	34 43.0	36 45.6	7 8.9	35 44.3	8 10.1	12 15.2	13 16.5	15 19.0	-	13 16.5	9 11.4	13 16.5	-
	無職	86 100.0	36 41.9	32 37.2	9 10.5	33 38.4	10 11.6	16 18.6	11 12.8	20 23.3	2 2.3	13 15.1	9 10.5	4 4.7	7 8.1
	その他	2 100.0	1 50.0	-	-	1 50.0	-	-	-	1 50.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

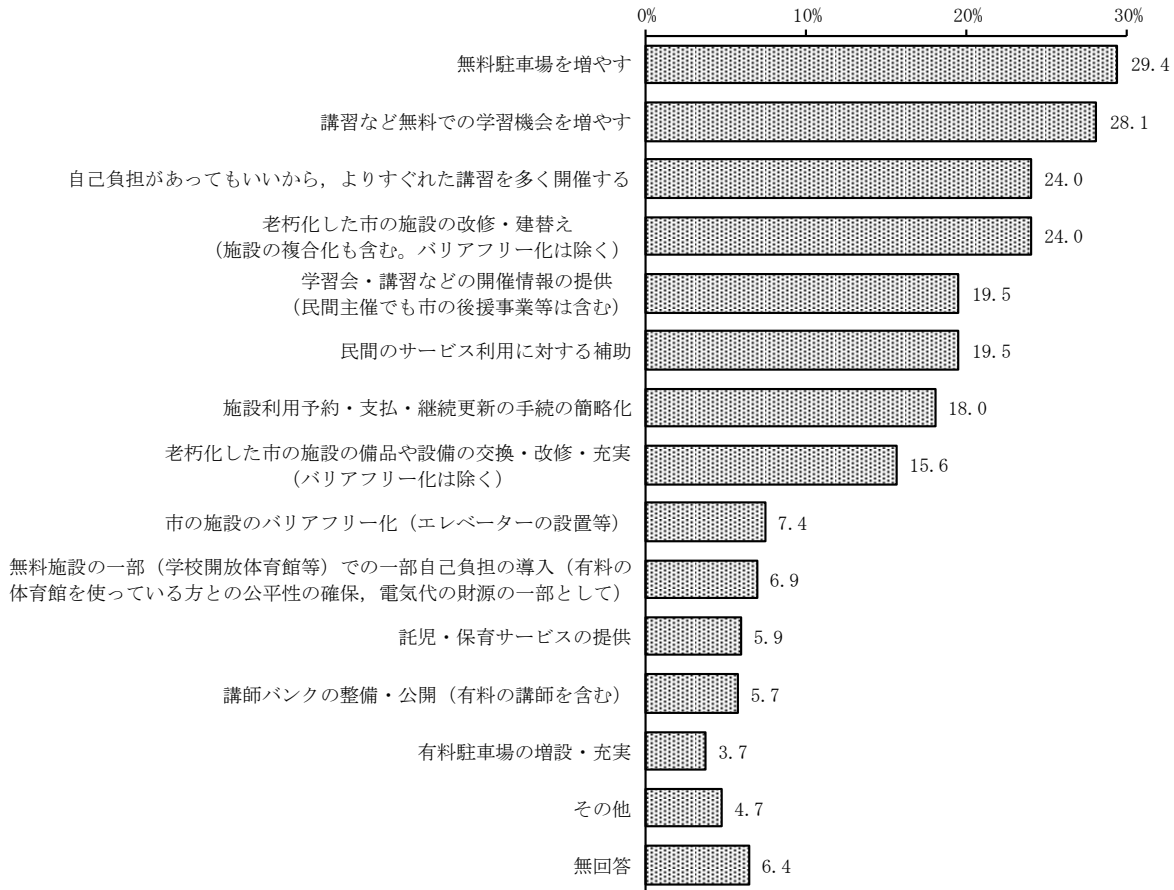
注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

(1-3) スポーツ活動推進に必要なこと

(問19の(2)で「1」とっている」とお答えの方にお尋ねします)

問19-3 スポーツ活動の推進のために市はどのようなことに取り組む必要があると思いますか。(〇は3つまで)

総数=405 (複数回答)



スポーツ活動の時間を「とっている」人に、その活動推進に必要なことを尋ねた結果、「無料駐車場を増やす」が29.4%で最も多く、次いで、「講習など無料での学習機会を増やす」が28.1%、「自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する」、「老朽化した市の施設の改修・建替え」が24.0%で続いている。

《性別・年齢別・職業別》

性別では、男性で「無料駐車場を増やす」、女性で「講習など無料での学習機会を増やす」が最多となっている。

年齢別では、29歳以下、30歳代、50歳代で「無料駐車場を増やす」、40歳代で「老朽化した市の施設の改修・建替え」、70歳以上で「講習など無料での学習機会を増やす」などの割合が多くなっている。

職業別では、専業主婦・専業主夫、無職で「講習など無料での学習機会を増やす」の割合の多さが目立つ。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	講習など無料での学習機会を増やす	自己負担があってもいいから、よりすぐれた講習を多く開催する	講師バンクの整備・公開（有料の講師を含む）	学習会・講習などの開催情報の提供（民間主催でも市の後援事業等は含む）	市の施設のバリアフリー化（エレベーターの設置等）	老朽化した市の施設の改修・建替え（施設の複合化も含む。バリアフリー化は除く）	老朽化した市の施設の備品や設備の交換・改修・充実（バリアフリー化は除く）	無料駐車場の増やす	有料駐車場の増設・充実	施設利用予約・支払・継続更新の手续の簡略化	民間のサービス利用に対する補助	無料施設の一部（学校開放体育館等）で一部自己負担の導入	託児・保育サービスの提供	
	405 100.0	114 28.1	97 24.0	23 5.7	79 19.5	30 7.4	97 24.0	63 15.6	119 29.4	15 3.7	73 18.0	79 19.5	28 6.9	24 5.9	
性別	男性	204 100.0	48 23.5	47 23.0	8 3.9	31 15.2	12 5.9	56 27.5	41 20.1	59 28.9	11 5.4	40 19.6	39 19.1	14 6.9	12 5.9
	女性	191 100.0	63 33.0	48 25.1	14 7.3	48 25.1	16 8.4	38 19.9	20 10.5	59 30.9	4 2.1	32 16.8	39 20.4	13 6.8	11 5.8
年齢別	29歳以下	30 100.0	6 20.0	3 10.0	-	6 20.0	4 13.3	11 36.7	7 23.3	12 40.0	1 3.3	5 16.7	8 26.7	4 13.3	1 3.3
	30歳代	32 100.0	4 12.5	10 31.3	3 9.4	5 15.6	4 12.5	7 21.9	5 15.6	11 34.4	3 9.4	6 18.8	8 25.0	2 6.3	6 18.8
	40歳代	52 100.0	12 23.1	11 21.2	3 5.8	5 9.6	3 5.8	19 36.5	10 19.2	18 34.6	5 9.6	14 26.9	15 28.8	4 7.7	4 7.7
	50歳代	82 100.0	23 28.0	23 28.0	2 2.4	8 9.8	7 8.5	25 30.5	14 17.1	27 32.9	2 2.4	15 18.3	16 19.5	4 4.9	6 7.3
	60歳代	75 100.0	19 25.3	23 30.7	8 10.7	21 28.0	4 5.3	21 28.0	9 12.0	16 21.3	1 1.3	14 18.7	15 20.0	3 4.0	3 4.0
	70歳以上	131 100.0	49 37.4	26 19.8	6 4.6	34 26.0	7 5.3	14 10.7	18 13.7	35 26.7	3 2.3	19 14.5	17 13.0	11 8.4	4 3.1
職業別	会社員	125 100.0	21 16.8	27 21.6	4 3.2	13 10.4	12 9.6	42 33.6	26 20.8	38 30.4	8 6.4	28 22.4	31 24.8	13 10.4	9 7.2
	公務員	14 100.0	2 14.3	7 50.0	1 7.1	3 21.4	2 14.3	2 14.3	-	5 35.7	-	3 21.4	7 50.0	-	1 7.1
	自営業・個人事業主	15 100.0	4 26.7	1 6.7	-	-	-	7 46.7	4 26.7	7 46.7	-	6 40.0	3 20.0	1 6.7	2 13.3
	農業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	専門職（医師・弁護士など）	8 100.0	1 12.5	3 37.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	5 62.5	2 25.0	4 50.0	1 12.5	3 37.5	1 12.5	-	-
	学生	4 100.0	2 50.0	-	-	1 25.0	-	1 25.0	2 50.0	1 25.0	-	-	-	-	-
	派遣	7 100.0	5 71.4	1 14.3	-	1 14.3	-	4 57.1	-	3 42.9	-	1 14.3	2 28.6	-	-
	パートタイマー・アルバイト	52 100.0	13 25.0	13 25.0	5 9.6	12 23.1	2 3.8	12 23.1	5 9.6	16 30.8	2 3.8	10 19.2	12 23.1	5 9.6	2 3.8
	専業主婦・専業主夫	78 100.0	33 42.3	17 21.8	3 3.8	25 32.1	7 9.0	11 14.1	9 11.5	26 33.3	2 2.6	9 11.5	9 11.5	2 2.6	7 9.0
	無職	92 100.0	31 33.7	25 27.2	7 7.6	20 21.7	3 3.3	9 9.8	13 14.1	19 20.7	2 2.2	13 14.1	11 12.0	7 7.6	2 2.2
	その他	7 100.0	1 14.3	2 28.6	1 14.3	3 42.9	2 28.6	4 57.1	2 28.6	-	-	-	3 42.9	-	1 14.3

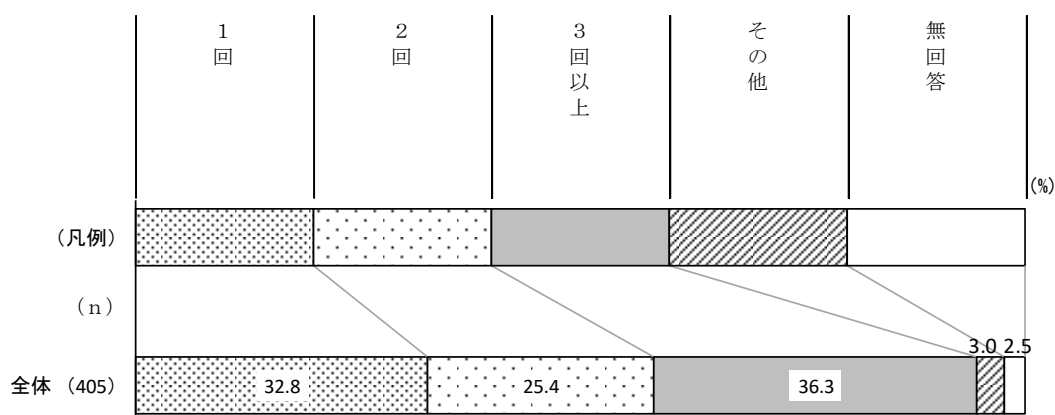
各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

(1-4) スポーツ活動の頻度

(問19で(2)で「1 回」とお答えの方にお尋ねします)

問19-4 1週間のうち、30分以上のスポーツ活動を何回ぐらい行っていますか。(○は1つ)



スポーツ活動の時間を「とっている」人の1週間のうちの回数は、「3回以上」が36.3%で最も多く、次いで、「1回」が32.8%、「2回」が25.4%となっている。

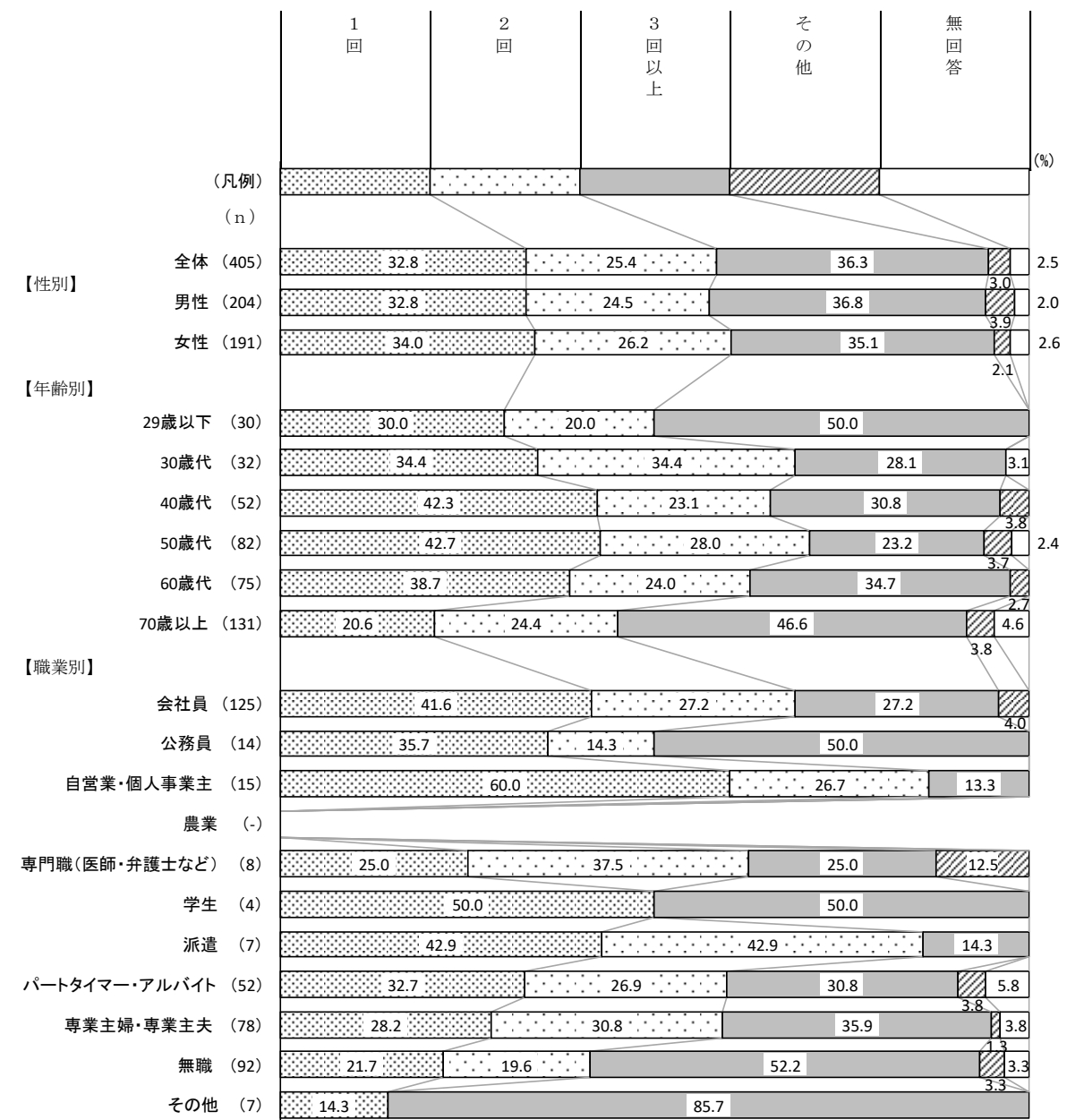
《性別・年齢別・職業別》

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

年齢別では、「1回」は40歳代、50歳代で多く4割を超えている。「3回以上」では、29歳以下が50.0%で最も多く、70歳以上(46.6%)が続いている。

職業別では、無職、公務員などで「3回以上」が多くなっている。

<性別・年齢別・職業別>

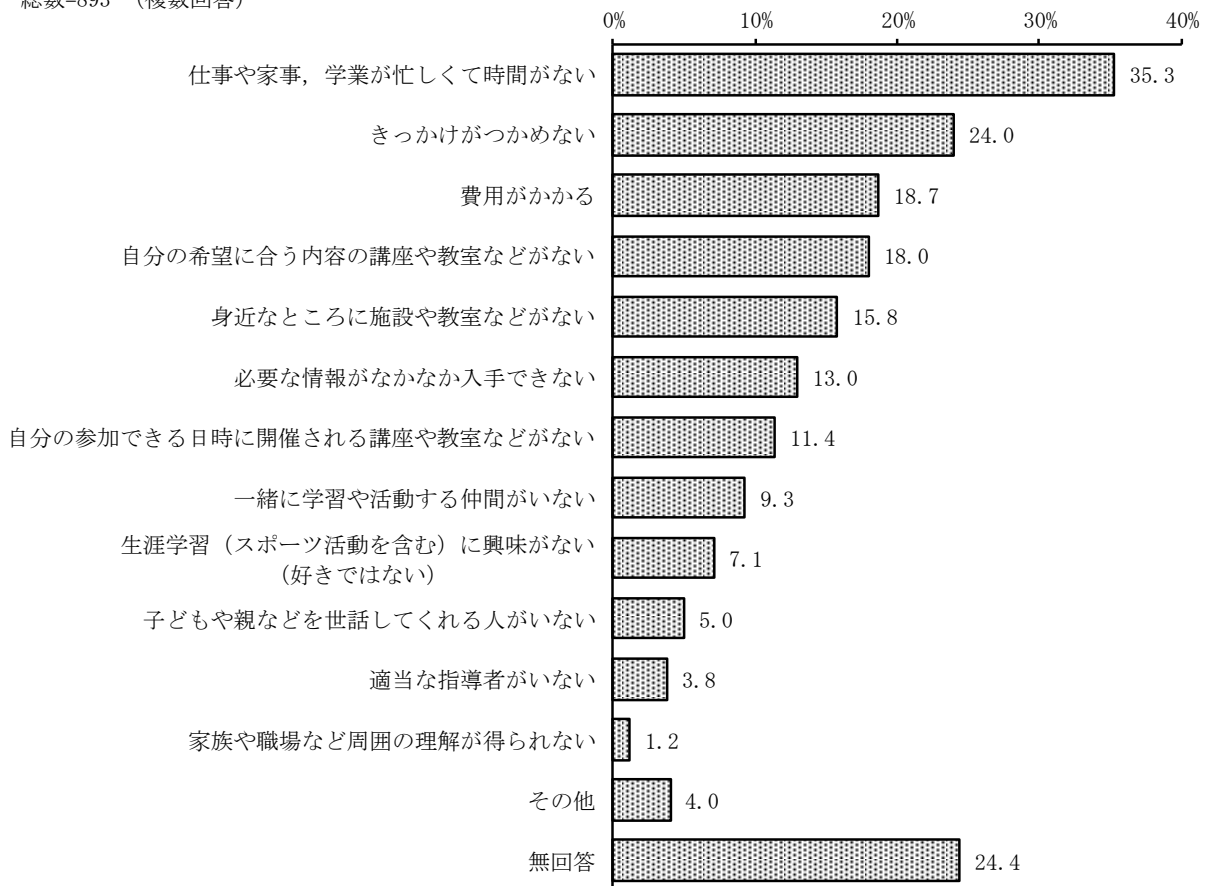


(1-5) 生涯学習や文化活動・スポーツ活動を行っていない理由

(問19で(1)か(2)のどちらか1つでも「2 とっていない」とお答えの方にお尋ねします)

問19-5 生涯学習や文化活動，スポーツ活動を行っていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

総数=893 (複数回答)



学習・文化活動またはスポーツ活動の時間を「とっていない」人にその理由を尋ねた結果、「仕事や家事，学業が忙しくて時間がない」が35.3%で最も多く，次いで，「きっかけがつかめない」が24.0%，「費用がかかる」が18.7%で続いている。

《性別・年齢別・職業別》

性別では，「自分の希望に合う内容の講座や教室がない」の割合は女性の方が男性よりも8.8ポイント多くなっている。

年齢別では，60歳代以下で「仕事や家事，学業が忙しくて時間がない」，70歳以上では「きっかけがつかめない」の割合が最多となっている。

職業別では，公務員，会社員などで「仕事や家事，学業が忙しくて時間がない」の割合が多くなっている。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	仕事や家事、 学業が忙しくて 時間が ない	家族や 職場など 周囲の 理解が 得られ ない	子どもや 親などを 世話して くれる 人が いない	適当な 指導者が いない	身近な ところに 施設や 教室など がない	自分の 希望に 合う内容 の講座や 教室 がない	講座や 教室など がない 日時に 開催され る	一緒に 学習や 活動する 仲間が いない	必要な 情報が なかなか 入手でき ない	費用が かかる	きっかけ がつかめ ない	生涯学習 (スポーツ 活動を含 む)に 興味がない (好きで はない)
全体		893 100.0	315 35.3	11 1.2	45 5.0	34 3.8	141 15.8	161 18.0	102 11.4	83 9.3	116 13.0	167 18.7	214 24.0	63 7.1
性別	男性	388 100.0	136 35.1	5 1.3	12 3.1	22 5.7	55 14.2	52 13.4	35 9.0	39 10.1	55 14.2	69 17.8	101 26.0	33 8.5
	女性	464 100.0	163 35.1	5 1.1	32 6.9	10 2.2	80 17.2	103 22.2	63 13.6	42 9.1	58 12.5	90 19.4	106 22.8	26 5.6
年齢別	29歳以下	63 100.0	35 55.6	-	4 6.3	2 3.2	9 14.3	5 7.9	6 9.5	9 14.3	6 9.5	21 33.3	16 25.4	7 11.1
	30歳代	88 100.0	56 63.6	-	19 21.6	1 1.1	9 10.2	16 18.2	15 17.0	9 10.2	6 6.8	28 31.8	15 17.0	8 9.1
	40歳代	153 100.0	81 52.9	4 2.6	12 7.8	2 1.3	17 11.1	28 18.3	19 12.4	15 9.8	16 10.5	41 26.8	28 18.3	11 7.2
	50歳代	177 100.0	72 40.7	2 1.1	3 1.7	8 4.5	28 15.8	24 13.6	23 13.0	17 9.6	14 7.9	33 18.6	42 23.7	11 6.2
	60歳代	143 100.0	47 32.9	2 1.4	2 1.4	7 4.9	28 19.6	36 25.2	19 13.3	7 4.9	27 18.9	17 11.9	38 26.6	9 6.3
	70歳以上	255 100.0	21 8.2	3 1.2	5 2.0	14 5.5	48 18.8	52 20.4	19 7.5	26 10.2	46 18.0	26 10.2	74 29.0	16 6.3
職業別	会社員	271 100.0	151 55.7	7 2.6	12 4.4	8 3.0	41 15.1	33 12.2	37 13.7	24 8.9	26 9.6	62 22.9	57 21.0	15 5.5
	公務員	35 100.0	22 62.9	-	5 14.3	-	6 17.1	4 11.4	3 8.6	-	2 5.7	6 17.1	7 20.0	3 8.6
	自営業・個人事業主	32 100.0	12 37.5	-	2 6.3	1 3.1	2 6.3	7 21.9	2 6.3	1 3.1	2 6.3	6 18.8	4 12.5	-
	農業	2 100.0	2 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	専門職 (医師・弁護士など)	18 100.0	12 66.7	-	1 5.6	-	2 11.1	3 16.7	3 16.7	3 16.7	2 11.1	5 27.8	3 16.7	4 22.2
	学生	15 100.0	7 46.7	-	-	-	2 13.3	2 13.3	2 13.3	2 13.3	2 13.3	2 13.3	4 26.7	3 20.0
	派遣	19 100.0	10 52.6	-	1 5.3	-	1 5.3	3 15.8	1 5.3	3 15.8	3 15.8	3 15.8	5 26.3	3 15.8
	パートタイマー・アルバイト	134 100.0	56 41.8	1 0.7	7 5.2	6 4.5	18 13.4	25 18.7	19 14.2	13 9.7	11 8.2	25 18.7	32 23.9	7 5.2
	専業主婦・専業主夫	149 100.0	23 15.4	1 0.7	13 8.7	5 3.4	33 22.1	48 32.2	16 10.7	12 8.1	32 21.5	26 17.4	44 29.5	11 7.4
	無職	188 100.0	10 5.3	2 1.1	4 2.1	14 7.4	32 17.0	31 16.5	12 6.4	23 12.2	31 16.5	24 12.8	51 27.1	15 8.0
	その他	14 100.0	5 35.7	-	-	-	2 14.3	4 28.6	4 28.6	4 28.6	1 7.1	4 28.6	4 28.6	4 28.6

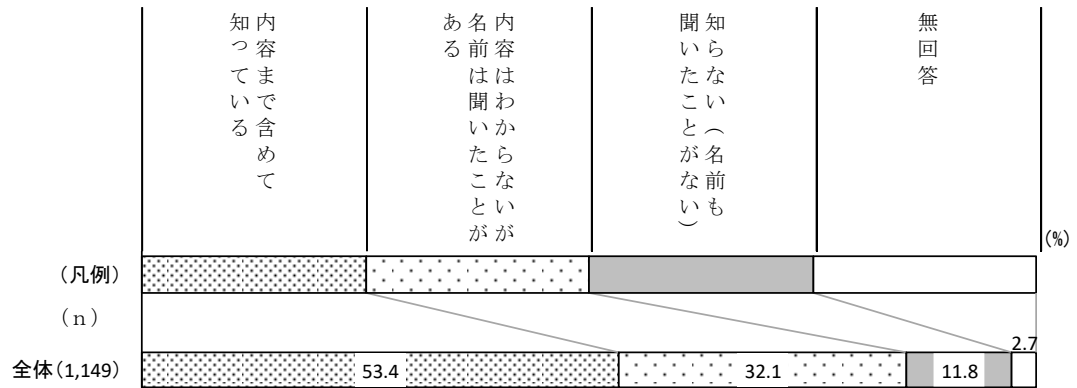
各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

14 SDGsに関することについて

(1) SDGsの認知度

問20 あなたはSDGsについてご存じですか。(〇は1つ) 【新規】



SDGsの認知度は、「内容まで含めて知っている」が53.4%で最も多く、次いで、「内容はわからないが名前は聞いたことがある」が32.1%、「知らない(名前も聞いたことがない)」が11.8%となっている。

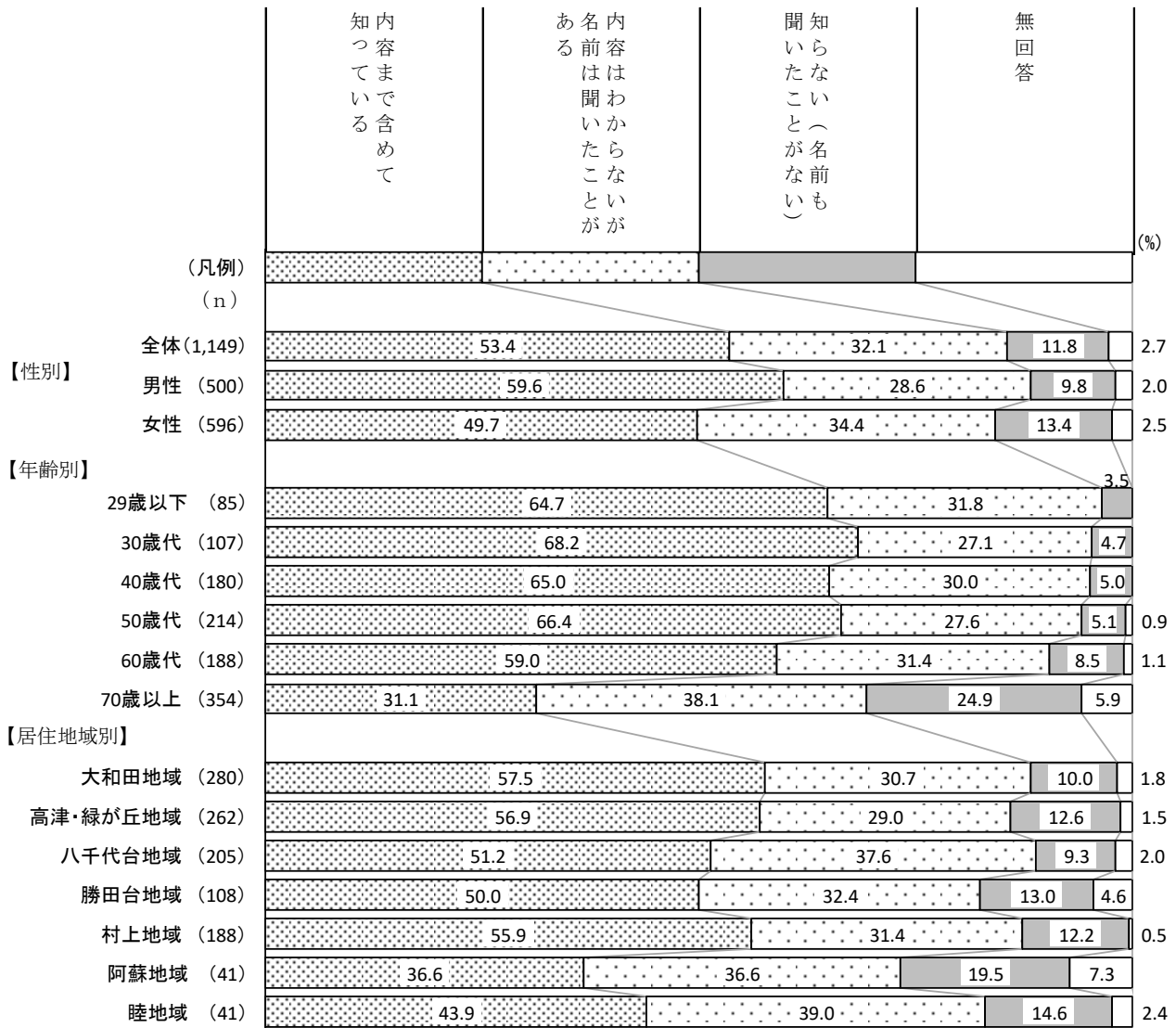
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「内容まで含めて知っている」の割合は男性の方が女性よりも9.9ポイント多くなっている。

年齢別では、「内容まで含めて知っている」の割合は30歳代が68.2%で最も多く、50歳代(66.4%)、40歳代(65.0%)が続いている。

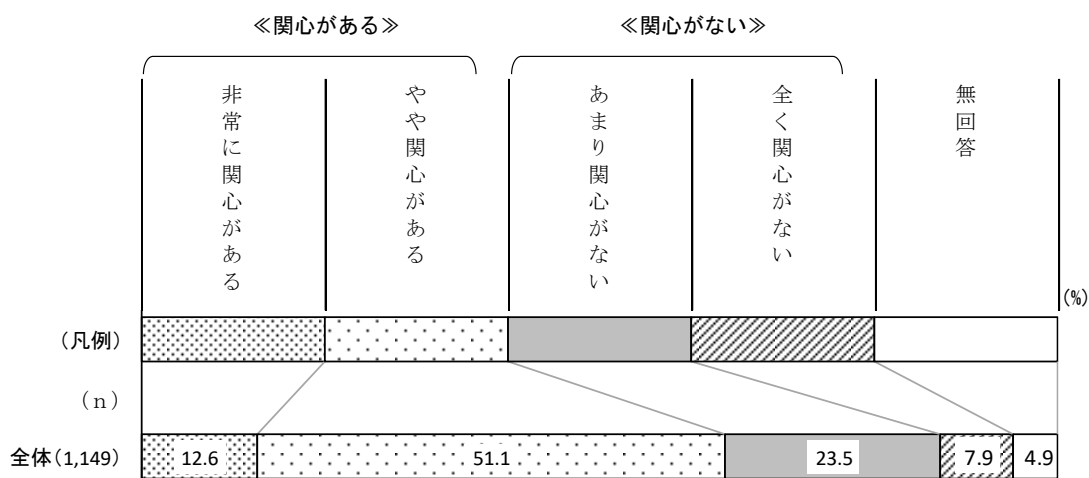
居住地域別では、「内容まで含めて知っている」の割合は大和田地域が57.5%で最も多く、高津・緑が丘地域(56.9%)、村上地域(55.9%)が続いている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(2) SDGsの関心度

問21 あなたはSDGsについて現在関心がありますか。(〇は1つ) 【新規】



SDGsの関心度は、「非常に関心がある」が12.6%、「やや関心がある」が51.1%で、これらを合わせた、《関心がある》の割合は63.7%となっている。一方、「あまり関心がない」(23.5%)、「関心がない」(7.9%)を合わせた、《関心がない》の割合は31.4%となっている。

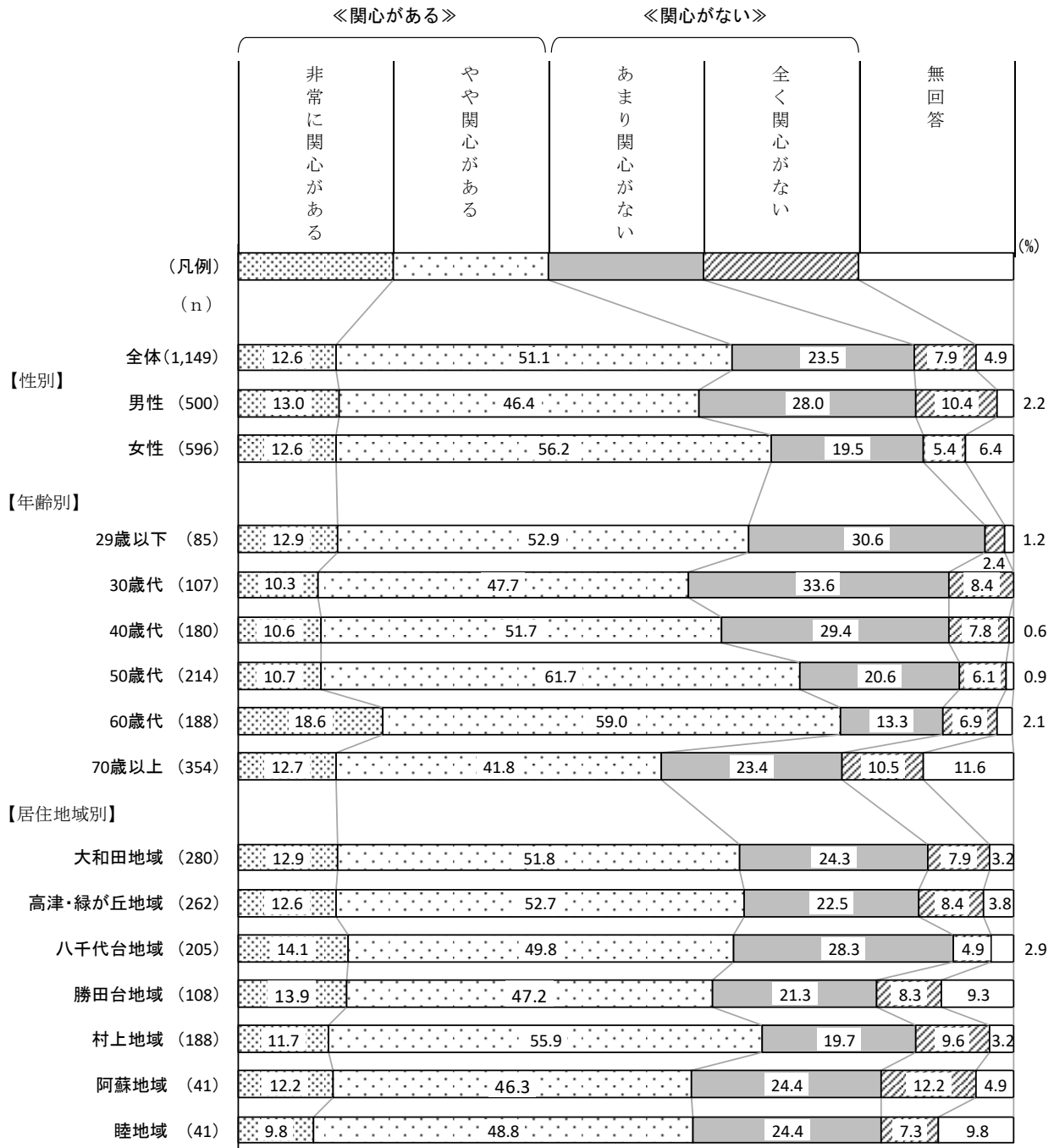
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《関心がある》の割合は女性の方が男性よりも9.4ポイント多くなっている。

年齢別では、《関心がある》の割合は60歳代が77.6%で最も多く、50歳代(72.4%)、29歳以下(65.8%)が続いている。

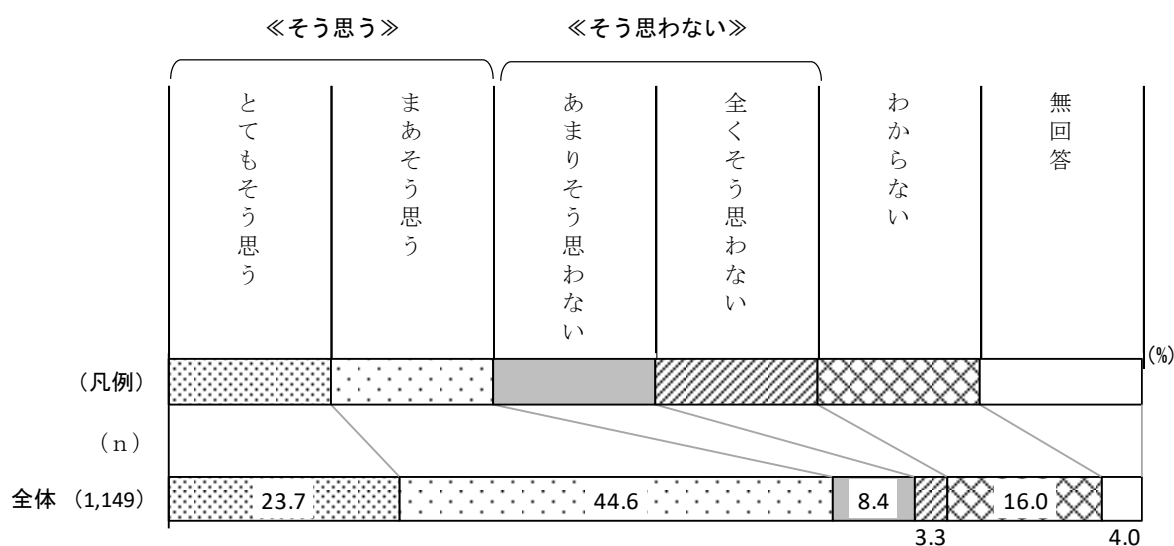
居住地域別では、《関心がある》の割合は村上地域が67.6%で最も多く、高津・緑が丘地域(65.3%)、大和田地域(64.7%)が続いている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(3) SDGsが推進されるべきだと思うか

問 22 八千代市内（市役所，市内企業等）でSDGsが推進されるべきだと思いますか。（〇は1つ）【新規】



SDGsが推進されるべきだと思うかについて、「とてもそう思う」が23.7%、「まあそう思う」が44.6%となっており、これらを合わせた，《そう思う》の割合は68.3%となっている。一方、「あまりそう思わない」（8.4%）、「全くそう思わない」（3.3%）を合わせた，《そう思わない》の割合は11.7%となっている。

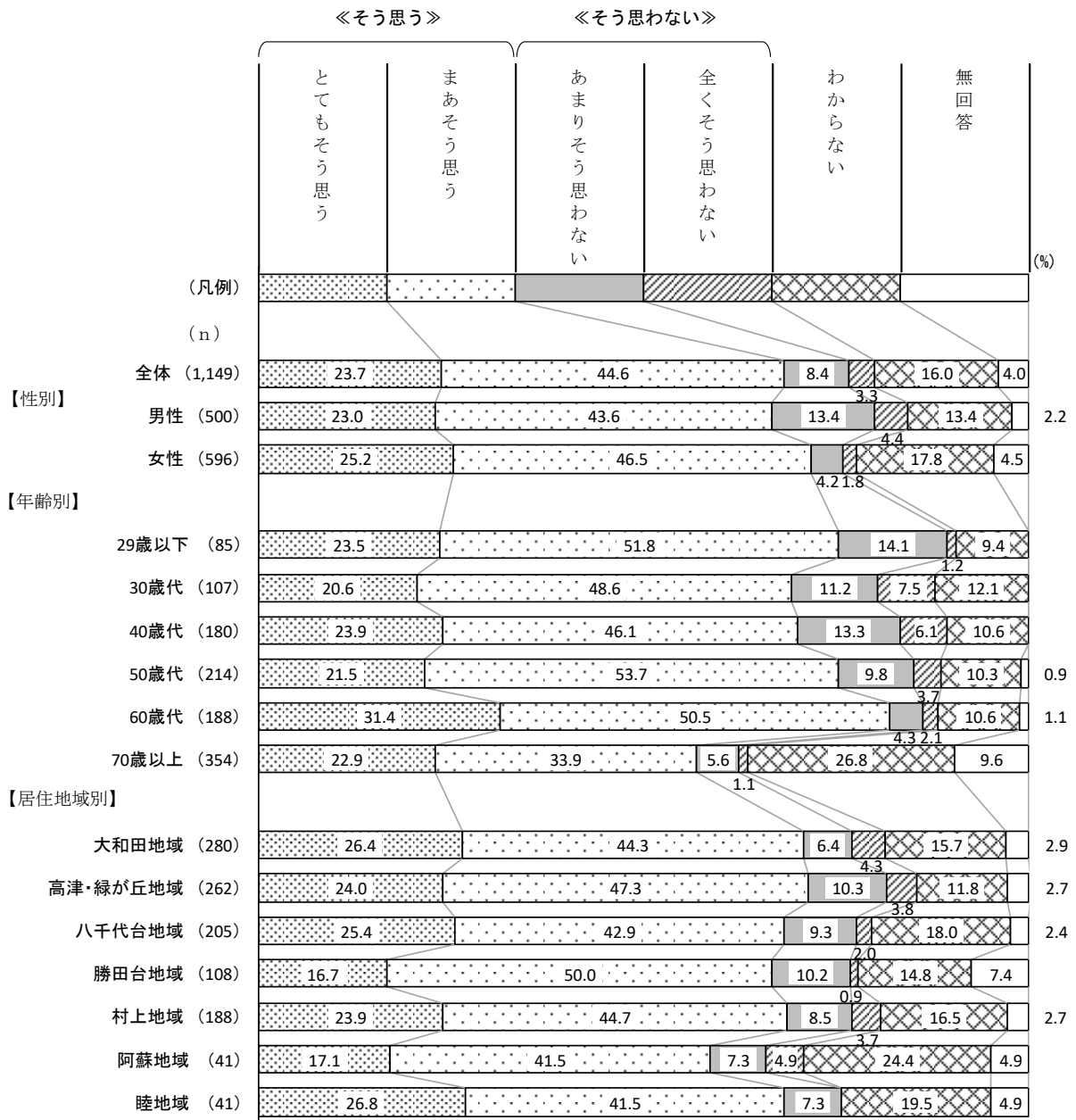
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では，《そう思う》の割合は女性の方が男性よりも5.1ポイント多くなっている。

年齢別では，《そう思う》の割合は60歳代が81.9%で最も多く、29歳以下（75.3%）、50歳代（75.2%）が続いている。

居住地域別では，《そう思う》の割合は高津・緑が丘地域が71.3%で最も多く、次いで、大和田地域（70.7%）、村上地域（68.6%）が続いている。

<性別・年齢別・居住地域別>



15 八千代市が取り組んでいる施策の重要度と満足度について

(1) 施策の重要度・満足度

問 23 下の表に示した各項目について、あなたの生活にとってどのくらい重要だと思いますか。また、どのくらい満足していますか。あてはまるものを1つずつ選び、重要度、満足度のそれぞれの番号に○印をつけてください。

総合計画の5分野にわたる計45項目の施策について、重要度、満足度の評価をそれぞれ5段階の中から選択する設問である。

以下に、各施策項目での選択肢別回答割合を示すとともに、以下により加重平均を算出した結果を「評価点」として示す。

重要度		満足度	
重要である	= 2点	満足	= 2点
やや重要である	= 1点	やや満足	= 1点
普通	= 0点	普通	= 0点
あまり重要でない	= -1点	やや不満	= -1点
重要でない	= -2点	不満	= -2点

↓	↓
各選択肢の回答数に得点を乗じたものの合計 を回答数合計（無回答を除く）で除す	各選択肢の回答数に得点を乗じたものの合計 を回答数合計（無回答を除く）で除す
↓	↓
評価点	評価点

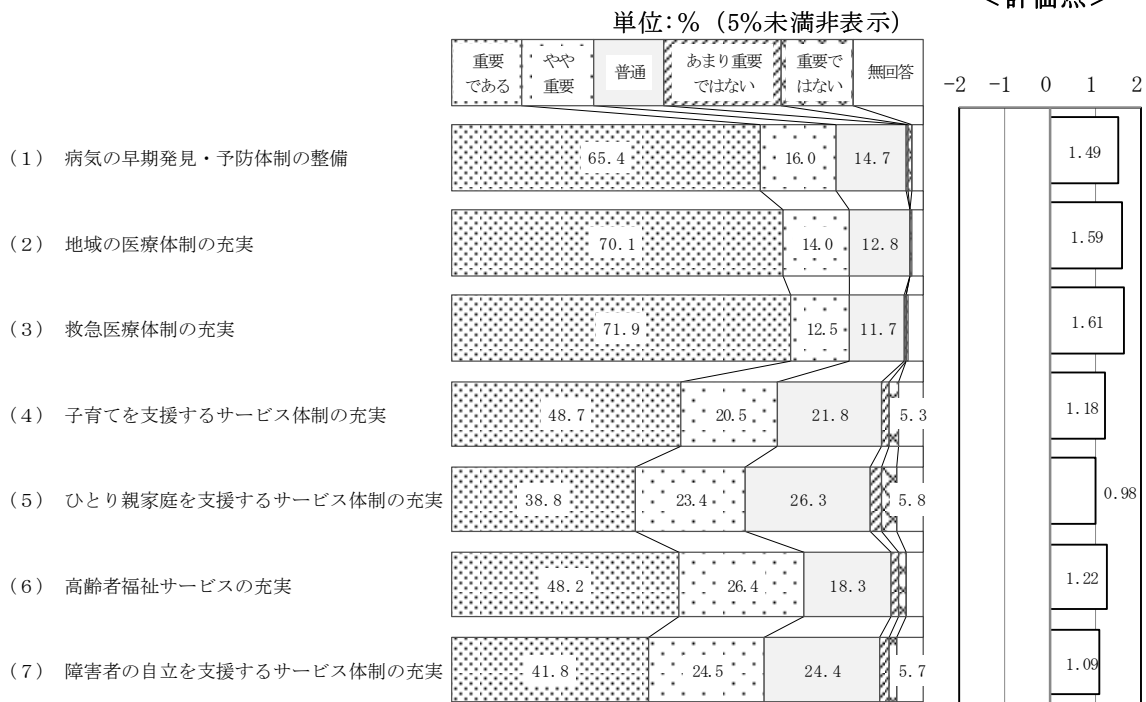
この「評価点」が正值であれば、平均的に普通以上の重要度、満足度であることになり、負値であれば平均以下の重要度、満足度であることになる。

この「評価点」を施策項目間で比較すれば、重要度あるいは満足度の高い施策項目、低い施策項目を相対比較することができる。また、属性別のクロス集計においても、属性による平均重要度、満足度の相違を把握することができる。

《ともに支え合い健やかでいきいきと過ごせるまちづくり》

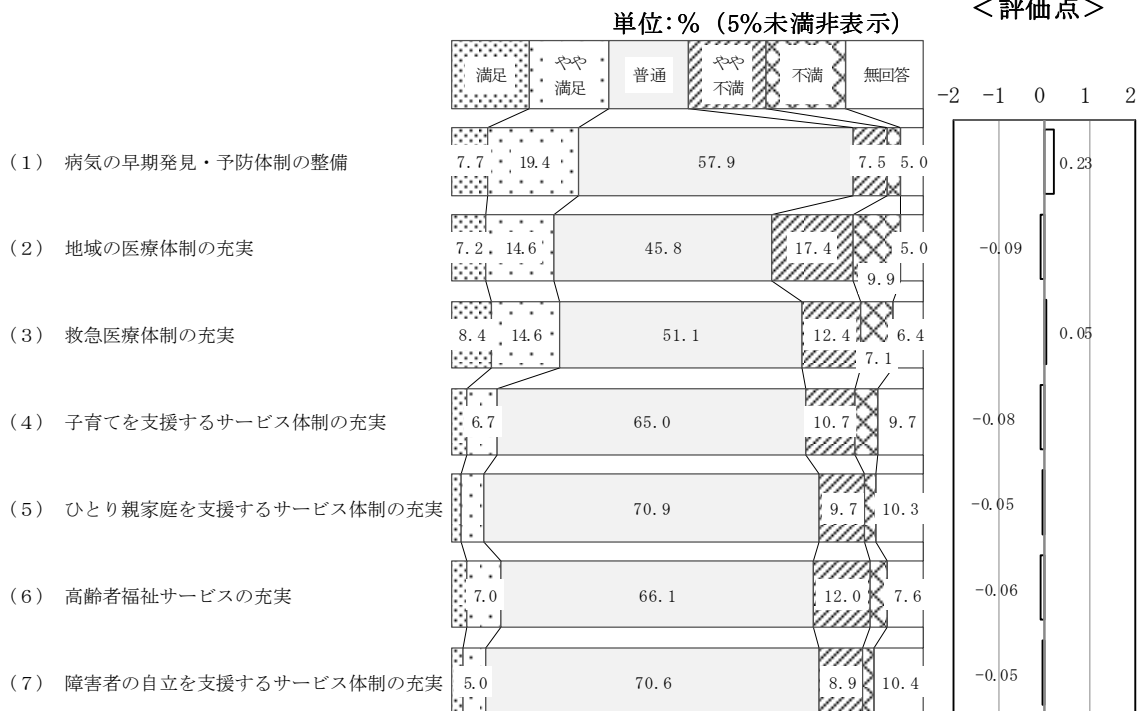
重要度

総数=1,149



満足度

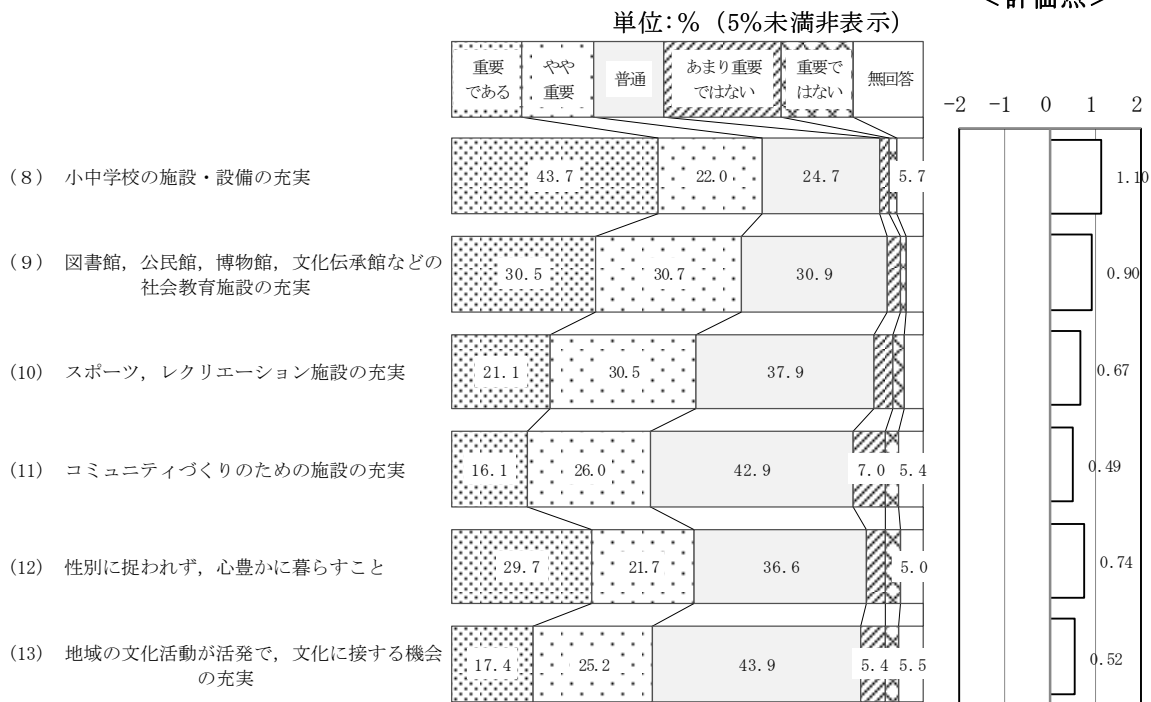
総数=1,149



《豊かな心と文化を育むまちづくり》

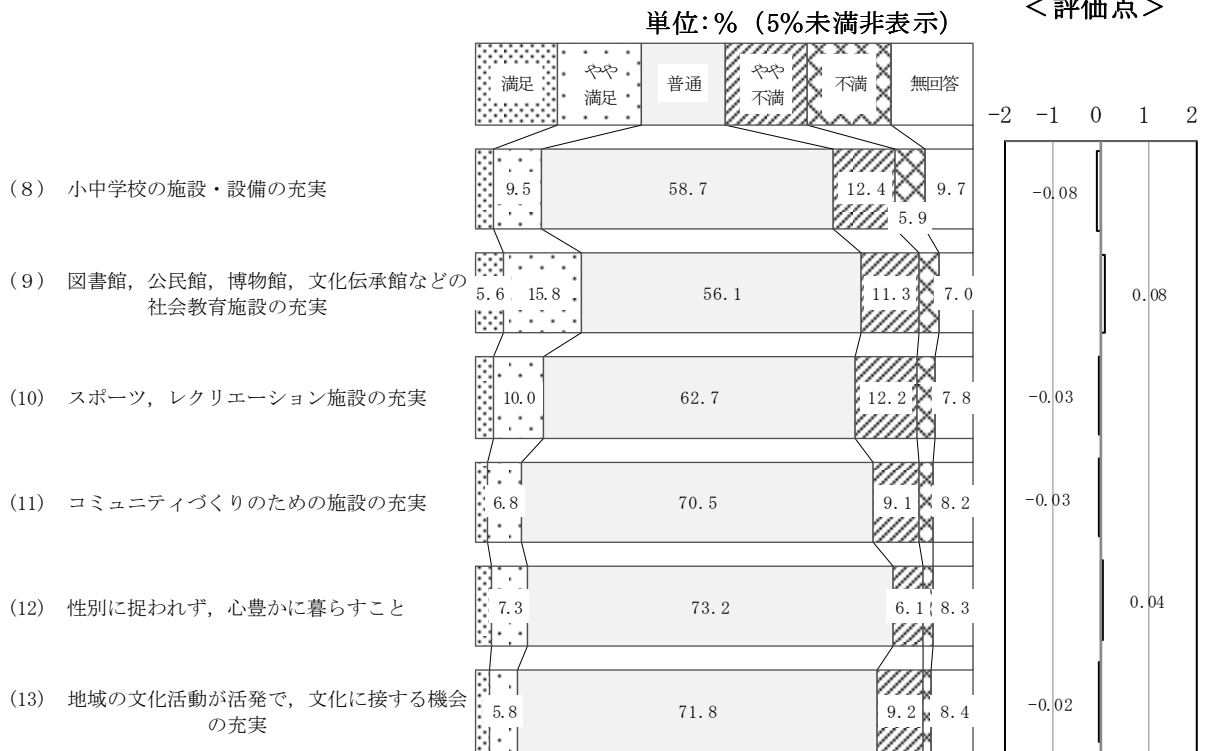
重要度

総数=1,149



満足度

総数=1,149



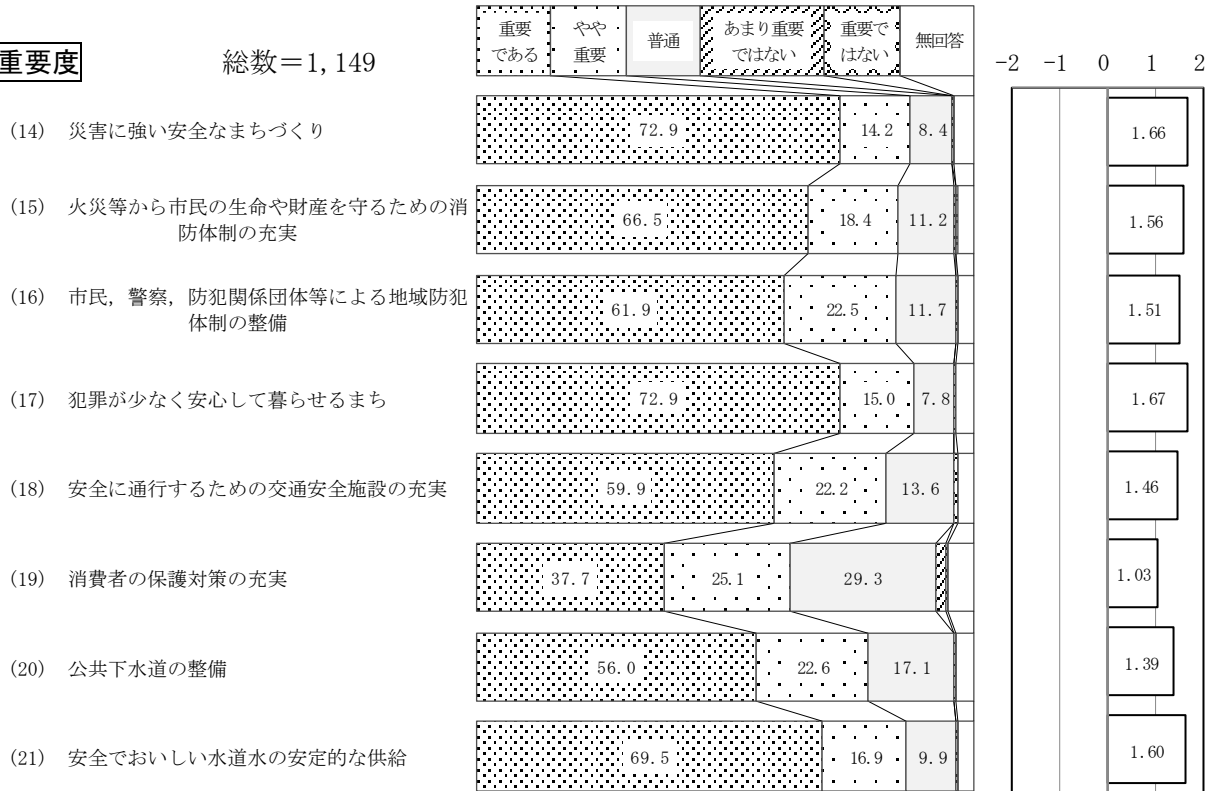
《安心・安全に暮らせるまちづくり》

単位:% (5%未満非表示)

<評価点>

重要度

総数=1,149

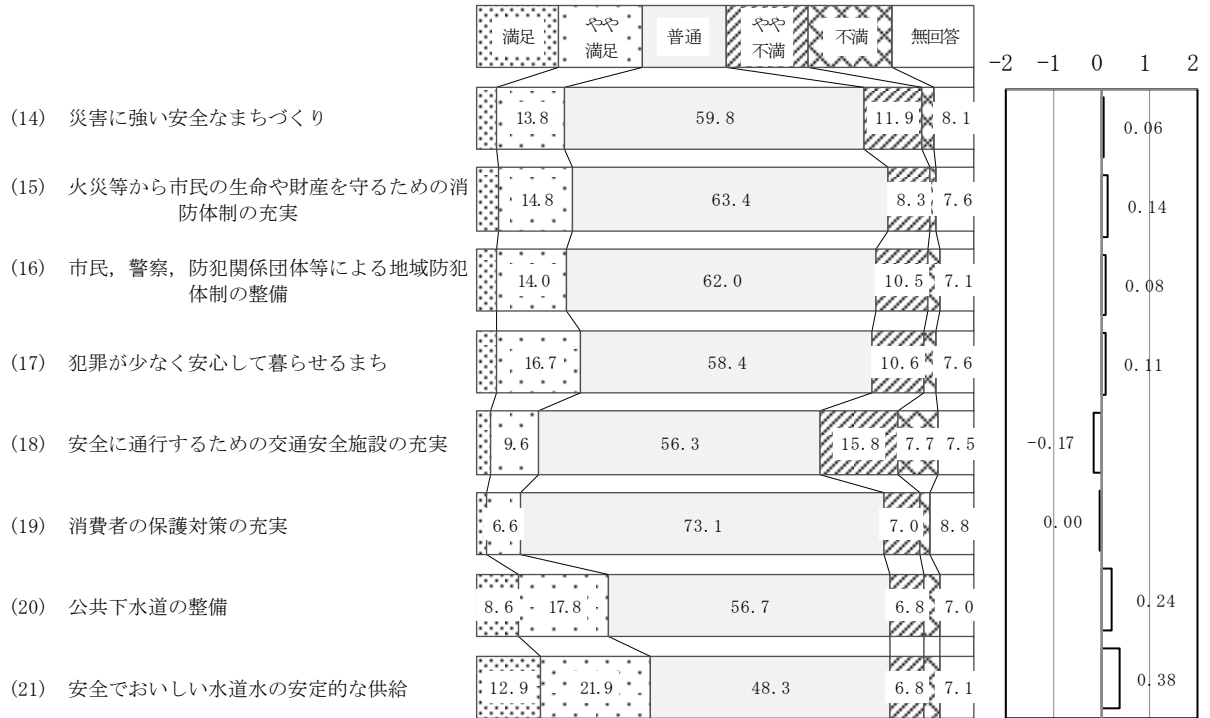


満足度

総数=1,149

単位:% (5%未満非表示)

<評価点>

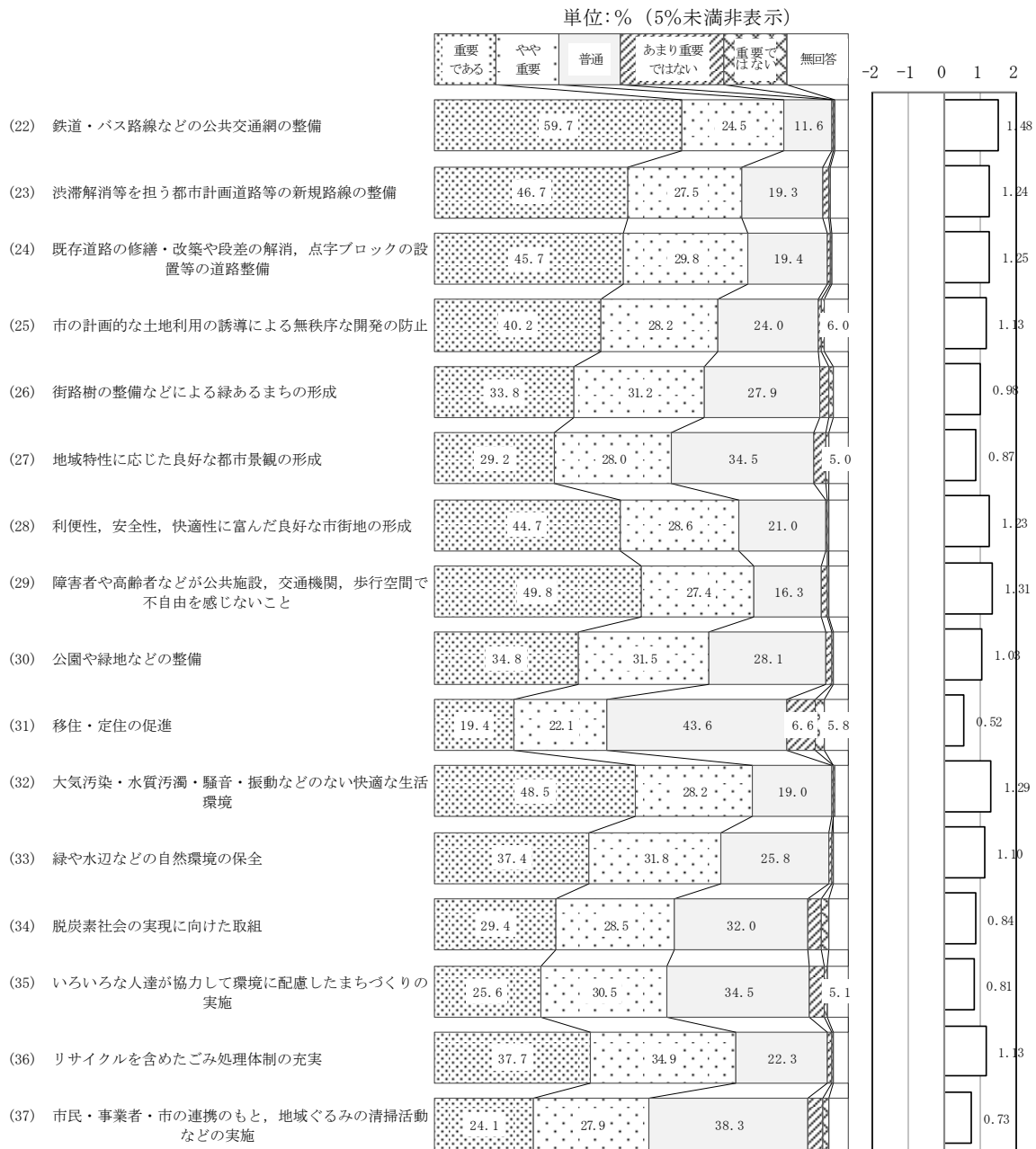


《快適で環境にやさしいまちづくり》

重要度

総数=1,149

<評価点>

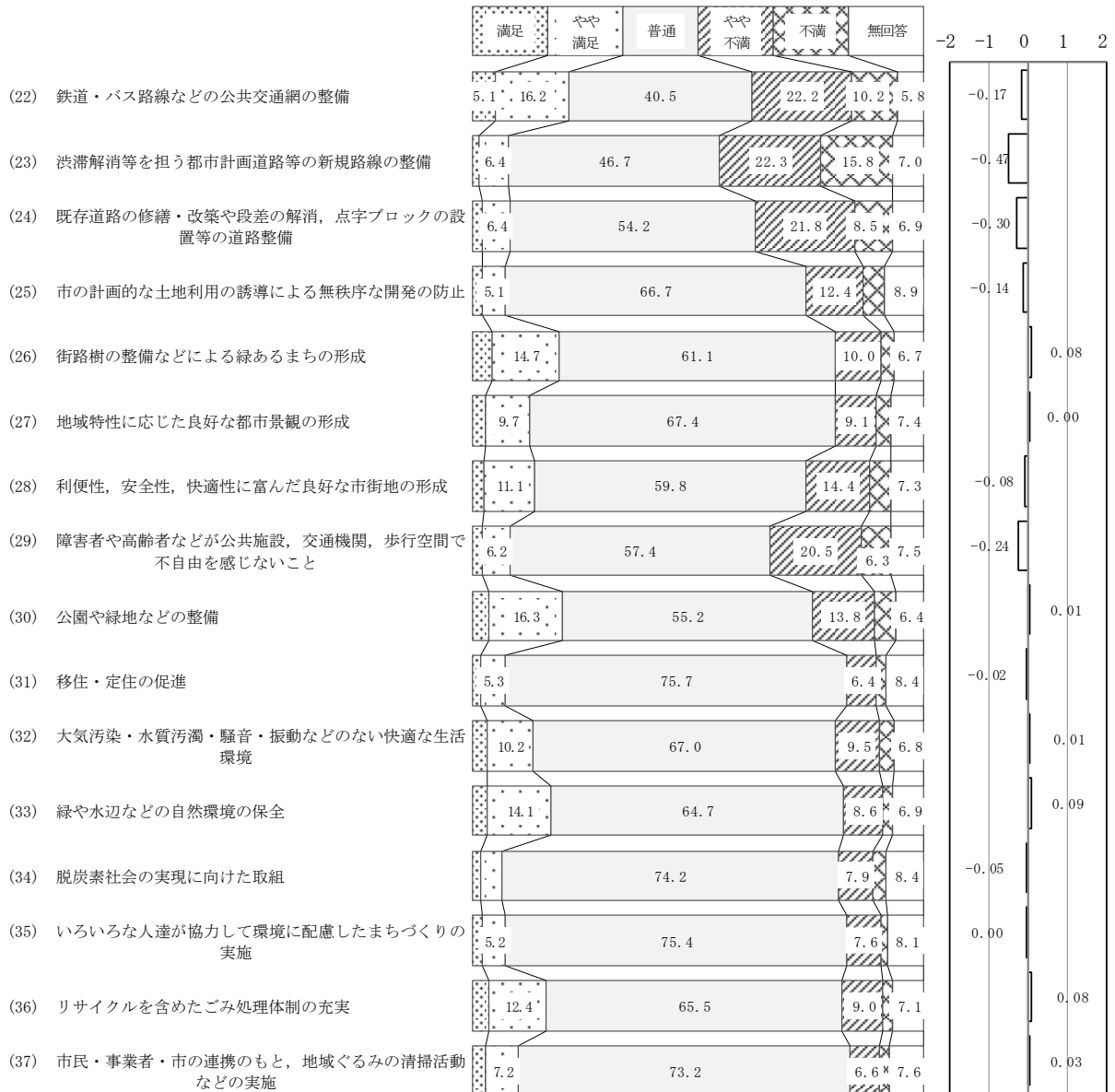


満足度

総数 = 1, 149

< 評価点 >

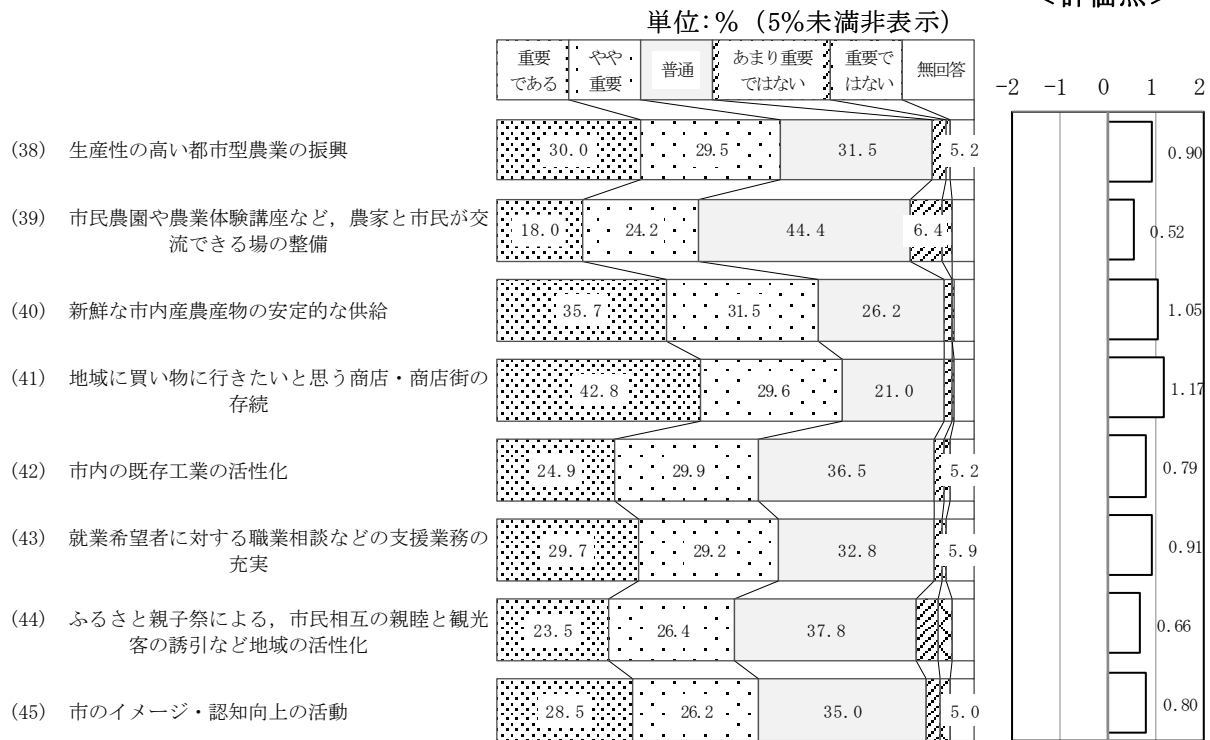
単位: % (5%未満非表示)



《産業が元気なまちづくり》

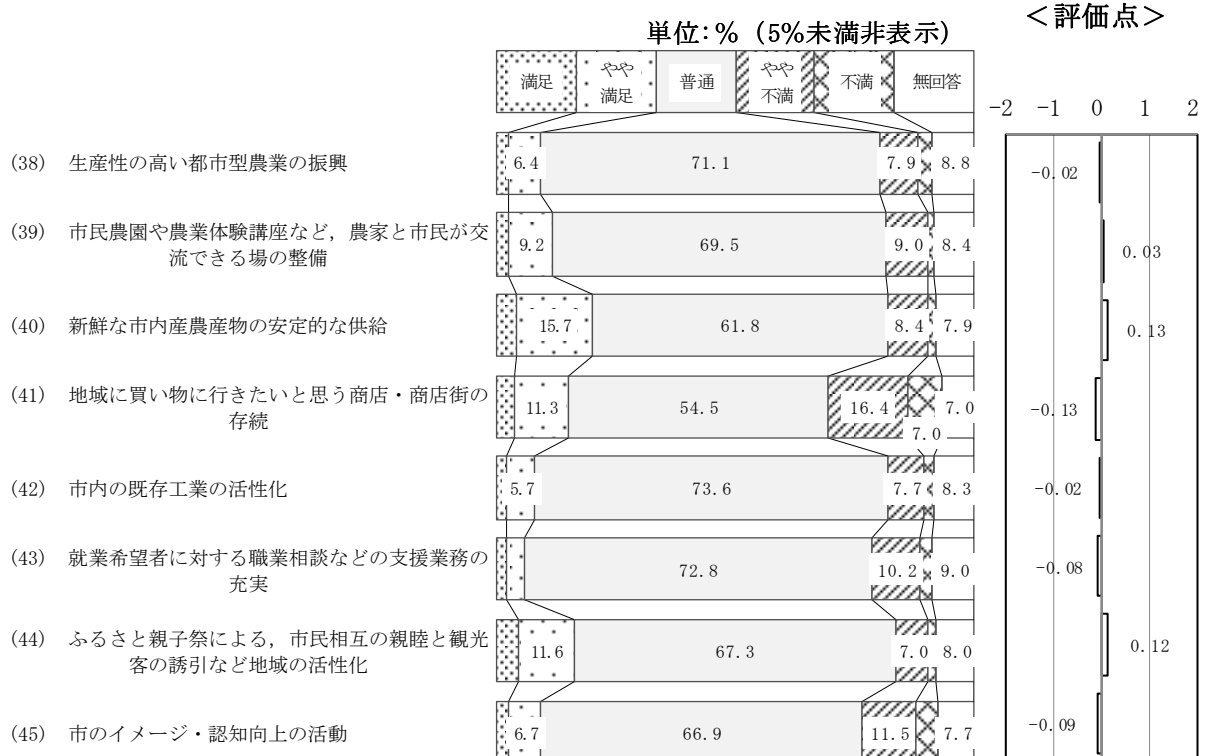
重要度

総数=1,149



満足度

総数=1,149



全 45 項目中の比較で、重要度、満足度の評価点の上位、下位の項目を抽出すると以下のとおりである。

重要度の最上位は、防犯、防災、救急医療といった安全・安心に関する項目等であった。

また、満足度の最上位は「安全でおいしい水道水の安定的な供給」で、最下位は、「渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備」であり、道路・交通関係の項目の満足度が低位で続いている。

(評価点上位・下位の施策項目)

重要度			
	順位	施策項目	評価点
上位5項目	1位	(17) 犯罪が少なく安心して暮らせるまち	1.67
	2位	(14) 災害に強い安全なまちづくり	1.66
	3位	(3) 救急医療体制の充実	1.61
	4位	(21) 安全でおいしい水道水の安定的な供給	1.60
	5位	(2) 地域の医療体制の充実	1.59
:			
下位5項目	40位	(44) ふるさと親子祭による、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化	0.66
	41位	(31) 移住・定住の促進	0.52
	42位	(13) 地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実	0.52
	43位	(39) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備	0.52
	44位	(11) コミュニティづくりのための施設の充実	0.49

満足度			
	順位	施策項目	評価点
上位5項目	1位	(21) 安全でおいしい水道水の安定的な供給	0.38
	2位	(20) 公共下水道の整備	0.24
	3位	(1) 病気の早期発見・予防体制の整備	0.23
	4位	(15) 火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実	0.14
	5位	(40) 新鮮な市内産農産物の安定的な供給	0.13
:			
下位5項目	40位	(18) 安全に通行するための交通安全施設の充実	-0.17
	41位	(22) 鉄道・バス路線などの公共交通網の整備	-0.17
	42位	(29) 障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないこと	-0.24
	43位	(24) 既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備	-0.30
	44位	(23) 渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備	-0.47

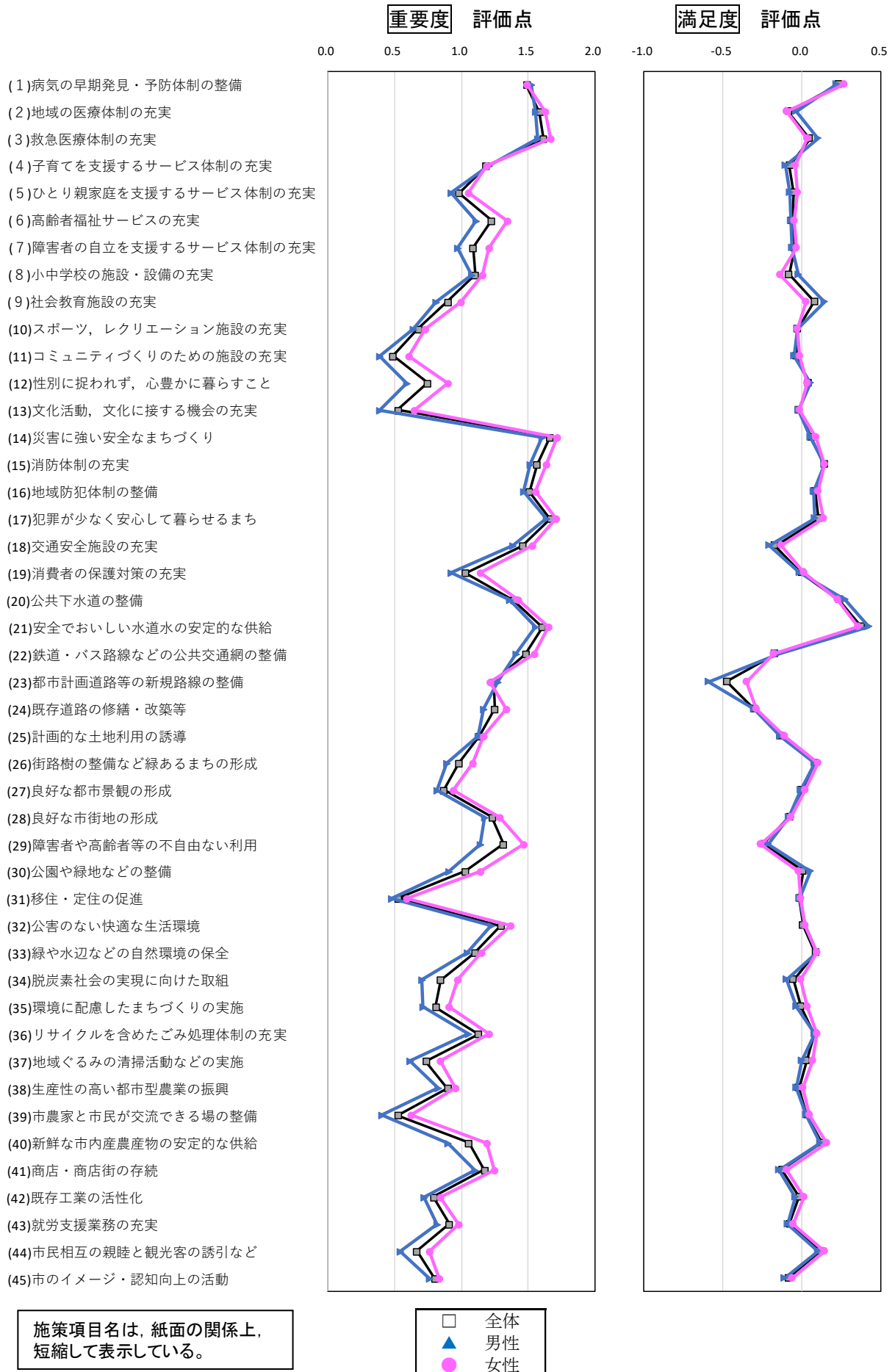
(2) 重要度・満足度の属性別比較

性別では、男女ともに概ね同様の傾向である中で、重要度に関しては、高齢者福祉をはじめとした健康福祉に関する項目や安心安全、快適生活に関する多くの項目で、女性の方が評価点がやや高いものが目立ち、重要性の認識が高い。満足度においても、概ね同様の傾向である中で、「都市計画道路等の新規路線の整備」では、男性より女性の満足度評価点が目立って高くなっている。

年齢別では、教育文化や安心安全などに関する多くの項目で、29歳以下の重要度の評価点が比較的高く、また、健康福祉に関する多くの項目で、60歳代の重要度の評価点が比較的高い。満足度では、産業活力に関する項目の多くで29歳以下の満足度が、顕著に高い。

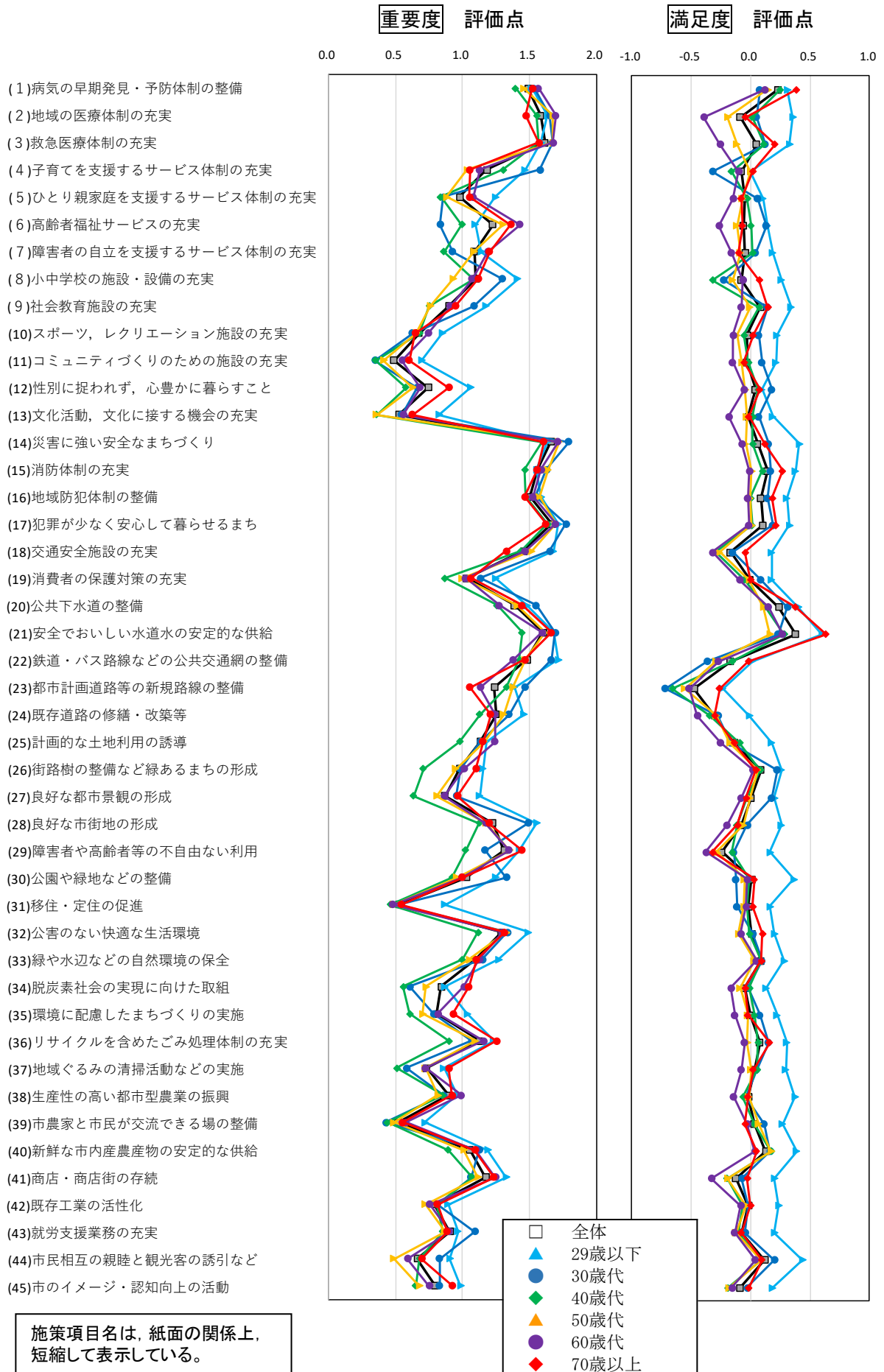
居住地域別では、安全安心や産業活力に関する多くの項目で阿蘇地域の重要度の評価点が比較的高い。満足度の評価点では、安心安全に関する項目で勝田台地域の評価点が比較的高くみられる。

<性別>

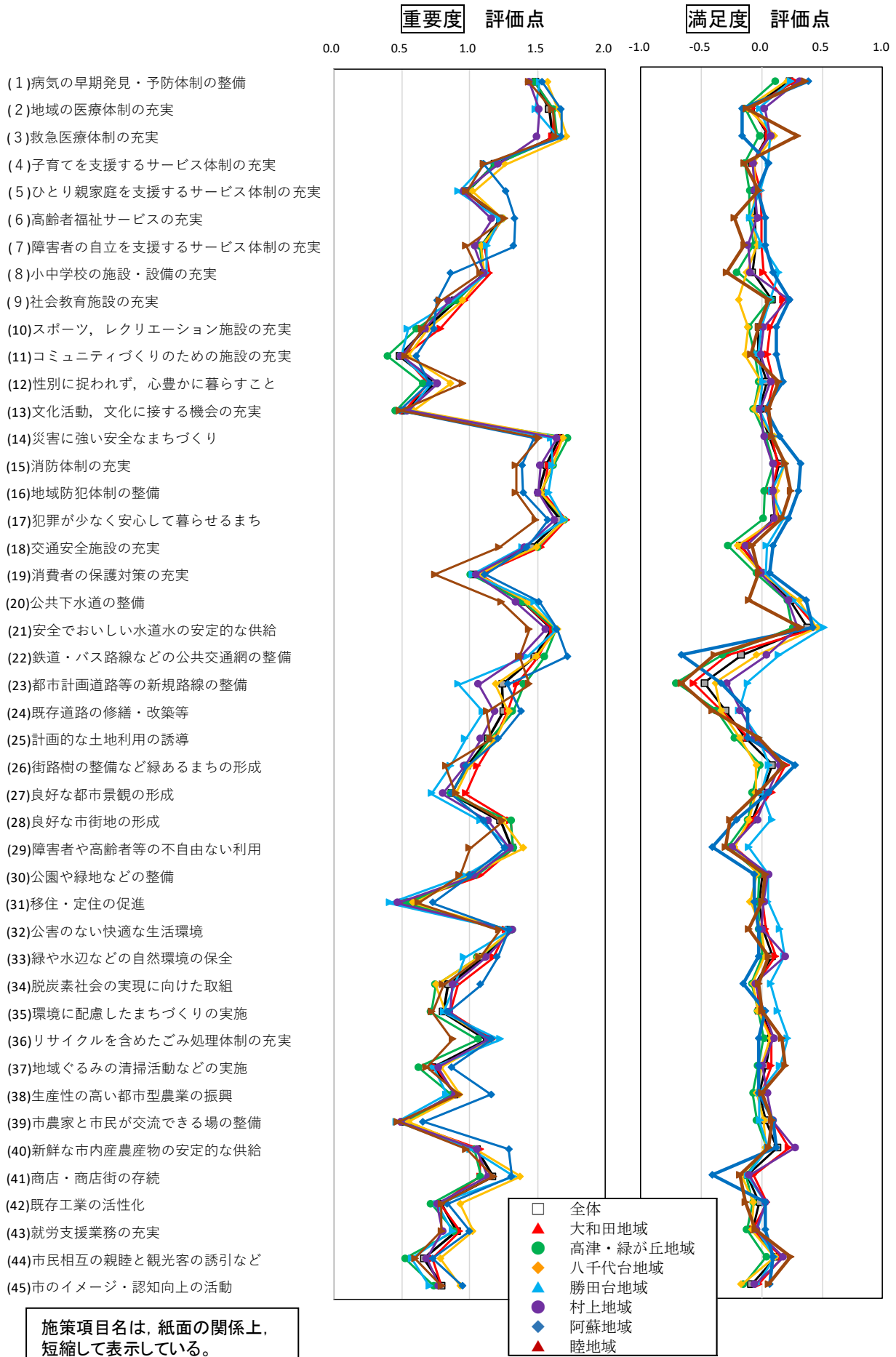


施策項目名は、紙面の関係上、短縮して表示している。

<年齢別>



<居住地域別>



(3) 重要度と満足度の関係

重要度の評価点を横軸に、満足度の評価点を縦軸にとり、各施策項目の値をプロットした図を、5つの分野別に示す。

この図上では、以下に示すように、特に図の「右下」に位置する施策項目が、重要度が高く満足度が低いものになり、今後の施策展開で重要性が高い項目と評価できる。

図の左上方向	図の右上方向
重要度は低いが、満足度は高い	重要度が高く、満足度も高い
図の左下方向	図の右下方向
重要度が低く、満足度も低い	重要度は高いが、満足度は低い

グラフでは、45の全項目の評価点平均値（重要度：1.09，満足度：-0.01）を赤線で示したが、これよりも上下、左右で顕著に値の高さ、低さが表れているものを抽出すると以下ようになる。

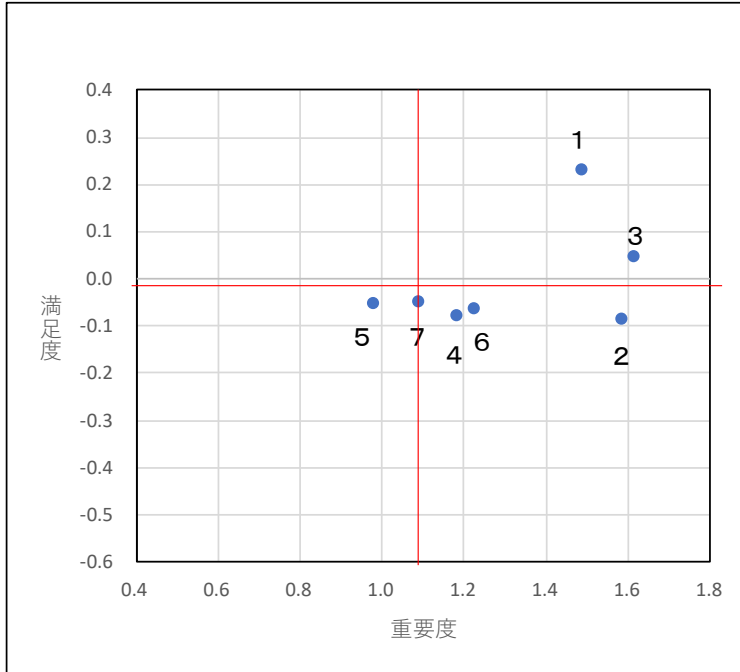
「右下」に顕著に属する項目は、高齢者福祉サービス、交通安全施設整備、公共交通網整備、都市計画道路等の整備、道路環境の改善、バリアフリー対策といったところである。

(重要度と満足度の関係が顕著な施策項目)

図の左上方向 (重要度は低いが、満足度は高い)	図の右上方向 (重要度が高く、満足度も高い)
(9) 図書館、公民館、博物館、文化伝承館などの社会教育施設の充実 (12) 性別に捉われず、心豊かに暮らすこと (26) 街路樹の整備などによる緑あるまちの形成 (27) 地域特性に応じた良好な都市景観の形成 (37) 市民・事業者・市の連携のもと、地域ぐるみの清掃活動などの実施 (39) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備 (44) ふるさと親子祭による、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化	(1) 病気の早期発見・予防体制の整備 (3) 救急医療体制の充実 (14) 災害に強い安全なまちづくり (15) 火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実 (16) 市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制の整備 (17) 犯罪が少なく安心して暮らせるまち (20) 公共下水道の整備 (21) 安全でおいしい水道水の安定的な供給
図の左下方向 (重要度が低く、満足度も低い)	図の右下方向 (重要度は高いが、満足度は低い)
(5) ひとり親家庭を支援するサービス体制の充実 (10) スポーツ、レクリエーション施設の充実 (11) コミュニティづくりのための施設の充実 (34) 脱炭素社会の実現に向けた取組 (43) 就業希望者に対する職業相談などの支援業務の充実 (45) 市のイメージ・認知向上の活動	(2) 地域の医療体制の充実 (6) 高齢者福祉サービスの充実 (18) 安全に通行するための交通安全施設の充実 (22) 鉄道・バス路線などの公共交通網の整備 (23) 渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備 (24) 既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備 (28) 利便性、安全性、快適性に富んだ良好な市街地の形成 (29) 障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないこと

重要度評価点と満足度評価点の関係図

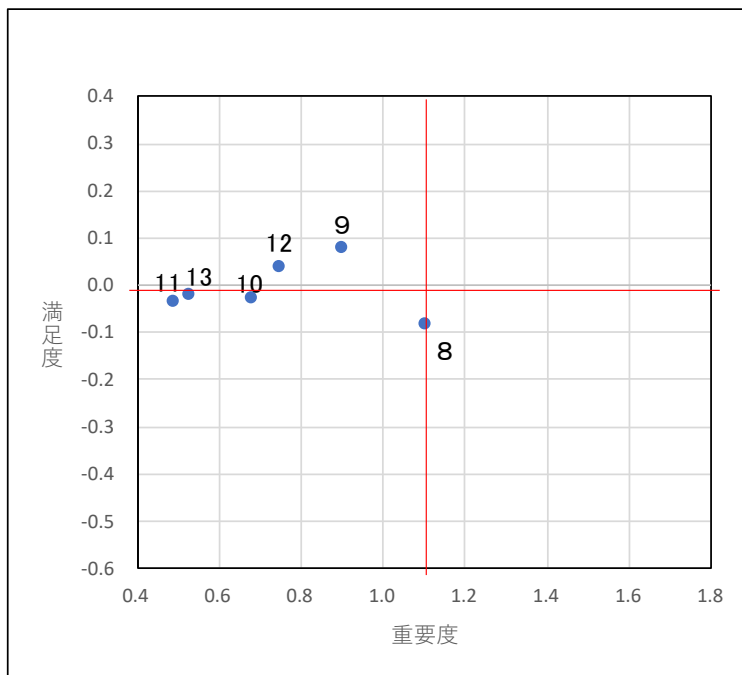
《ともに支え合い健やかでいきいきと過ごせるまちづくり》



赤線は、全45項目の平均値を示す

- (1) 病気の早期発見・予防体制の整備
- (2) 地域の医療体制の充実
- (3) 救急医療体制の充実
- (4) 子育てを支援するサービス体制の充実
- (5) ひとり親家庭を支援するサービス体制の充実
- (6) 高齢者福祉サービスの充実
- (7) 障害者の自立を支援するサービス体制の充実

《豊かな心と文化を育むまちづくり》

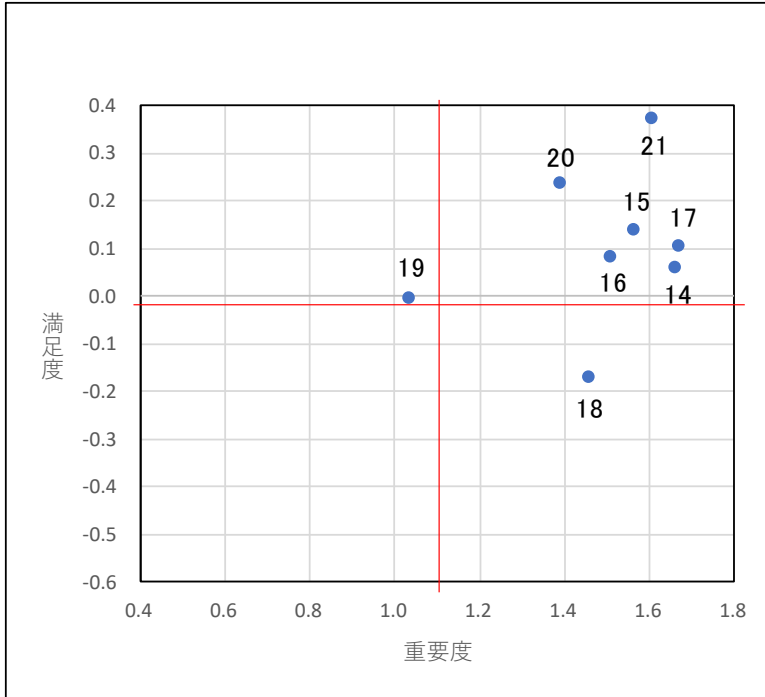


赤線は、全45項目の平均値を示す

- (8) 小中学校の施設・設備の充実
- (9) 図書館、公民館、博物館、文化伝承館などの社会教育施設の充実
- (10) スポーツ、レクリエーション施設の充実
- (11) コミュニティづくりのための施設の充実
- (12) 性別に捉われず、心豊かに暮らすこと
- (13) 地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実

重要度評価点と満足度評価点の関係図

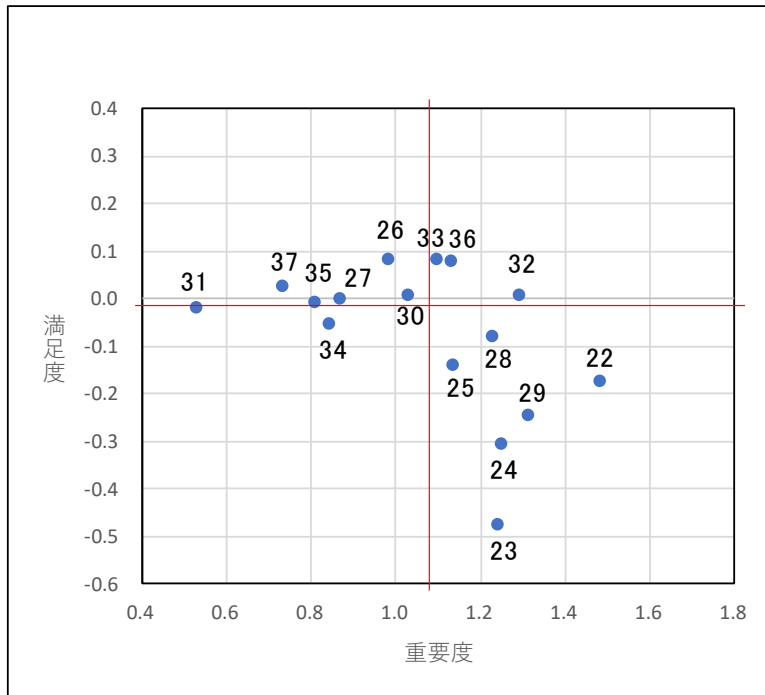
《安心・安全に暮らせるまちづくり》



赤線は、全45項目の平均値を示す

- (14) 災害に強い安全なまちづくり
- (15) 火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実
- (16) 市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制の整備
- (17) 犯罪が少なく安心して暮らせるまち
- (18) 安全に通行するための交通安全施設の充実
- (19) 消費者の保護対策の充実
- (20) 公共下水道の整備
- (21) 安全でおいしい水道水の安定的な供給

《快適で環境にやさしいまちづくり》

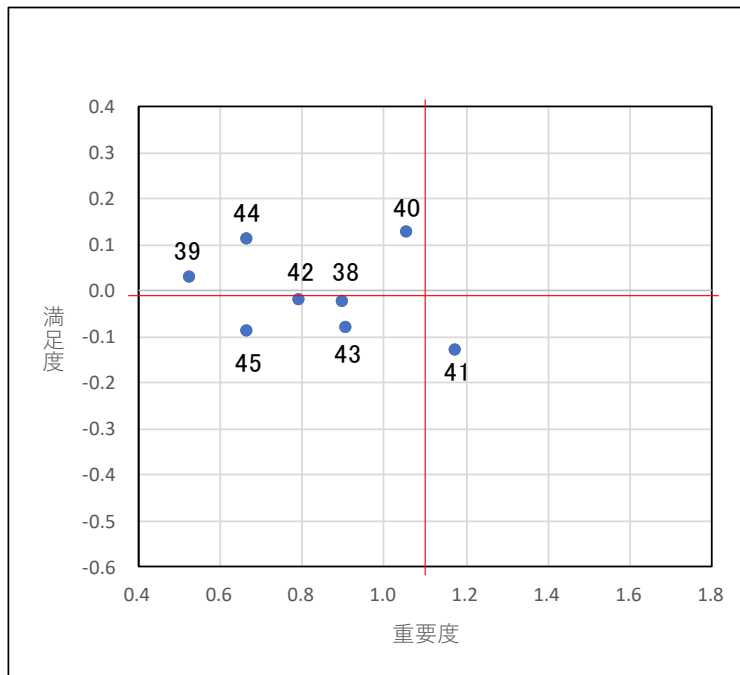


赤線は、全45項目の平均値を示す

- (22) 鉄道・バス路線などの公共交通網の整備
- (23) 渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備
- (24) 既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの
- (25) 市の計画的な土地利用の誘導による無秩序な
- (26) 街路樹の整備などによる緑あるまちの形成
- (27) 地域特性に応じた良好な都市景観の形成
- (28) 利便性、安全性、快適性に富んだ良好な市街地の形成
- (29) 障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないこと
- (30) 公園や緑地などの整備
- (31) 移住・定住の促進
- (32) 大気汚染・水質汚濁・騒音・振動などのない
- (33) 緑や水辺などの自然環境の保全
- (34) 脱炭素社会の実現に向けた取組
- (35) いろいろな人達が協力して環境に配慮した
- (36) リサイクルを含めたごみ処理体制の充実
- (37) 市民・事業者・市の連携のもと、地域ぐるみの清掃活動などの実施

重要度評価点と満足度評価点の関係図

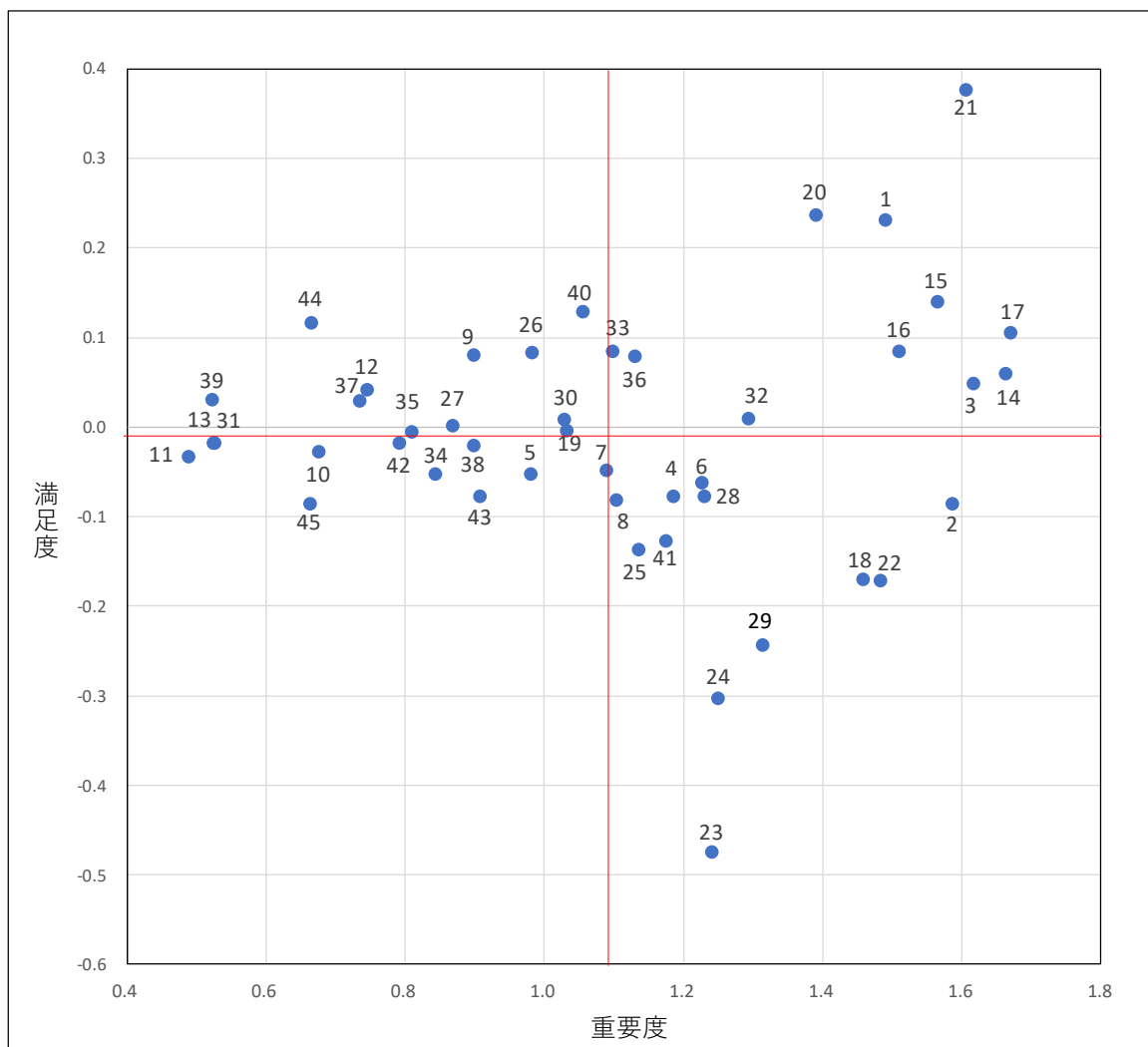
《産業が元気なまちづくり》



赤線は、全45項目の平均値を示す

- (38) 生産性の高い都市型農業の振興
- (39) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備
- (40) 新鮮な市内産農産物の安定的な供給
- (41) 地域に買い物に行きたいと思う商店・商店街の存続
- (42) 市内の既存工業の活性化
- (43) 就業希望者に対する職業相談などの支援業務の充実
- (44) ふるさと親子祭による、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化
- (45) 市のイメージ・認知向上の活動

45 項目の位置を全てプロットすると、満足度と重要度の関係は、以下ようになる。



赤線は、全45項目の平均値を示す

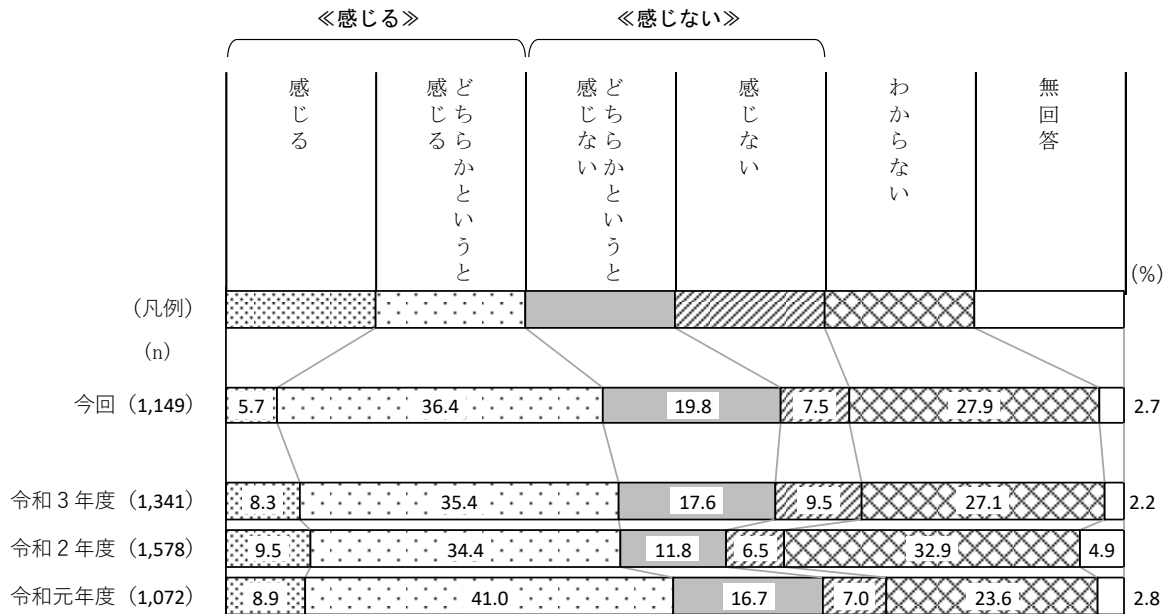
- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 病気の早期発見・予防体制の整備 (2) 地域の医療体制の充実 (3) 救急医療体制の充実 (4) 子育てを支援するサービス体制の充実 (5) ひとり親家庭を支援するサービス体制の充実 (6) 高齢者福祉サービスの充実 (7) 障害者の自立を支援するサービス体制の充実 (8) 小中学校の施設・設備の充実 (9) 図書館、公民館、博物館、文化伝承館などの社会教育施設の充実 (10) スポーツ、レクリエーション施設の充実 (11) コミュニティづくりのための施設の充実 (12) 性別に捉われず、心豊かに暮らすこと (13) 地域の文化活動が活発で、文化に接する機会の充実 (14) 災害に強い安全なまちづくり (15) 火災等から市民の生命や財産を守るための消防体制の充実 (16) 市民、警察、防犯関係団体等による地域防犯体制の整備 (17) 犯罪が少なく安心して暮らせるまち (18) 安全に通行するための交通安全施設の充実 (19) 消費者の保護対策の充実 (20) 公共下水道の整備 (21) 安全でおいしい水道水の安定的な供給 (22) 鉄道・バス路線などの公共交通網の整備 (23) 渋滞解消等を担う都市計画道路等の新規路線の整備 | <ul style="list-style-type: none"> (24) 既存道路の修繕・改築や段差の解消、点字ブロックの設置等の道路整備 (25) 市の計画的な土地利用の誘導による無秩序な開発の防止 (26) 街路樹の整備などによる緑あるまちの形成 (27) 地域特性に応じた良好な都市景観の形成 (28) 利便性、安全性、快適性に富んだ良好な市街地の形成 (29) 障害者や高齢者などが公共施設、交通機関、歩行空間で不自由を感じないこと (30) 公園や緑地などの整備 (31) 移住・定住の促進 (32) 大気汚染・水質汚濁・騒音・振動などのない快適な生活環境 (33) 緑や水辺などの自然環境の保全 (34) 脱炭素社会の実現に向けた取組 (35) いろいろな人達が協力して環境に配慮したまちづくりの実施 (36) リサイクルを含めたごみ処理体制の充実 (37) 市民・事業者・市の連携のもと、地域ぐるみの清掃活動などの実施 (38) 生産性の高い都市型農業の振興 (39) 市民農園や農業体験講座など、農家と市民が交流できる場の整備 (40) 新鮮な市内産農産物の安定的な供給 (41) 地域に買い物に行きたいと思う商店・商店街の存続 (42) 市内の既存工業の活性化 (43) 就業希望者に対する職業相談などの支援業務の充実 (44) ふるさと親子祭による、市民相互の親睦と観光客の誘引など地域の活性化 (45) 市のイメージ・認知向上の活動 |
|---|--|

16 前期基本計画における指標について

問 24 下の表に示した各項目について、あてはまるものを1つずつ選び、番号に○印をつけてください。

《ともに支え合い健やかでいきいきと過ごせるまちづくり》

(1) 子育てしやすいまちと感じていますか。



子育てしやすいまちは、「感じる」(5.7%)、「どちらかというと感じる」(36.4%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は、42.1%となっている。なお、「わからない」は27.9%となっている。

前回(令和3年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は1.6ポイント減少している。

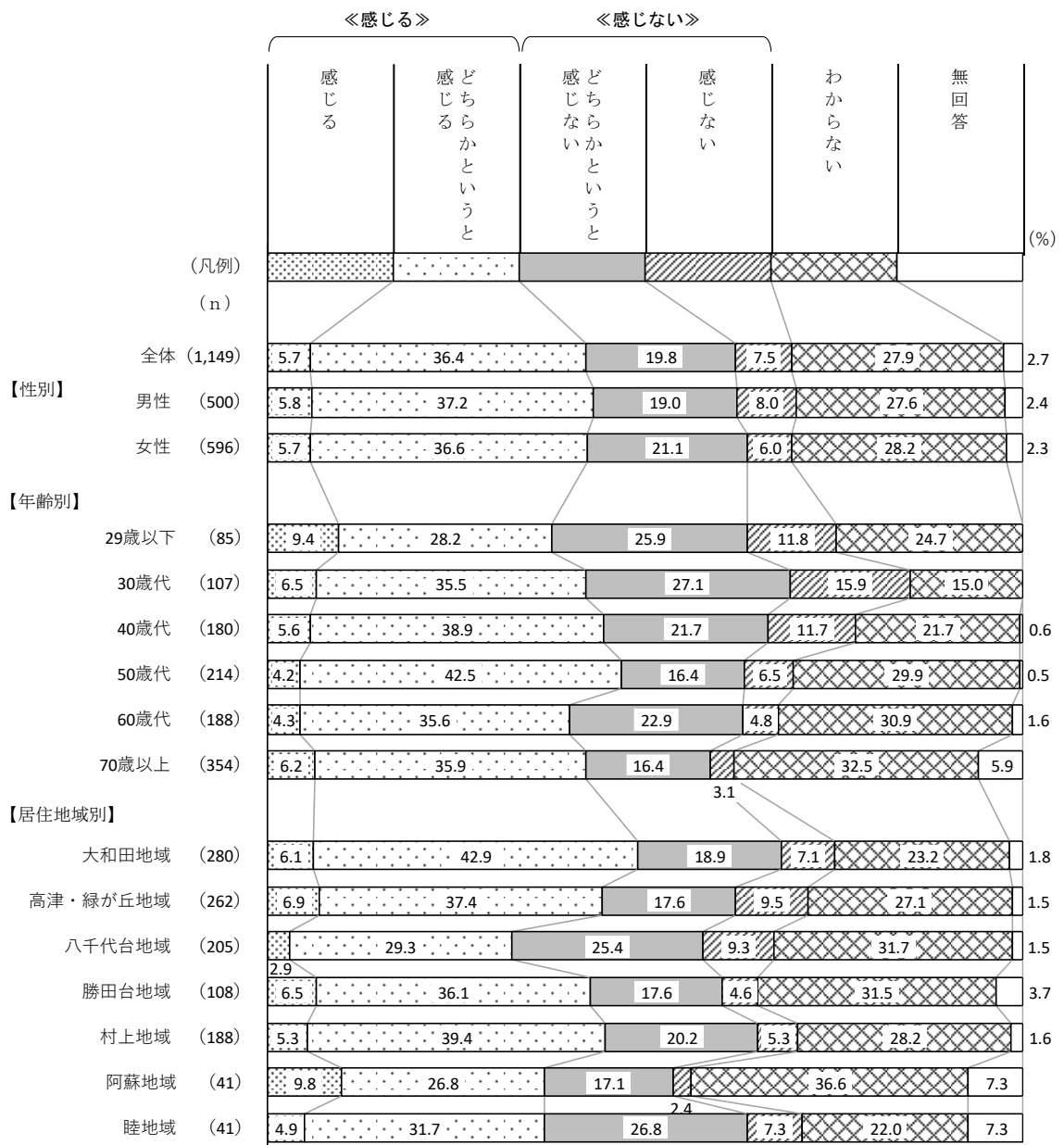
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

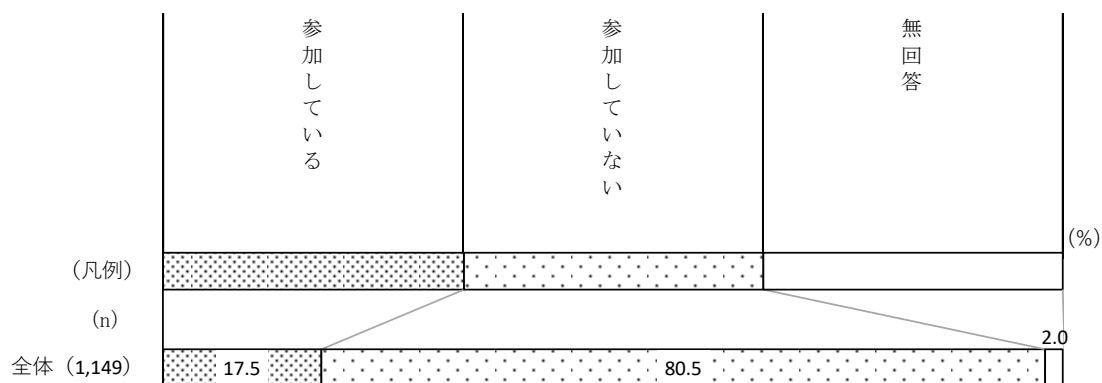
年齢別では、《感じる》の割合は50歳代、40歳代が多く、《感じない》の割合は、29歳以下、30歳代で多くなっている。70歳代以上では「わからない」の割合が比較的多い。

居住地域別では、《感じる》の割合が大和田地域、村上地域、高津・緑が丘地域で比較的多く、逆に八千代台地域は最も低く、32.2%にとどまっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(2) ボランティアや地域活動に参加していますか。



ボランティアや地域活動に「参加している」が 17.5%、「参加していない」が 80.5%となっている。

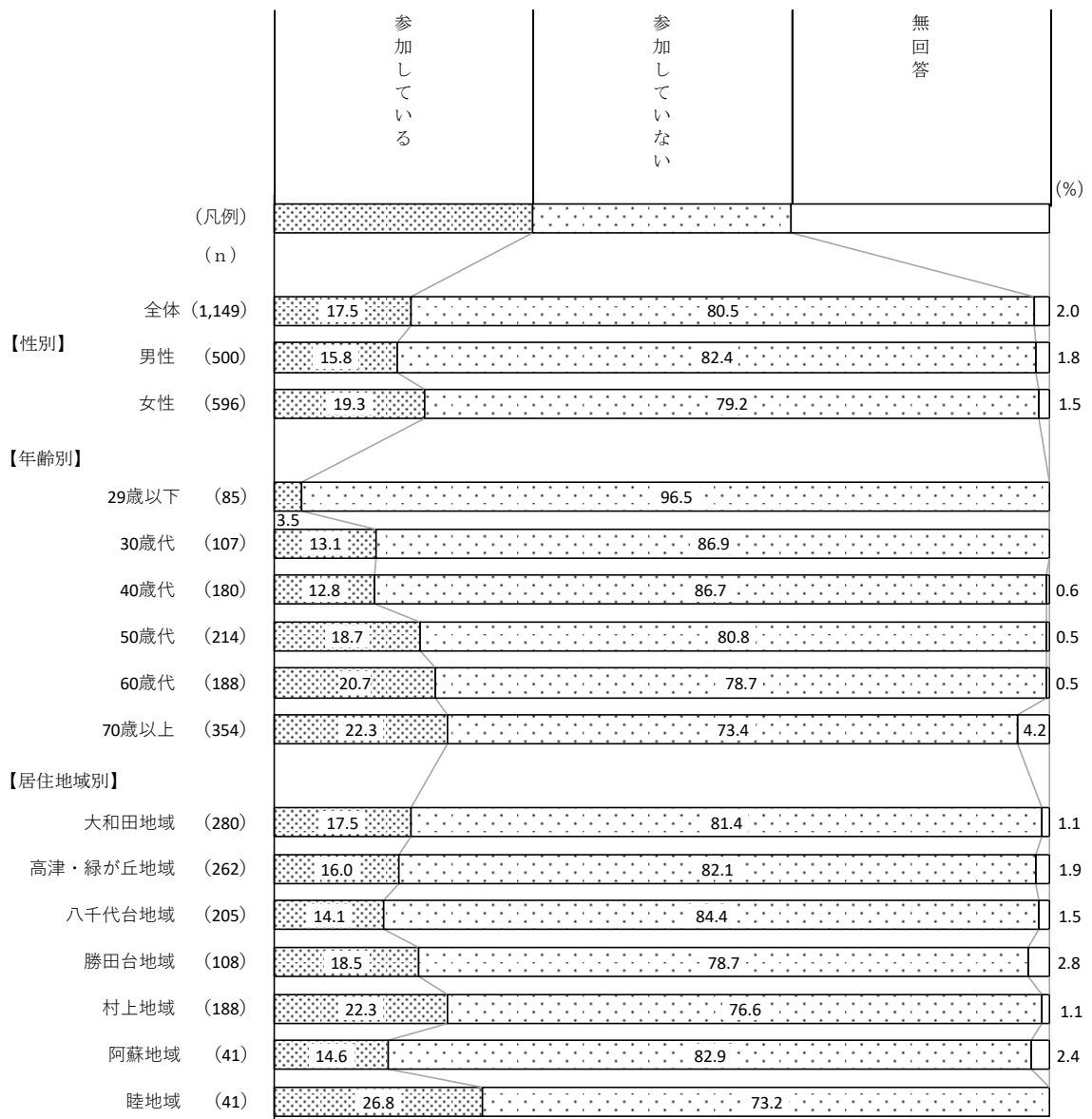
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「参加している」の割合は女性の方が男性よりも 3.5 ポイント多くなっている。

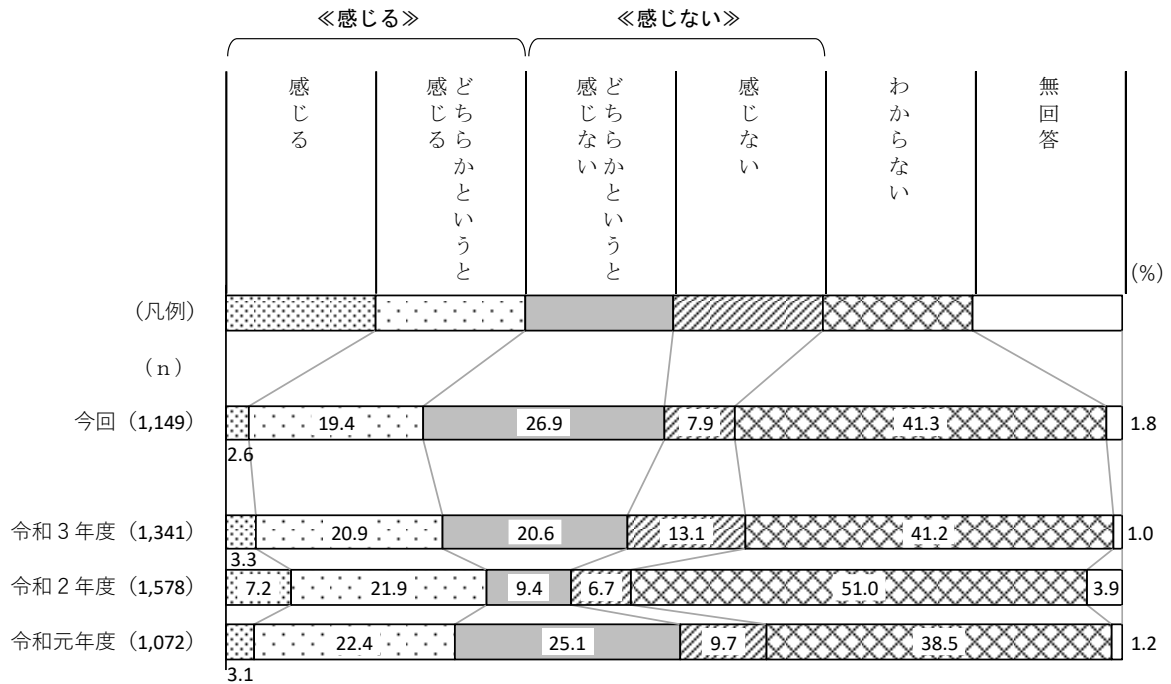
年齢別では、「参加している」の割合は年齢層が上がるほど多くなっている。

居住地域別では、「参加している」の割合は陸地域が 26.8%で最も多い。逆に八千代台地域は最も低く、14.1%にとどまっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(3) 高齢者福祉サービスが充実していると感じますか。



高齢者福祉サービスの充実は、「わからない」が41.3%で最も多い。「感じる」(2.6%)、「どちらかというと感じる」(19.4%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は22.0%となっている。

前回(令和3年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は2.2ポイント減少している。

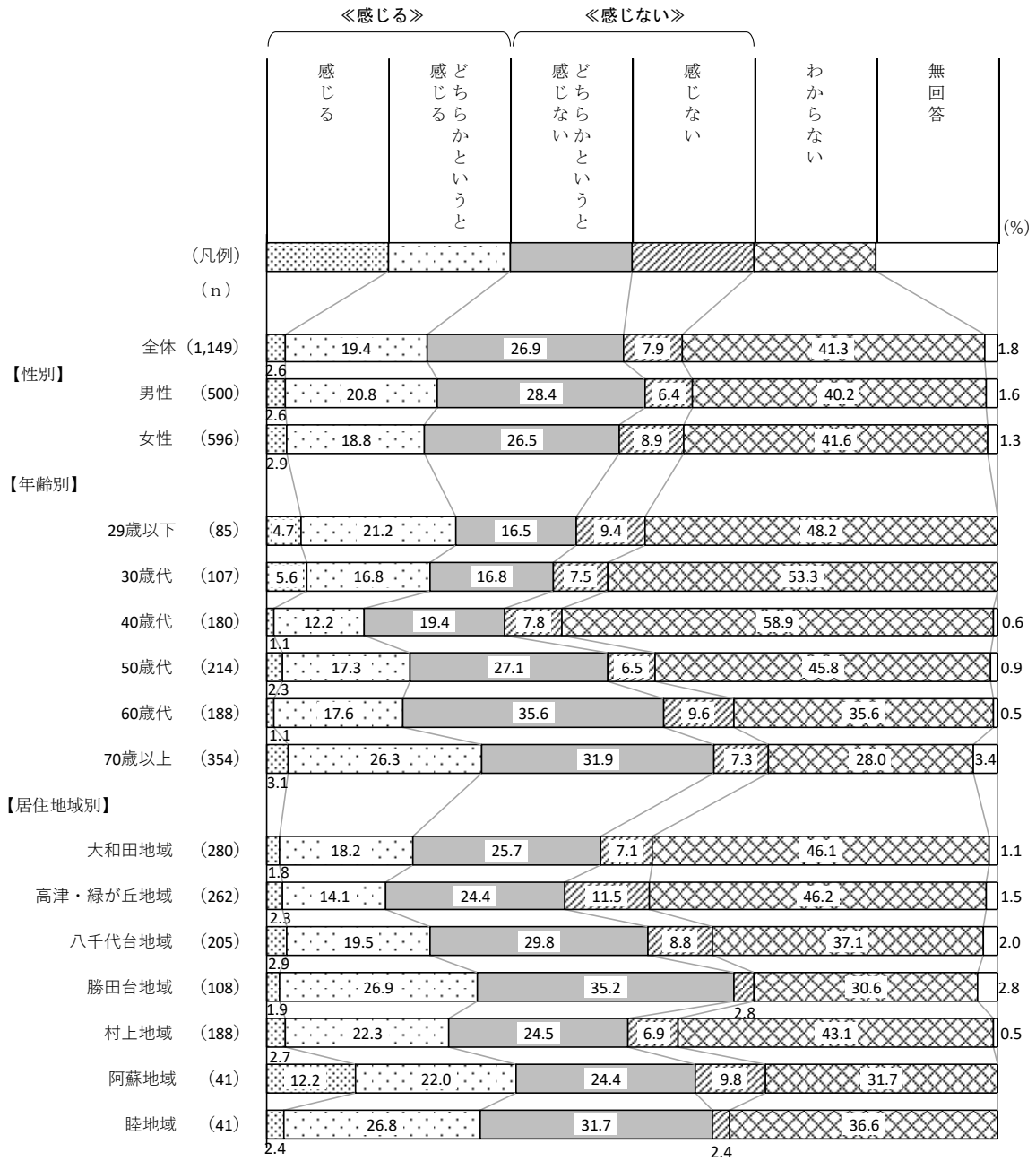
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じる》の割合は、男性の方が女性より1.7ポイント多い。

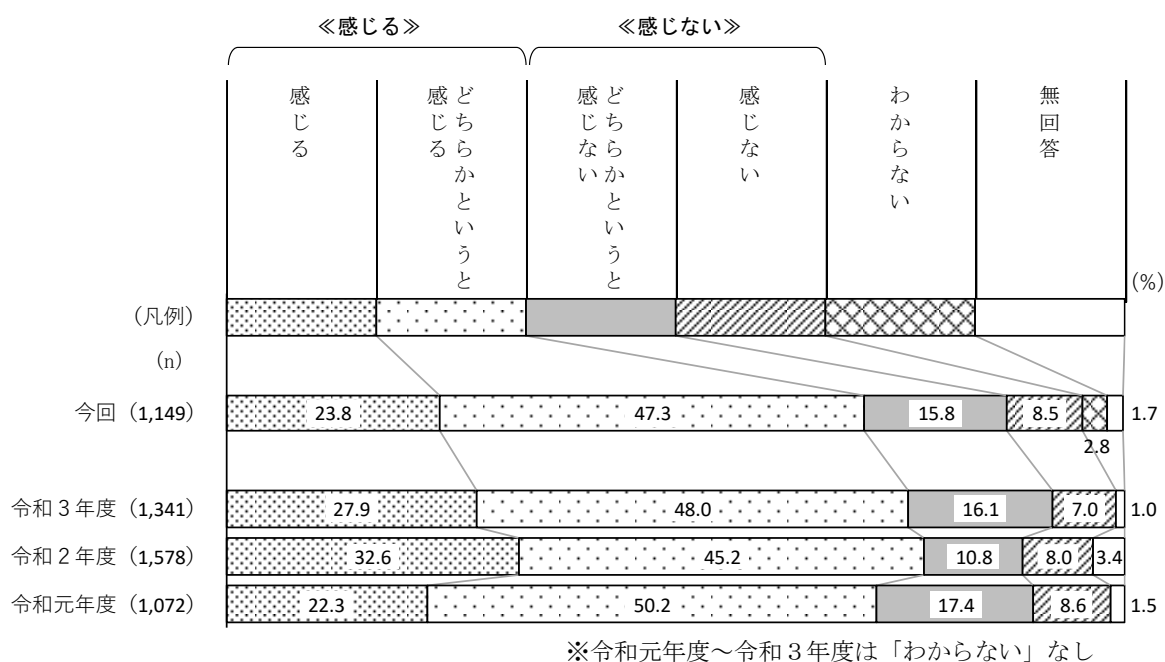
年齢別では、《感じる》の割合は70歳以上が29.4%で最も多く、29歳以下(25.9%)、30歳代(22.4%)が続いている。

居住地域別では、《感じる》の割合は阿蘇地域が34.2%で最も多く、睦地域(29.2%)、勝田台地域(28.8%)が続いている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(4) 自分が健康だと感じていますか。



自分が健康であるかは、「感じる」(23.8%)、「どちらかというと感じる」(47.3%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は71.1%となっている。

前回(令和3年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は4.8ポイント減少している。

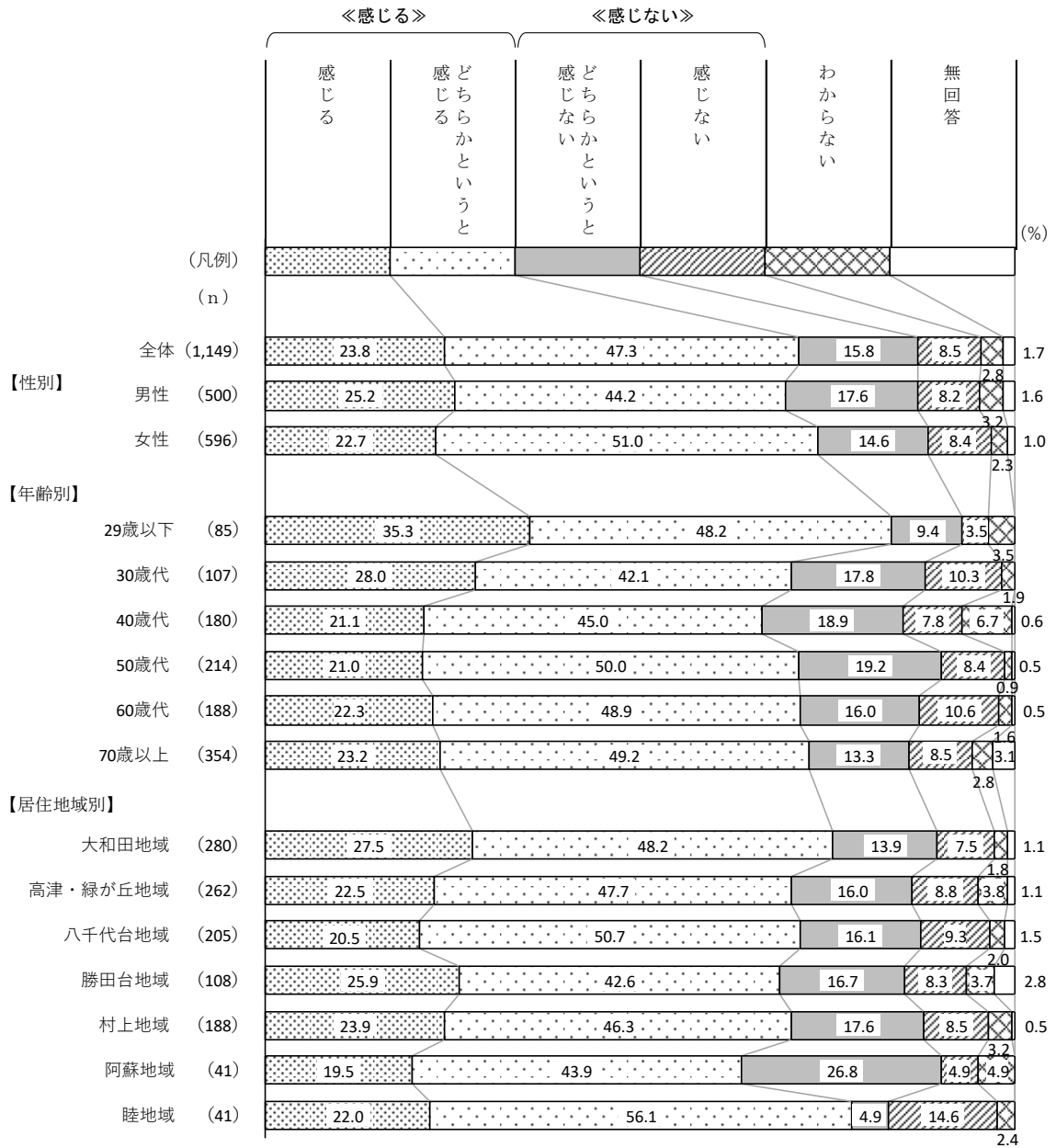
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じる》の割合は、女性の方が男性より4.3ポイント多い。

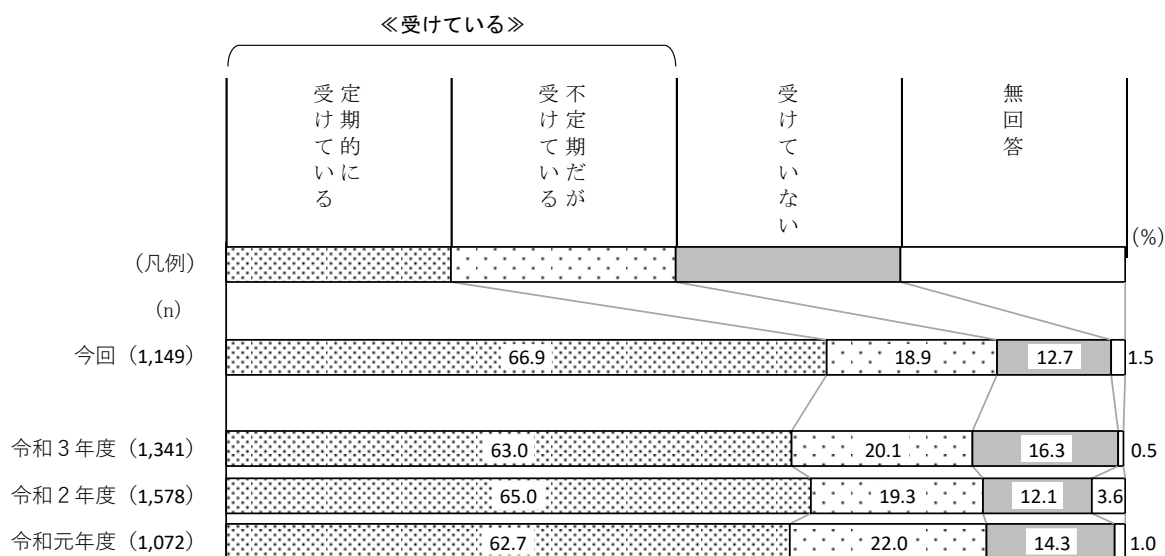
年齢別では、《感じる》の割合は29歳以下が最も多く8割台半ばだが、その他の年齢層では7割程度となっている。

居住地域別では、《感じる》の割合は睦地域(78.1%)、大和田地域(75.7%)で比較的多い。

<性別・年齢別・居住地域別>



(5) 定期的に健康診断・健康診査や人間ドックを受けていますか。



健康診断・健康診査や人間ドックを「定期的に受けている」が66.9%で最も多く、「不定期だが受けている」が18.9%、「受けていない」が12.7%が続いている。「不定期」を含めた《受けている》の合計は85.8%であり、前回（令和3年度）調査より2.7ポイント増加している。

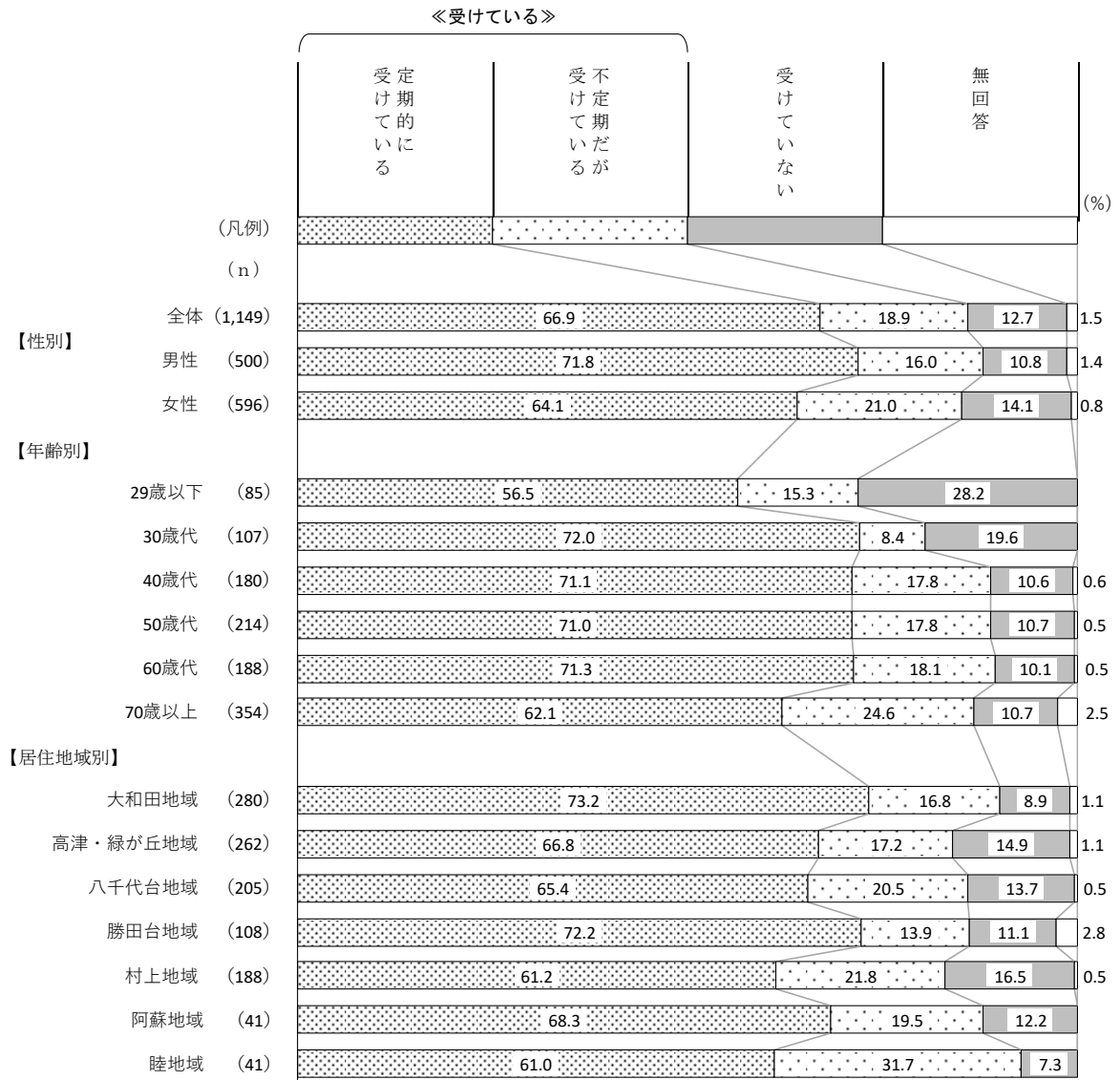
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《受けている》の割合は男性の方が女性よりも2.7ポイント多い。

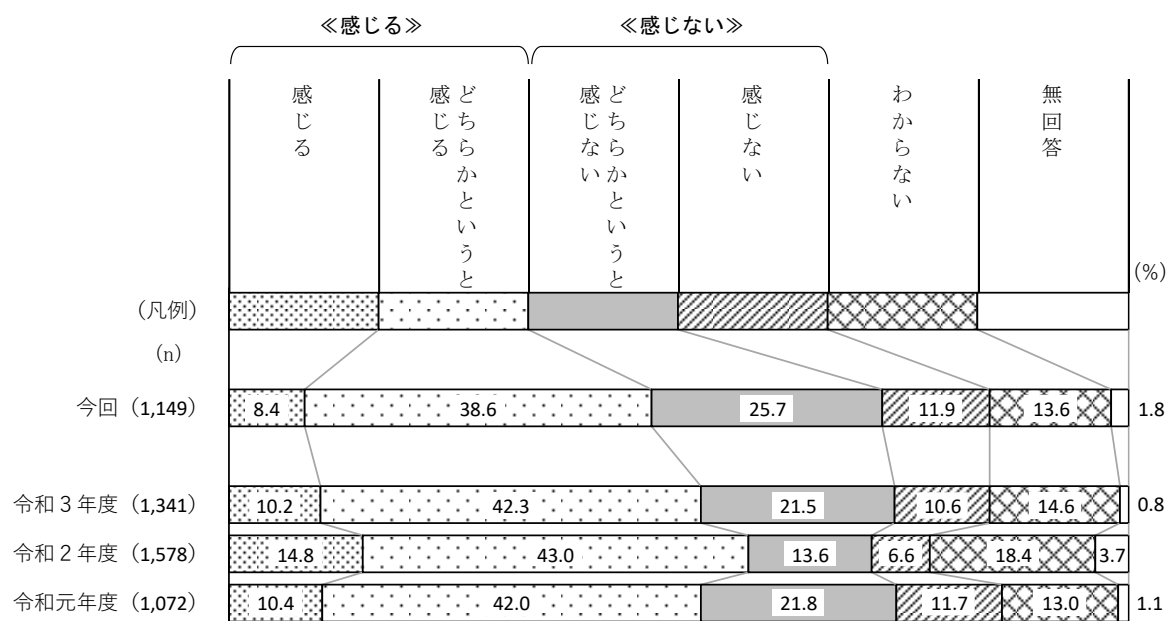
年齢別では、《受けている》の割合は40歳代から60歳代で特に多く、約9割となっている。一方、29歳以下では71.8%にとどまっている。

居住地域別では、《受けている》の割合は睦地域（92.7%）、大和田地域（90.0%）で比較的多い。

<性別・年齢別・居住地域別>



(6) 地域医療体制が整っていると感じていますか。



地域医療体制が整っているかは、「感じる」(8.4%)、「どちらかというと感じる」(38.6%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は、47.0%となっている。

前回(令和3年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は5.5ポイント減少している。

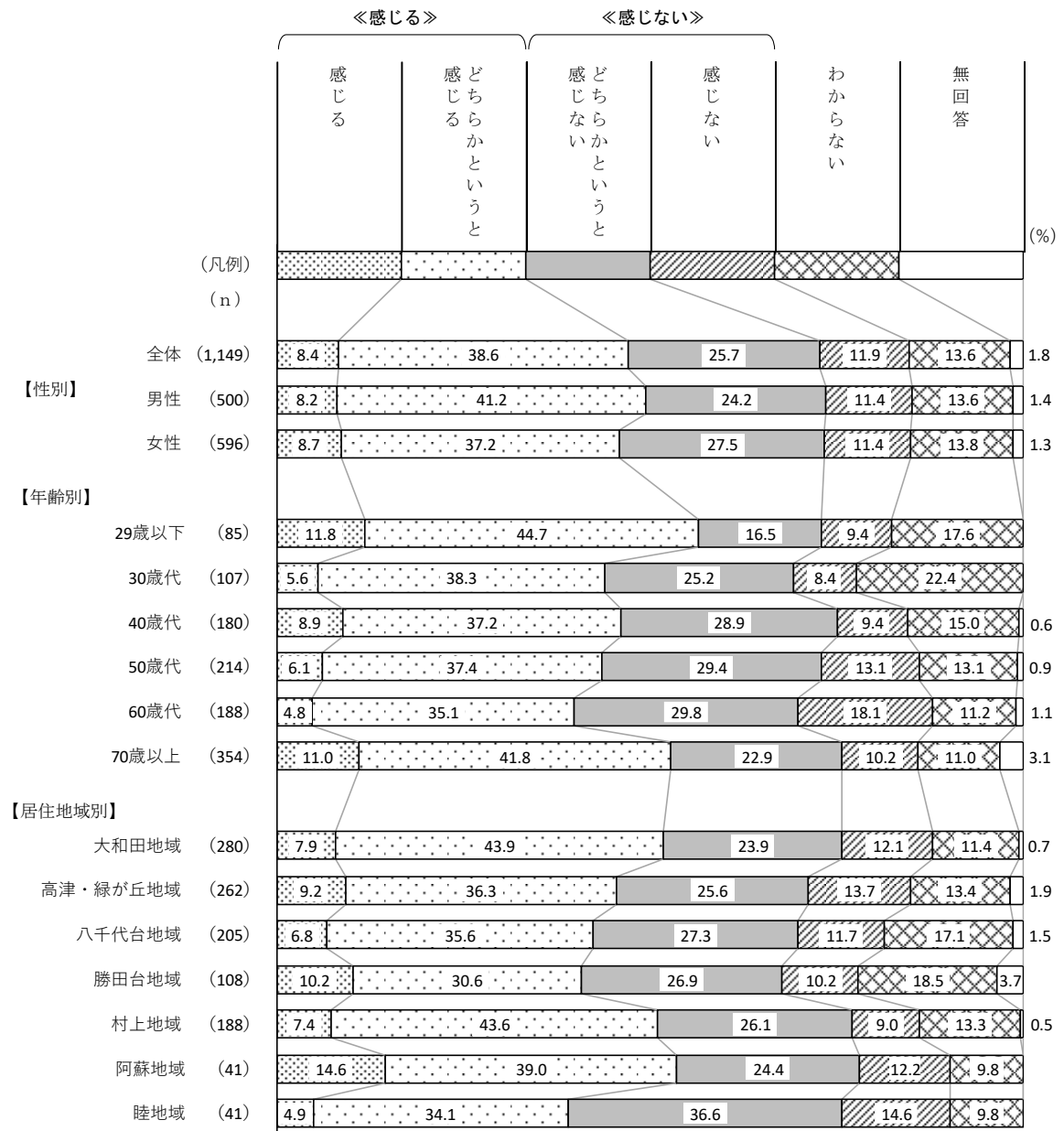
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じる》の割合は男性の方が女性より3.5ポイント多くなっている。

年齢別では、《感じる》の割合は29歳以下が56.5%で最も多い。一方、60歳代が39.9%と少なくなっている。

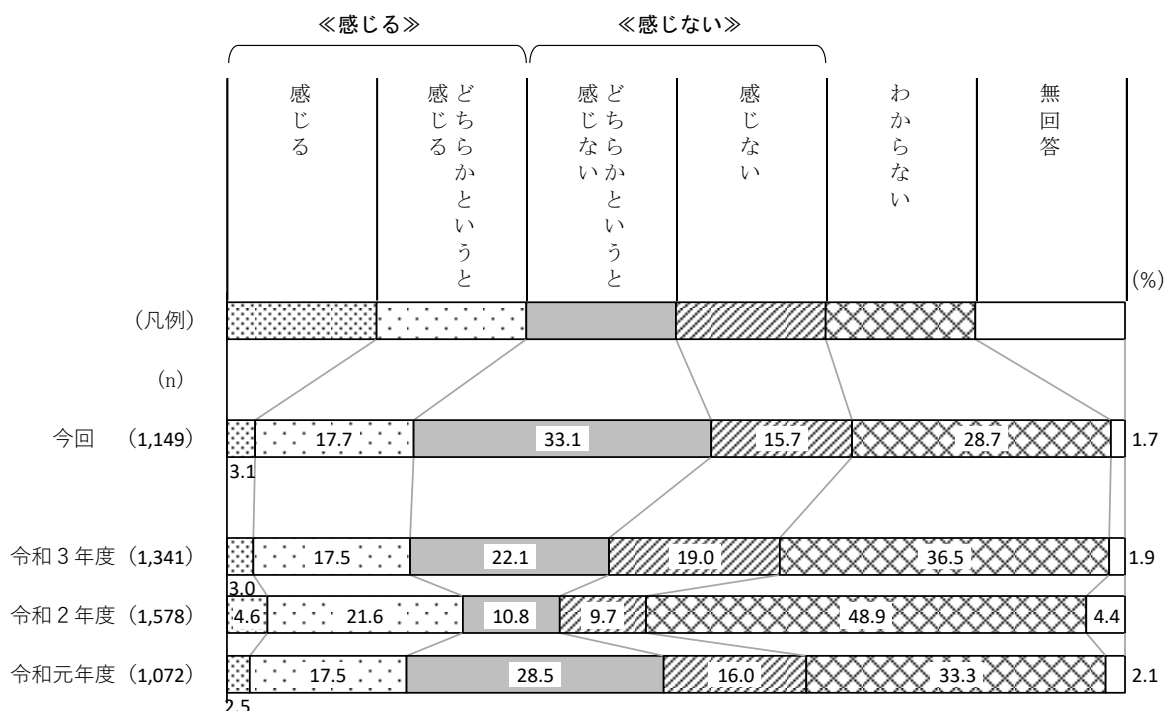
居住地域別では、《感じる》の割合は阿蘇地域が53.6%、大和田地域が51.8%と多い。一方、睦地域は39.0%と少なくなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



《豊かな心と文化を育むまちづくり》

(7) 生涯学習情報が得られやすいと感じていますか。



生涯学習情報の得やすさは、「感じる」(3.1%)、「どちらかというと感じる」(17.7%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は、20.8%となっている。一方、「感じない」(15.7%)、「どちらかというと感じない」(33.1%)となっており、これらを合わせた、《感じない》は、48.8%となっている。

前回(令和3年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は0.3ポイント増加している。

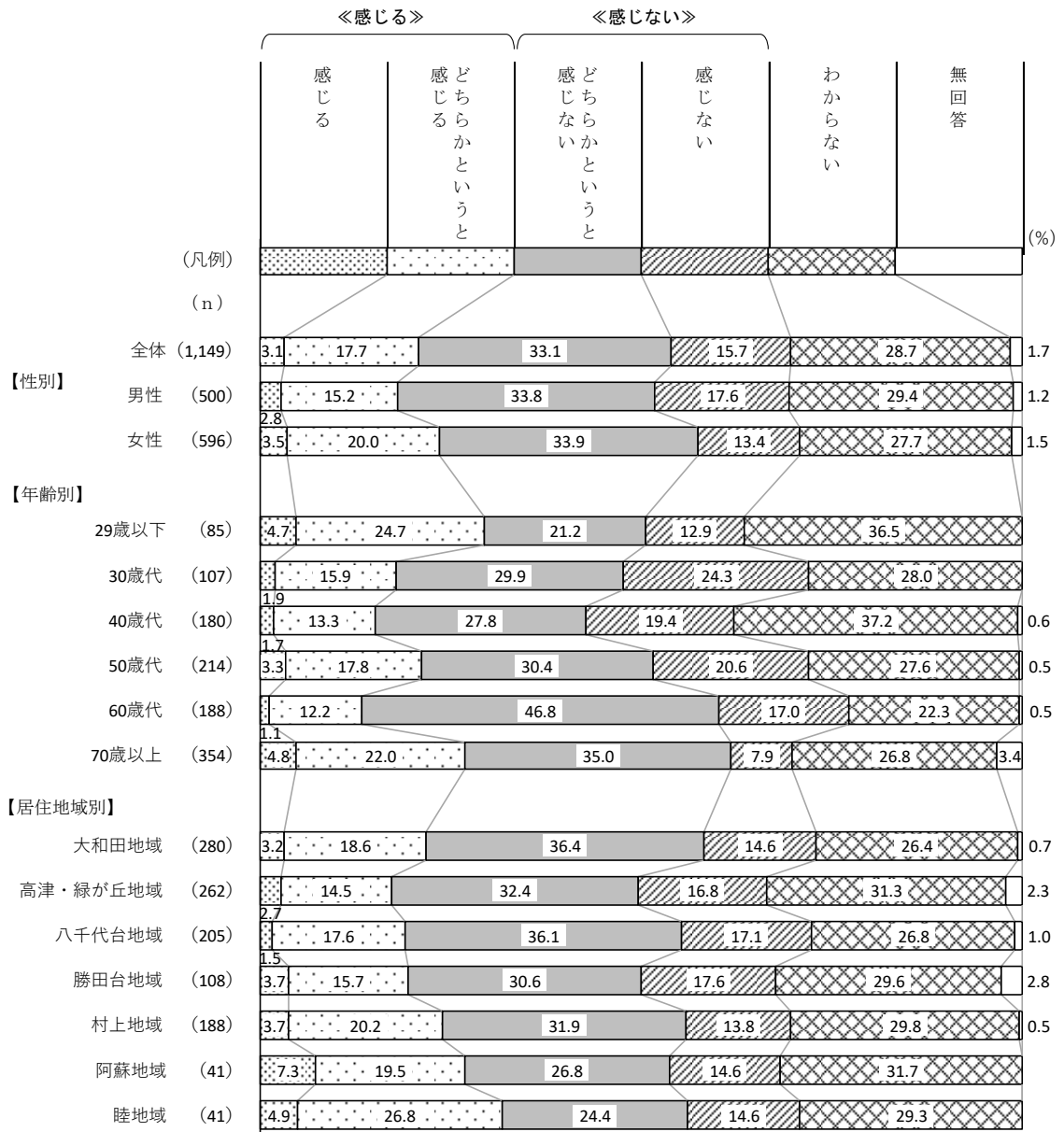
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じない》の割合が、男性の方が女性よりも4.1ポイント多い。

年齢別では、《感じない》の割合が、60歳代が63.8%で最も多く、30歳代、50歳代も5割を上回っている。

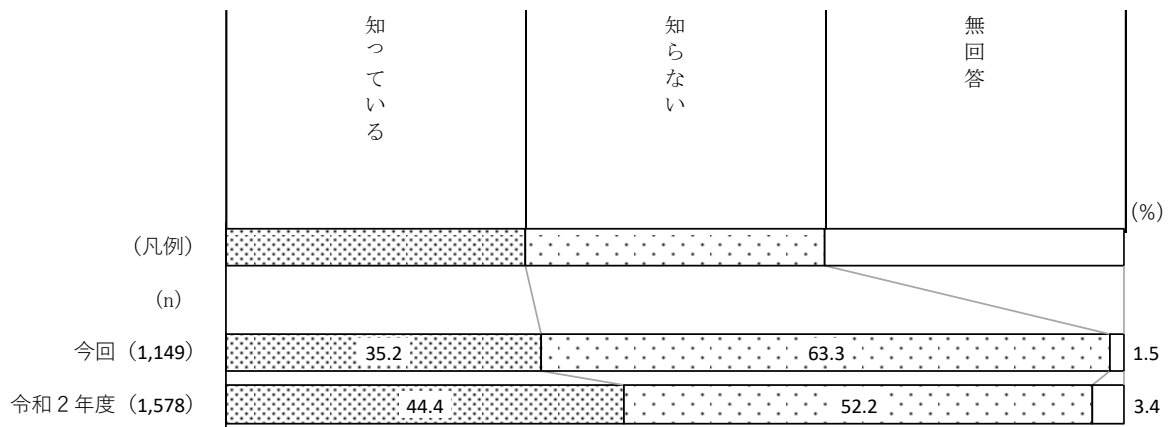
居住地域別では、《感じない》の割合が、八千代台地域、大和田地域で多く、5割を上回っている。

<性別・年齢別・居住地域別>



《安心・安全に暮らせるまちづくり》

(8) 消費生活センターが身近な消費生活相談窓口であることを知っていますか。



消費生活センターが身近な消費生活相談窓口であることの認知度は、「知っている」が35.2%、「知らない」が63.3%となっている。

前回（令和2年度）調査と比較すると、「知っている」の割合は9.2ポイント減少している。

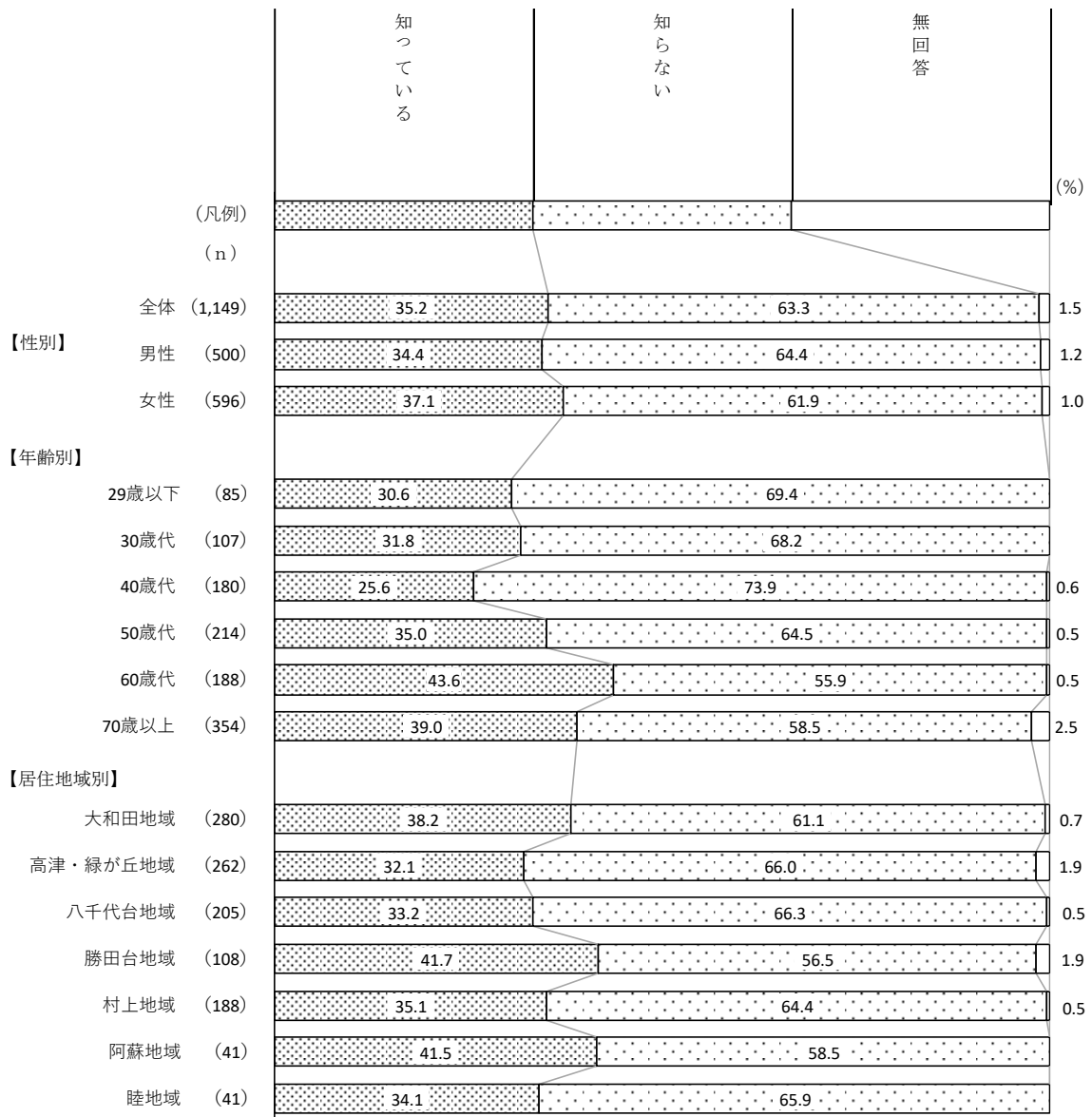
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、「知っている」の割合は女性の方が男性より2.7ポイント多くなっている。

年齢別では、「知っている」の割合は60歳代（43.6%）、70歳以上（39.0%）で比較的多くなっている。

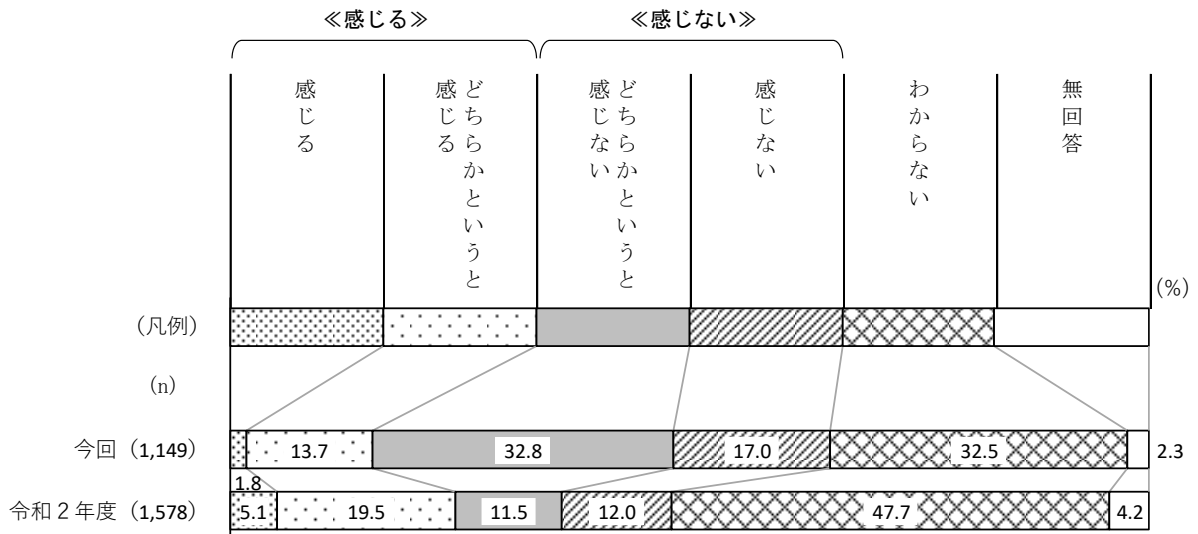
居住地域別では、「知っている」の割合は勝田台地域（41.7%）、阿蘇地域（41.5%）で多く、4割を超えている。

<性別・年齢別・居住地域別>



《快適で環境にやさしいまちづくり》

(9) 地域の特性を活かした土地利用が図られていると感じますか。



地域の特性を活かした土地利用が図られているかは、「感じる」(1.8%)、「どちらかというと感じる」(13.7%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は15.5%となっている。

前回(令和2年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は9.1ポイント減少している。

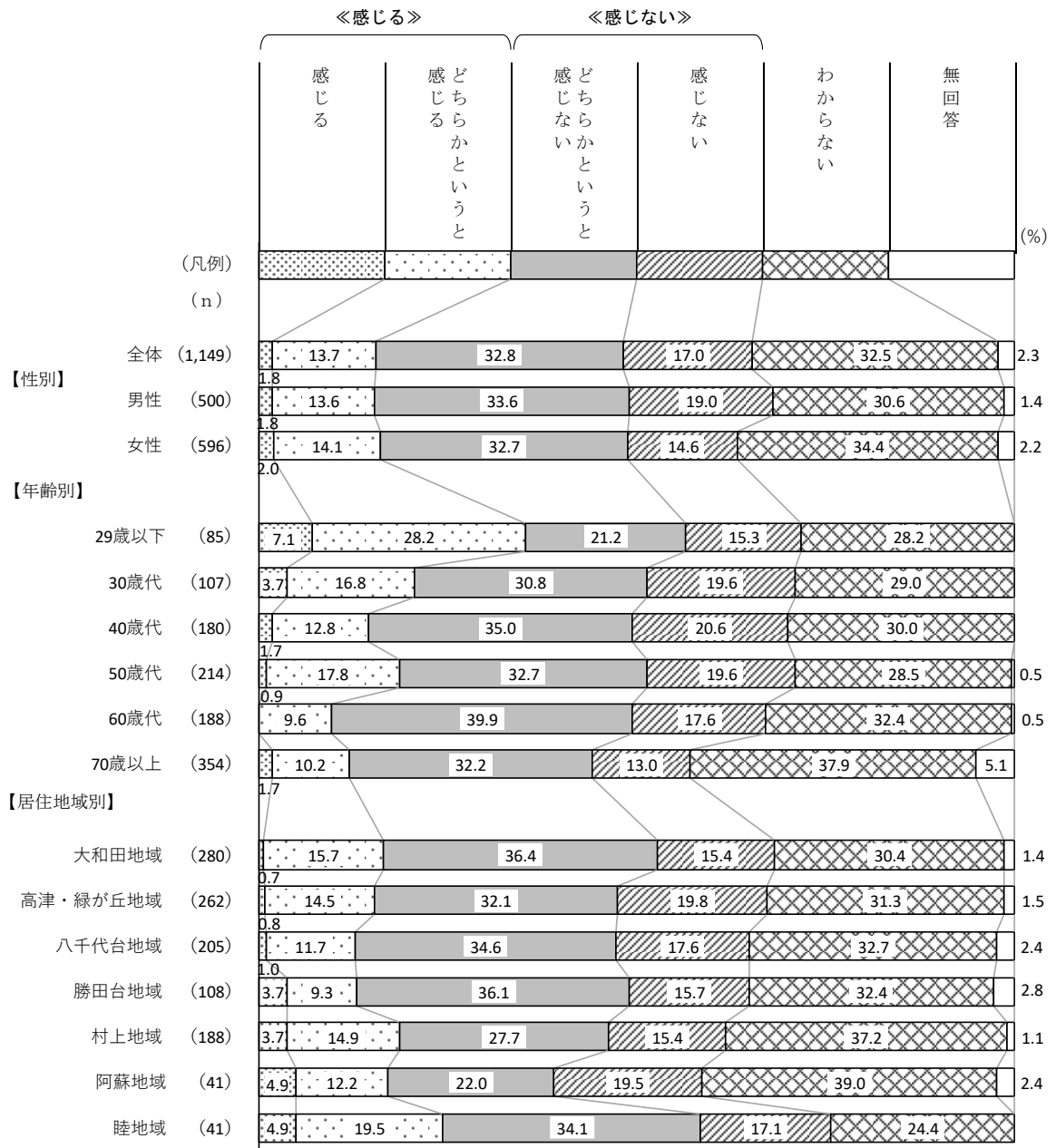
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じない》の割合が、男性の方が女性よりも5.3ポイント多い。

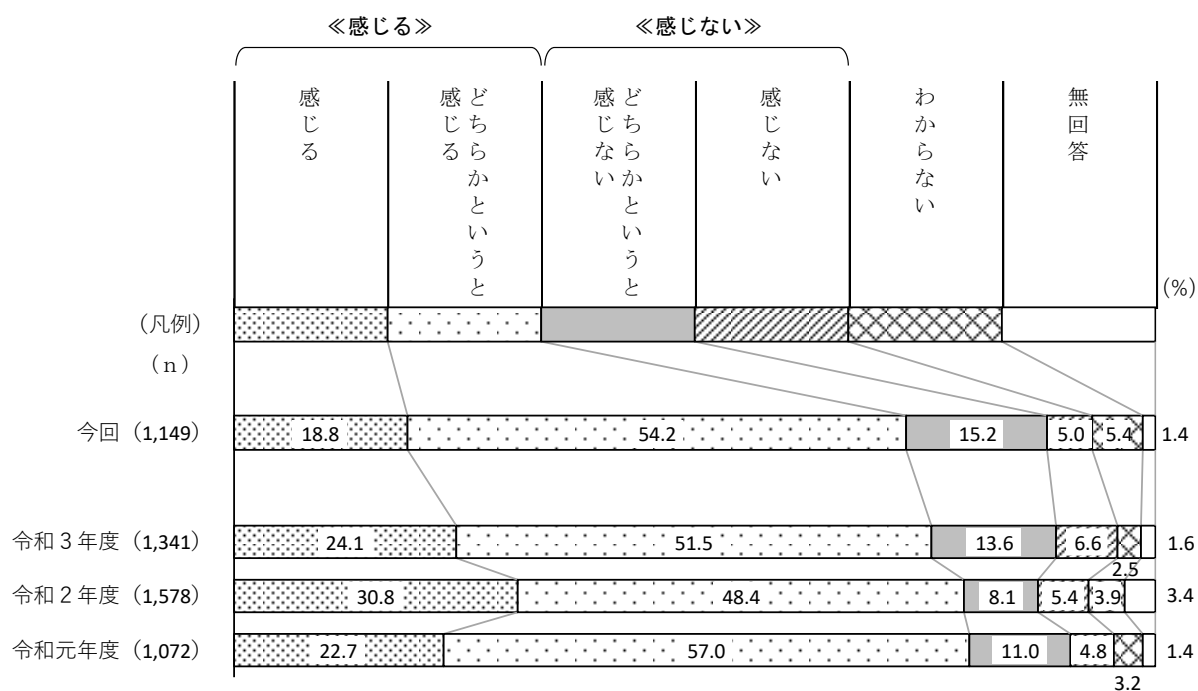
年齢別では、《感じない》の割合は、60歳代(57.5%)、40歳代(55.6%)で多くなっている。

居住地域別では、《感じない》の割合は、八千代台地域(52.2%)、高津・緑が丘地域(51.9%)などで多く、5割を超えている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(10) 緑豊かなまちと感じていますか。



緑豊かなまちであるかは、「どちらかというと感じる」が 54.2%と過半数を占め、これに「感じる」の 18.8%を加えた《感じる》の割合は 73.0%となっている。

前回（令和3年度）調査と比較すると，《感じる》の割合は 2.6 ポイント減少している。

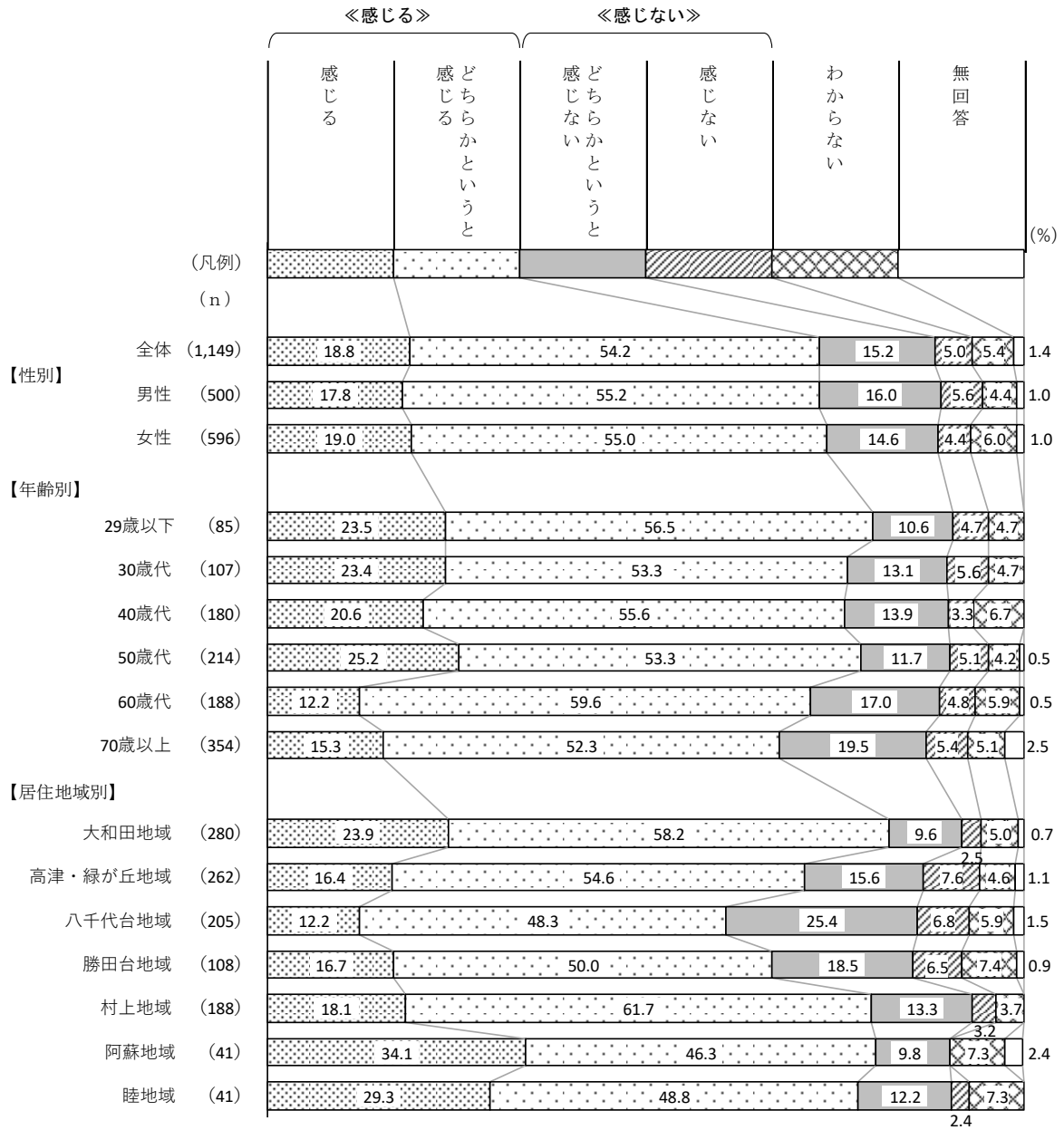
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

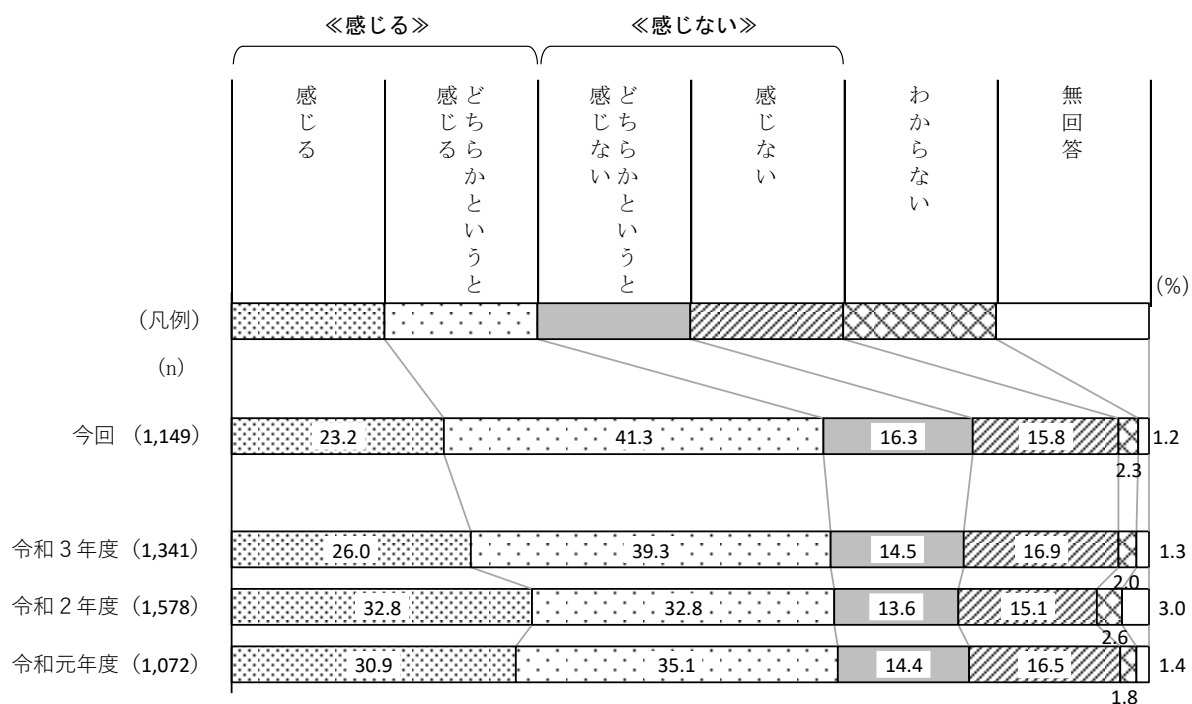
年齢別では，《感じる》の割合が、29歳以下が 80.0%で最も多く、70歳以上が 67.6%で少なくなっている。

居住地域別では，《感じる》の割合は、大和田地域（82.1%）、阿蘇地域（80.4%）で多く、8割を上回っている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(11) 鉄道が利用しやすいと感じていますか。



鉄道の利用しやすさについて、「感じる」(23.2%)、「どちらかというと感じる」(41.3%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は、64.5%となっている。

前回(令和3年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は0.8ポイント減少している。

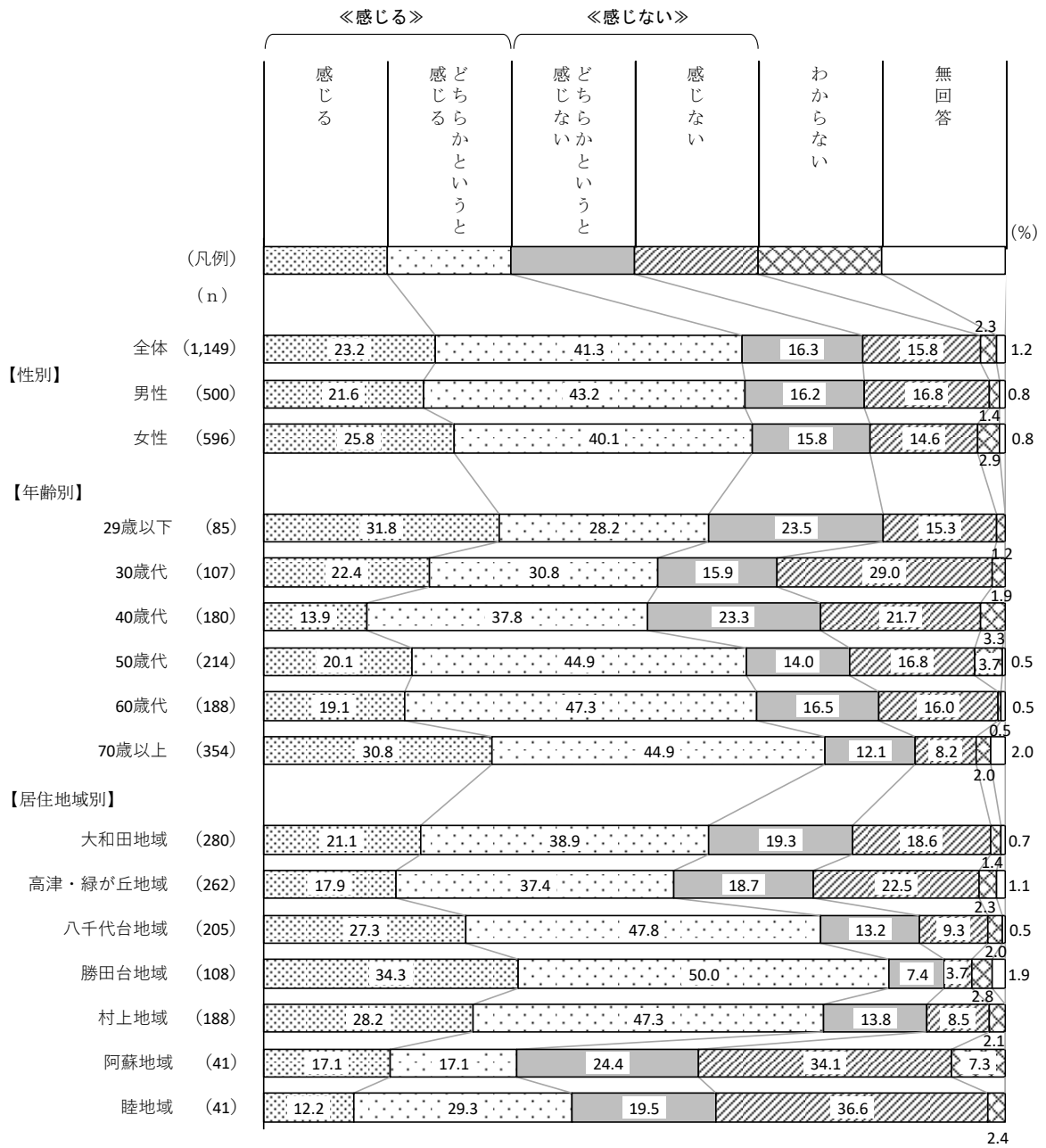
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女による傾向の大きな差異はみられない。

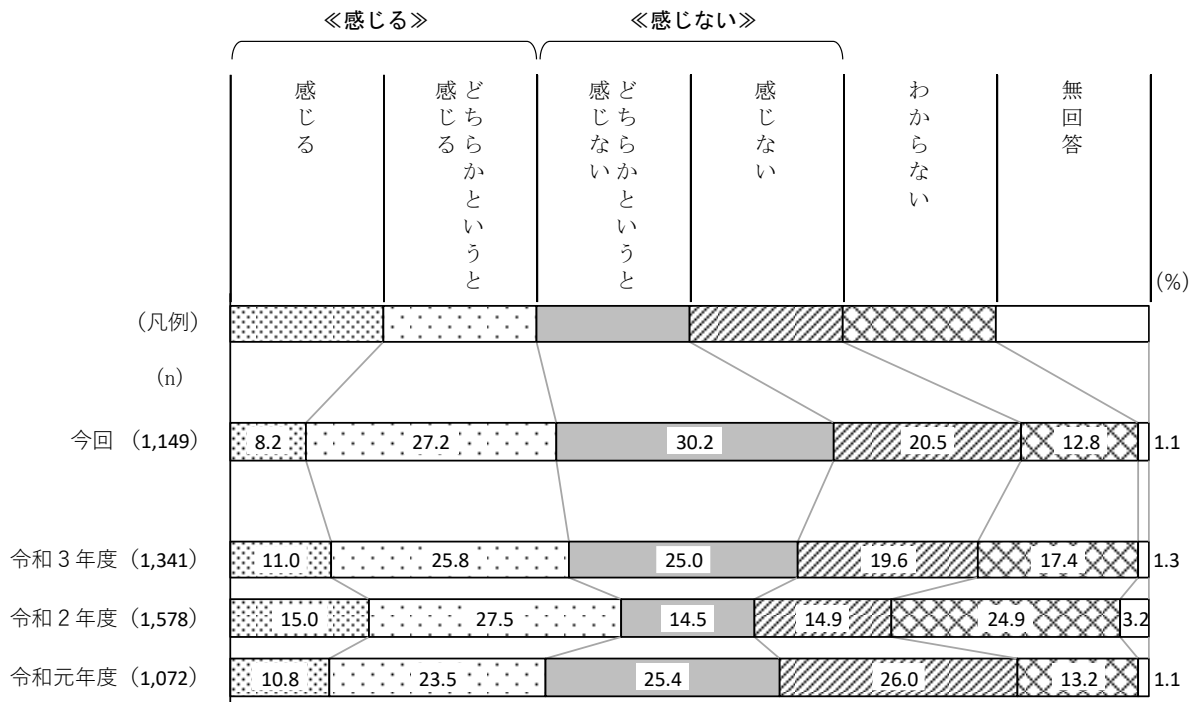
年齢別では、《感じる》の割合は70歳以上(75.7%)、60歳代(66.4%)で多くなっている。

居住地域別では、《感じる》の割合は勝田台地域(84.3%)、村上地域(75.5%)で多くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(12) 市内のバスが利用しやすいと感じていますか。



バスの利用しやすさは、「感じる」(8.2%)、「どちらかというと感じる」(27.2%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は、35.4%となっている。一方、「どちらかというと感じない」(30.2%)、「感じない」(20.5%)を合わせた、《感じない》の割合は50.7%となっている。前回(令和3年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は1.4ポイント減少している。

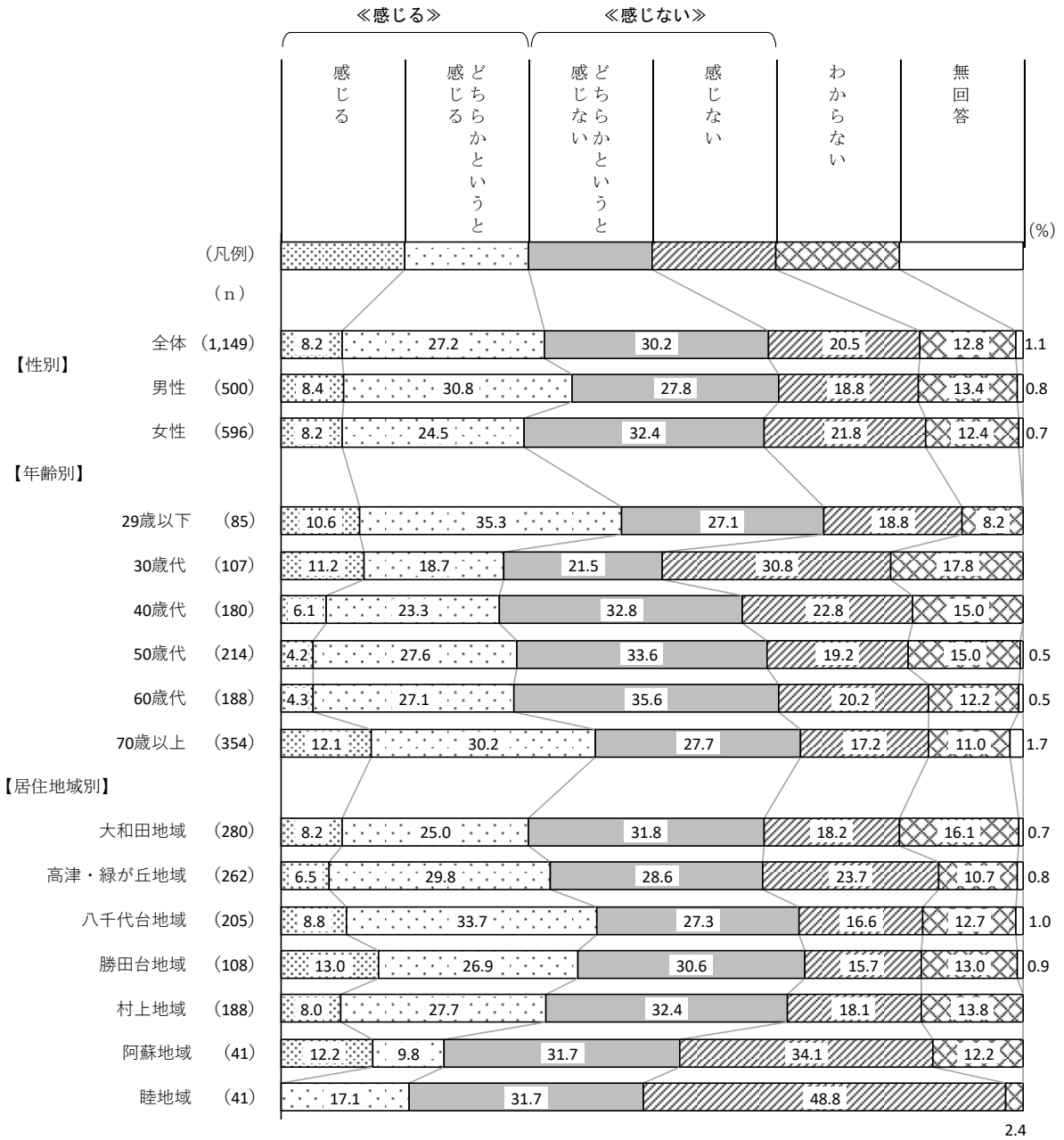
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じる》の割合は、男性の方が女性よりも6.5ポイント多い。

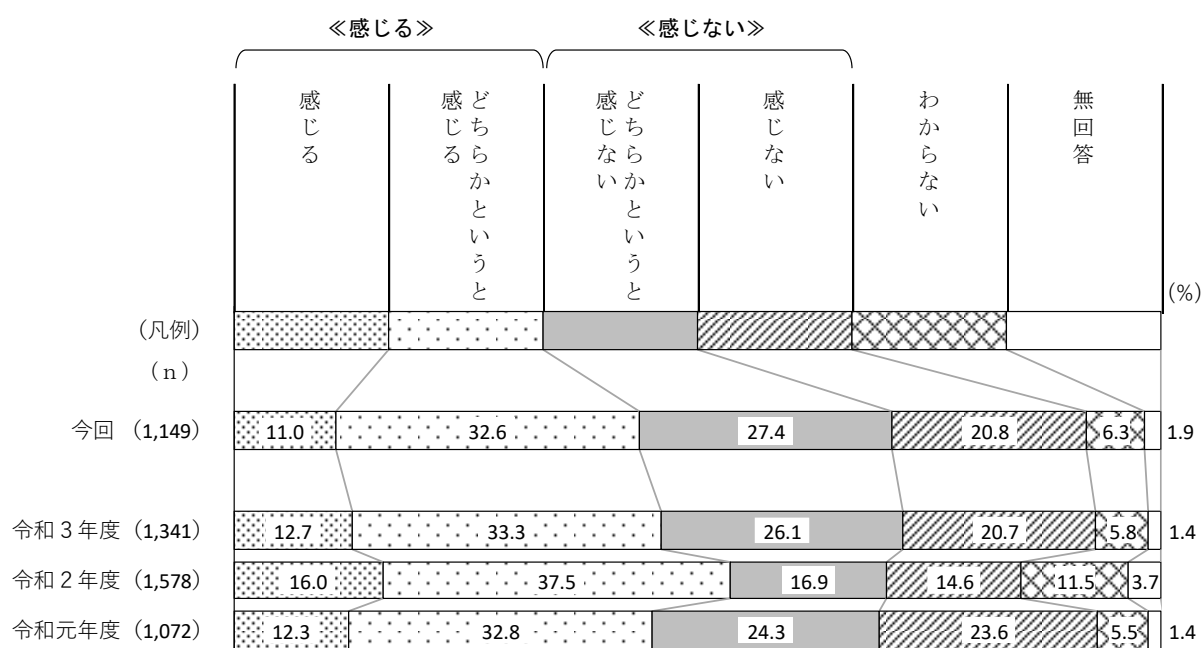
年齢別では、《感じる》の割合は29歳以下(45.9%)、70歳以上(42.3%)で4割を上回っている。

居住地域別では、《感じる》の割合が八千代台地域で42.5%と最も多く、勝田台地域が39.9%で続いている。一方、《感じない》の割合は、睦地域(80.5%)で多く8割となっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(13) 市内・市外間の移動がしやすいと感じていますか。



市内・市外間の移動のしやすさは、「感じる」(11.0%)、「どちらかというと感じる」(32.6%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は、43.6%となっている。一方、「どちらかというと感じない」(27.4%)、「感じない」(20.8%)を合わせた、《感じない》は、48.2%となっている。

前回(令和3年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は2.4ポイント減少している。

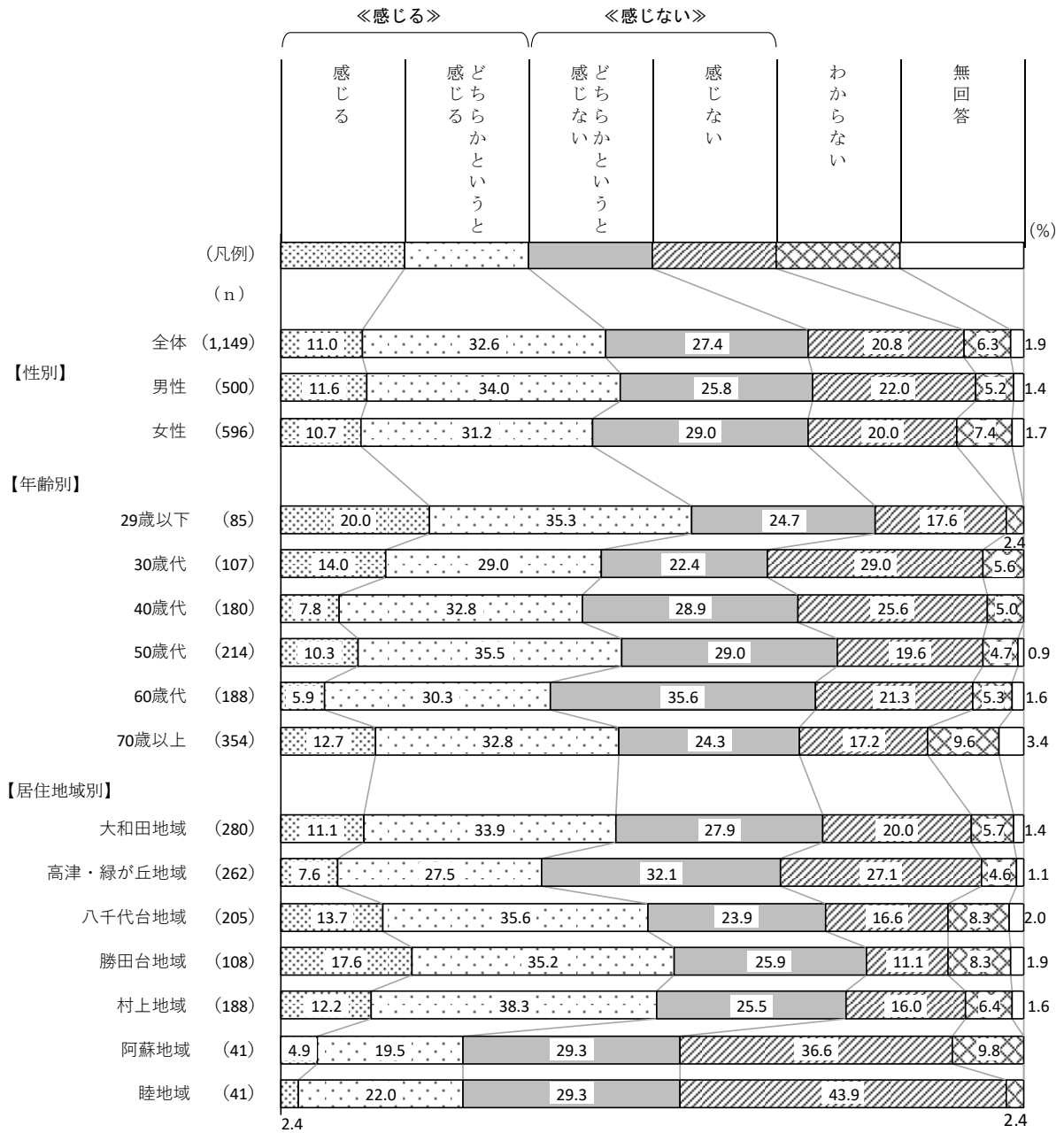
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じる》の割合は、男性の方が女性よりも3.7ポイント多い。

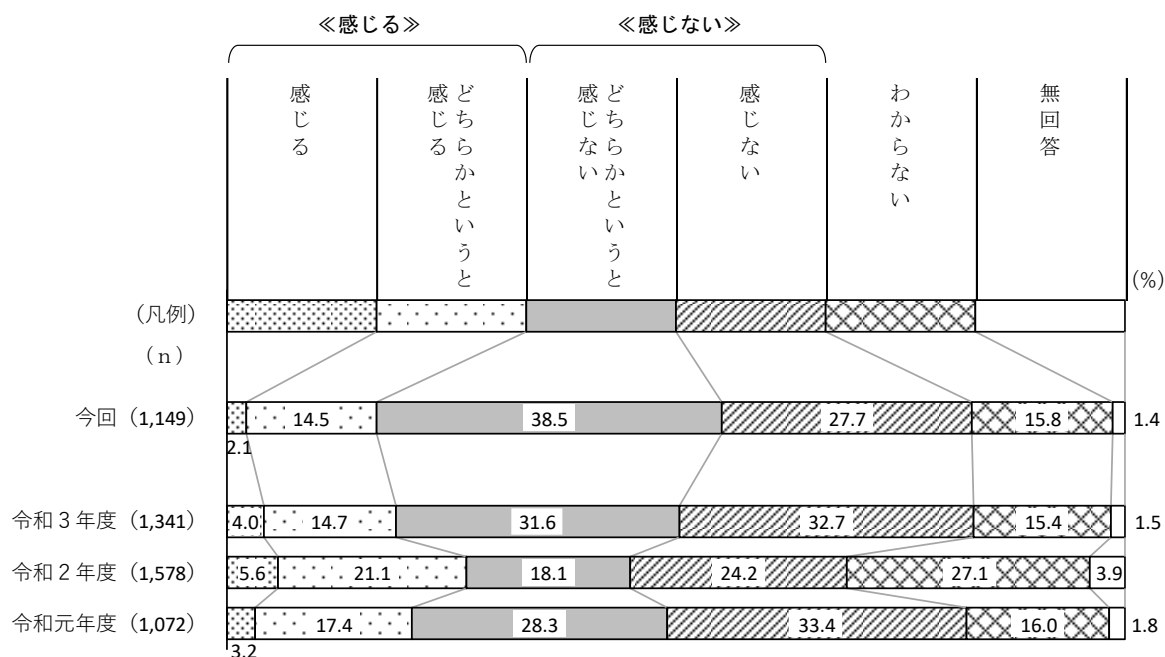
年齢別では、《感じる》の割合は、29歳以下が55.3%で最も多く、50歳代(45.8%)、70歳以上(45.5%)が続いている。

居住地域別では、《感じる》の割合は、勝田台地域(52.8%)、村上地域(50.5%)で多く、5割を上回っている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(14) 交通弱者にやさしい交通環境と感じていますか。



交通弱者にやさしい交通環境であるかは、「感じる」(2.1%)、「どちらかというと感じる」(14.5%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は、16.6%となっている。一方、「どちらかというと感じない」(38.5%)、「感じない」(27.7%)を合わせた、《感じない》は、66.2%となっている。

前回(令和3年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は2.1ポイント減少している。

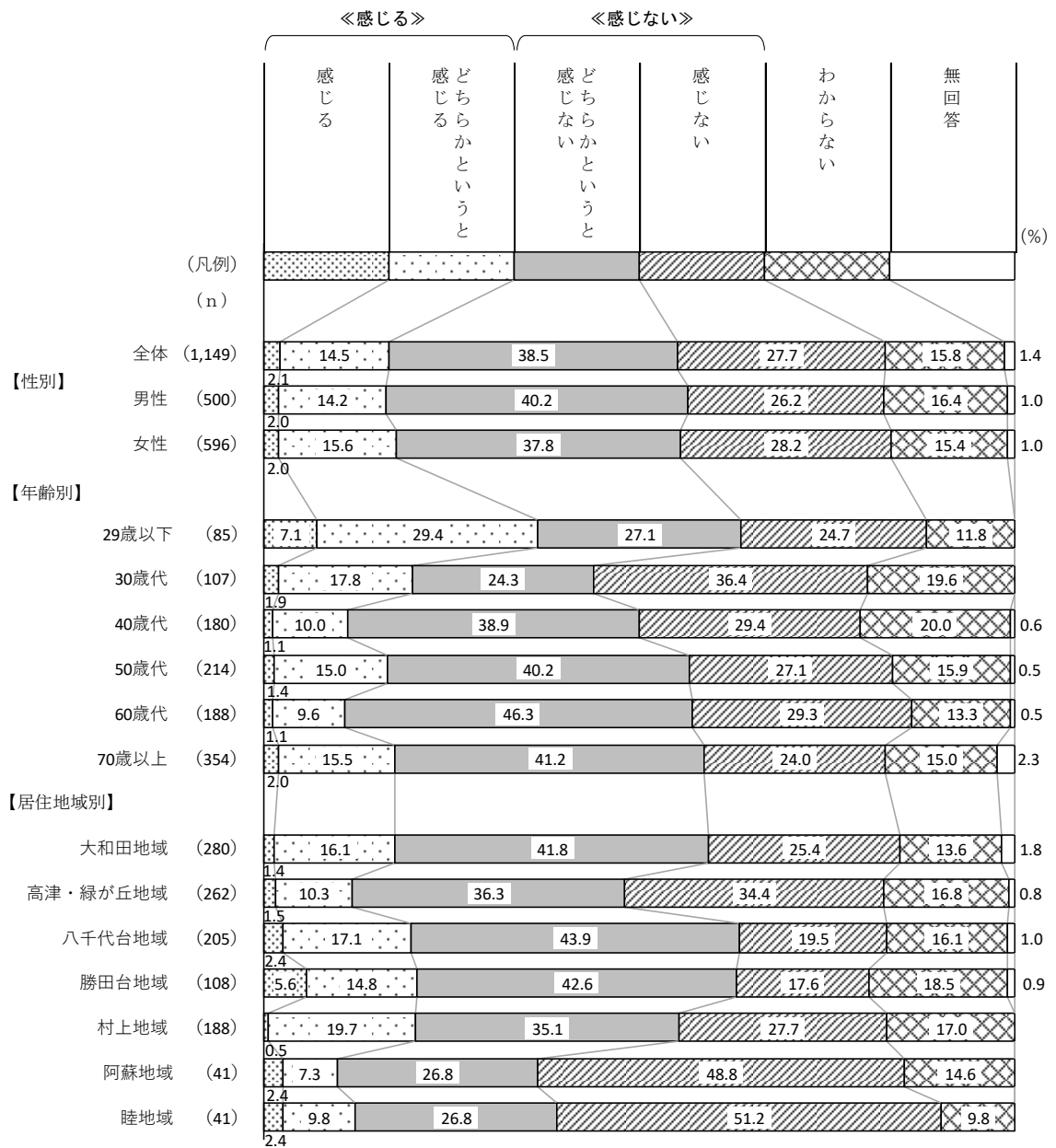
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、男女による大きな傾向の差異はみられない。

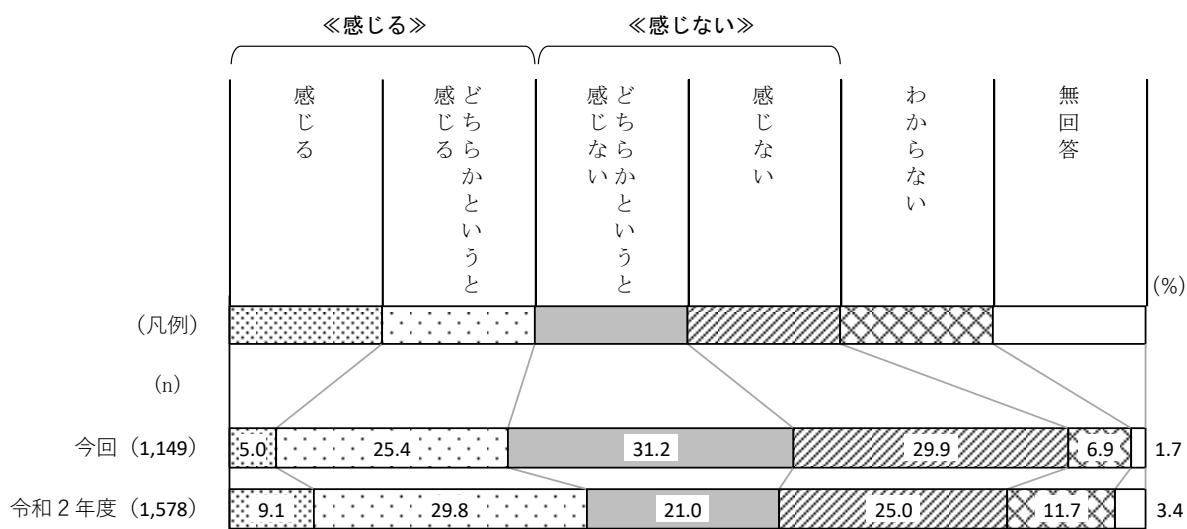
年齢別では、29歳以下において、《感じる》の割合が36.5%と突出している。

居住地域別では、《感じない》の割合は、睦地域が78.0%で最も多く、阿蘇地域(75.6%)、高津・緑が丘地域(70.7%)が続いている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(15) 道路状況が整っていると感じていますか。



道路状況が整っているかについて、「感じる」(5.0%)、「どちらかというと感じる」(25.4%)となっており、これらを合わせた，《感じる》は、30.4%となっている。一方、「どちらかというと感じない」(31.2%)、「感じない」(29.9%)を合わせた，《感じない》は、61.1%となっている。

前回(令和2年度)調査と比較すると，《感じる》の割合は8.5ポイント減少している。

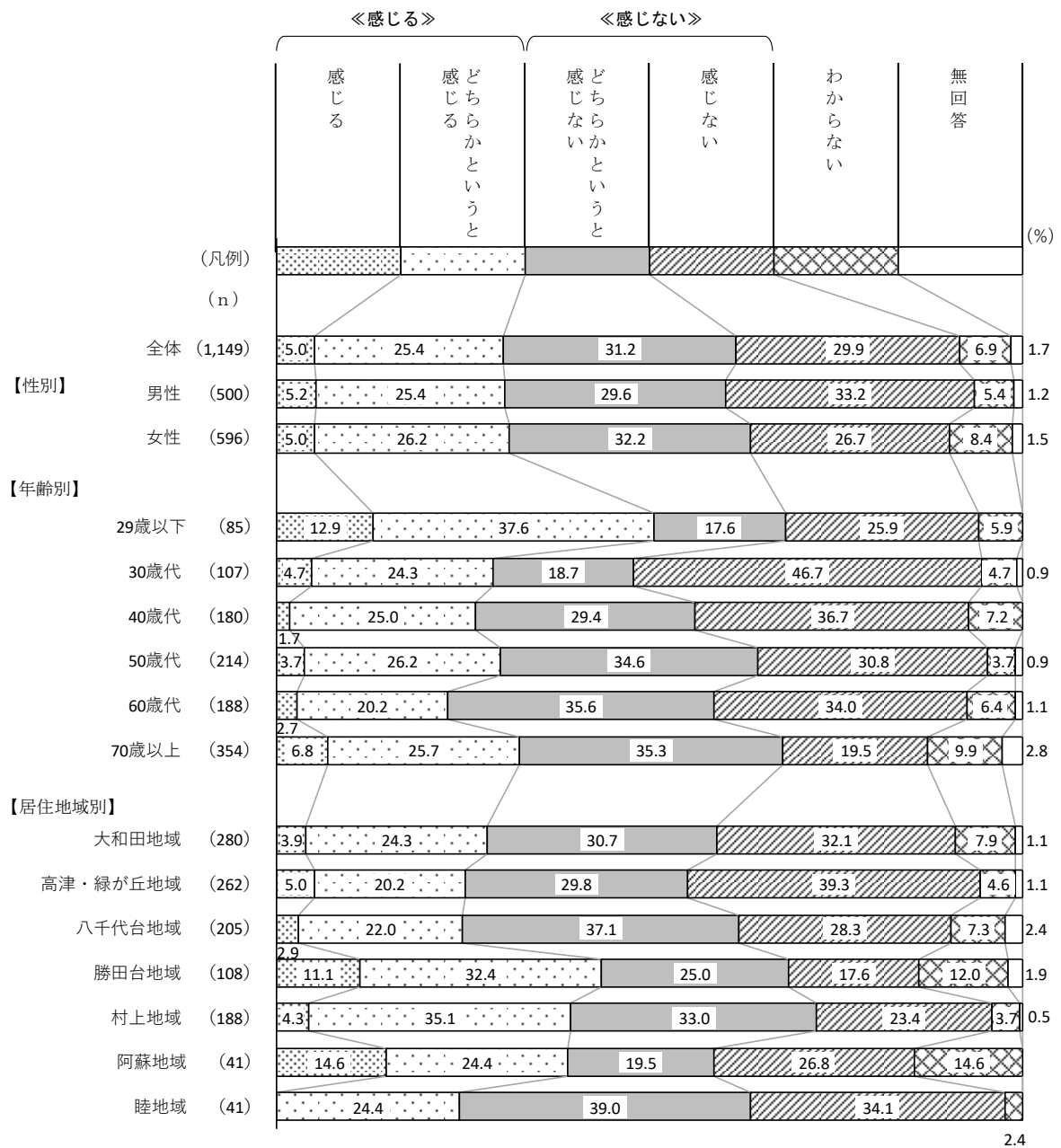
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では，《感じない》の割合が男性の方が女性よりも3.9ポイント多くなっている。

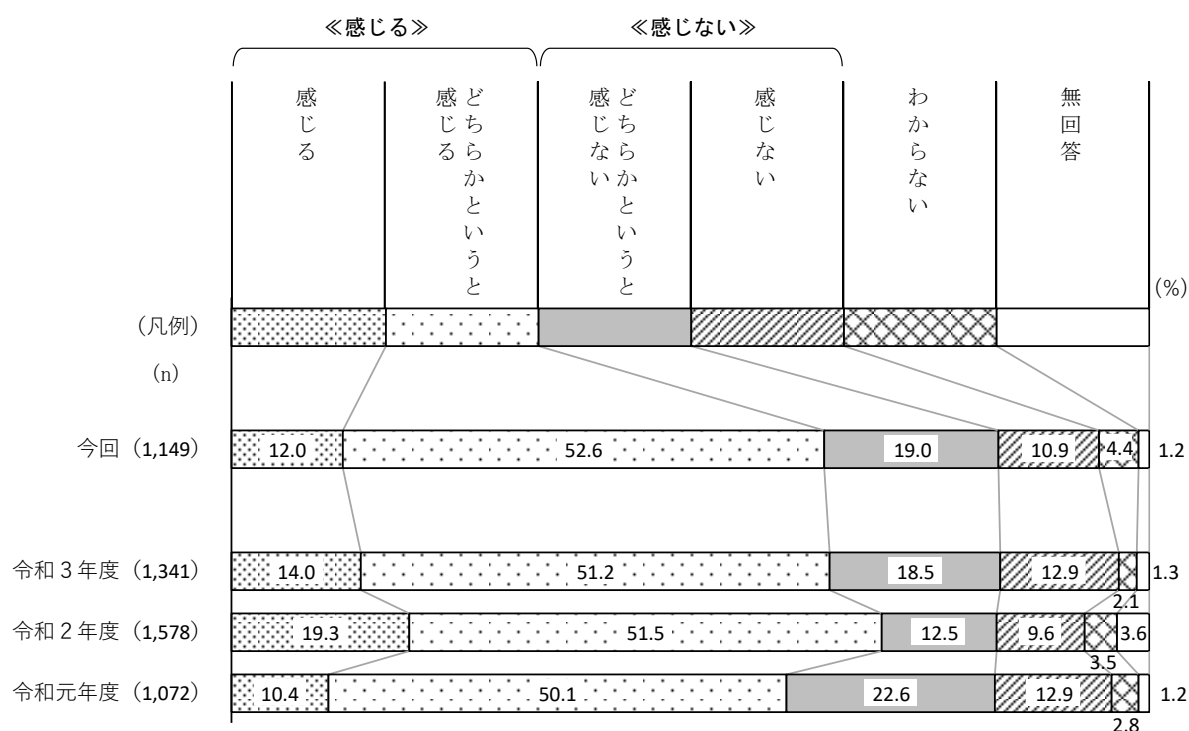
年齢別では、29歳以下において，《感じる》の割合が50.5%と突出している。

居住地域別では，《感じる》の割合が勝田台地域で43.5%と最も多い。一方，《感じない》の割合は、睦地域(73.1%)、高津・緑が丘地域(69.1%)などで多くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(16) まちにごみがなくきれいだと感じていますか。



まちのきれいさについて、「感じる」(12.0%)、「どちらかというと感じる」(52.6%)となっており、これらを合わせた、《感じる》の割合は64.6%となっている。一方、「どちらかというと感じない」(19.0%)、「感じない」(10.9%)を合わせた、《感じない》の割合は29.9%となっている。

前回(令和3年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は0.6ポイント減少している。

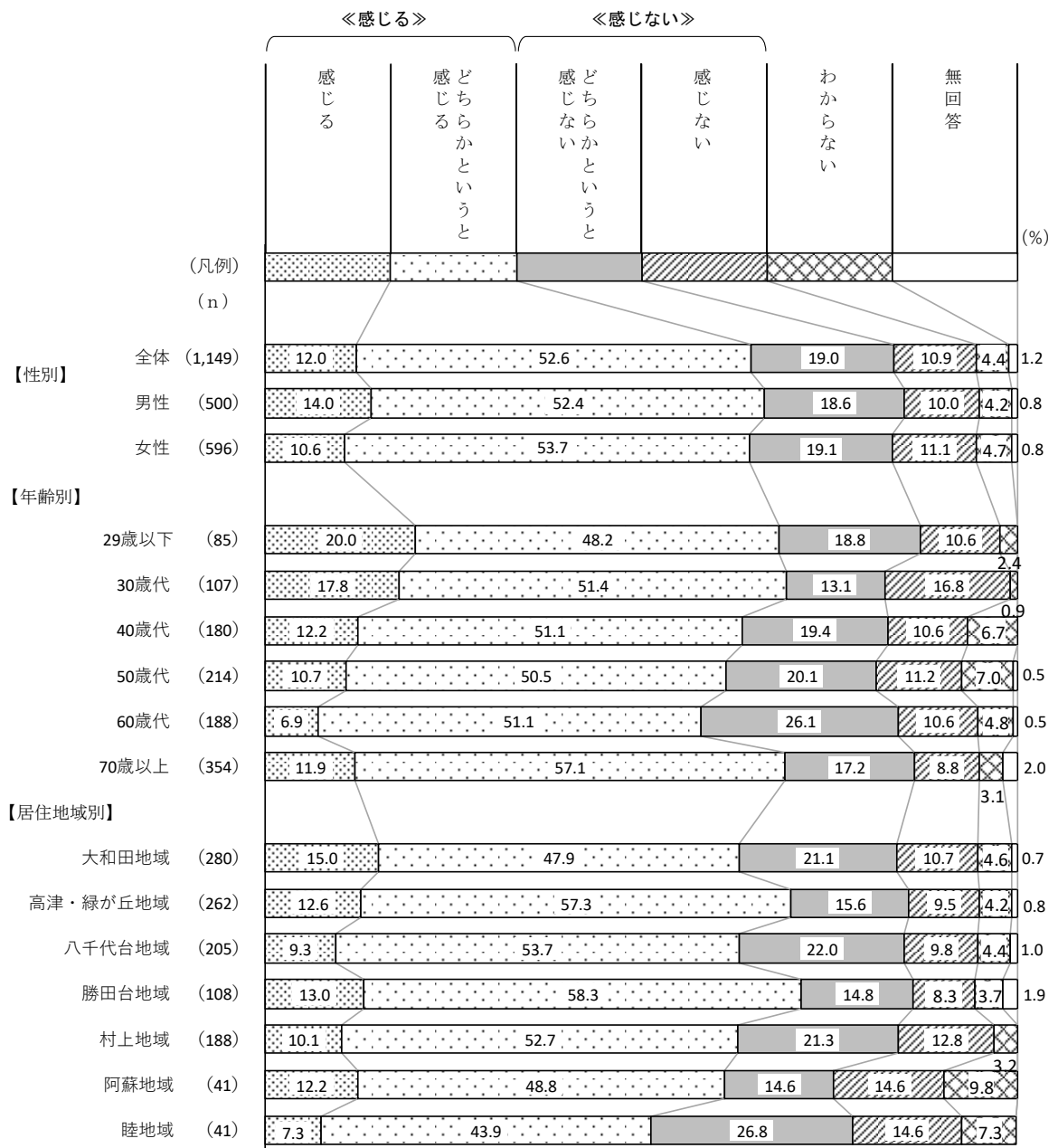
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じる》の割合は男性の方が女性よりも2.1ポイント多くなっている。

年齢別では、《感じる》の割合は、30歳代(69.2%)、70歳以上(69.0%)、29歳以下(68.2%)などで多くなっている。

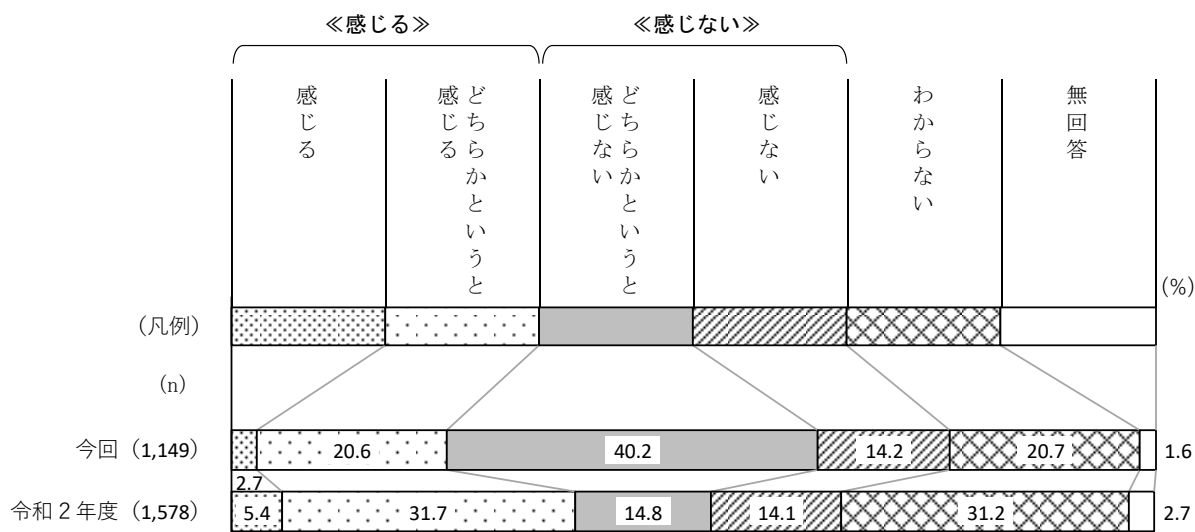
居住地域別では、《感じる》の割合は勝田台地域が71.3%で最も多く、高津・緑が丘地域(69.9%)、八千代台地域(63.0%)が続いている。一方、睦地域では《感じない》の割合が41.4%と多くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



《計画の推進のために》

(17) 市民が知りたい行政情報が十分に提供されていると感じていますか。



市民が知りたい行政情報が十分に提供されているかについて、「感じる」(2.7%)、「どちらかというと感じる」(20.6%)となっており、これらを合わせた、《感じる》の割合は23.3%となっている。一方、「どちらかというと感じない」(40.2%)、「感じない」(14.2%)を合わせた、《感じない》の割合は54.4%となっている。

前回(令和2年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は13.8ポイント減少している。

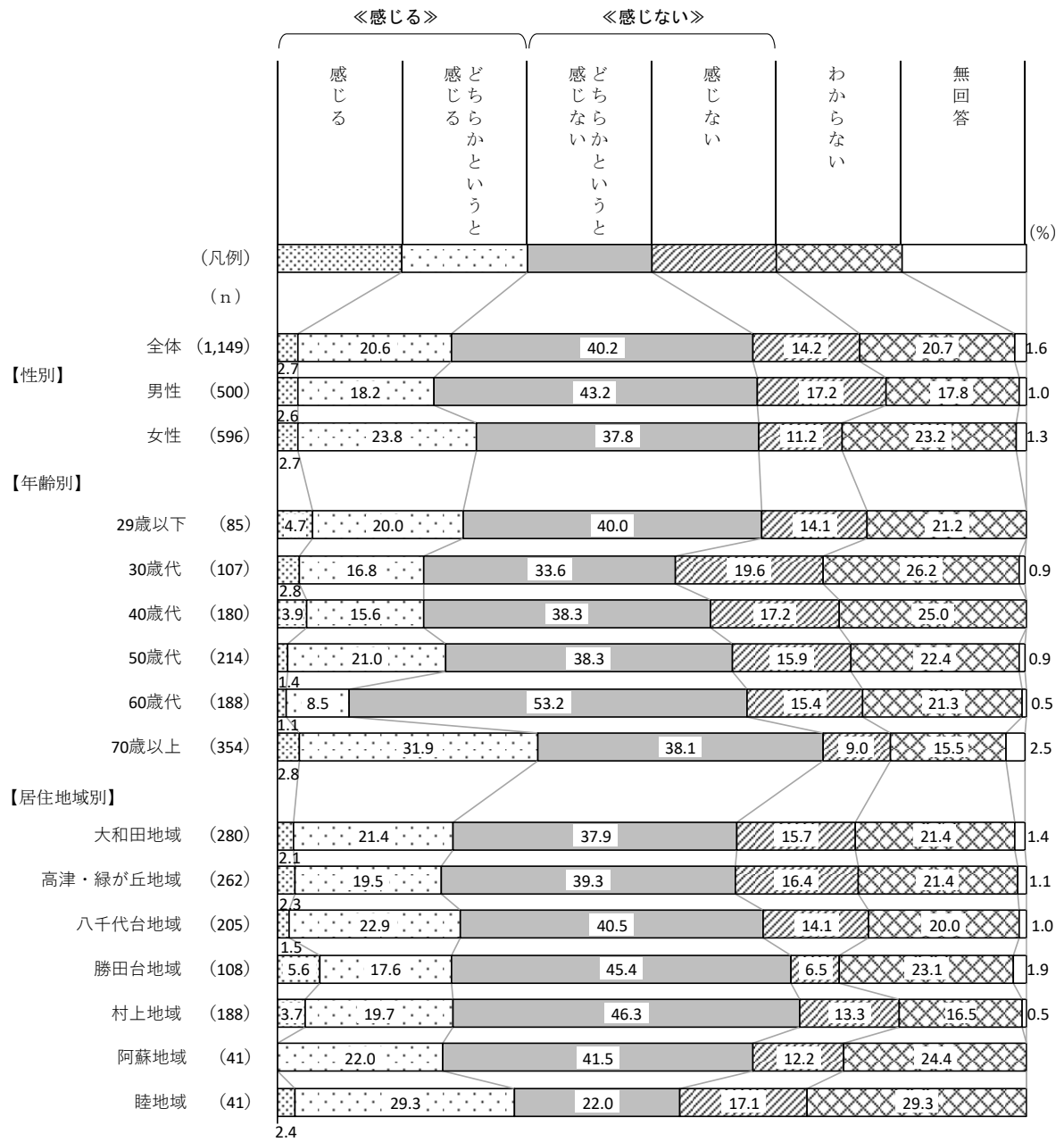
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じる》の割合は女性の方が男性より5.7ポイント多くなっている。

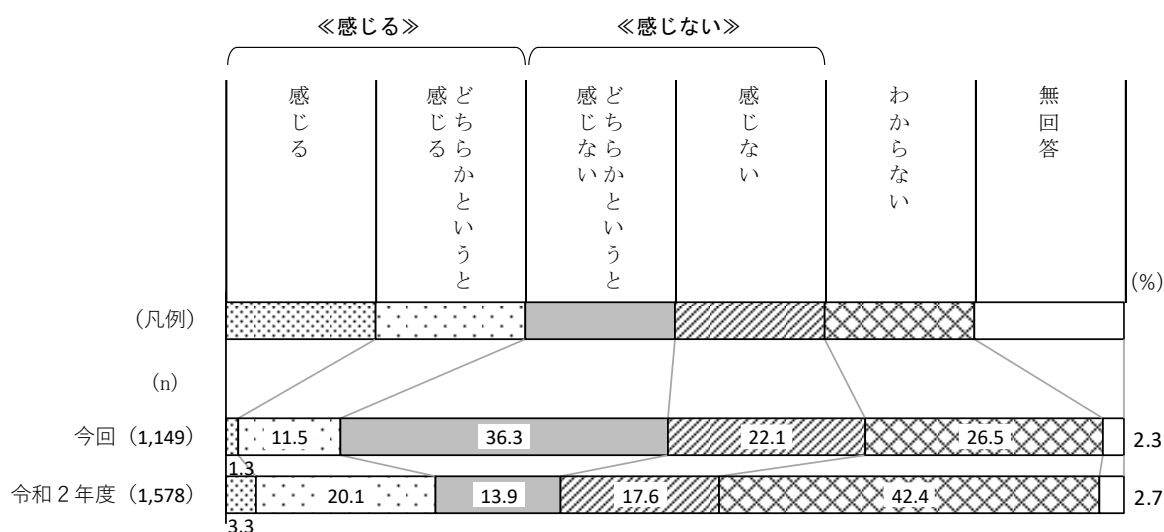
年齢別では、《感じる》の割合は70歳以上(34.7%)の多さが目立つ。一方、60歳代では《感じない》の割合が68.6%と多くなっている。

居住地域別では、《感じる》の割合は睦地域が31.7%で最も多く、その他の地域も2割を上回っている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(18) 市政に対する意見や要望を伝える機会と手段が整えられていると感じていますか。



市政に対する意見や要望を伝える機会と手段が整えられているかについて、「感じる」(1.3%)、「どちらかというと感じる」(11.5%)となっており、これらを合わせた、《感じる》の割合は12.8%となっている。一方、「どちらかというと感じない」(36.3%)、「感じない」(22.1%)を合わせた、《感じない》の割合は58.4%となっている。

前回(令和2年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は10.6ポイント減少している。

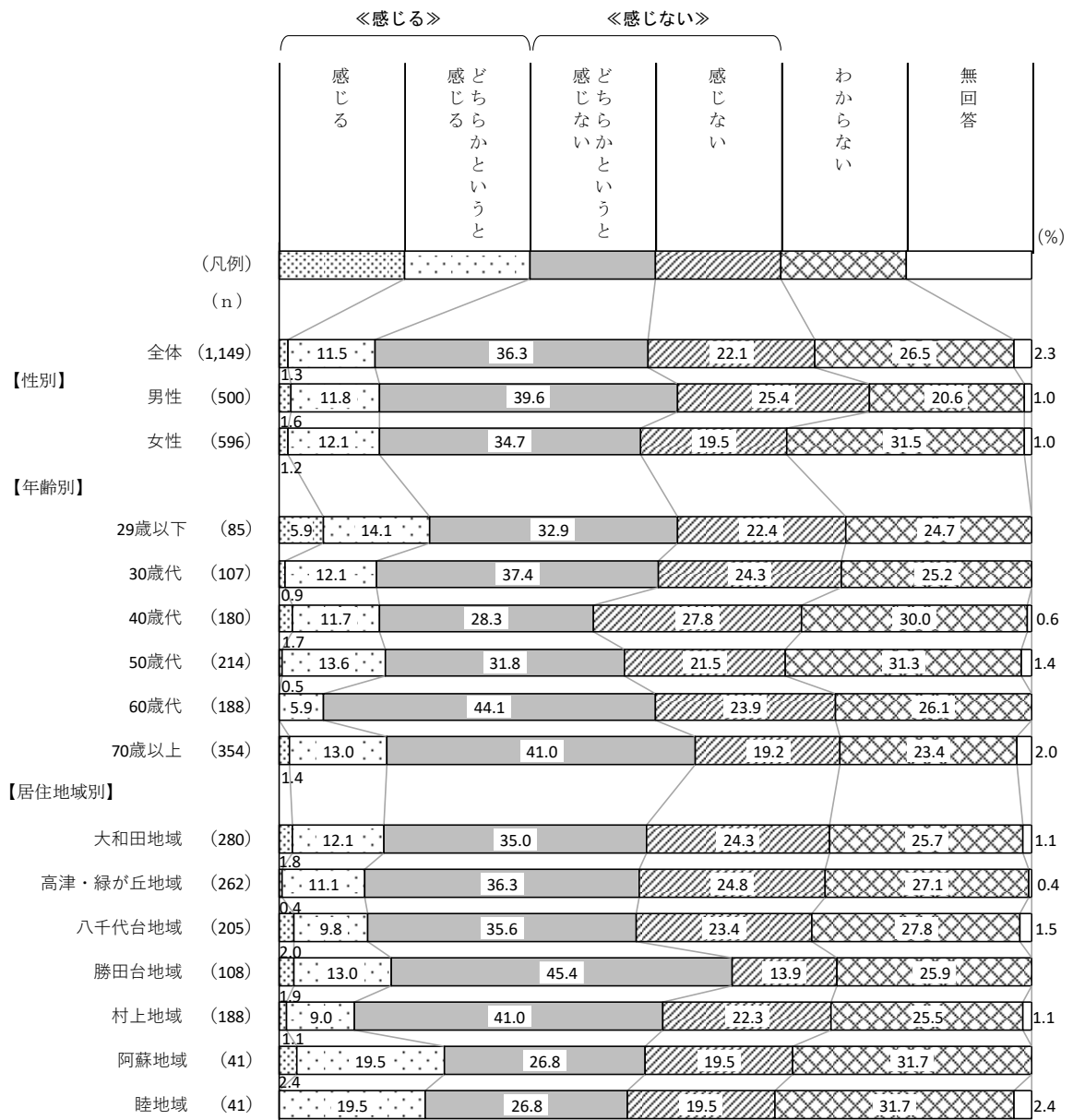
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じない》の割合は男性の方が女性より10.8ポイント多くなっている。

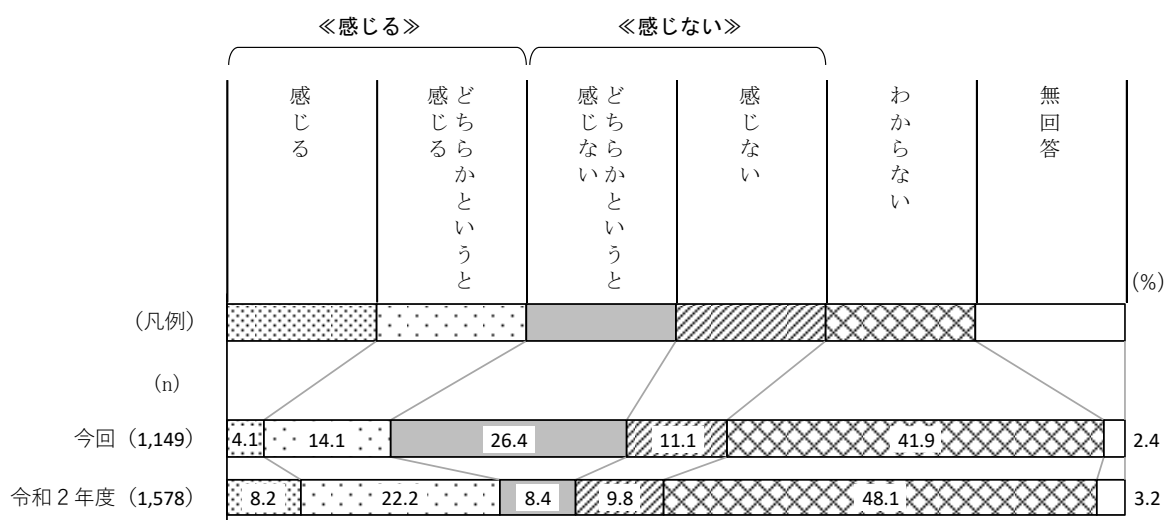
年齢別では、《感じる》の割合は29歳以下(20.0%)が最多となっている。一方、《感じない》の割合は60歳代(68.0%)、30歳代(61.7%)などで多くなっている。

居住地域別では、《感じる》の割合は阿蘇地域(21.9%)、睦地域(19.5%)などで多くなっている。一方、《感じない》の割合は村上地域(63.3%)、高津・緑が丘地域(61.1%)で多く、6割を上回っている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(19) 性別にとらわれず多様な生き方・働き方を選択できると感じていますか。



性別にとらわれず多様な生き方・働き方を選択できるかについて、「感じる」(4.1%)、「どちらかというと感じる」(14.1%)となっており、これらを合わせた、《感じる》の割合は18.2%となっている。一方、「どちらかというと感じない」(26.4%)、「感じない」(11.1%)を合わせた、《感じない》の割合は37.5%となっている。なお、「わからない」は41.9%を占めている。

前回(令和2年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は12.2ポイント減少している。

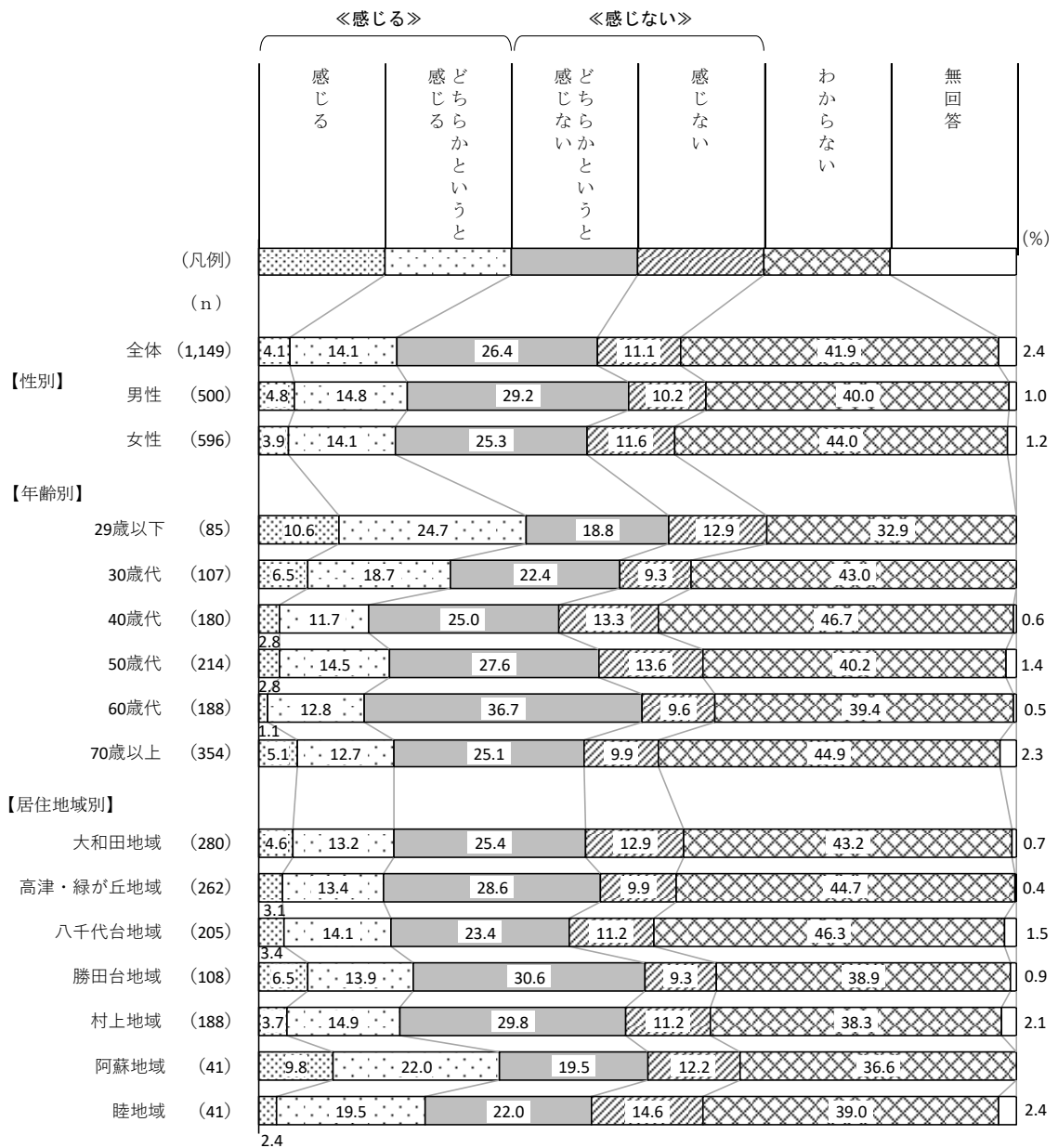
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じない》の割合は、男性の方が女性よりも2.5ポイント多くなっている。

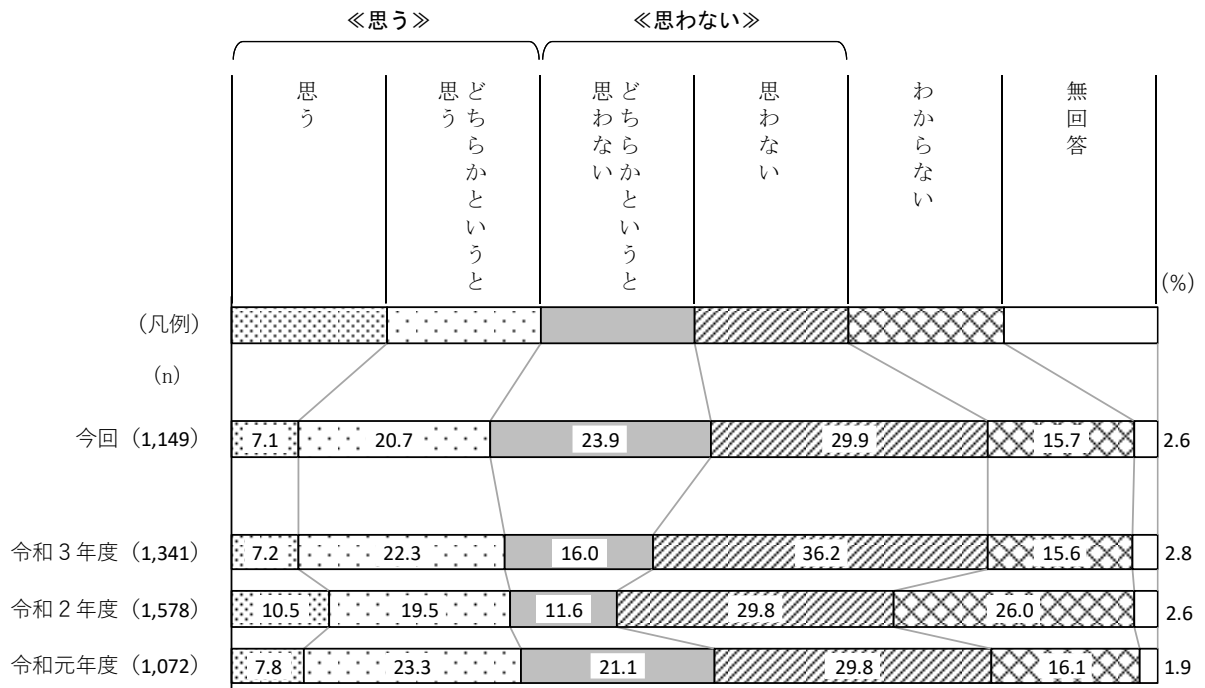
年齢別では、《感じる》の割合は、29歳以下(35.3%)の多さが目立つ。一方、《感じない》の割合は60歳代(46.3%)、50歳代(41.2%)で多く、4割を上回っている。

居住地域別では、《感じる》の割合は、阿蘇地域が31.8%と多くなっている。一方、《感じない》の割合は村上地域(41.0%)、勝田台地域(39.9%)が多くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(20) 国際交流・協力に関する活動を行ってみたい、参加してみたいと思いますか。



国際交流・協力に関する活動への参加等について、「思いう」(7.1%)、「どちらかというと思いう」(20.7%)となっており、これらを合わせた、《思いう》は27.8%となっている。一方、「どちらかというと思わない」(23.9%)、「思わない」(29.9%)を合わせた、《思わない》の割合は53.8%となっている。

前回(令和3年度)調査と比較すると、《思いう》の割合は1.7ポイント減少している。

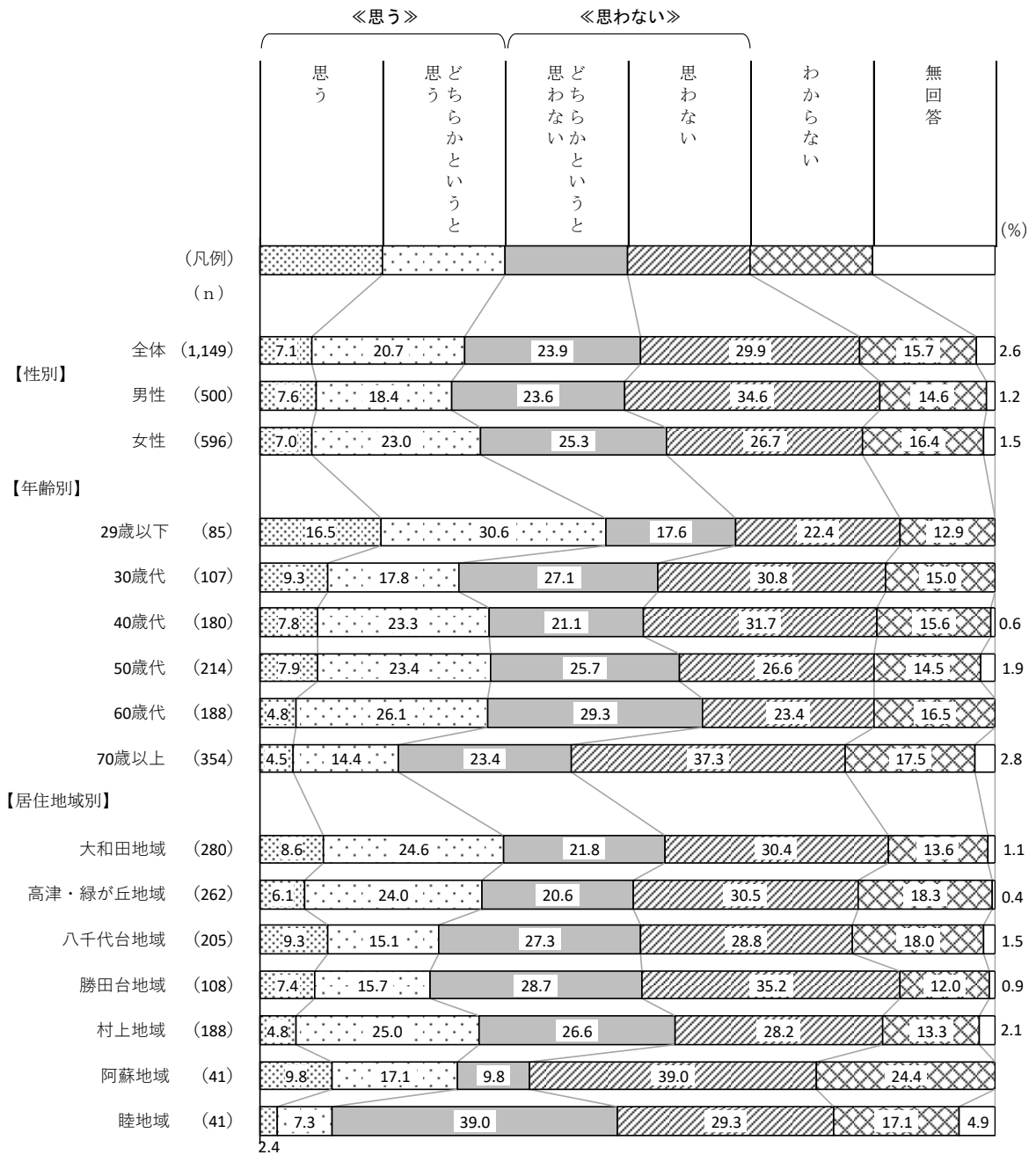
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《思いう》の割合は、女性の方が男性より4.0ポイント多い。

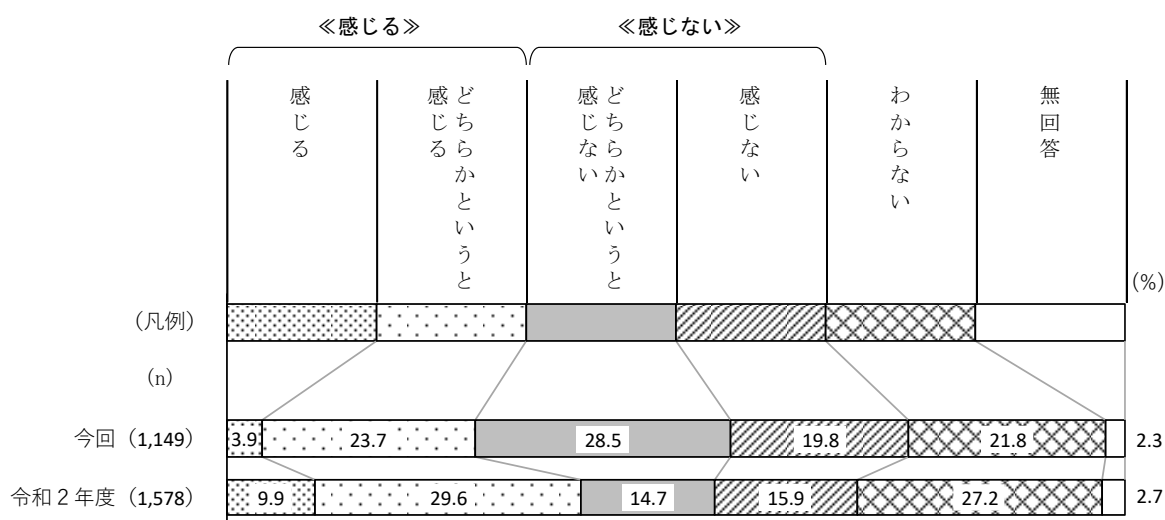
年齢別では、《思いう》の割合は、29歳以下が47.1%で最も多くなっている。一方、《思わない》の割合は70歳以上が60.7%と多くなっている。

居住地域別では、《思いう》の割合は大和田地域が最も多く33.2%となっている。一方、《思わない》の割合は、睦地域(68.3%)、勝田台地域(63.9%)が多くなっている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(21) 新川周辺が活性化していると感じていますか。



新川周辺が活性化しているかについて、「感じる」(3.9%)、「どちらかというと感じる」(23.7%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は27.6%となっている。一方、「どちらかというと感じない」(28.5%)、「感じない」(19.8%)を合わせた、《感じない》の割合は48.3%となっている。

前回(令和2年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は11.9ポイント減少している。

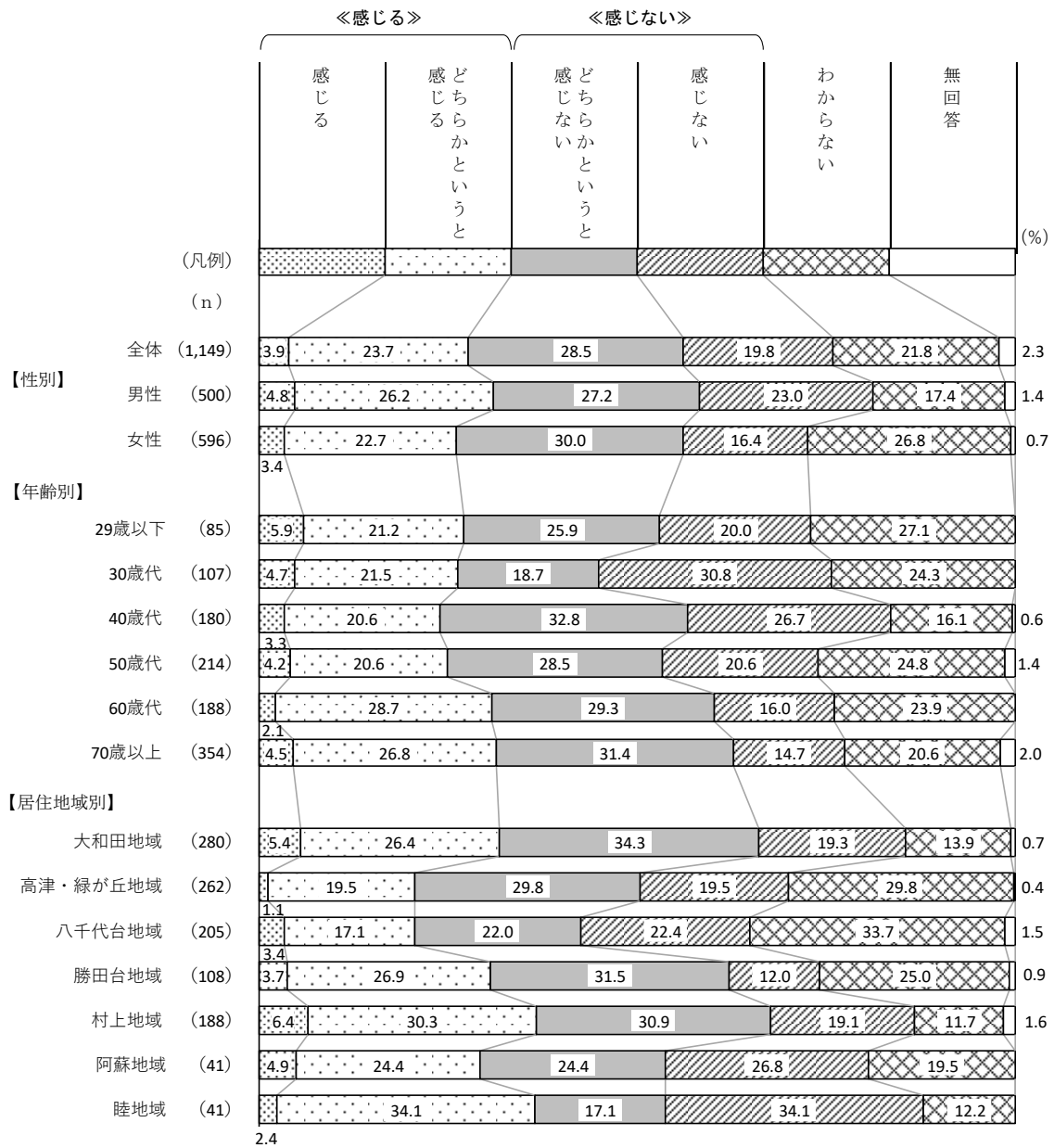
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じる》の割合は、男性の方が女性よりも4.9ポイント多い。

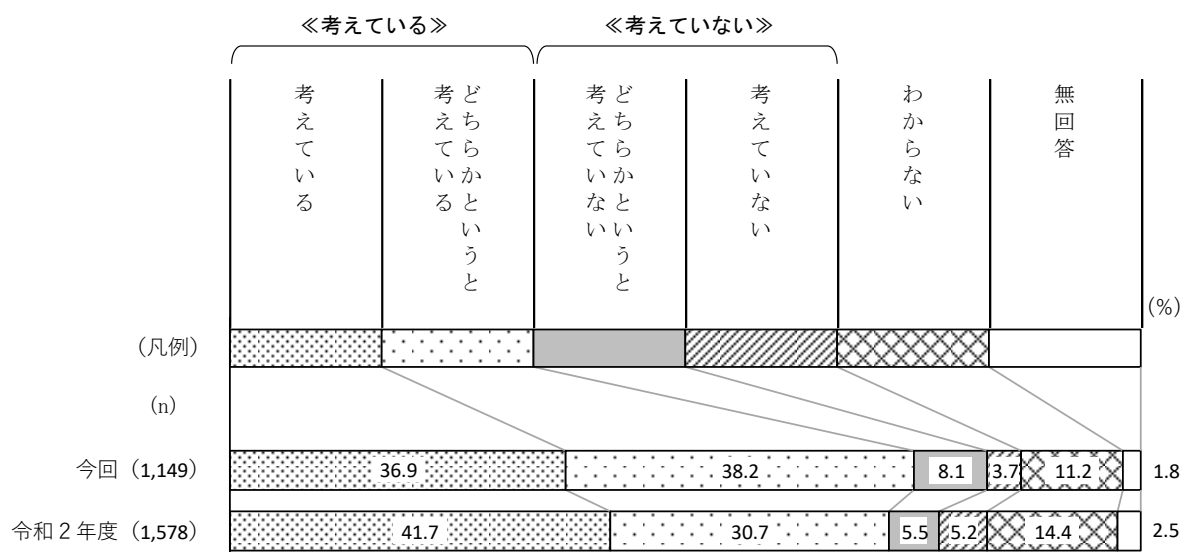
年齢別では、《感じる》の割合は、60歳代、70歳以上で多く3割を上回っている。一方、《感じない》の割合は40歳代が59.5%と多くなっている。

居住地域別では、《感じる》の割合は、村上地域が36.7%で最も多く、睦地域(36.5%)、大和田地域(31.8%)が続いている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(22) 今後も八千代市に住み続けたいと考えていますか。



今後も八千代市に住み続けたいかについて、「考えている」(36.9%)、「どちらかというと考えている」(38.2%)となっており、これらを合わせた、《考えている》は75.1%となっている。前回(令和2年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は2.7ポイント増加している。

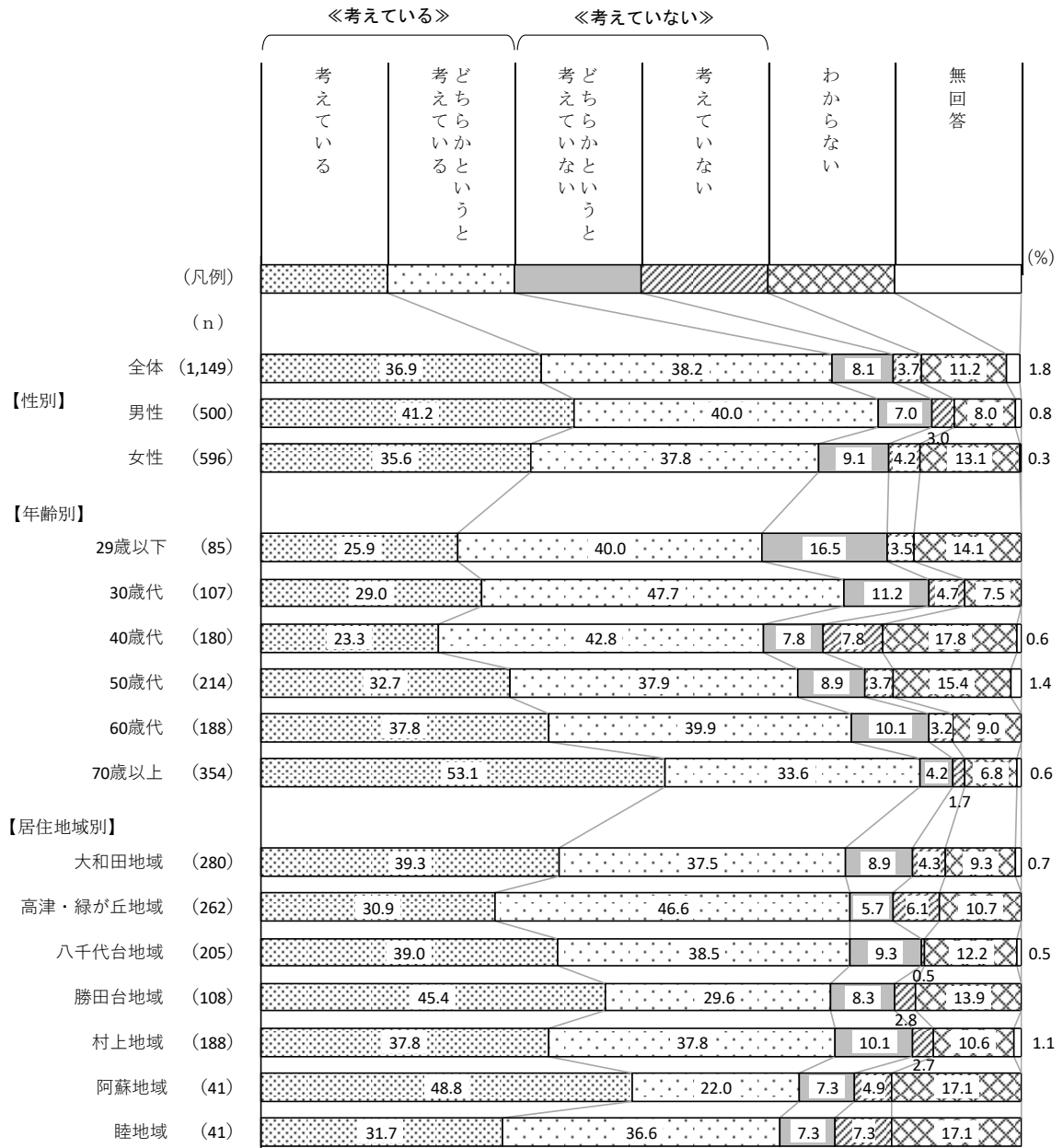
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《考えている》の割合は、男性の方が女性よりも7.8ポイント多い。

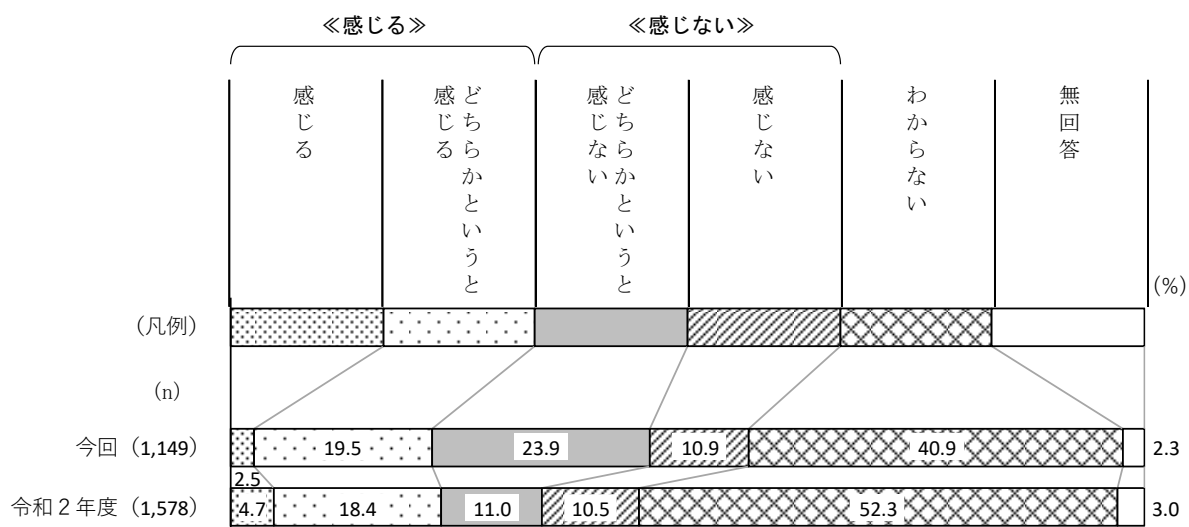
年齢別では、《考えている》の割合は、70歳以上が86.7%で最も多く、60歳代(77.7%)、30歳代(76.7%)が続いている。

居住地域別では、《考えている》の割合は、八千代台地域、高津・緑が丘地域がともに77.5%で最も多く、大和田地域(76.8%)、村上地域(75.6%)が続いている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(23) 行政が自らの責任と判断に基づき行政経営が行われていると感じていますか。



行政が自らの責任と判断に基づき行政経営が行われているかについて、「感じる」(2.5%)、「どちらかというと感じる」(19.5%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は22.0%となっている。一方、「どちらかというと感じない」(23.9%)、「感じない」(10.9%)を合わせた、《感じない》の割合は34.8%となっている。なお、「わからない」が40.9%を占めている。

前回(令和2年度)調査と比較すると、《感じる》の割合は1.1ポイント減少している。

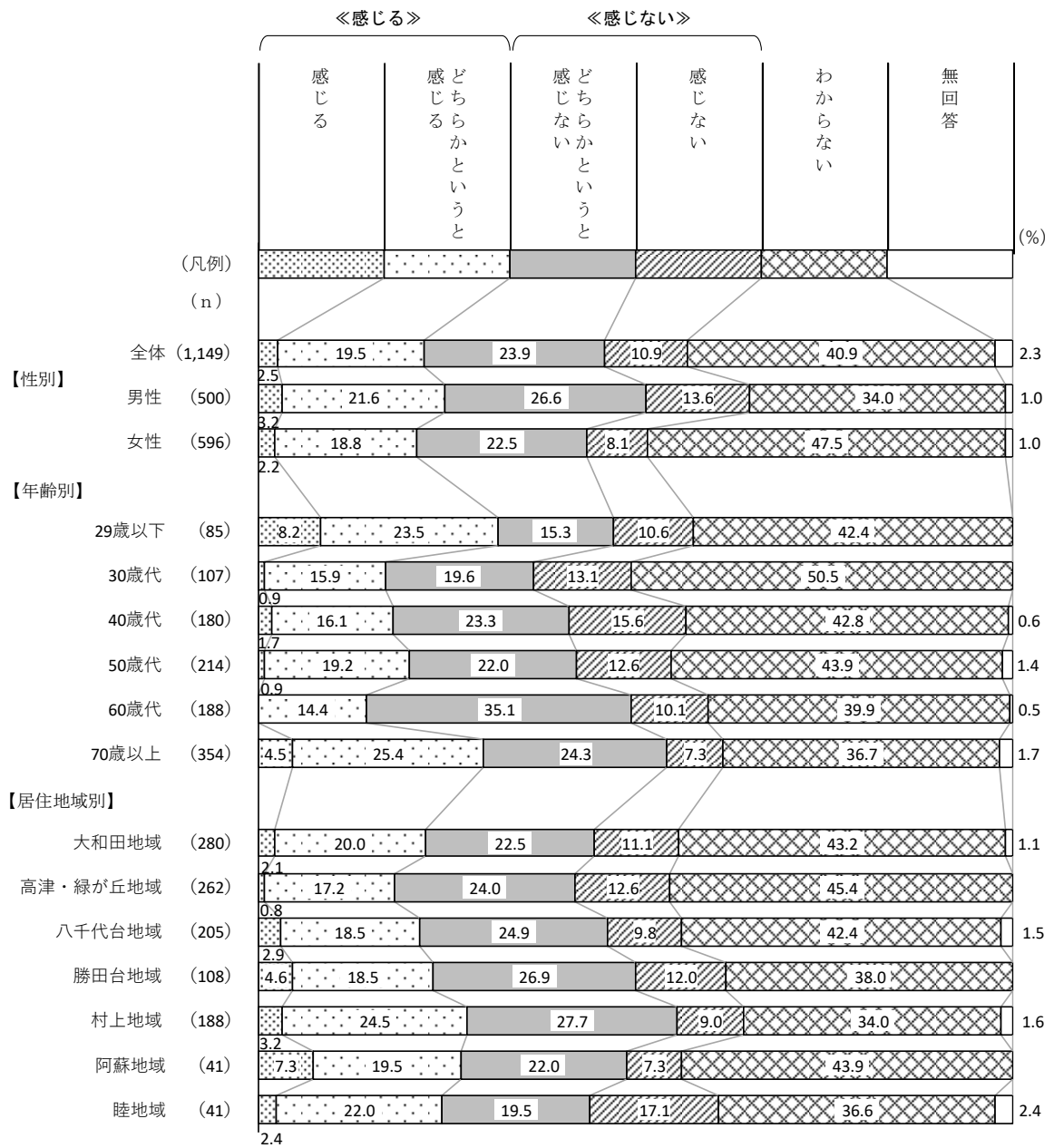
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じない》の割合は、男性の方が女性より9.6ポイント多い。

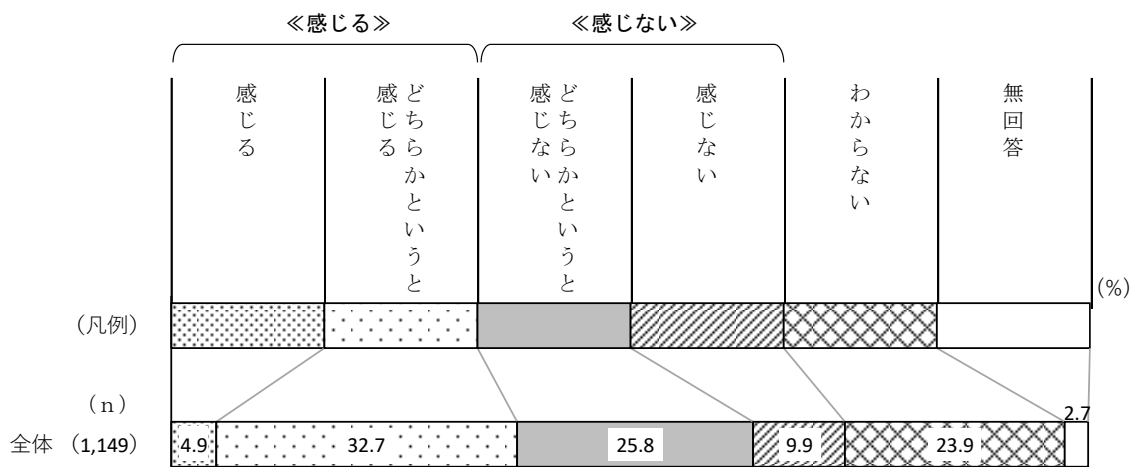
年齢別では、《感じる》の割合は、29歳以下が31.7%で最も多く、70歳以上(29.9%)、50歳代(20.1%)が続いている。

居住地域別では、《感じる》の割合は、村上地域が27.7%で最も多く、阿蘇地域(26.8%)、陸地域(24.4%)が続いている。

<性別・年齢別・居住地域別>



(24) 公共施設のサービス、また、設備や管理が適切と感じていますか。



公共施設のサービス、設備や管理が適切かについて、「感じる」(4.9%)、「どちらかというと感じる」(32.7%)となっており、これらを合わせた、《感じる》は37.6%となっている。一方、「どちらかというと感じない」(25.8%)、「感じない」(9.9%)を合わせた、《感じない》の割合は35.7%となっている。

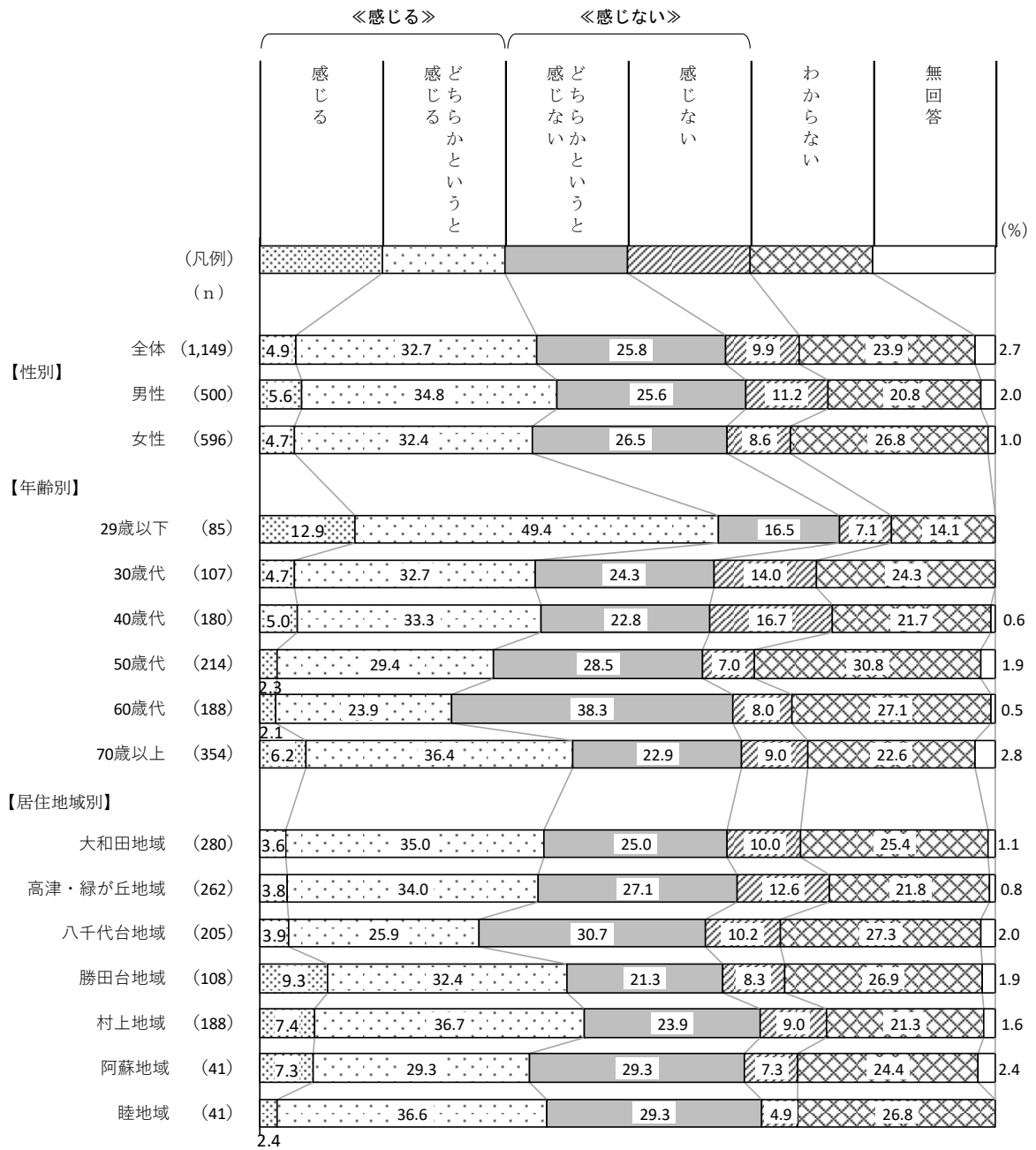
《性別・年齢別・居住地域別》

性別では、《感じる》の割合は、男性の方が女性よりも3.3ポイント多い。

年齢別では、《感じる》の割合は、29歳以下が62.3%で突出して多く、70歳以上(42.6%)、40歳代(38.3%)が続いている。

居住地域別では、《感じる》の割合は、村上地域が44.1%で最も多く、勝田台地域(41.7%)、睦地域(39.0%)が続いている。

<性別・年齢別・居住地域別>



17 八千代市の強み・課題や将来像について

八千代市における、地域の強み・課題やあなたが考える地域の将来像についてご自由にご記入ください。

(1) 八千代市（地域）の強み（自慢できるところ）【新規】

「八千代市（地域）の強み」に何らかの回答記述を寄せた回答者は538人であった。この記述内容を分野別に分類した件数を、回答者の居住地（7地域）別に示すと以下のとおりである。

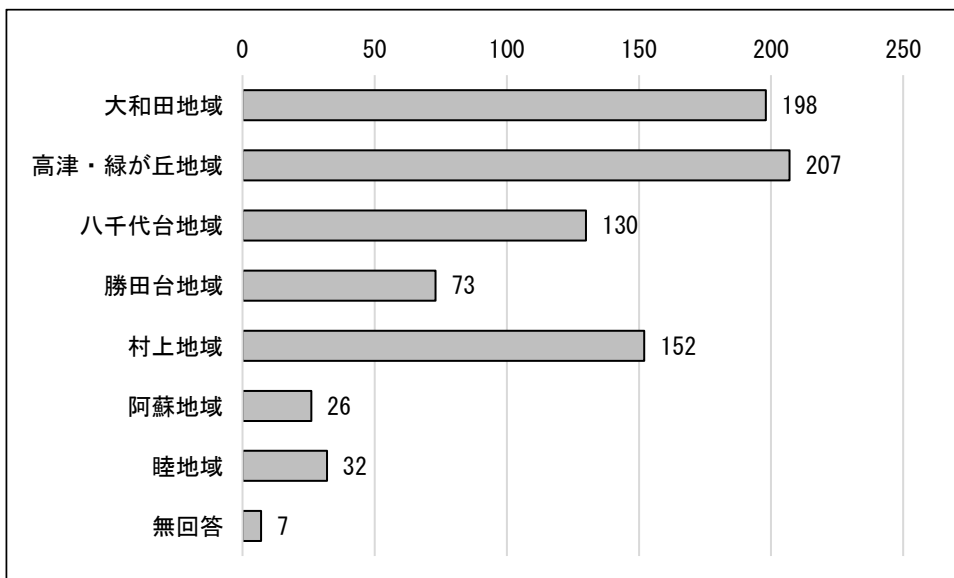
なお、一人の回答者が複数の分野の内容を記述している例が多数あり、可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は825件となった。

<八千代市（地域）の強み>

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
■ 行財政	28	8	7	4	1	8	0	0	0
公共施設	15	8	1	1	1	4	0	0	0
市行政全般	5	0	3	1	0	1	0	0	0
やっち	4	0	1	2	0	1	0	0	0
広報・情報公開	2	0	0	0	0	2	0	0	0
市長	2	0	2	0	0	0	0	0	0
■ 福祉・医療	14	1	3	2	2	3	2	0	1
医療関係	5	1	0	0	1	1	2	0	0
子育て	5	0	2	1	0	2	0	0	0
高齢者福祉	3	0	1	0	1	0	0	0	1
障害者福祉	1	0	0	1	0	0	0	0	0
■ 教育・文化	7	3	1	1	0	0	1	1	0
文化・スポーツ活動	5	3	1	1	0	0	0	0	0
教育環境・学校	2	0	0	0	0	0	1	1	0
■ 環境	235	60	54	40	21	39	9	11	1
自然環境	174	48	35	28	12	36	7	8	0
住みやすさ	51	11	17	11	4	3	2	2	1
ごみ問題	5	1	2	0	2	0	0	0	0
水道・環境衛生	4	0	0	1	3	0	0	0	0
動物愛護	1	0	0	0	0	0	0	1	0
■ 都市基盤・交通	265	69	61	39	27	52	4	10	3
公共交通機関・アクセス	155	35	43	24	15	32	0	4	2
新川	35	12	1	4	6	9	1	2	0
京成バラ園	23	8	7	3	2	1	1	1	0
公園・緑地の管理	15	5	2	2	0	5	0	0	1
都市景観	14	4	3	2	1	0	1	3	0
道路の整備・管理	14	3	2	1	3	4	1	0	0
市街地整備	7	1	3	2	0	1	0	0	0
道路施設(歩道等)	2	1	0	1	0	0	0	0	0
■ 安全・安心	71	14	24	13	10	7	2	0	1
防災・防火対策	41	6	11	9	7	7	1	0	0
防犯関係	30	8	13	4	3	0	1	0	1

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
■ 産業	116	24	42	17	4	20	4	5	0
農業・農産物	52	14	17	6	2	9	2	2	0
商業	49	8	17	10	1	9	1	3	0
物価	12	2	6	1	1	2	0	0	0
工業	3	0	2	0	0	0	1	0	0
■ 人・コミュニティ	39	8	7	8	4	9	1	2	0
イベント	16	2	5	3	0	5	0	1	0
人口	9	3	1	1	1	2	0	1	0
市民・地域交流	6	1	0	2	2	0	1	0	0
コミュニティ・自治会	4	1	0	1	1	1	0	0	0
地域活動・ボランティア	3	1	1	0	0	1	0	0	0
国際化・多文化共生	1	0	0	1	0	0	0	0	0
■ その他	50	11	8	6	4	14	3	3	1
その他	3	0	0	0	1	2	0	0	0
特にない・わからない	47	11	8	6	3	12	3	3	1
総計(延べ数)	825	198	207	130	73	152	26	32	7

<居住地域別件数分布>



(2) 八千代市（地域）の課題

「八千代市（地域）の課題」に何らかの回答記述を寄せた回答者は590人であった。この記述内容を分野別に分類した件数を、回答者の居住地域（7地域）別に示すと以下のとおりである。

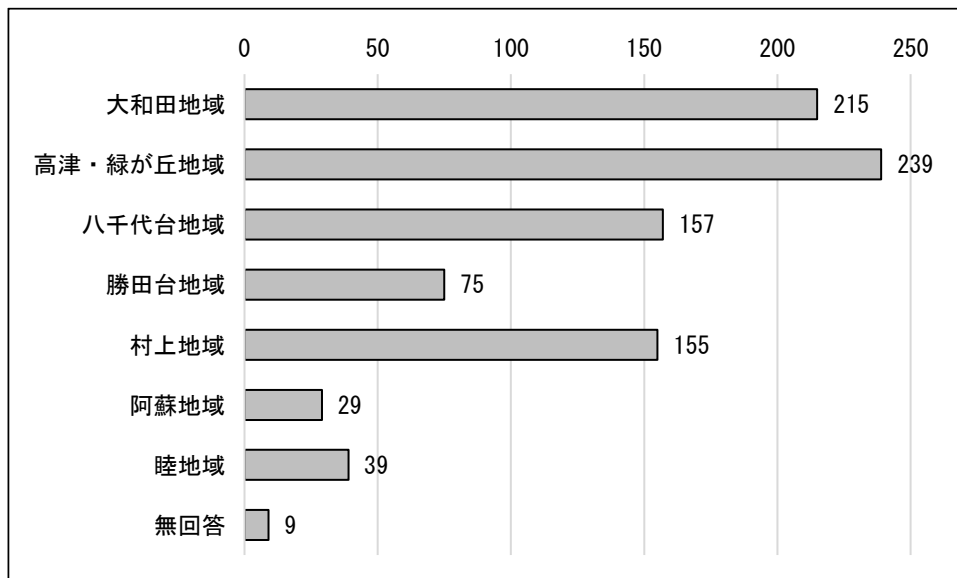
なお、一人の回答者が複数の分野の内容を記述している例が多数あり、可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は918件となった。

<八千代市（地域）の課題>

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
■ 行財政	134	31	34	25	13	22	1	5	3
市行政全般	33	5	11	7	3	6	0	0	1
公共施設	25	8	3	3	6	3	0	1	1
魅力づくり	22	5	6	5	2	3	0	1	0
広報・情報公開	21	5	2	4	1	6	1	1	1
財政	14	3	8	2	0	0	0	1	0
地域差	10	1	1	3	1	3	0	1	0
税金関連	7	3	3	0	0	1	0	0	0
デジタル化	2	1	0	1	0	0	0	0	0
■ 福祉・医療	153	33	43	24	20	26	3	3	1
高齢者福祉	41	11	14	4	4	7	0	0	1
医療関係	39	10	11	4	6	6	2	0	0
子育て支援	36	8	11	8	3	4	0	2	0
少子化・高齢化	28	4	5	7	6	6	0	0	0
障害者福祉	6	0	2	1	0	2	0	1	0
地域福祉全般	3	0	0	0	1	1	1	0	0
■ 教育・文化	40	10	16	5	4	3	2	0	0
教育環境・学校	35	8	15	4	4	3	1	0	0
生涯学習・文化・スポーツ	5	2	1	1	0	0	1	0	0
■ 環境	25	4	5	5	2	5	2	2	0
水道・環境衛生	11	2	3	2	1	1	1	1	0
ごみ問題	6	1	1	1	0	2	0	1	0
自然環境	5	1	0	1	1	1	1	0	0
公害・環境阻害	3	0	1	1	0	1	0	0	0
■ 都市基盤・交通	422	114	117	57	20	66	16	28	4
公共交通機関	143	37	45	9	10	21	10	9	2
道路の整備・管理	90	18	24	18	1	19	1	8	1
交通渋滞	59	18	19	3	2	10	2	5	0
道路施設(歩道等)	52	18	14	10	1	7	2	0	0
市街地整備	27	7	6	7	1	4	1	1	0
公園・緑地の管理	18	5	4	3	1	2	0	3	0
空き家	12	3	0	4	3	2	0	0	0
交通安全	9	3	2	2	1	1	0	0	0
コミュニティバス・カー	3	0	0	1	0	0	0	1	1
子どもの遊び場	3	2	1	0	0	0	0	0	0
駐車場・駐輪場	3	0	2	0	0	0	0	1	0
都市景観	3	3	0	0	0	0	0	0	0
■ 安全・安心	31	9	1	11	3	7	0	0	0
防災・防火対策	17	6	1	4	1	5	0	0	0
防犯関係	14	3	0	7	2	2	0	0	0

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
■ 産業	36	4	9	8	6	6	2	0	1
商業振興	22	1	6	6	3	4	1	0	1
農業振興・農地	6	1	1	0	2	1	1	0	0
産業全般	5	2	0	2	1	0	0	0	0
雇用	2	0	2	0	0	0	0	0	0
農業・農産物	1	0	0	0	0	1	0	0	0
■ 人・コミュニティ	26	2	2	8	4	9	1	0	0
国際化・多文化共生	13	0	0	5	2	6	0	0	0
市民・地域交流	8	2	1	1	1	2	1	0	0
コミュニティ・自治会	5	0	1	2	1	1	0	0	0
■ その他	51	8	12	14	3	11	2	1	0
まちの活性化	22	4	5	7	1	4	1	0	0
人のマナー・意識	2	1	0	1	0	0	0	0	0
その他	5	0	3	2	0	0	0	0	0
特にない・わからない	22	3	4	4	2	7	1	1	0
総計(延べ数)	918	215	239	157	75	155	29	39	9

<居住地域別件数分布>



(3) 八千代市（地域）の将来像

「八千代市（地域）の将来像」に何らかの回答記述を寄せた回答者は407人であった。この記述内容をテーマ別に分類した件数を、回答者の居住地（7地域）別に示すと以下のとおりである。

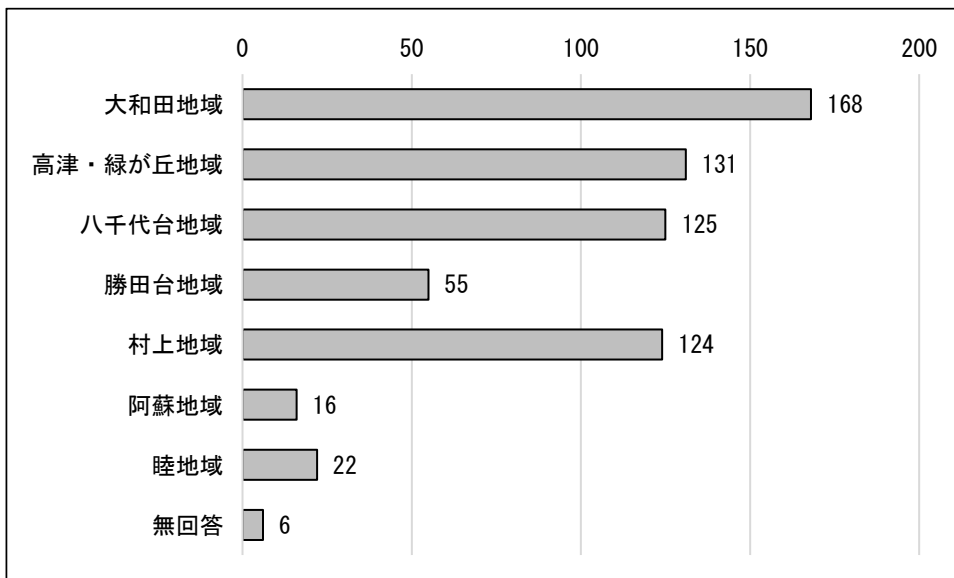
なお、一人の回答者が複数のテーマの内容を記述している例が多数あり、可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は647件となった。

<八千代市（地域）の将来像>

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
■ 行財政	150	29	35	31	18	26	3	7	1
各世代が共生できる	49	8	14	7	8	11	1	0	0
高齢者・障がい者が住みやすい	34	3	11	10	3	4	0	3	0
若者が住みやすい	22	4	2	6	2	5	2	1	0
市行政全般	18	6	4	3	2	2	0	1	0
子どもが住みやすい	16	7	2	2	2	1	0	2	0
公共施設・サービス	11	1	2	3	1	3	0	0	1
■ 福祉・医療	66	23	12	8	3	16	0	4	0
子育てしやすい	32	8	7	5	1	11	0	0	0
医療・福祉が充実した	20	8	5	2	1	3	0	1	0
高齢化	13	7	0	1	1	2	0	2	0
バリアフリー	1	0	0	0	0	0	0	1	0
■ 教育・文化	19	3	6	5	0	5	0	0	0
教育環境	12	0	6	2	0	4	0	0	0
スポーツ	4	2	0	1	0	1	0	0	0
文化的	3	1	0	2	0	0	0	0	0
■ 環境	62	21	11	11	3	12	1	2	1
自然・緑	54	17	10	10	3	11	1	2	0
ごみの少ない、きれいな	5	1	1	1	0	1	0	0	1
環境保全	2	2	0	0	0	0	0	0	0
水道	1	1	0	0	0	0	0	0	0
■ 都市基盤・交通	120	35	23	26	8	22	2	3	1
住環境	37	7	9	4	4	10	1	1	1
公共交通機関	26	12	5	4	0	2	1	2	0
市街地整備	20	4	1	8	2	5	0	0	0
道路環境	16	5	5	5	0	1	0	0	0
公園・新川	11	3	1	2	1	4	0	0	0
空き家	3	1	0	1	1	0	0	0	0
景観	3	1	2	0	0	0	0	0	0
情報技術	2	2	0	0	0	0	0	0	0
土地利用	2	0	0	2	0	0	0	0	0
■ 安全・安心	53	10	10	14	7	7	3	2	0
安心して暮らせる	39	8	8	9	5	5	2	2	0
防災・防火対策	7	1	0	2	1	2	1	0	0
防犯関係	7	1	2	3	1	0	0	0	0
■ 産業	58	19	12	10	5	9	2	1	0
活気がある	19	5	3	4	2	3	2	0	0
商業施設が充実した	13	2	3	2	1	4	0	1	0
雇用環境	9	3	2	1	1	2	0	0	0

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
産業全般	7	5	0	1	1	0	0	0	0
農業・農産物	6	4	1	1	0	0	0	0	0
買い物などが便利	4	0	3	1	0	0	0	0	0
■ 人・コミュニティ	36	7	9	8	4	4	1	1	2
国際化・多文化共生	16	2	3	4	2	3	1	0	1
市民・地域交流	15	3	3	4	2	1	0	1	1
コミュニティ・自治会	5	2	3	0	0	0	0	0	0
■ その他	83	21	13	12	7	23	4	2	1
人口	15	5	3	3	1	3	0	0	0
住み続けたいくなる	10	1	3	0	2	4	0	0	0
市外から人が訪れる	9	4	1	0	0	3	1	0	0
現状維持	5	0	2	2	0	1	0	0	0
明るい	3	1	0	1	0	1	0	0	0
その他	6	2	0	1	0	2	0	1	0
特にない・わからない	35	8	4	5	4	9	3	1	1
総計(延べ数)	647	168	131	125	55	124	16	22	6

<居住地域別件数分布>



18 自由回答

市へのご意見や要望，まちづくりについてのアイデア等があればご自由にご記入ください。

「市への意見や要望，まちづくりについてのアイデア等」に何らかの回答記述を寄せた回答者は427人であった。この記述内容を分野別に分類した件数を，回答者の居住地域（7地域）別に示すと以下のとおりである。

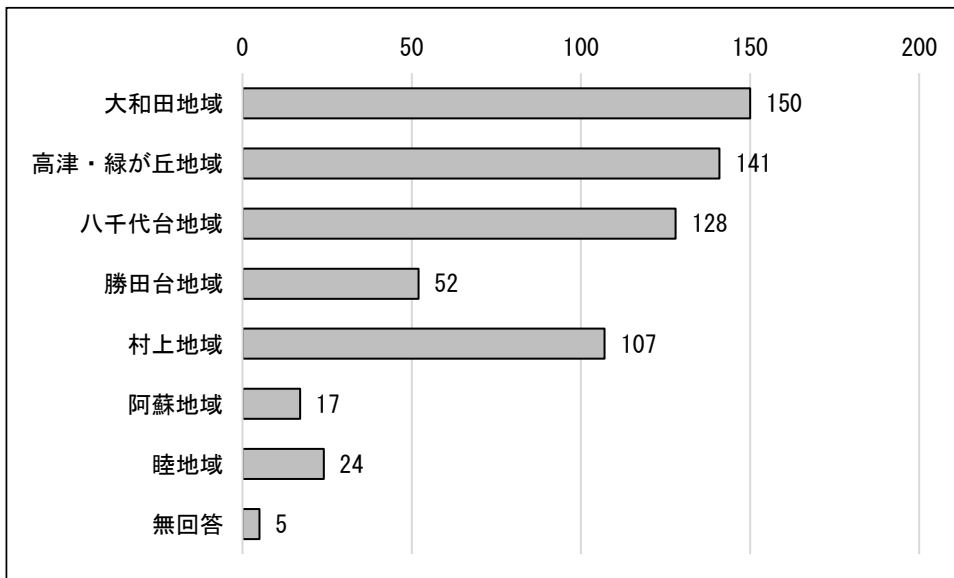
なお，一人の回答者が複数の分野の内容を記述している例が多数あり，可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は624件となった。

<市への意見や要望，まちづくりについてのアイデア等>

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
■ 行財政	143	42	34	22	12	24	4	2	3
市行政全般	53	14	13	8	6	9	2	0	1
広報・情報公開	31	9	7	5	2	6	1	1	0
公共施設	20	6	4	3	2	3	1	0	1
魅力づくり	12	5	2	3	0	2	0	0	0
市長への意見	10	2	3	0	1	3	0	1	0
職員・窓口対応・サービス	9	2	2	3	1	0	0	0	1
財政	4	2	1	0	0	1	0	0	0
情報化	4	2	2	0	0	0	0	0	0
■ 福祉・医療	79	20	21	17	7	9	1	3	1
医療関係	28	8	6	7	2	3	0	2	0
高齢者福祉	24	5	4	4	4	5	1	0	1
子育て支援	20	4	8	5	1	1	0	1	0
地域福祉全般	4	2	2	0	0	0	0	0	0
障害者福祉	3	1	1	1	0	0	0	0	0
■ 教育・文化	34	8	13	4	1	4	1	3	0
教育環境・学校	19	4	7	3	0	2	0	3	0
スポーツ関係施設	7	3	2	1	1	0	0	0	0
文化・スポーツ活動	4	1	2	0	0	1	0	0	0
青少年育成	3	0	1	0	0	1	1	0	0
生涯学習活動	1	0	1	0	0	0	0	0	0
■ 環境	27	6	4	8	2	5	0	2	0
公害・環境阻害	8	1	3	2	0	2	0	0	0
ごみ問題	7	3	1	2	0	1	0	0	0
自然環境	6	0	0	2	2	1	0	1	0
動物愛護	4	2	0	1	0	0	0	1	0
水道・環境衛生	2	0	0	1	0	1	0	0	0
■ 都市基盤・交通	208	46	45	44	15	35	10	12	1
公共交通機関	59	14	17	7	3	8	6	3	1
道路の整備・管理	39	4	9	13	3	7	1	2	0
道路施設(歩道等)	21	5	6	4	0	3	2	1	0
市街地整備	17	3	2	3	3	5	0	1	0
公園・緑地の管理	16	7	1	3	1	3	0	1	0
生活環境全般	16	3	3	5	1	3	0	1	0

	全体	大和田	高津・ 緑が丘	八千代台	勝田台	村上	阿蘇	睦	無回答
交通渋滞	13	3	3	3	0	2	0	2	0
駐車場・駐輪場	8	5	2	0	0	1	0	0	0
空き家・空き地	7	0	1	3	1	1	0	1	0
交通安全	6	2	0	3	1	0	0	0	0
空き家	2	0	0	0	1	0	1	0	0
水道関係	2	0	0	0	1	1	0	0	0
都市景観	2	0	1	0	0	1	0	0	0
■ 安全・安心	28	3	4	7	5	9	0	0	0
防災・防火対策	16	2	1	3	2	8	0	0	0
防犯関係	12	1	3	4	3	1	0	0	0
■ 産業	35	5	6	8	4	10	1	1	0
商業振興	19	2	4	4	3	5	0	1	0
産業全般	12	3	1	4	1	2	1	0	0
農業振興・農地	4	0	1	0	0	3	0	0	0
■ 人・コミュニティ	32	6	10	10	1	5	0	0	0
市民・地域交流	11	2	6	1	1	1	0	0	0
コミュニティ・自治会	8	1	2	4	0	1	0	0	0
人のマナー・意識	7	1	1	3	0	2	0	0	0
国際化・多文化共生	3	1	0	2	0	0	0	0	0
地域活動・ボランティア	3	1	1	0	0	1	0	0	0
■ その他	38	14	4	8	5	6	0	1	0
アンケートについて	14	5	2	3	1	3	0	0	0
その他	6	3	0	3	0	0	0	0	0
特になし・わからない	18	6	2	2	4	3	0	1	0
総計(延べ数)	624	150	141	128	52	107	17	24	5

<居住地域別件数分布>



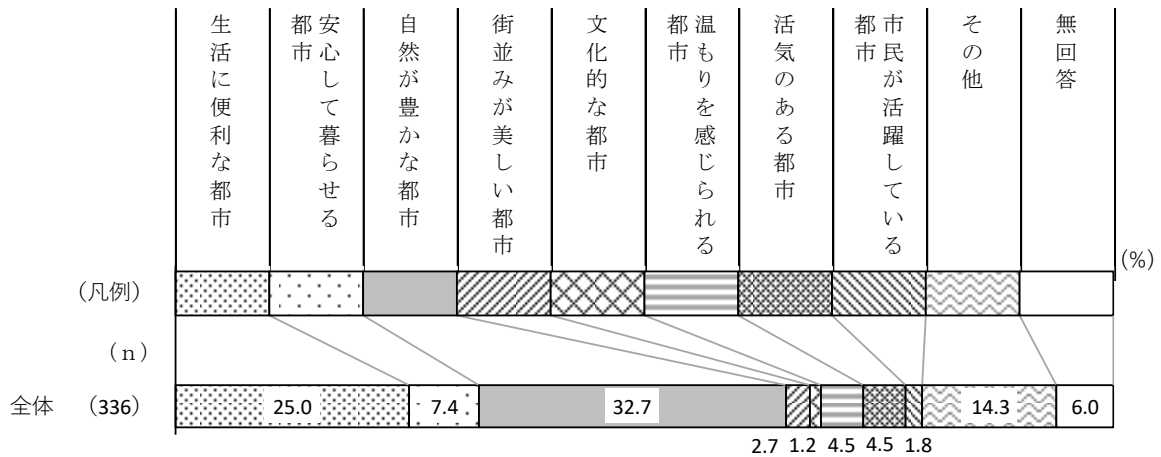
VI 調査結果の分析－市外在住市内在勤者調査－

VI 調査結果の分析－市外在住市内在勤者調査－

1 八千代市のイメージについて

(1) 市のイメージ

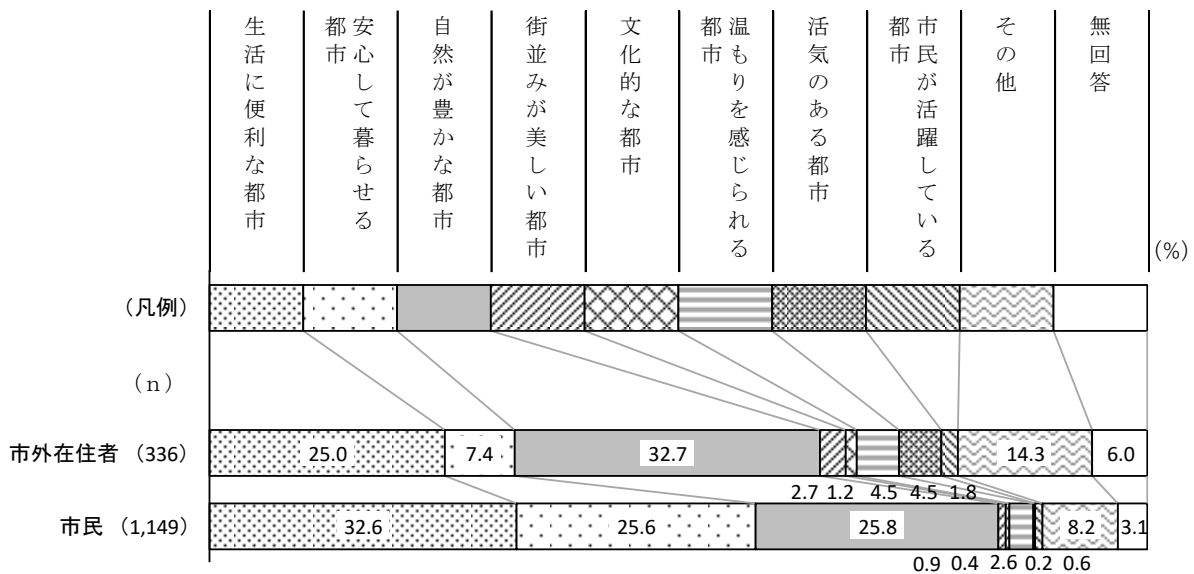
問1 八千代市にどのようなイメージをお持ちですか。(〇は1つ)



市外からの通勤者が八千代市に抱くイメージは、「自然が豊かな都市」が32.7%で最も多く、「生活に便利な都市」が25.0%、「安心して暮らせる都市」が7.4%となっており、この3つで65.1%を占める。

市民(市内在住者)の同設問の結果と比較すると、市民では上記3つの合計が8割台半ばであり、市外在住者では「自然豊かな都市」や「温もりを感じられる都市」などの割合が比較的多くなっている。

<市内在住者調査との比較>



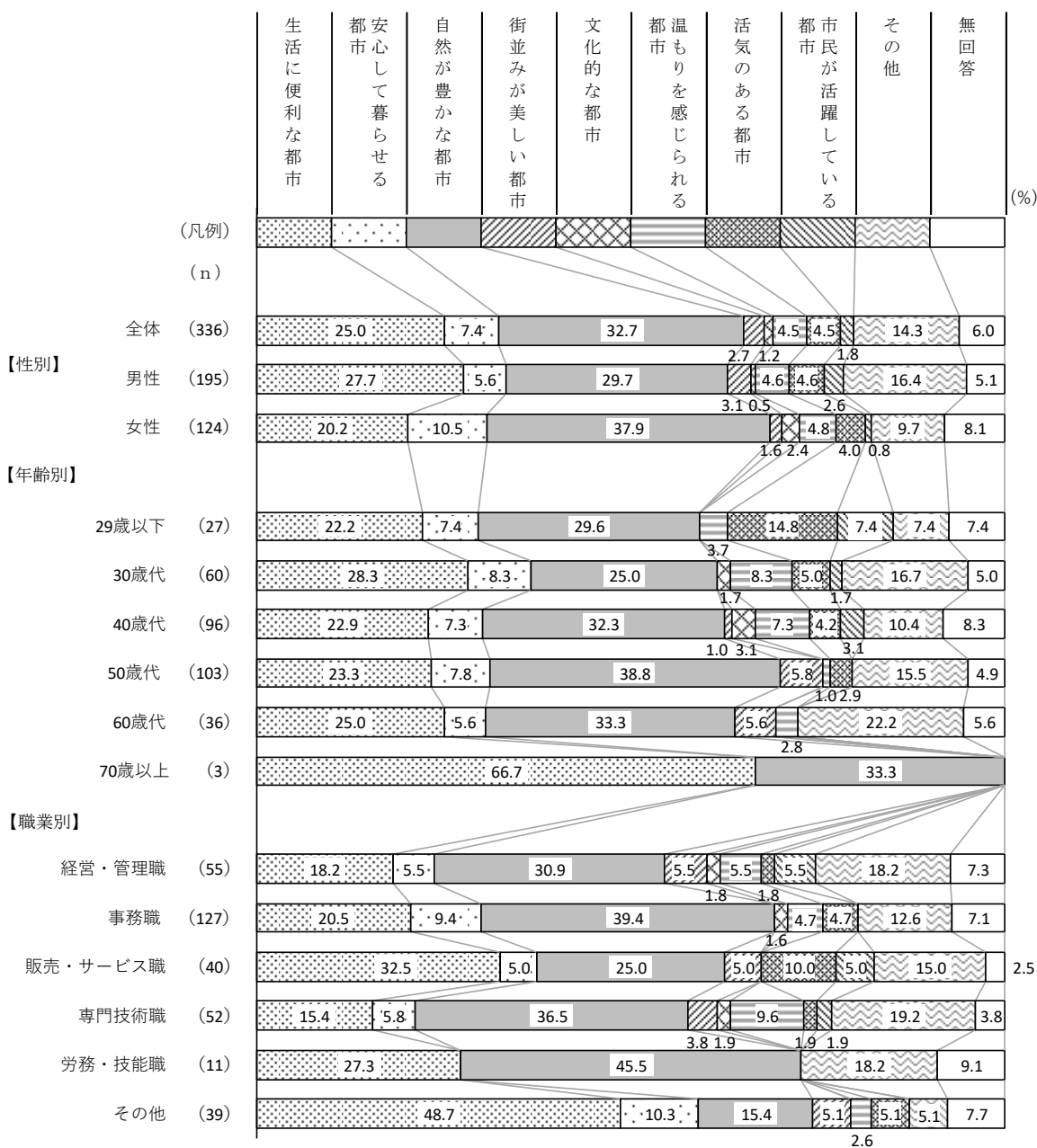
《性別・年齢別・職業別》

性別では、男性は「生活に便利な都市」，女性は「安心して暮らせる都市」や「自然が豊かな都市」の割合が多い。

年齢別では、「生活に便利な都市」は30歳代などで多く、「自然が豊かな都市」は50歳代で特に多い。

職業別では、事務職や専門技術職で「自然が豊かな都市」の割合が特に多いなどの特徴がみられる。

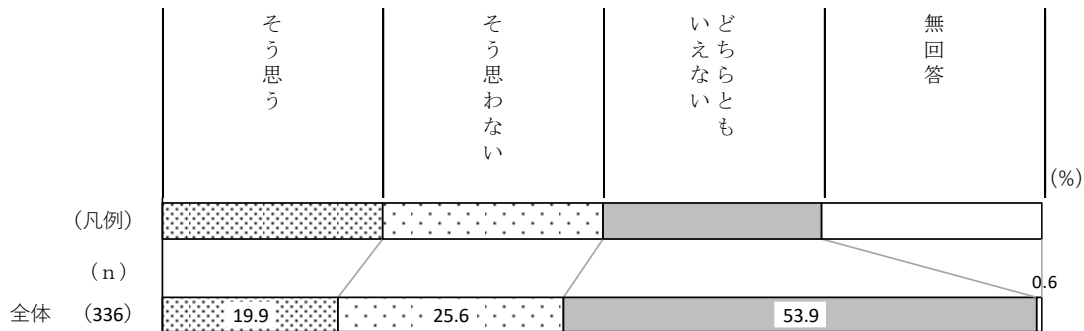
<性別・年齢別・職業別>



2 八千代市の魅力について

(1) 市の魅力

問2 八千代市は住んでみたくなる魅力的なまちだと思いますか。(○は1つ)



八千代市が住んでみたくなる魅力的なまちと思うか、との問いに対しては、「どちらともいえない」が53.9%で最も多く、「そう思わない」が25.6%、「そう思う」が19.9%となっている。

《性別・年齢別・職業別・居住地別》

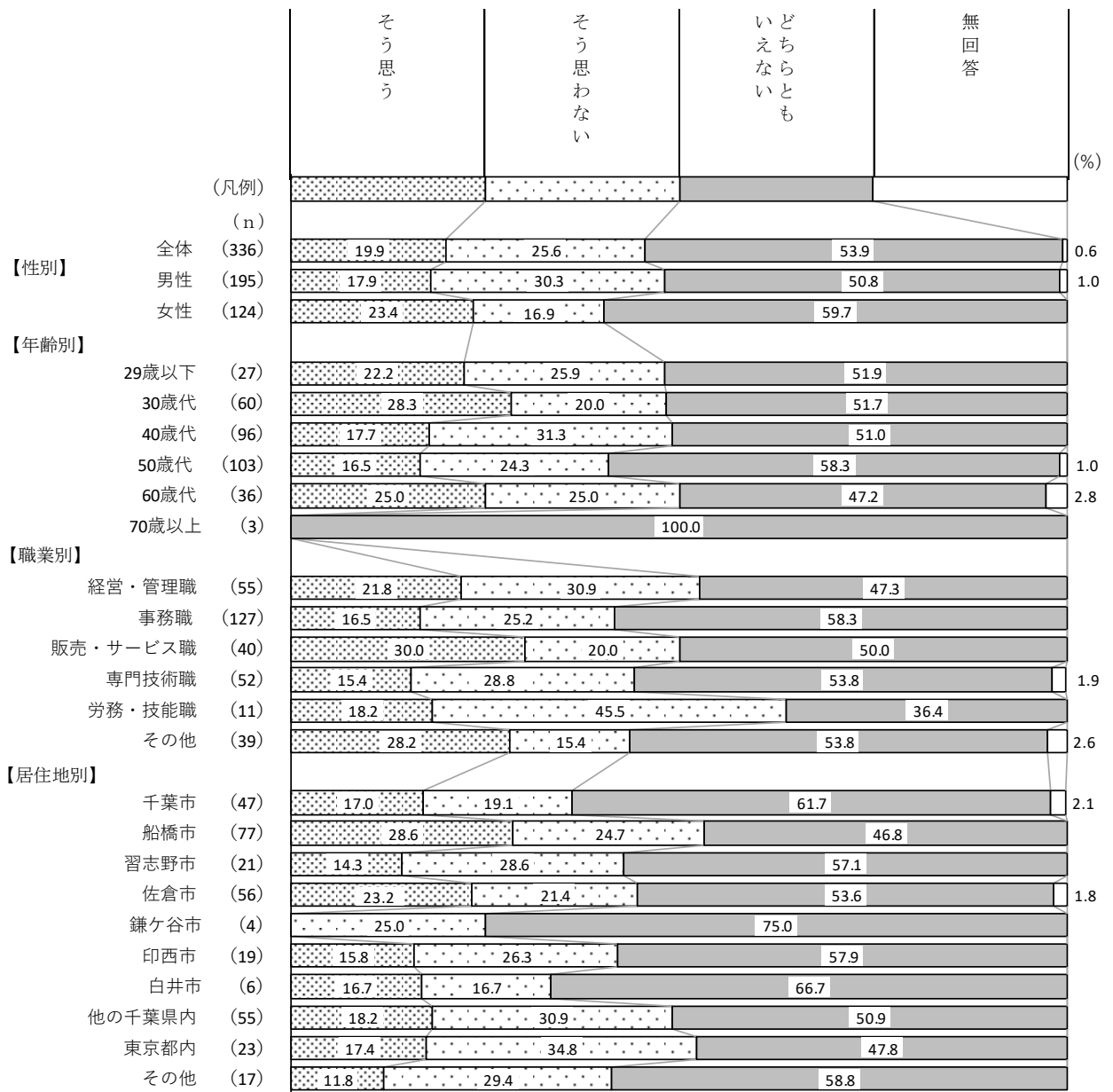
性別では、「そう思う」の割合は女性の方が男性よりも5.5ポイント多くなっている。

年齢別では、「そう思う」の割合は30歳代で最も多く、「そう思わない」の割合は40歳代で最も多い。

職業別では、「そう思う」の割合は販売・サービス職で最も多く、「そう思わない」の割合は労務・技能職で最も多い。

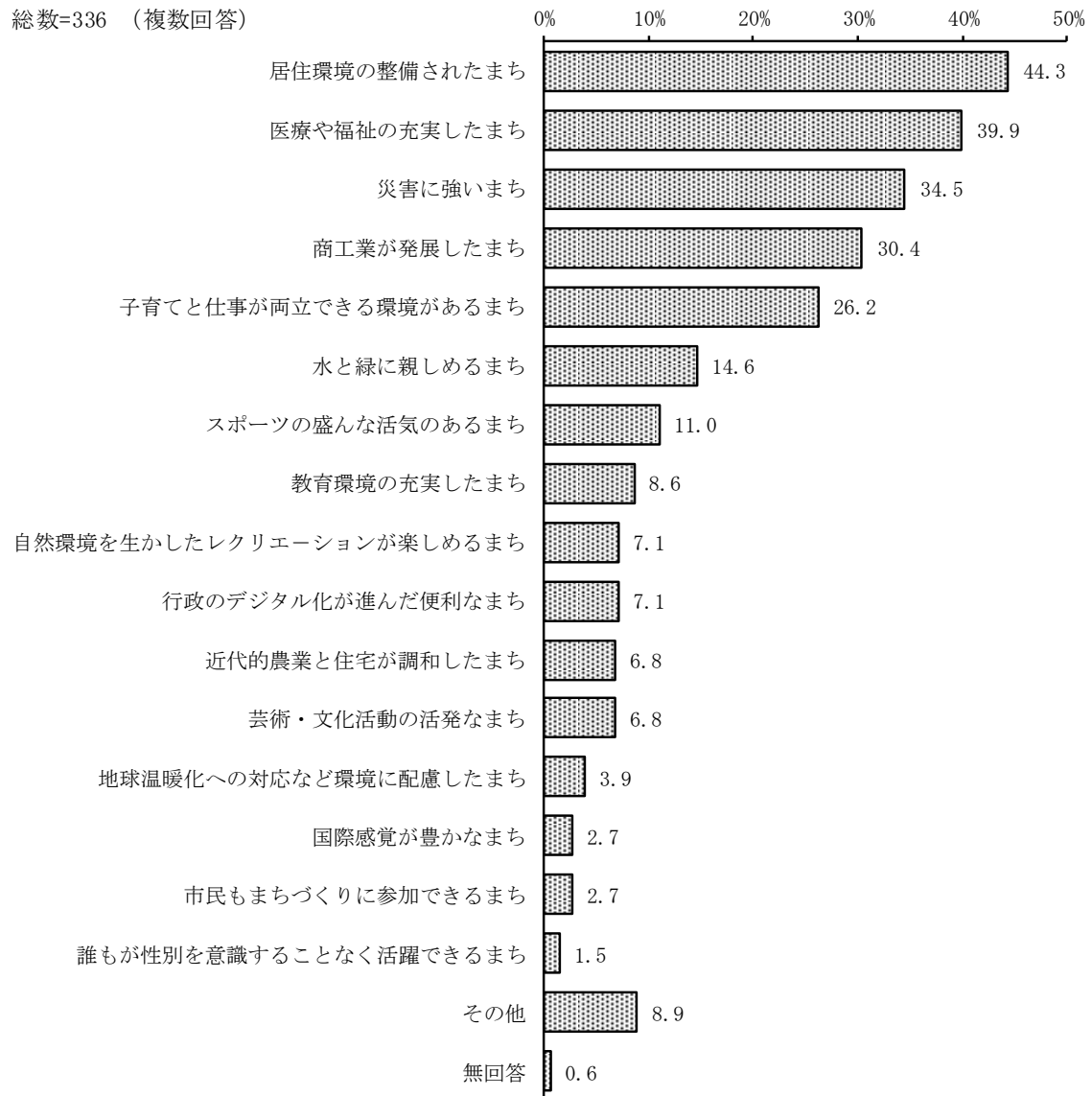
居住地別にみると、「そう思う」の割合は船橋市で最も多く、「そう思わない」の割合は東京都内で最も多い。

<性別・年齢別・居住地別>



(2) 魅力的なまちになるための方向性

問3 八千代市に住んでみたくなる魅力的なまちになるために、どのような方向へ発展したらよいと思いますか。(〇は3つまで)



魅力的なまちになるための方向性は、「居住環境の整備されたまち」が44.3%で最も多く、次いで、「医療や福祉の充実したまち」が39.9%、「災害に強いまち」が34.5%、「商工業が発展したまち」が30.4%で続いている。

《性別・年齢別・職業別》

性別では、「商工業が発展したまち」の割合は男性の方が女性よりも8.8ポイント多い。

年齢別では、30歳代と50歳代で「近代的農業と住宅が調和したまち」、40歳代で「居住環境の整備されたまち」の割合が多い。

職業別では、経営・管理職で「居住環境の整備されたまち」、専門技術職で「医療や福祉の充実したまち」の割合が5割を上回っている。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

	全体	商工業が発展したまち	近代的農業と住宅が調和したまち	居住環境の整備されたまち	医療や福祉の充実したまち	自然環境を楽しめるまち	芸術・文化活動の活発なまち	スポーツの盛んな活気のあるまち	水と緑に親しめるまち	災害に強いまち	国際感覚が豊かなまち	教育環境の充実したまち	子育てと仕事が高立できる環境があるまち	市民もまちづくりに参加できるまち	行政のデジタル化が進んだ便利なまち	地球温暖化への対応など環境に配慮したまち	誰もが性別を意識することなく活躍できるまち	
全体	336 100.0	102 30.4	23 6.8	149 44.3	134 39.9	24 7.1	23 6.8	37 11.0	49 14.6	116 34.5	9 2.7	29 8.6	88 26.2	9 2.7	24 7.1	13 3.9	5 1.5	
性別	男性	195 100.0	66 33.8	11 5.6	85 43.6	73 37.4	15 7.7	9 4.6	24 12.3	29 14.9	61 31.3	7 3.6	19 9.7	54 27.7	7 3.6	20 10.3	5 2.6	1 0.5
	女性	124 100.0	31 25.0	12 9.7	58 46.8	55 44.4	9 7.3	10 8.1	12 9.7	15 12.1	48 38.7	1 0.8	8 6.5	33 26.6	1 0.8	4 3.2	8 6.5	3 2.4
年齢別	29歳以下	14 51.9	4 14.8	12 44.4	9 33.3	2 7.4	2 7.4	4 14.8	5 18.5	4 14.8	1 3.7	3 11.1	7 25.9	-	4 14.8	1 7.4	2 7.4	
	30歳代	23 38.3	1 1.7	32 53.3	20 33.3	3 5.0	3 3.3	5 8.3	7 11.7	21 35.0	-	8 13.3	19 31.7	-	5 8.3	2 3.3	2 3.3	
	40歳代	32 33.3	7 7.3	39 40.6	43 44.8	4 4.2	6 6.3	11 11.5	9 9.4	28 29.2	5 5.2	9 9.4	30 31.3	4 4.2	9 9.4	3 3.1	-	8 8.3
	50歳代	23 22.3	6 5.8	47 45.6	45 43.7	10 9.7	7 6.8	10 9.7	16 15.5	37 35.9	2 1.9	6 5.8	26 25.2	3 2.9	6 5.8	5 4.9	2 1.9	10 9.7
	60歳代	9 25.0	5 13.9	13 36.1	11 30.6	5 13.9	4 11.1	7 19.4	7 19.4	18 50.0	1 2.8	3 8.3	5 13.9	2 5.6	-	2 2.8	-	5 13.9
	70歳以上	-	-	1 33.3	2 66.7	-	-	-	-	2 66.7	2 66.7	-	-	-	-	33.3	33.3	-
職業別	経営・管理職	55 100.0	18 32.7	4 7.3	32 58.2	16 29.1	5 9.1	3 5.5	7 12.7	7 12.7	19 34.5	2 3.6	4 7.3	11 20.0	-	6 10.9	1 1.8	-
	事務職	127 100.0	42 33.1	10 7.9	63 49.6	53 41.7	8 6.3	12 9.4	8 6.3	15 11.8	48 37.8	1 0.8	12 9.4	34 26.8	4 3.1	6 4.7	6 4.7	-
	販売・サービス職	40 100.0	14 35.0	1 2.5	14 35.0	16 40.0	2 5.0	4 10.0	6 15.0	9 22.5	11 27.5	2 5.0	3 7.5	10 25.0	2 5.0	4 10.0	-	-
	専門技術職	52 100.0	11 21.2	6 11.5	20 38.5	29 55.8	4 7.7	2 3.8	5 9.6	4 7.7	18 34.6	4 7.7	4 7.7	19 36.5	2 3.8	5 9.6	2 3.8	1 1.9
	労務・技能職	11 100.0	5 45.5	-	1 9.1	4 36.4	-	-	1 9.1	3 27.3	3 27.3	-	1 9.1	3 27.3	-	2 18.2	-	1 9.1
	その他	39 100.0	11 28.2	2 5.1	14 35.9	11 28.2	5 12.8	-	10 25.6	8 20.5	11 28.2	-	5 12.8	10 25.6	1 2.6	1 2.6	3 7.7	2 5.1

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

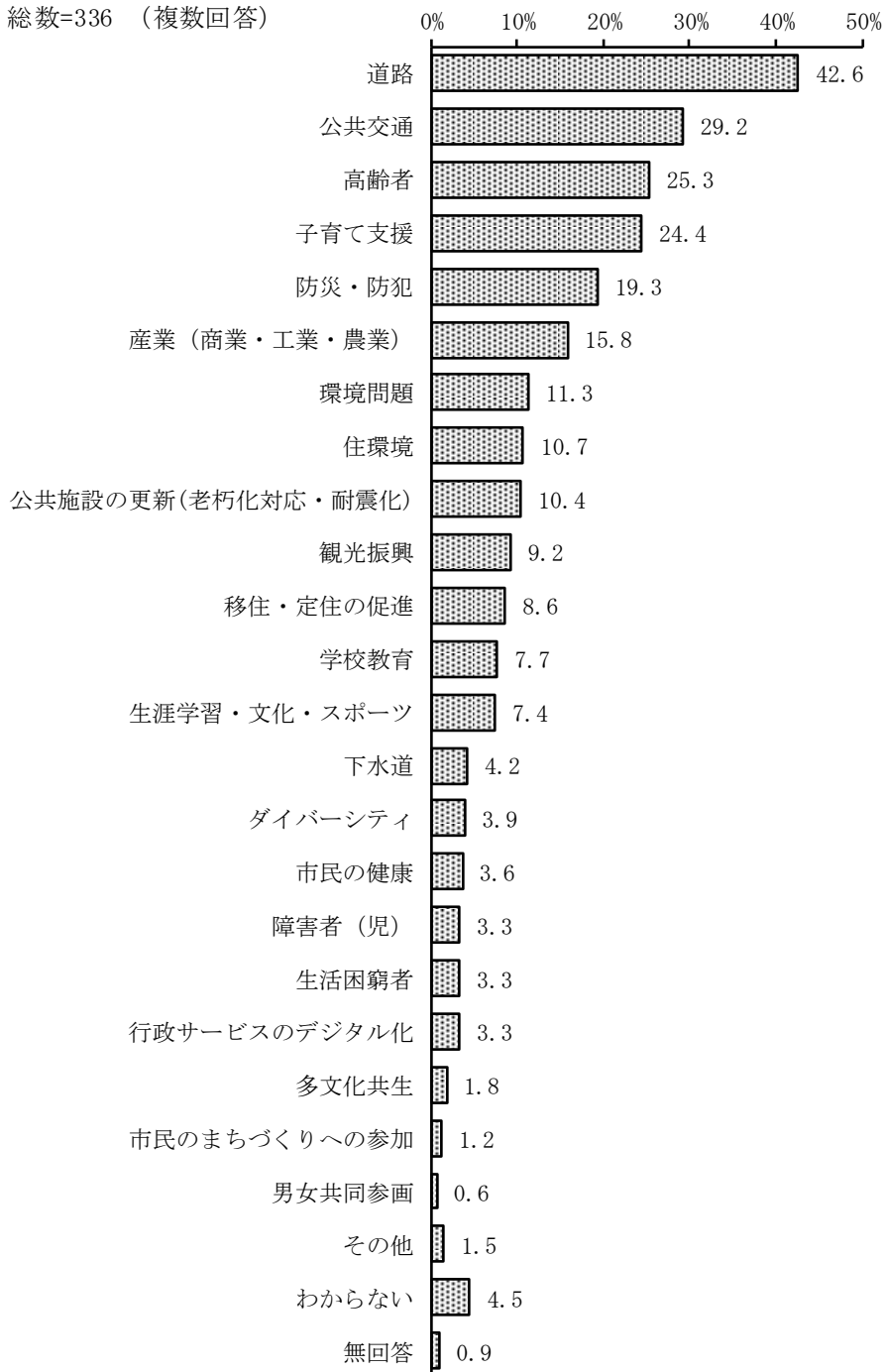
注) 「その他」, 「無回答」は表記を省略している。

3 八千代市が力を入れて取り組むべき施策について

(1) 八千代市が力を入れて取り組むべき施策

問4 今後、八千代市が力を入れて取り組むべき施策の分野は何だと思えますか。(○は3つまで)

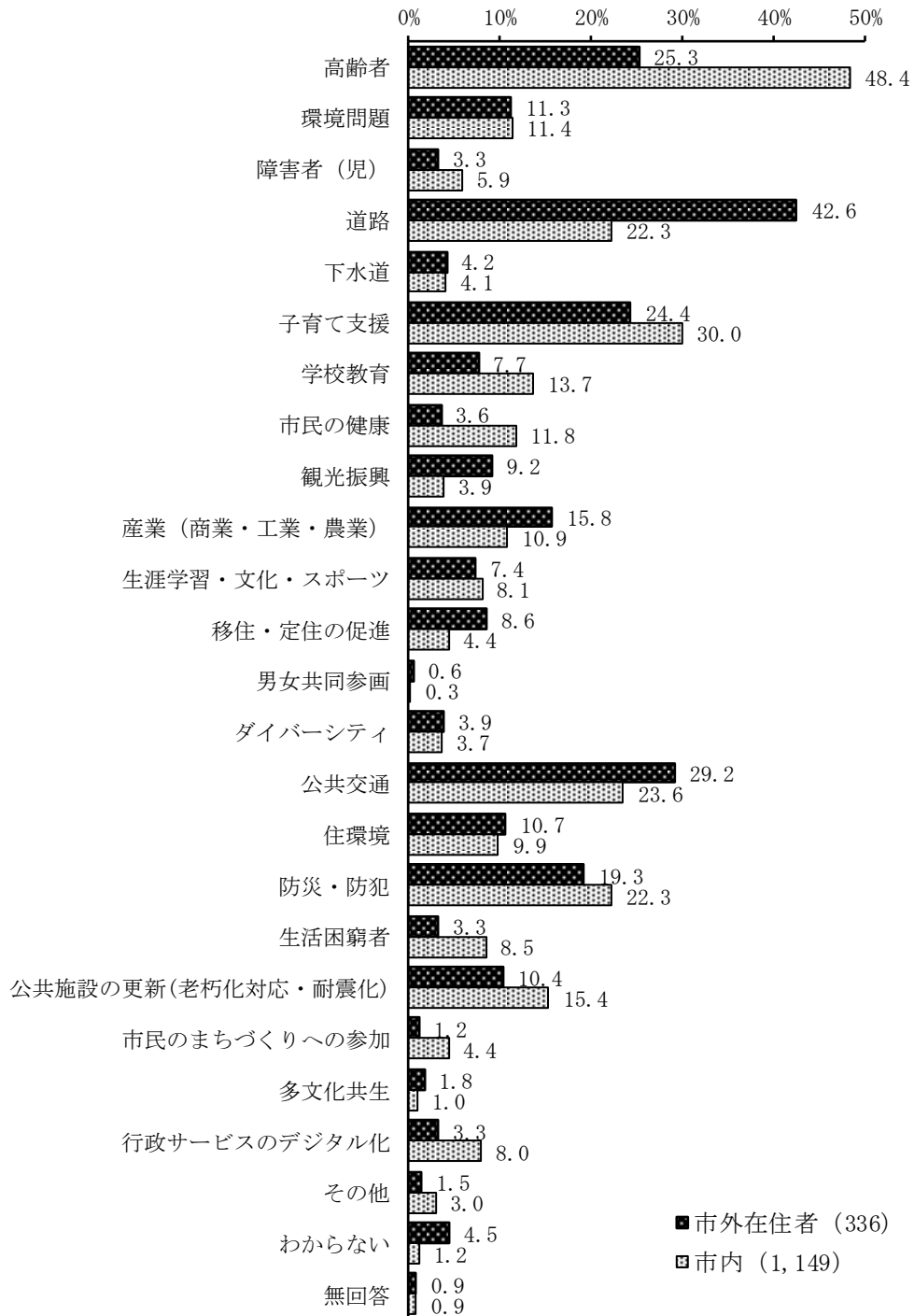
総数=336 (複数回答)



今後、市が力を入れて取り組むべき施策としては、「道路」が42.6%で最も多く、次いで、「公共交通」が29.2%、「高齢者」が25.3%、「子育て支援」が24.4%が続いている。

市民（市内在住者）での同設問の結果と比較すると、市民では「高齢者」、市外在住者では「道路」の割合が2倍近く多くなっている。その他、市外在住者では「観光振興」、「産業（商業・工業・農業）」、「移住・定住の促進」、「公共交通」などの割合が市民よりも多い。

<市内在住者調査との比較>



《性別・年齢別・職業別》

性別では、男性は「道路」や「公共交通」、女性は「高齢者」などの割合が多い。

年齢別では、各年齢層ともに「道路」が最も多くなっている。また、29歳以下と30歳代で「子育て支援」、50歳代で「公共交通」の割合が比較的多い。

職業別では、経営・管理職で「道路」や「公共交通」、事務職で「道路」、販売・サービス職で「高齢者」などの割合が多くなっている。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

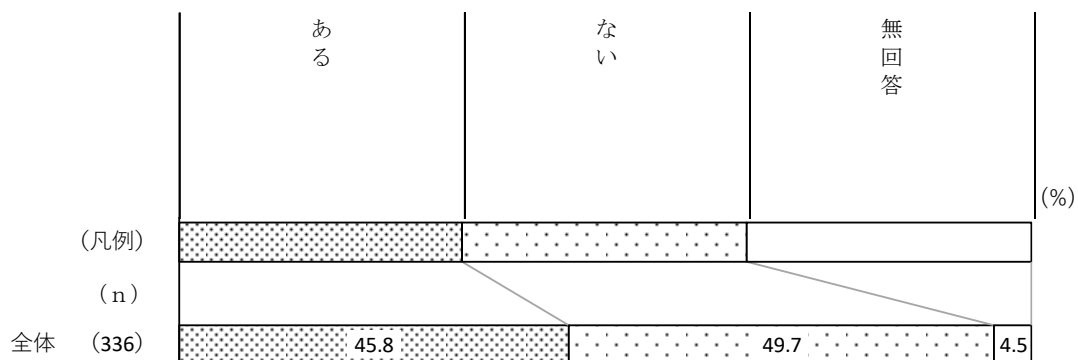
		全体	高齢者	環境問題	障害者(児)	道路	下水道	子育て支援	学校教育	市民の健康	観光振興	産業(商業・工業・農業)	ポータル	生涯学習・文化・スポーツ	移住・定住の促進	男女共同参画	ダイバーシティ	公共交通	住環境	防災・防犯	生活困窮者	高齢者対応(耐震化)	公共施設の更新(老朽)	参加のまちづくりへの	多文化共生	行政サービスのデジタル化		
全体		336 100.0	85 25.3	38 11.3	11 3.3	143 42.6	14 4.2	82 24.4	26 7.7	12 3.6	31 9.2	53 15.8	25 7.4	29 8.6	2 0.6	13 3.9	98 29.2	36 10.7	65 19.3	11 3.3	35 10.4	4 1.2	6 1.8	11 3.3	6 1.8	11 3.3		
性別	男性	195 100.0	48 24.6	22 11.3	7 3.6	95 48.7	8 4.1	47 24.1	10 5.1	3 1.5	23 11.8	37 19.0	15 7.7	21 10.8	1 0.5	6 3.1	59 30.3	23 11.8	32 16.4	4 2.1	23 11.8	4 2.1	4 2.1	4 2.1	8 4.1	8 4.1		
	女性	124 100.0	34 27.4	15 12.1	3 2.4	39 31.5	5 4.0	31 25.0	13 10.5	8 6.5	8 6.5	15 12.1	7 5.6	6 4.8	1 0.8	6 4.8	33 26.6	12 9.7	27 21.8	7 5.6	12 9.7	7 5.6	12 9.7	1 0.8	1 0.8	3 2.4	3 2.4	
年齢別	29歳以下	27 100.0	3 11.1	4 14.8	1 3.7	12 44.4	1 3.7	10 37.0	3 11.1	2 7.4	4 14.8	2 7.4	5 18.5	3 11.1	1 3.7	4 14.8	3 11.1	9 33.3	4 14.8	3 11.1	1 3.7	3 11.1	1 3.7	1 3.7	2 7.4	1 3.7	1 3.7	
	30歳代	60 100.0	16 26.7	3 5.0	2 3.3	26 43.3	1 1.7	20 33.3	5 8.3	3 5.0	3 5.0	11 18.3	4 6.7	5 8.3	1 1.7	3 5.0	18 30.0	7 11.7	13 21.7	2 3.3	7 11.7	2 3.3	7 11.7	1 1.7	2 3.3	2 3.3	3 5.0	
	40歳代	96 100.0	24 25.0	10 10.4	1 1.0	36 37.5	3 3.1	23 24.0	11 11.5	3 3.1	3 10.4	13 13.5	6 6.3	5 5.2	5 5.2	1 5.2	22 22.9	8 8.3	14 14.6	6 6.3	12 12.5	6 6.3	12 12.5	1 1.0	1 1.0	1 1.0	5 5.2	
	50歳代	103 100.0	29 28.2	10 9.7	5 4.9	44 42.7	6 5.8	19 18.4	5 4.9	2 1.9	10 9.7	19 18.4	5 4.9	13 12.6	2 1.9	13 12.6	37 35.9	13 12.6	19 18.4	2 1.9	9 8.7	2 1.9	9 8.7	1 1.9	1 1.9	1 1.9	2 1.9	
	60歳代	36 100.0	9 25.0	8 22.2	2 5.6	19 52.8	3 8.3	7 19.4	1 2.8	1 2.8	4 11.1	7 19.4	4 11.1	3 8.3	1 2.8	6 16.7	2 5.6	11 30.6	2 5.6	1 2.8	1 2.8	1 2.8	1 2.8	1 2.8	1 2.8	1 2.8	1 2.8	
	70歳以上	3 100.0	3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3
職業別	経営・管理職	55 100.0	11 20.0	4 7.3	1 1.8	32 58.2	2 3.6	11 20.0	1 1.8	1 1.8	9 16.4	16 29.1	2 3.6	5 9.1	1 1.8	7 12.7	23 41.8	7 12.7	13 23.6	1 1.8	6 10.9	1 1.8	6 10.9	1 1.8	1 1.8	2 3.6	3 5.5	
	事務職	127 100.0	31 24.4	14 11.0	1 0.8	52 40.9	9 7.1	34 26.8	9 7.1	6 4.7	12 9.4	18 14.2	9 7.1	11 8.7	1 0.8	6 4.7	34 26.8	17 13.4	21 16.5	5 3.9	13 10.2	1 0.8	1 0.8	1 0.8	3 2.4	5 3.9		
	販売・サービス職	40 100.0	16 40.0	3 7.5	3 7.5	14 35.0	1 2.5	7 17.5	7 22.5	1 2.5	2 5.0	4 10.0	5 12.5	4 10.0	2 5.0	3 7.5	8 20.0	2 5.0	11 27.5	1 2.5	7 17.5	1 2.5	7 17.5	1 2.5	1 2.5	1 2.5	2 5.0	
	専門技術職	52 100.0	15 28.8	7 13.5	2 3.8	18 34.6	1 1.9	15 28.8	5 9.6	3 5.8	4 7.7	10 19.2	3 5.8	5 9.6	1 1.9	18 34.6	3 5.8	10 19.2	1 1.9	10 19.2	1 1.9	5 9.6	1 1.9	5 9.6	1 1.9	1 1.9	2 3.8	
	労務・技能職	11 100.0	1 9.1	1 9.1	1 9.1	6 54.5	1 9.1	2 18.2	1 18.2	1 18.2	1 18.2	2 18.2	1 18.2	2 18.2	1 9.1	4 36.4	1 9.1	4 36.4	1 9.1	4 36.4	1 9.1	4 36.4	1 9.1	4 36.4	1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1
	その他	39 100.0	9 23.1	8 20.5	4 10.3	15 38.5	4 10.3	10 25.6	1 2.6	2 5.1	4 10.3	3 7.7	3 7.7	3 7.7	1 2.6	6 15.4	4 10.3	4 10.3	4 10.3	3 7.7	4 10.3	3 7.7	3 7.7	3 7.7	1 2.6	1 2.6	1 2.6	

各属性の中で最も割合が高い選択肢
 各属性の中で2番目に割合が高い選択肢
 (属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)
 注) 「その他」, 「わからない」, 「無回答」は表記を省略している。

4 市内の施設等の利用について

(1) 市内施設等の利用の有無

問5 帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設はありますか。(○は1つ)



市外からの通勤者が、帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設が「ある」は45.8%、「ない」は49.7%で拮抗している。

《性別・年齢別・職業別・居住地別》

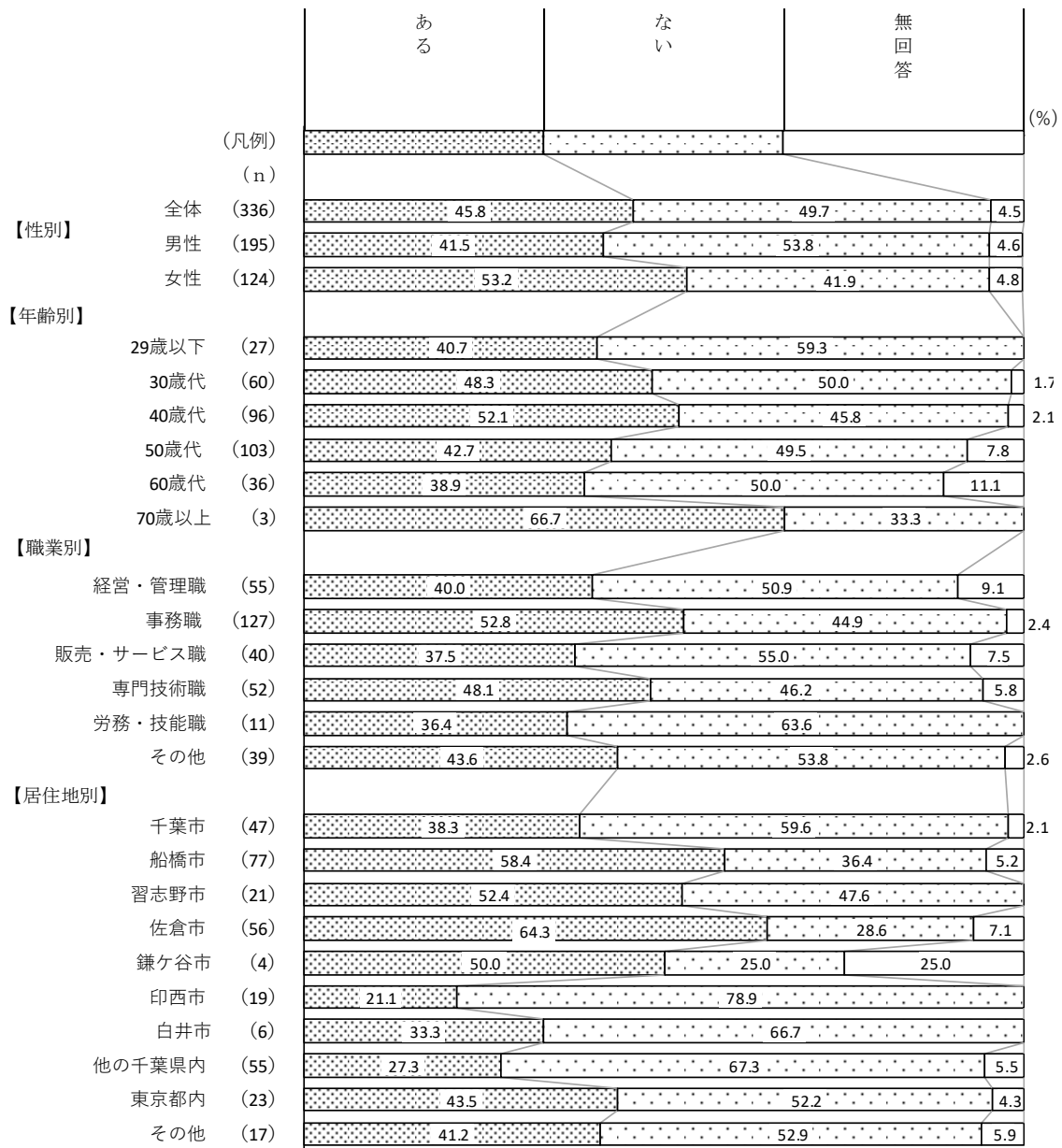
性別では、「ある」の割合は女性の方が男性よりも11.7ポイント多い。

年齢別では、40歳代と70歳代以上で「ある」の割合が「ない」よりも多くなっている。

職業別では、「ある」の割合は事務職、専門技術職などで多くなっている。

居住地別では、「ある」の割合は佐倉市が64.3%で最も多く、船橋市(58.4%)、習志野市(52.4%)が続いている。

<性別・年齢別・職業別・居住地別>

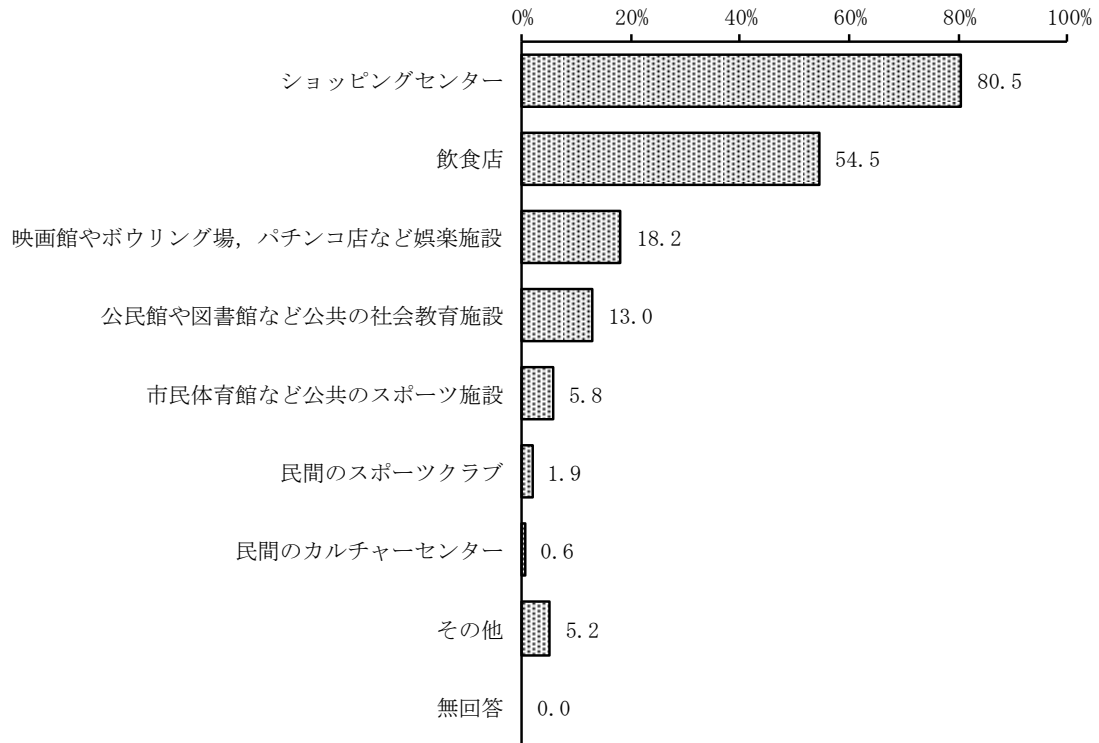


(1-1) 市内で立ち寄る場所

(問5で「1 ある」とお答えの方にお尋ねします。)

問5-1 立ち寄られる場所はどんなところですか。(〇は3つまで)

総数=154 (複数回答)



帰宅途中や休日に市内で立ち寄る施設が「ある」と答えた人に、その立ち寄り先の施設を尋ねた結果、「ショッピングセンター」が80.5%で最も多く、次いで、「飲食店」が54.5%となっている。

《性別・年齢別・職業別・居住地別》

性別では、女性で「ショッピングセンター」、男性で「飲食店」の割合が比較的多い。

年齢別では、「ショッピングセンター」、「飲食店」は各年齢層ともに多い。とりわけ、「ショッピングセンター」の割合は若い年代ほど多くなっている。

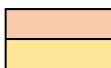
職業別では、事務職で「ショッピングセンター」の割合が最も多い。

居住地別では、「ショッピングセンター」の割合は、佐倉市、船橋市などで8割を上回っている。

<性別・年齢別・職業別・居住地別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	公民館や図書館など公共の社会教育施設	市民体育館など公共のスポーツ施設	民間のスポーツクラブ	民間のカルチャーセンター	映画館やボウリング場、パチンコ店など娯楽施設	ショッピングセンター	飲食店
全体		154 100.0	20 13.0	9 5.8	3 1.9	1 0.6	28 18.2	124 80.5	84 54.5
性別	男性	81 100.0	12 14.8	5 6.2	2 2.5	-	15 18.5	61 75.3	50 61.7
	女性	66 100.0	7 10.6	3 4.5	1 1.5	1 1.5	12 18.2	57 86.4	31 47.0
年齢別	29歳以下	11 100.0	-	-	-	1 9.1	-	5 45.5	10 54.5
	30歳代	29 100.0	5 17.2	1 3.4	-	-	4 13.8	25 86.2	18 62.1
	40歳代	50 100.0	4 8.0	1 2.0	-	1 2.0	12 24.0	40 80.0	25 50.0
	50歳代	44 100.0	9 20.5	6 13.6	2 4.5	-	6 13.6	35 79.5	26 59.1
	60歳代	14 100.0	2 14.3	-	-	-	1 7.1	10 71.4	6 42.9
	70歳以上	2 100.0	-	-	-	-	-	1 50.0	1 50.0
職業別	経営・管理職	22 100.0	4 18.2	-	-	-	2 9.1	16 72.7	16 72.7
	事務職	67 100.0	6 9.0	2 3.0	1 1.5	1 1.5	9 13.4	56 83.6	36 53.7
	販売・サービス職	15 100.0	2 13.3	2 13.3	-	-	4 26.7	12 80.0	6 40.0
	専門技術職	25 100.0	5 20.0	3 12.0	1 4.0	-	4 16.0	19 76.0	15 60.0
	労務・技能職	4 100.0	1 25.0	-	-	-	1 25.0	3 75.0	1 25.0
	その他	17 100.0	2 11.8	1 5.9	1 5.9	-	8 47.1	15 88.2	8 47.1
居住地別	千葉市	18 100.0	2 11.1	1 5.6	1 5.6	-	4 22.2	15 83.3	11 61.1
	船橋市	45 100.0	6 13.3	2 4.4	1 2.2	-	12 26.7	37 82.2	26 57.8
	習志野市	11 100.0	1 9.1	1 9.1	-	-	1 9.1	8 72.7	7 63.6
	佐倉市	36 100.0	8 22.2	3 8.3	1 2.8	1 2.8	6 16.7	32 88.9	19 52.8
	鎌ヶ谷市	2 100.0	-	-	-	-	-	2 100.0	-
	印西市	4 100.0	-	-	-	-	1 25.0	3 75.0	-
	白井市	2 100.0	-	1 50.0	-	-	-	2 100.0	2 100.0
	他の千葉県内	15 100.0	2 13.3	-	-	-	2 13.3	10 66.7	8 53.3
	東京都内	10 100.0	-	-	-	-	2 20.0	9 90.0	4 40.0
	その他	7 100.0	1 14.3	-	-	-	-	3 42.9	5 71.4



各属性の中で最も割合が高い選択肢

各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

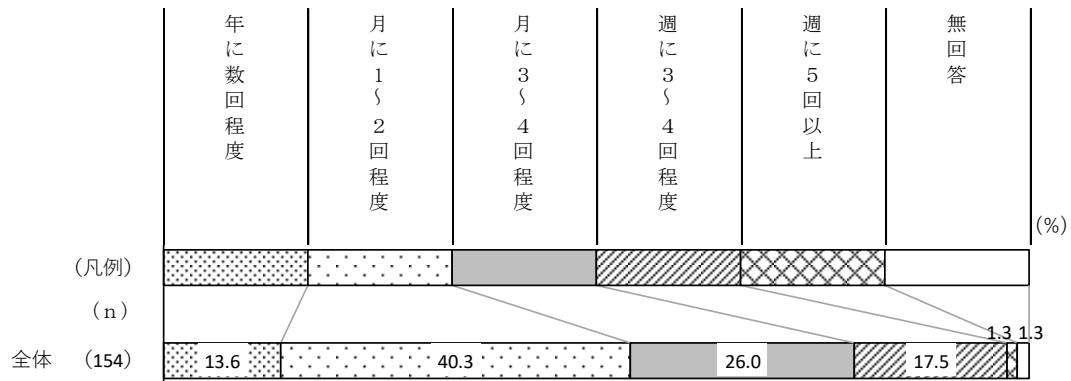
(属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

注) 「その他」, 「わからない」, 「無回答」は表記を省略している。

(1-2) 市内での立ち寄り頻度

(問5で「1 ある」とお答えの方にお尋ねします。)

問5-2 立ち寄る回数ほどのくらいですか。(問5-1のうち、頻度が一番多いものに○を1つ)



市内で帰宅途中や休日に立ち寄る施設が「ある」人の立ち寄りの頻度は、「月に1~2回程度」が40.3%で最も多く、次いで、「月に3~4回程度」が26.0%、「週に3~4回程度」が17.5%、「年に数回程度」が13.6%となっている。

《性別・年齢別・職業別・居住地別》

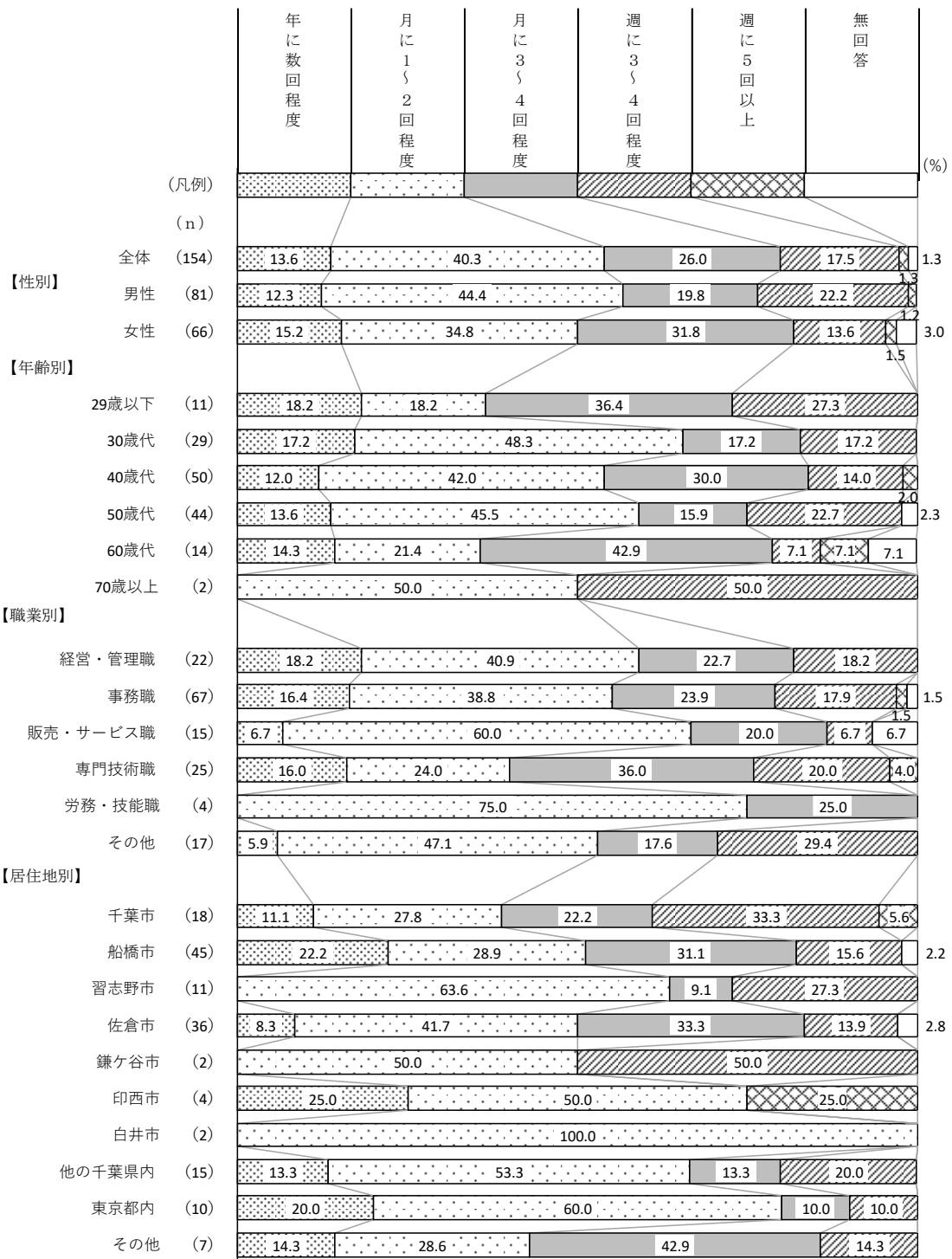
性別では、男女ともに「月1~2回程度」が最も多くなっている。

年齢別では、29歳以下、60歳代で、立ち寄る回数が多い傾向にある。

職業別では、専門技術職で「週に3~4回程度」が最も多くなっている。その他の職業では「月1~2回程度」が最も多くなっている。

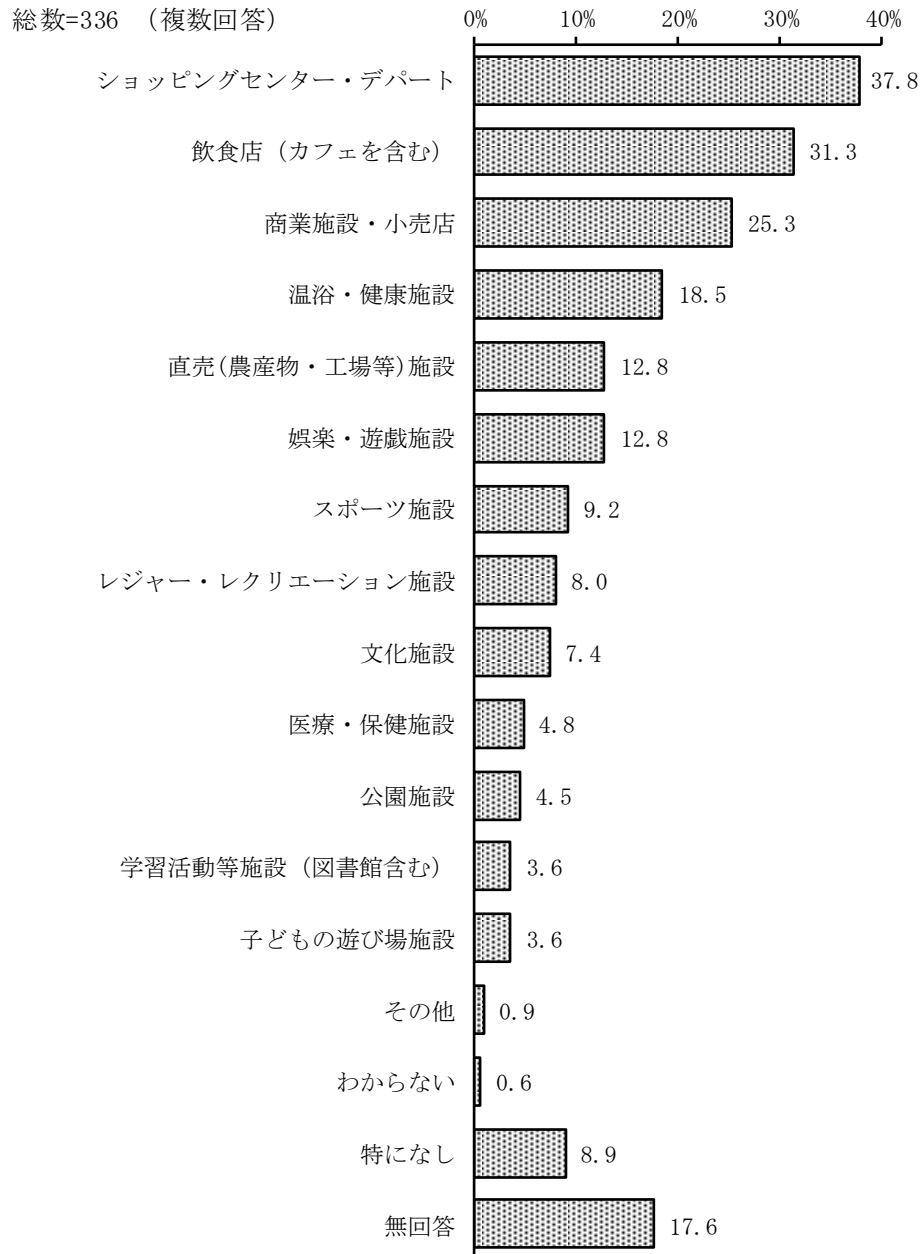
居住地別では、千葉市では「週に3~4回」、船橋市では「月に3~4回程度」が最も多くなっている。習志野市、佐倉市などでは、「月に1~2回」が最も多くなっている。

<性別・年齢別・職業別・居住地別>



(1-3) どのような施設があれば立ち寄りたいか

問5-3 どういった施設があれば、立ち寄りたいと思いますか。(〇は3つまで)



立ち寄りたい施設は、「ショッピングセンター・デパート」が37.8%で最も多く、次いで、「飲食店 (カフェを含む)」が31.3%、「商業施設・小売店」が25.3%となっている。

《性別・年齢別・職業別》

性別では、男性では「商業施設・小売店」、女性では「ショッピングセンター・デパート」や「飲食店（カフェを含む）」の割合が比較的多い。

年齢別では、29歳以下で「ショッピングセンター・デパート」の割合が多く5割を超えている。

職業別では、販売・サービス職で「ショッピングセンター・デパート」の割合が5割となっている。

<性別・年齢別・職業別>

上段：回答数 / 下段：構成比 (%)

		全体	商業施設・小売店	飲食店（カフェを含む）	ショッピングセンター・デパート	直売（農産物・工場等）施設	娯楽・遊戯施設	温浴・健康施設	文化施設	学習活動等施設（図書館含む）	スポーツ施設	レジャー・レクリエーション施設	医療・保健施設	子どもの遊び場施設	公園施設
全体		336 100.0	85 25.3	105 31.3	127 37.8	43 12.8	43 12.8	62 18.5	25 7.4	12 3.6	31 9.2	27 8.0	16 4.8	12 3.6	15 4.5
性別	男性	195 100.0	51 26.2	48 24.6	64 32.8	19 9.7	31 15.9	42 21.5	16 8.2	8 4.1	21 10.8	17 8.7	8 4.1	6 3.1	10 5.1
	女性	124 100.0	29 23.4	54 43.5	59 47.6	20 16.1	11 8.9	18 14.5	6 4.8	3 2.4	9 7.3	8 6.5	7 5.6	5 4.0	4 3.2
年齢別	29歳以下	27 100.0	4 14.8	10 37.0	14 51.9	-	7 25.9	9 33.3	1 3.7	1 3.7	3 11.1	4 14.8	-	1 3.7	-
	30歳代	60 100.0	17 28.3	23 38.3	26 43.3	7 11.7	11 18.3	14 23.3	3 5.0	-	4 6.7	5 8.3	2 3.3	1 1.7	2 3.3
	40歳代	96 100.0	25 26.0	28 29.2	45 46.9	8 8.3	9 9.4	16 16.7	3 3.1	3 3.1	12 12.5	9 9.4	4 4.2	4 4.2	3 3.1
	50歳代	103 100.0	26 25.2	31 30.1	26 25.2	17 16.5	15 14.6	18 17.5	11 10.7	5 4.9	10 9.7	5 4.9	5 4.9	5 4.9	5 4.9
	60歳代	36 100.0	9 25.0	10 27.8	12 33.3	5 13.9	1 2.8	3 8.3	6 16.7	3 8.3	2 5.6	3 8.3	4 11.1	1 2.8	4 11.1
	70歳以上	3 100.0	-	2 66.7	2 66.7	2 66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
職業別	経営・管理職	55 100.0	16 29.1	23 41.8	16 29.1	6 10.9	7 12.7	10 18.2	6 10.9	4 7.3	8 14.5	-	-	1 1.8	3 5.5
	事務職	127 100.0	36 28.3	51 40.2	48 37.8	16 12.6	13 10.2	21 16.5	6 4.7	4 3.1	9 7.1	10 7.9	6 4.7	4 3.1	2 1.6
	販売・サービス職	40 100.0	10 25.0	9 22.5	20 50.0	4 10.0	10 25.0	6 15.0	5 12.5	1 2.5	4 10.0	5 12.5	3 7.5	3 7.5	4 10.0
	専門技術職	52 100.0	15 28.8	8 15.4	22 42.3	4 7.7	7 13.5	13 25.0	4 7.7	2 3.8	3 5.8	4 7.7	3 5.8	3 5.8	2 3.8
	労務・技能職	11 100.0	-	4 36.4	3 27.3	1 9.1	2 18.2	3 27.3	-	-	1 9.1	3 27.3	-	-	-
	その他	39 100.0	4 10.3	8 20.5	15 38.5	7 17.9	4 10.3	7 17.9	3 7.7	1 2.6	6 15.4	4 10.3	3 7.7	1 2.6	4 10.3

各属性の中で最も割合が高い選択肢

各属性の中で2番目に割合が高い選択肢

(属性の回答数が20未満の場合は順位評価をしていない)

注) 「その他」、「わからない」、「特になし」、「無回答」は表記を省略している。

5 自由回答

問6 八千代市とご自身が住んでいる市区町村を比べてどう思いますか。（ご自由にご記入ください）

(1) 八千代市の良い、充実していると感じるところ

「八千代市の良い、充実していると感じるところ」に何らかの回答記述を寄せた回答者は218人であった。この記述内容を分野別に分類した件数を、回答者の年齢別に示すと以下のとおりである。

なお、一人の回答者が複数の分野の内容を記述している例が多数あり、可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は281件となった。

<八千代市の良い、充実していると感じるところ>

	全体	千葉市	船橋市	習志野市	佐倉市	鎌ヶ谷市	印西市	白井市	他の千葉県内	東京都内	その他	無回答
緑が多い・自然が豊か	48	5	14	5	6	0	1	0	6	8	1	2
商業施設の充実	34	3	6	2	11	0	3	0	4	2	1	2
交通の便	33	5	2	1	10	0	1	1	6	3	3	1
総合的な環境の良さ	21	3	6	1	5	0	1	0	3	1	0	1
市街地整備・環境	13	2	6	0	1	0	1	0	1	2	0	0
行政の姿勢	10	1	0	1	5	0	1	0	2	0	0	0
道路環境	10	1	3	0	1	1	0	0	2	1	0	1
特産品	9	3	2	0	2	0	0	0	1	1	0	0
わからない	7	3	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0
医療施設の存在	7	0	0	0	0	0	1	1	5	0	0	0
イベント	6	0	1	1	0	0	1	1	2	0	0	0
のどか・静か	6	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ	5	1	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0
就業条件・環境	5	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0
公共施設	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
バラ園	4	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0
やっち	4	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0
人・人口構成	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
土地利用・開発余地	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0
景観が良い・きれい	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
防災・防犯環境	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
教育機関の存在	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
市民活動	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
公園	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	4	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
なし	38	7	2	3	4	1	5	0	10	1	4	1
総計(延べ数)	281	36	54	16	57	3	18	4	51	21	11	10

(2) 八千代市の良くない、足りないと感じるところ

「八千代市の良くない、足りないと感じるところ」に何らかの回答記述を寄せた回答者は 237 人であった。この記述内容を分野別に分類した件数を、回答者の年齢別に示すと以下のとおりである。

なお、一人の回答者が複数の分野の内容を記述している例が多数あり、可能な限り分割して扱った。これによる延べ総件数は 314 件となった。

<八千代市の良くない、足りないと感じるところ>

	全体	千葉市	船橋市	習志野市	佐倉市	鎌ヶ谷市	印西市	白井市	他の千葉県内	東京都内	その他	無回答
道路状況	90	12	15	6	17	0	7	0	18	7	5	3
公共交通の便	49	9	11	4	4	0	2	1	8	7	0	3
都市の魅力不足	25	1	6	1	4	1	1	1	5	3	2	0
商業施設(買い物)が不便	19	1	7	0	2	0	0	1	5	2	0	1
行政の対応・サービス	13	1	0	1	5	0	0	0	4	1	1	0
市街地の整備状況	11	0	0	1	2	0	1	0	1	0	4	2
中心が不明・地区格差	10	0	1	1	2	0	0	0	5	0	0	1
余暇・文化施設の不足	9	0	1	0	2	0	0	1	5	0	0	0
人のマナー・意識	8	2	2	0	0	0	0	0	3	0	1	0
防犯上の危険(治安)	7	2	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0
福祉面(子育て・障害者等)	6	0	1	0	1	0	0	0	3	1	0	0
わからない	5	2	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0
公共施設の状況	4	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
医療面	3	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0
学校・教育環境	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0
駐車場・駐輪場	3	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
各種都市・生活環境全般	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
活気が乏しい	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
災害対策	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
物価・地価	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
動物対策	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
その他	6	2	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0
なし	34	4	5	3	5	1	4	0	8	1	2	1
総計(延べ数)	314	39	56	19	53	2	17	6	72	23	16	11

第12回八千代市市民意識調査

報 告 書

令和6年3月

発行 八千代市企画部企画経営課
〒276-8501 八千代市大和田新田 312-5
電話 047(483)1151(代表)